

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄								備考
計画の区分		大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者		カヅコリホカシヅン ショウシツカクケン 学校法人 就実学園								
フリガナ大学の名称		ショウシツカク イダク 就実大学（Shujitsu University）								
大学本部の位置		岡山市中区西川原一丁目6番1号								
大学の目的		本学は、日本国憲法及び教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、併せて去華就実の教育方針の下に、文化の進展と社会の福祉に貢献する有意な人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		①教育学部教育心理学科を改組して新たに心理学部(心理学科)を設置し、入学定員を100人収容定員を400人とする。 ②また、教育学部教育学科の入学定員を75人から35人増加し110人へ、3年次編入学定員5人を廃止、収容定員を310人から130人増加し440人とし、地域社会からの期待に対応する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	人文科学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	岡山県岡山市中区西川原一丁目6番1号	
	表現文化学科	4	80	0	320	学士 (人文科学)	文学関係	昭和54年4月 第1年次		
	実践英語学科	4	75	0	300	学士 (人文科学)	文学関係	昭和54年4月 第1年次		
	総合歴史学科	4	80	0	320	学士 (人文科学)	文学関係	昭和60年4月 第1年次		
	教育学部								同上	
	教育学科	4	110 (75)	3年次 0 (5)	440 (310)	学士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	令和7年4月 第1年次		※令和6年4月名称変更届出予定
	教育心理学科	4	0 (62)	0	0 (248)	学士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	平成23年4月 第1年次		※令和7年度学生募集停止
	経営学部								同上	
	経営学科	4	160	0	640	学士 (経営学)	経済学関係	平成26年4月 第1年次		
	薬学部								同上	
	薬学科	6	100	0	600	学士 (薬学)	薬学関係	平成15年4月 第1年次		

心理学部								同上	※令和6年4月設置届出予定		
心理学科		4	100 (0)	0	400 (0)	学士 (心理学)	文学関係	令和7年4月 第1年次			
計			705 (632)	3年次 0 (5)	3020 (2738)						
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		令和7年4月名称変更予定 教育学部 初等教育学科→教育学科 心理学部心理学科 令和6年4月届出予定 教育学部 教育心理学科 (△62) ※令和7年4月募集停止 就実短期大学 幼児教育学科 (廃止) (△100) 生活実践学科 (廃止) (△80) ※令和7年4月募集停止									
教育 課程	新設学部等の名称					卒業要件単位数					
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位					
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の 教員 (助手を除く)			
		教授	准教授	講師	助教	計					
新	人文科学部 表現文化学科		人 5 (5)	人 3 (3)	人 3 (3)	人 0 (0)	人 11 (11)	人 — (—)	人 135 (135)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計 (a～b)		5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計 (a～d)		5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)				
	実践英語学科		6 (6)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	15 (15)		— (—)		126 (126)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	15 (15)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計 (a～b)		6 (6)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	15 (15)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計 (a～d)		6 (6)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	15 (15)				

総合歴史学科		3 (3)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	- (-)	127 (127)
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	3 (3)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	3 (3)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	13 (13)			
教育学部 教育学科		12 (10)	8 (5)	5 (5)	0 (0)	25 (20)	- (-)	143 (143)
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (10)	8 (5)	5 (5)	0 (0)	25 (20)			
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	12 (10)	8 (5)	5 (5)	0 (0)	25 (20)			
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 (10)	8 (5)	5 (5)	0 (0)	25 (20)			
経営学部 経営学科		9 (9)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	21 (21)	- (-)	95 (95)
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	21 (21)			
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	21 (21)			
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	21 (21)			
薬学部 薬学科		17 (17)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	37 (37)	- (-)	62 (62)
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	17 (17)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	37 (37)			
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	17 (17)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	37 (37)			
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	17 (17)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	37 (37)			

心理学部 心理学科			5 (5)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	19 (19)	- (-)	148 (148)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 8人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	19 (19)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		5 (5)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	19 (19)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		5 (5)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	19 (19)			
	計		57 (55)	40 (37)	39 (39)	5 (5)	141 (137)	- (-)	- (-)	
既設	該当なし		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	小計（a～b）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	計（a～d）		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	計		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
合 計			57 (55)	40 (37)	39 (39)	5 (5)	141 (137)	- (-)	- (-)	
職 種			専 属		その他		計			
事 務 職 員			57人 (54人)		35人 (28人)		92人 (82人)			
技 術 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
図 書 館 職 員			5 (3)		2 (2)		7 (5)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計			62 (57)		37 (30)		99 (87)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地		0 m ²		93,925.10 m ²		0 m ²		93,925.10 m ²	
	そ の 他		342.00 m ²		4,362.44 m ²		0 m ²		4,704.44 m ²	
	合 計		342.00 m ²		98,287.54 m ²		0 m ²		98,629.54 m ²	
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
			12,104.09 m ² (12,104.09 m ²)		41,031.88m ² (41,031.88 m ²)		2,480.55 m ² (2,480.55 m ²)		55,616.52 m ² (55,616.52 m ²)	
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		215 室		教 員 研 究 室		191 室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕種		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕種		機械・器具 点	標本 点	就実短期大学と共用
	大学全体		396,369 [79,601] (375,837 [77,401])	1,514 [630] (1,514 [630])	23,894 [23,590] (23,894 [23,590])	23,483 [23,482] (23,483 [23,482])	0 (0)	0 (0)					
	計		396,369 [2,139] (375,837 [79,601])	1,514 [630] (1,514 [630])	23,894 [23,590] (23,894 [23,590])	23,483 [23,482] (23,483 [23,482])	0 (0)	0 (0)					
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設				
			160.75 m ²			0 m ²			8,536.51 m ²				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体			
		教員1人当り研究費等		431,884	431,884	431,884	431,884						
		共同研究費等		0	0	0	0						
		図 書 購 入 費	9,000千円	8,500千円	8,100千円	7,600千円	7,100千円						
		設 備 購 入 費	22,400千円	21,300千円	20,200千円	18,900千円	17,600千円						
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	人文学部			1,190千円	920千円	920千円	920千円	― 千円	― 千円				
	教育学部			1,220千円	950千円	950千円	950千円	― 千円	― 千円				
	心理学部			1,220千円	950千円	950千円	950千円	― 千円	― 千円				
	経営学部			1,220千円	950千円	950千円	950千円	― 千円	― 千円				
	薬学部			2,250千円	1,980千円	1,980千円	1,980千円	1,980千円	1,980千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入及び手数料収入をもって充当する。									
既設大学等の状況	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設年度	所 在 地	令和5年度入学定員増 (60人) 令和2年度入学定員減 (△20人)		
	人文学部		年	人	年次人	人		倍		岡山県岡山市中区 西川原一丁目6番1号			
	表現文化学科		4	80	―	320	学士(人文学)	1.06	昭和54年度				
	実践英語学科		4	75	―	300	学士(人文学)	1.07	昭和54年度				
	総合歴史学科		4	80	―	320	学士(人文学)	1.10	昭和60年度				
	教育学部							1.12					
	初等教育学科		4	75	3年次5	310	学士(教育学)	1.07	平成23年度				
	教育心理学科		4	62	―	248	学士(教育学)	1.19	平成23年度				
	経営学部 経営学科		4	160	―	520	学士(経営学)	1.02	平成26年度				
薬学部 薬学科		6	100	―	620	学士(薬学)	0.76	平成15年度					
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		就実大学大学院									岡山県岡山市中区 西川原一丁目6番1号	
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設年度	所 在 地			
	人文科学研究科 人文科学専攻		年	人	年次人	人		倍		岡山県岡山市中区 西川原一丁目6番1号			
	教育学研究科 教育学専攻		2	10	―	20	修士(人文科学)	0.25	平成11年度				
	医療薬学研究科 疾病治療薬学専攻		2	8	―	16	修士(教育学)	0.68	平成27年度				
既設大学等の状況			6	4	―	16	博士(医療薬学)	0.93	平成24年度				
	大 学 等 の 名 称		就実短期大学									岡山県岡山市中区 西川原一丁目6番1号	
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設年度	所 在 地			
	幼児教育学科		年	人	年次人	人		倍		岡山県岡山市中区 西川原一丁目6番1号			
生活実践科学科		2	100	―	200	短期大学士(幼児教育)	0.67	昭和40年度					
既設大学等の状況			2	80	―	160	短期大学士(生活実践科学)	0.83	昭和28年度				

附属施設の概要	名 称：就実大学・就実短期大学附属幼稚園・保育所 目 的：建学の精神に則り、総合的育児支援と幼児教育を行うとともに地域の子育て支援事業を実施するため。 所 在 地：岡山市中区西川原15-1 設置年月：平成24年4月 規 模 等：土地4,203.34㎡ 建物1724.31㎡	
	名 称：吉備地方文化研究所 目 的：広く岡山県地方文化に関する研究を行い、地域文化の発展に寄与することを目的とする。 所 在 地：岡山市中区西川原一丁目6番1号 設置年月：昭和59年4月設置 規 模 等：室面積 42.80㎡	
	名 称：臨床薬学教育研究センター 目 的：薬学部学生に対する病院及び薬局実務実習並びに事前教育等を適切に実施することを目的とする。 所 在 地：岡山市中区西川原一丁目6番1号 設置年月：平成16年10月設置 規 模 等：室面積 577.12㎡	
	名 称：就実教育実践研究センター 目 的：広く幼児教育・初等教育及び教員養成に関する教育・実践・研究を行い、地域の保育・教育の充実振興に寄与することを目的とする。 所 在 地：岡山市中区西川原一丁目6番1号 設置年月：平成19年4月設置 規 模 等：室面積 1,701.87㎡	
	名 称：就実心理臨床センター 目 的：敷居が低く安心して利用できる心理相談の場を地域に提供することと、臨床心理士養成の教育・訓練施設として活用することを目的とする。 所 在 地：岡山市中区西川原一丁目6番1号 設置年月：平成27年4月 規 模 等：室面積 348.00㎡	
	名 称：就実大学薬学部附属薬局 目 的：患者の要望に応じた質の高い業務の実践、幅広い疾患に対応可能な薬剤師の育成、就実大学薬学部と連携した教育・研究活動を通じて、地域医療の発展に貢献することを目的とする。 所 在 地：岡山市北区田益1291-1 設置年月：令和元年8月 規 模 等：室面積 442.6㎡	

学校法人 就実学園 設置認可等に関わる組織の移行表

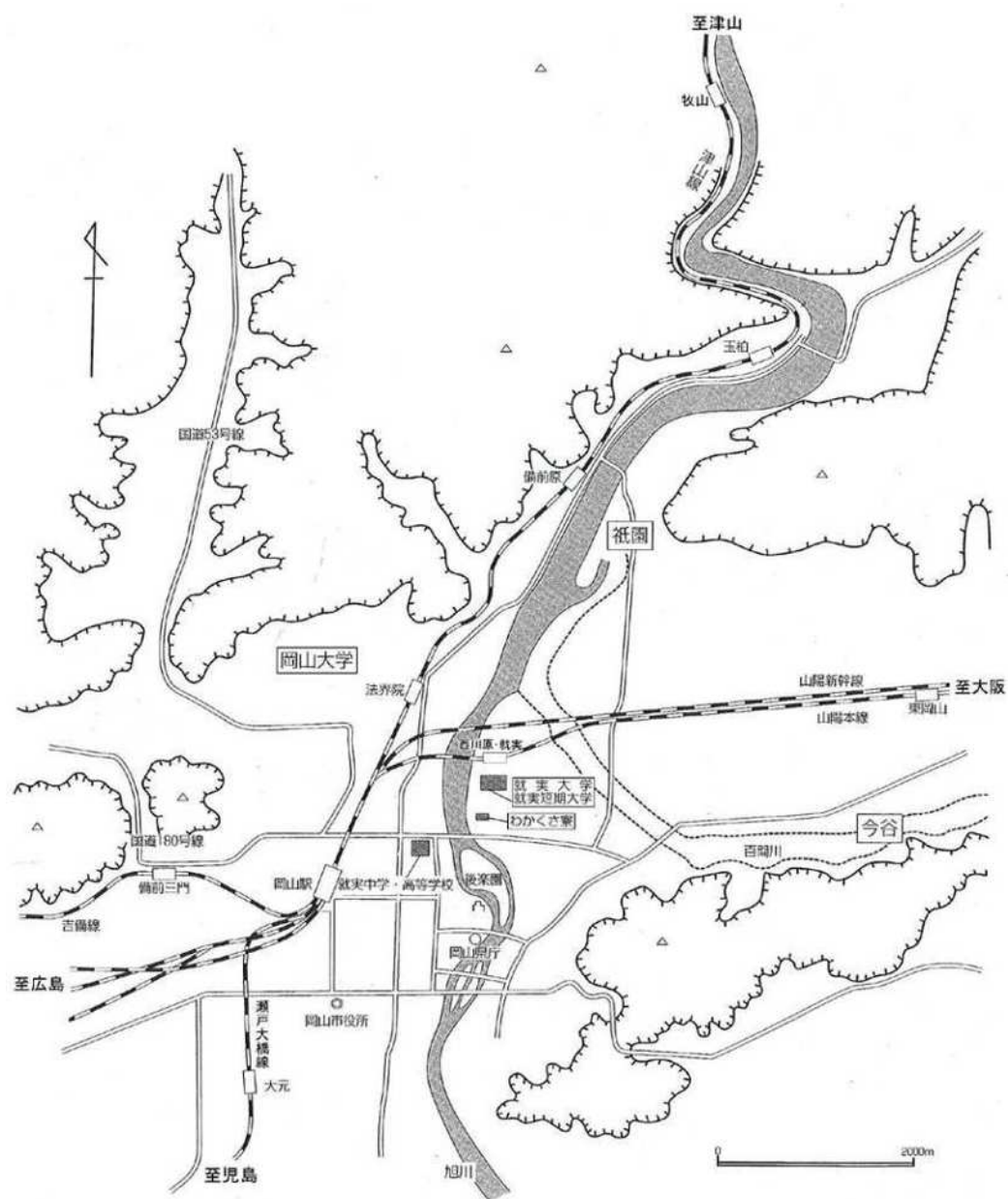
令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
就実大学				→	就実大学				
人文学部					人文学部				
表現文化学科	80	—	320		表現文化学科	80	—	320	
実践英語学科	75	—	300		実践英語学科	75	—	300	
総合歴史学科	80	—	320		総合歴史学科	80	—	320	
教育学部					教育学部				
初等教育学科	75	3年次	5		教育学科	110	3年次	0	名称変更、入学定員変更 (35)
								440	編入学定員変更 (△5)
教育心理学科	62		0		教育心理学科	0	0	0	学生募集停止
					心理学部				学部の設置 (届出)
					心理学科	100		400	
経営学部					経営学部				
経営学科	160	—	640		経営学科	160	—	640	
薬学部					薬学部				
薬学科	100	—	600		薬学科	100	—	600	
計	632	5	2,738		計	705	0	3,020	
就実大学大学院				→	就実大学大学院				
人文科学研究科					人文科学研究科				
人文科学専攻	10	—	20		人文科学専攻	10	—	20	
教育学研究科					教育学研究科				
教育学専攻	8	—	16		教育学専攻	8	—	16	
医療薬学研究科					医療薬学研究科				
疾病治療薬学専攻	4	—	16		疾病治療薬学専攻	4	—	16	
計	22	—	52		計	22	—	52	
就実短期大学				→	就実短期大学				
幼児教育学科	100	—	200		幼児教育学科	0	—	0	令和7年4月学生募集停止
生活実践科学科	80	—	160		生活実践科学科	0	—	0	令和7年4月学生募集停止
計	180	—	360		計	0	—	0	

校地・校舎等の図面

(1) 岡山県内における位置関係の図面

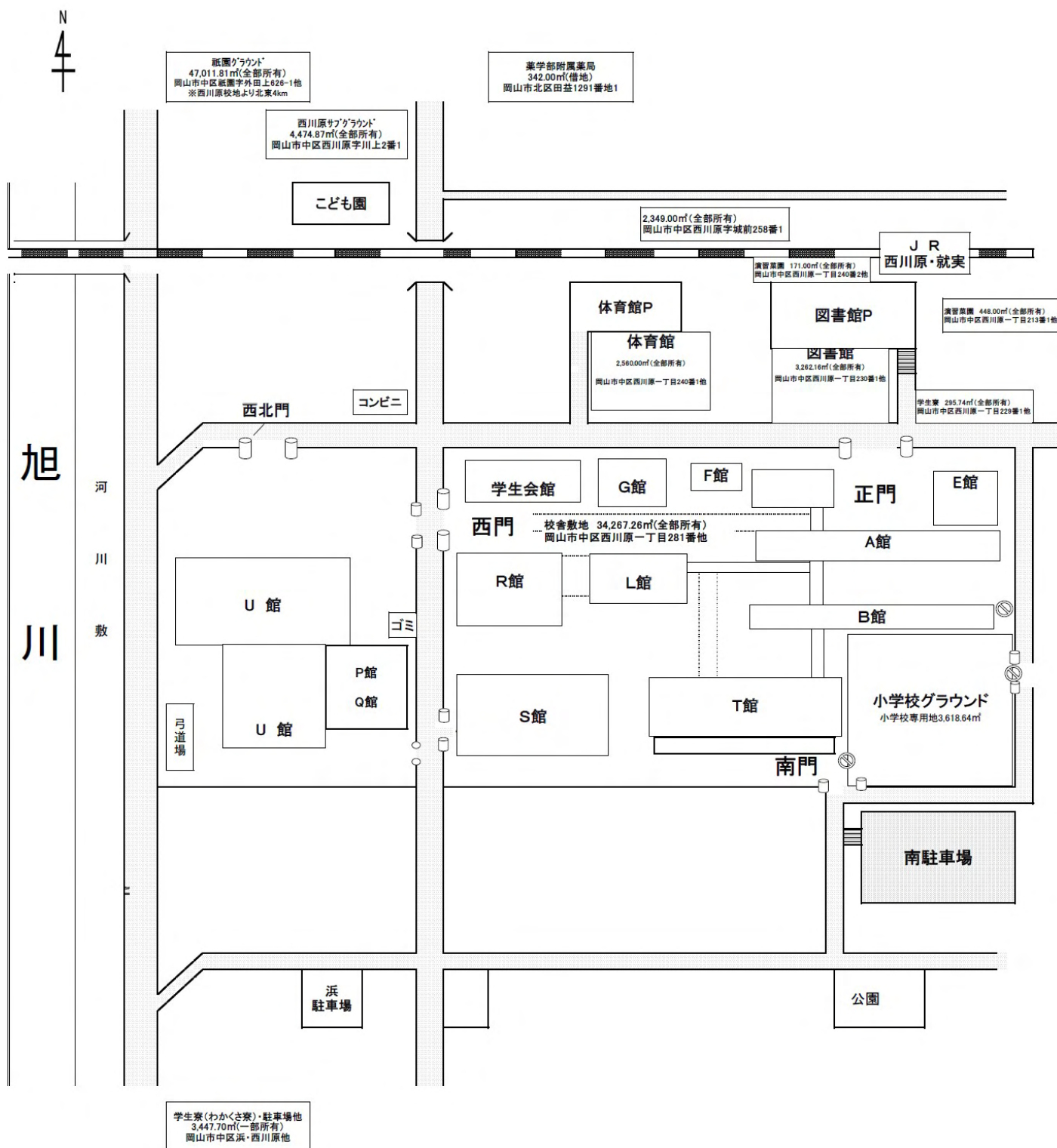


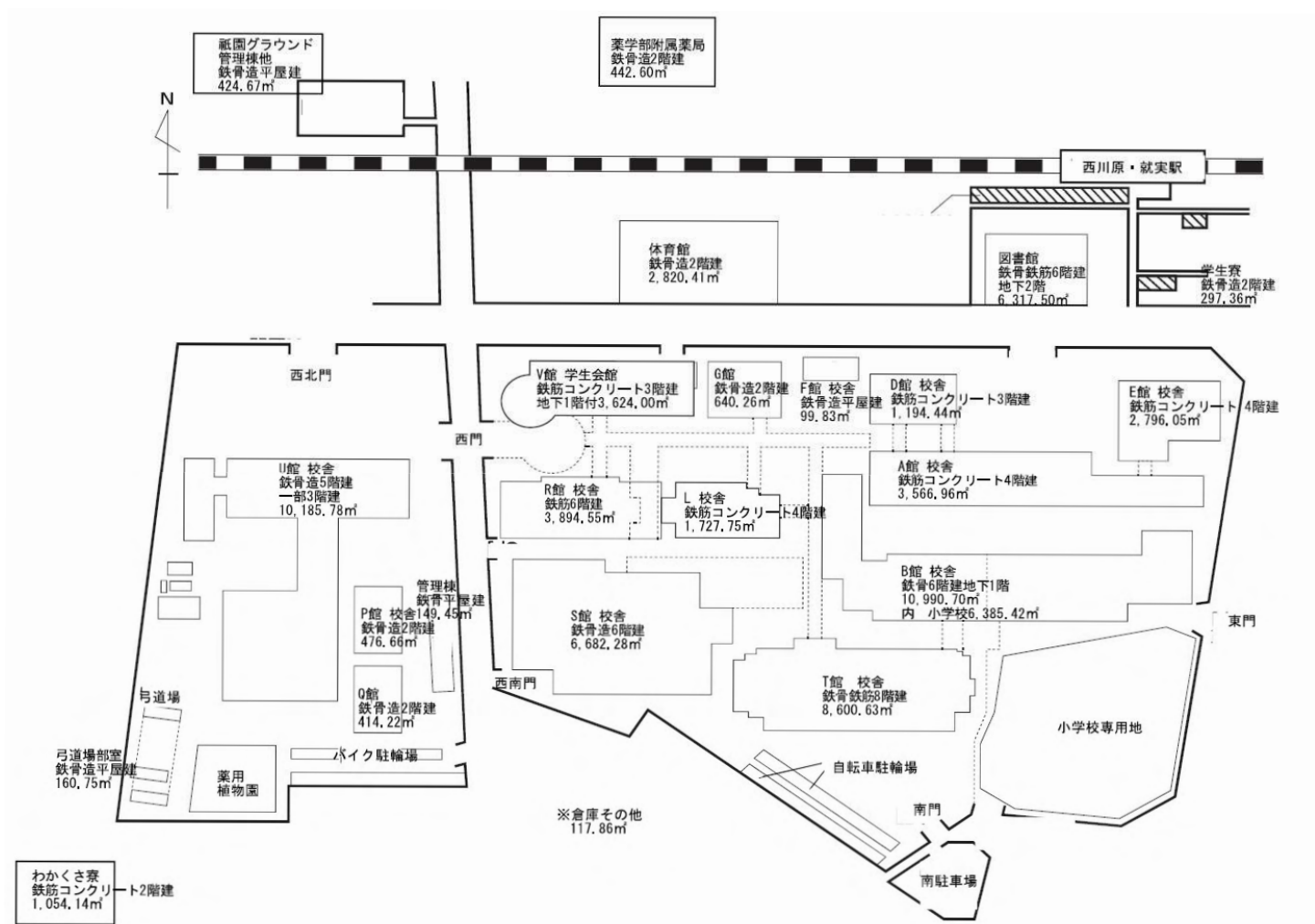
(2) 最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



- J R岡山駅から山陽本線・赤穂線で4分、「西川原・就実駅」下車すぐ。

(3)校舎・運動場等の配置図





就実大学学則(案)

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、日本国憲法及び教育基本法 の精神にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、併せて建学の精神に基づき、文化の進展と社会の福祉に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図るとともに、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検、評価、改善を行う。

2 前項の点検、評価、改善を行うため、本学に自己点検・評価・改善委員会を置く。

3 自己点検・評価・改善委員会に関する規程は別に定める。

第2章 学部、学生定員及び修業年限

(学部・学科及び収容定員)

第3条 本学に設置する学部、学科及びその収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
人文科学部	表現文化学科	80名	320名
	実践英語学科	75名	300名
	総合歴史学科	80名	320名
教育学部	教育学科	110名	440名
心理学部	心理学科	100名	400名
経営学部	経営学科	160名	640名
薬学部	薬学科	100名	600名

(学部・学科の人材の育成及びその他教育研究上の目的)

第3条の2 本学において、各学部・学科における人材の育成に関する目的及びその他教育研究上の目的は次のとおりとする。

学 部	学 科	目 的
人文科学部	人文科学部は、表現文化学科、実践英語学科、総合歴史学科の3学科で構成され、言語・文化・歴史などを学ぶことで、人間の本質を問い、身につけた教養をもとに主体的に行動し、社会及び文化の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。	
	表現文化学科	表現文化学科は、日本文学、日本語、表現創造（言語・身体）の3コースで構成される。日本の言語と文化について幅広い学識と理解を身につけ、人間が生活する時空の豊かさを実感できる知識と経験を積み、その学識と経験を活かして現代社会を能動的に生き、社会及び文化の諸問題を解決できる人材を育成することを目的とする。

	実践英語学科	実践英語学科は、英語コミュニケーション、英米文化、通訳・翻訳の3コースで構成される。英語教育を含む英語関連領域の専門的・学際的研究を通して、実践的な英語運用能力だけではなく、英語圏の人々、その人々を取り巻く社会・文化・思想・価値観についての教養を深化させ、それらを主体的に駆使・応用することで、グローバル化の進む諸領域の創生・発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。
	総合歴史学科	総合歴史学科は、日本史、アジア史、ヨーロッパ・アメリカ史、歴史遺産の4コースで構成される。歴史を学び、修得した知識を基に、現代の諸状況を把握して問題の解決を図り、文化的背景の異なる人々の立場を理解して豊かな人間関係を築き、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。
教育学部	教育学科	子供たちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができるようにするために、保育・教育者としての優れた実践的指導力と自らの成長を創り出す力を備えた、共生社会の形成に貢献できる人材を育成する。
心理学部	心理学科	人の心と行動、心身の健康状態を多角的な視点から理解し、立場の異なる人との対話を通して、支えケアすること及び、主体的・協働的に課題を解決することに心理学の専門知識や技能を活用できる人材を育成することを目的とし、社会及び個人の幸福の実現に貢献する。
経営学部	経営学科	グローバルに物事を考えながら、地域の社会や経済の発展に貢献できるグローバル人材を育成することを目的とする。
薬学部	薬学科	生命の尊厳を基盤とした強い使命感と高い倫理観のもとに、人々の健康を守る最良の医療薬学教育・研究を行い、医療・福祉に貢献できる高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた薬剤師を育成する。

(修業年限及び在学年限)

第4条 本学の修業年限は、人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部においては4年、薬学部においては6年とする。

2 学生は人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部においては8年、薬学部においては12年を超えて在学することができない。ただし、編入学、再入学した学生は、その学生が在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

(長期履修制度)

第4条の2 前条の規定にかかわらず、本学人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部において、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する者があるときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、本学の教育に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

2 長期履修学生に関する規程は別に定める。

第3章 大学院

(大学院)

第5条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する学則は別に定める。

第4章 附属幼稚園

(附属幼稚園)

第5条の2 本学に附属幼稚園を置く。

2 教育研究に併設する事業として、本学に保育所を置く。

3 附属幼稚園及び保育所に関し必要な事項は別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

一 日曜日

二 国民の祝日に関する法律に規定する休日

三 学園創立記念日 5月18日

四 夏期休業日 8月1日から9月30日まで

五 冬期休業日 12月25日から翌年1月7日まで

六 学年末休業日 3月21日から3月31日まで

2 必要がある場合においては、学長は、前項の規定にかかわらず、臨時に休業日を設け又は休業日を変更することができる。

(1年間の授業期間)

第9条 1年間の授業を行う期間は、試験等の日数を含め、35週にわたることを原則とする。

第6章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第10条 本学において開設する総合教養教育科目、外国語教育科目及び専門教育科目に関する授業科目とその単位数は別表(1)から(12)のとおりとする。

(授業の方法)

第10条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。

前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

- 4 第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
- 5 第2項に関し必要な事項は、別に定める。

(教職等に関する授業科目)

第11条 前条に定めるもののほか、教育職員免許状を取得する者のため、教職に関する科目及び特別支援学校教諭に関する科目を置く。教職に関する授業科目とその単位数は別表(13)のとおりとし、特別支援学校教諭に関する科目とその単位数は別表(14)のとおりとする。

- 2 学芸員の資格を取得する者のため、博物館に関する科目を置く。博物館に関する授業科目とその単位数は別表(15)のとおりとする。
- 3 司書の資格を取得する者のため、図書館に関する科目を置く。図書館に関する授業科目とその単位数は別表(16)のとおりとする。
- 4 司書教諭の資格を取得する者のため、司書教諭に関する科目を置く。司書教諭に関する授業科目とその単位数は別表(17)のとおりとする。
- 5 社会教育主事の資格を取得する者のため、社会教育に関する科目を置く。社会教育に関する授業科目とその単位数は別表(18)のとおりとする。
- 6 医療秘書士の申請資格を取得する者のため、医療秘書に関する科目を置く。医療秘書に関する授業科目とその単位数は別表(19)のとおりとする。
- 7 公認心理師の受験資格を取得しようとする者のため、大学において公認心理師となるために必要な科目を置く。大学において公認心理師となるために必要な授業科目とその単位数は別表(8)のとおりとする。

(副専攻)

第11条の2 所属学科の学びに加えて他分野に関する理解を深めようとする者のため、副専攻に関する科目を置く。

- 2 副専攻に関し必要な事項は別に定める。

(単位の計算方法)

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- 四 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前三号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究及び卒業論文実習の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業期間)

第13条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与)

第14条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 前項の試験に関し、必要な事項は別に定める。

(成績)

第15条 試験の成績は、100点をもって最高とし、60点以上を合格とする。

(成績の評語)

第16条 成績の評語は、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、60点未満を不可とする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第17条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

3 前2項の実施に関し必要な事項は別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第17条の2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う他の短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、前条により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、単位を認定することができる。

2 前項の実施に関し必要な事項は別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第18条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学入学以前に大学又は短期大学において修得した単位、及び短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修については、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項により修得したものとみなし、また与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第17条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学で修得した単位の場合にも準用する。

4 前3項の実施に関し必要な事項は別に定める。

(卒業の要件)

第19条 本学を卒業するためには、人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、次に定める単位を含め、人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部は124単位以上、薬学部は186単位以上を修得しなければならない。

学 部	学 科	総合教養教育科目	外国語教育科目	専門教育科目
人文科学部	表現文化学科	20	6	68
	実践英語学科	20	12	84
	総合歴史学科	20	8	68

学 部	学 科	総合教養教育科目	外国語教育科目	専門教育科目
教育学部	教育学科	20	6	62

学 部	学 科	総合教養教育科目	外国語教育科目	専門教育科目
心理学部	心理学科	20	6	62

学 部	学 科	総合教養教育科目	外国語教育科目	専門教育科目
経営学部	経営学科	20	8	82

学 部	学 科	総合教養教育科目	外国語教育科目	専門教育科目
薬学部	薬学科	15	5	166

(教育職員免許状等)

第20条 教育職員免許状を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

- 2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
人文科学部	表現文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語 国語
	実践英語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（英語） 外国語（英語）
	総合歴史学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史 公民
教育学部	教育学科	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状	
心理学部	心理学科	養護教諭一種免許状	

- 3 学芸員の資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに博物館法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 4 司書の資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに図書館法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 5 司書教諭の資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに学校図書館法及び学校図書館司書教諭講習規程に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 6 社会教育主事に関する資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに社会教育法及び社会教育主事講習等規程に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 7 教育学部教育学科において保育士の資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに児童福祉法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 8 教育学部及び心理学部において認定心理士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに社団法人日本心理学会認定心理士認定資格細則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 9 人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部において医療秘書士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに公益社団法人日本医師会が定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 10 心理学部心理学科において公認心理師の受験資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに公認心理師施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 11 心理学部心理学科において准学校心理士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに一般社団法人学校心理士認定運営機構が定める授業科目の単位を修得しなければならない。

第7章 卒業及び学位

（卒業）

第21条 本学において人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、第19条に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。

- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

（学位）

第22条 人文科学部を卒業した者に学士（人文科学）、教育学部を卒業した者には学士（教育学）、心理学部を卒業した者には学士（心理学）、経営学部を卒業した者には学士（経営学）、薬学部を卒業した者には学士（薬学）の学位を授与する。

- 2 学位に関する規程は別に定める。

第8章 入学，退学，転学及び休学等

(入学の時期)

第23条 入学の時期は，学年の始めとする。ただし，再入学及び転入学については，学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第24条 本学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- 三 外国において，学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 四 文部科学大臣の指定した者
- 五 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- 六 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 七 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 八 個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達した者

(入学志願の手続)

第25条 本学への入学を志願する者は，本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

- 2 入学検定料の金額は別に定める。
- 3 本学において特に必要があると認めた者は，入学検定料を減免することができる。
- 4 入学検定料の減免に関する規程は別に定める。
- 5 提出の時期，方法，同時に提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第26条 前条の入学志願者については，別に定めるところにより，選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第27条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに，入学金その他の学納金及び本学の指定する書類を提出しなければならない。

- 2 学長は，前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(再入学)

第28条 願いにより本学を退学した者又は第38条第一号により除籍された者が再入学を希望するときは，選考のうえ，教授会の意見を聴き，学長が入学を許可することができる。

- 2 前項の場合，退学又は除籍前に修得した授業科目及び単位数の全部又は一部を既に修得したものとして認めることがある。この認定は教授会の意見を聴き，学長が行う。
- 3 再入学の場合に必要な手続は別に定める。

(編入学及び転入学)

第29条 次の各号の一に該当する者で，本学に編入学を志願する者があるときは，編入学定員を定める学科等のほかは，欠員のある場合に限り，選考のうえ，教授会の意見を聴き，学長が相当年次に入学を許可することができる。

- 一 大学を卒業した者又は退学した者
- 二 短期大学，高等専門学校，国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者，及び専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る）

三 学校教育法施行規則附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了した者又は卒業した者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

3 編入学、転入学の場合に必要な手続は別に定める。

(保証人)

第30条 入学を許可された者は、保証人を定め本学の指定する期間内に届出なければならない。

(保証人の責任)

第31条 保証人は学生の在籍中の次に定める事項について責任を持つものとする。

一 授業料及び教育充実費（以下「学費」という。）の未納分

二 在籍料の未納分

三 学内施設・備品などに損害を与えた場合の修復費用

四 学生の故意又は過失行為によって第三者に損害を与え、その賠償責任を大学が負うことになった場合の損害賠償額

2 前項の保証極度額は、第40条第2項に規定する学費合計とする。

3 保証人は父母若しくは成年の親族又はそれに代わる者とし、いずれも独立の生計を営む者とする。

(保証人の変更及び転居)

第32条 保証人を変更したとき又は保証人が転居したときは直ちに届出なければならない。

(退学)

第33条 退学をしようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(転学)

第34条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(転学部・転学科)

第34条の2 本学の他の学部・転学部または同一学部の他の学科に転学科を希望する者があるときは、選考のうえ許可することがある。

2 転学部、転学科の場合に必要な手続は別に定める。

(休学)

第35条 疾病その他やむを得ない事由により3か月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第36条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続き延長することができる。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学の期間は、第4条第2項の在学年限に算入しない。

(復学)

第37条 休学期間満了の場合又は休学の期間中にその事由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第38条 次の各号の一に該当する者は、教授会の意見を聴き、大学教育研究評議会で審議し、学長が除籍する。

一 学費その他の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

二 第4条第2項に定める在学年限を超えた者

三 第36条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

- 四 死亡または長期間にわたり行方不明の者
- 五 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

2 前項第五号に関し必要な事項は、学部ごとに定める。

(復籍)

第38条の2 前条第一号により除籍になった者が除籍通知後1年以内に未納の学費その他の納付金を納付し、復籍の願い出があった場合には、大学教育研究評議会で審議し、学長が復籍を許可することがある。

2 前項の場合、除籍前に修得した授業科目及び単位数の全部又は一部を既に修得したものとして認めることがある。この認定は教授会の意見を聴き、学長が行う。

第9章 授業料，入学金その他の費用

(入学金の納付)

第39条 本学に入学する者は、入学金を納付しなければならない。

2 入学金の額は、270,000円とする。

3 納付した入学金は、返付しない。

(学費の納付)

第40条 学費は、前学期・後学期の2期に分けて納付しなければならない。ただし、長期履修学生の学費については別に定める。

2 学費の年額は下表のとおりとする。

令和2年度以降入学生

(単位：円)

項目 学部	授業料	教育充実費	学費 合計
人文科学部	920,000	—	920,000
教育学部 心理学部 経営学部	950,000	—	950,000
薬学部	1,530,000	450,000	1,980,000

令和元年度以前入学生

(単位：円)

項目 学部	授業料	教育充実費	学費 合計
人文科学部 教育学部 経営学部	915,000	—	915,000
薬学部	1,500,000	455,000	1,955,000

3 本学において特別の事情があると認められた者は、前項の規定にかかわらず、月割分納又は延納を認めることがある。

(授業料，入学金その他の費用の減免)

第40条の2 本学において特に必要があると認めた者は、授業料，入学金その他の費用を減免することができる。

2 授業料，入学金その他の費用の減免に関する規程は別に定める。

(退学・転学及び停学の場合の学費)

第41条 退学又は転学した者、退学を命ぜられた者及び停学中の者は当該学期の学費全額を納付しなければならない。

(休学の場合の学費免除)

第42条 休学した者については次の算式により算出した学費を免除する。

$$\text{免除額} = \text{授業料年額} \times \frac{\text{休学日の当月から復学日の前月までの月数}}{12} + \text{教育充実費} \times \frac{\text{休学日の当月から復学日の前月までの月数}}{12}$$

2 端数が生じた場合には、10の位以下の数字は切り上げ、100円単位とする。この端数処理は、授業料又は教育充実費それぞれの減免額算定の最後に一度だけ行うものとし、計算途中において複数回にわたり行うことはしない。

(在籍料)

第42条の2 休学した者については、休学期間中、次の算式により算出した在籍料を納付しなければならない。

在籍料の算式

在籍料 $\times$ 休学日の当月から復学日の前月までの月数

2 在籍料は、1 か月 20,000円とする。

(その他の費用の納付)

第43条 入学金、学費のほか、実験実習料を徴収することがある。

2 前項に規定する納付金の金額、納付に必要な手続等については別に定める。

(納付した授業料等)

第44条 削除

第10章 職員組織

(職員組織)

第45条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技能職員その他必要な職員を置く。

(職員の職務)

第46条 職員の職務は学校教育法及び就実学園就業規則の定めるところによる。

第11章 大学教育研究評議会、教授会

(大学教育研究評議会)

第47条 本学に、教育研究に関する重要な事項を審議するため大学教育研究評議会（以下「評議会」という。）を置く。

(評議会の構成)

第47条の2 評議会は、学長、副学長、研究科長、学部長及び事務部長をもって構成する。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、評議会を構成する者以外の者の出席を求めることができる。

(評議会の役割・権限)

第47条の3 評議会は学長の諮問機関とし、教育研究に関する重要な事項で学長が必要と認めたものを審議する。

2 評議会に関する規程は、学長が別に定める。

(各種委員会の設置)

第47条の4 評議会のもとに、各種委員会を置く。

2 各種委員会に関する規程は別に定める。

(教授会)

第48条 本学に教授会を置く。

(教授会の構成)

第49条 教授会は学部長及び教授をもって構成する。ただし、教授会が必要と認めたときは、准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 前項の規定にかかわらず、学部長が必要と認めたときは、教授会にその他の職員の出席を求める

ことができる。

(教授会の役割・権限)

第50条 教授会は、学長の諮問機関とし、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学生の入学、卒業

二 学位の授与

三 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 教授会に関する規程は、学長が別に定める。

第12章 科目等履修生、委託生、単位互換履修生、 研究生、聴講生、外国人留学生及び帰国子女

(科目等履修生)

第51条 本学において開設する授業科目の一部を履修しようとする者があるときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、当該授業科目の授業に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

2 科目等履修生に関し必要な手続きについては別に定める。

(委託生)

第52条 他の大学又は公共機関から委託生として推薦された者が、学修を願い出るときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、本学の教育に支障のない場合に限り、学長が許可することができる。

2 委託生には学則を準用する。ただし、学則第21条は適用しない。

3 委託生の授業料その他の納付金については、科目等履修生に準ずる。

(単位互換履修生)

第53条 協定を結んでいる他の大学、短期大学又は高等専門学校に在学している学生が、本学の開講科目を履修しようとするときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、当該科目の授業に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

2 単位互換履修生に関し必要な手続きについては別に定める。

(研究生)

第54条 本学において特定の事項について研究しようとする者があるときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、本学の教育に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

2 研究生に関し必要な手続きについては別に定める。

(聴講生)

第55条 本学において開設する授業科目の一部を聴講しようとする者があるときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、当該授業科目の授業に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

2 聴講生に関し必要な手続きについては別に定める。

(外国人留学生)

第56条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の意見を聴き、外国人留学生として学長が許可することができる。

2 外国人留学生に関する規程は別に定める。

(帰国子女)

第57条 外国人留学生以外の学生で、外国において相当の期間中等教育（中学校又は高等学校に対応

する学校における教育をいう。)を受けた者が本学に入学を志願するときは、選考のうえ、教授会の意見を聴き、帰国子女として学長が許可することができる。

2 帰国子女に関する規程は別に定める。

第13章 賞罰

(表彰)

第58条 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の意見を聴き、学長が表彰することができる。

2 表彰に関する規程は別に定める。

(懲戒)

第59条 本学の学則に違反し又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の意見を聴き、評議会で審議し、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがない者

二 正当な理由がなくて出席が常でない者

三 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 懲戒に関する規程は別に定める。

第14章 公開講座

(公開講座)

第60条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第15章 附属施設

(図書館)

第61条 本学に図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は別に定める。

(研究所)

第62条 本学に吉備地方文化研究所を置く。

2 吉備地方文化研究所に関し必要な事項は別に定める。

(臨床薬学教育研究センター)

第63条 本学に臨床薬学教育研究センターを置く。

2 臨床薬学教育研究センターに関し必要な事項は別に定める。

(就実教育実践研究センター)

第64条 本学に就実教育実践研究センターを置く。

2 就実教育実践研究センターに関し必要な事項は別に定める。

(就実心理臨床センター)

第65条 本学に就実心理臨床センターを置く。

2 就実心理臨床センターに関し必要な事項は別に定める。

(産学官地域連携センター)

第65条の2 本学に産学官地域連携センターを置く。

2 産学官地域連携センターに関し必要な事項は別に定める。

(教育開発センター)

第65条の3 本学に教育開発センターを置く。

2 教育開発センターに関し必要な事項は別に定める。

(就実大学薬学部附属薬局)

第66条 本学に就実大学薬学部附属薬局を置く。

2 就実大学薬学部附属薬局に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正学則は、昭和60年4月1日から施行する。

2 昭和60年度から昭和62年度において文学部史学科の総定員は、第2条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

昭和60年度 100人

昭和61年度 200人

昭和62年度 300人

附 則

この改正学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正学則は、平成元年4月1日から施行する。

2 平成元年度から平成3年度において文学部日本文学科及び英米文学科の総定員は、第2条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成元年度 日本文学科 250名

英米文学科 250名

平成2年度 日本文学科 300名

英米文学科 300名

平成3年度 日本文学科 350名

英米文学科 350名

附 則

この改正学則は、平成元年6月1日から施行し、平成2年度本学に入学する者から適用する。

附 則

この改正学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

1 この改正学則は、平成3年4月1日から施行する。

2 平成3年度から平成11年度において入学定員は、第2条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

る。

日本文学科 130名

英米文学科 130名

史 学 科 130名

3 第17条及び別表(1)は、昭和63年度入学生から適用する。

4 第18条の規定は、平成2年度入学生から適用する。

5 平成2年度以前の入学生にかかる授業料の額は、第38条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

6 第41条の規定による校費及びその他の費用の納付は、平成2年度以前の入学生についても適用する。

附 則

この改正学則は、平成3年10月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この改正学則は、平成5年4月1日から施行し、平成5年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成6年4月1日から施行し、平成6年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成7年4月1日から施行し、平成7年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成8年4月1日から施行し、平成8年度入学生から適用する。ただし、第6条並びに第7条の規定は、平成7年度以前の入学生についても適用する。

附 則

この改正学則は、平成9年4月1日から施行し、平成9年度入学生から適用する。ただし、第6条、第7条及び第8条の規定、第9条の別表(4)の「博物館概論」「博物館学各論」、第10条の別表(6)及び別表(8)の授業科目については、平成8年度以前の入学生についても適用する。

附 則

この改正学則は、平成10年4月1日から施行し、平成10年度入学生から適用する。ただし、第10条の別表(7)の授業科目は、平成9年度以前の入学生についても適用する。

附 則

この改正学則は、平成11年4月1日から施行し、平成11年度入学生から適用する。ただし、第11条の別表(8)の授業科目は、平成10年度以前の入学生についても適用する。

附 則

1 この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

2 平成12年度から平成14年度において収容定員は、第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成12年度 日本文学科 505名

英米文学科 505名

史 学 科 505名

平成13年度 日本文学科 490名

英米文学科 490名

史 学 科 490名

平成14年度 日本文学科 475名

英米文学科 475名

史 学 科 475名

附 則

この改正学則は、平成13年4月1日から施行し、平成13年度入学生から適用する。ただし、第34条の2の規定は、平成12年度以前の入学生についても適用する。

附 則

この改正学則は、平成14年4月1日から施行し、平成14年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成15年4月1日から施行し、平成15年度入学生から適用する。
- 2 本学文学部日本文学科、英米文学科及び史学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず平成15年3月31日に当該学部等に在学する者が当該学部等に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 平成15年度から平成17年度において収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成15年度	表現文化学科（日本文学科）	420名	生物薬学科	75名
	実践英語学科（英米文学科）	420名	医療薬学科	75名
	総合歴史学科（史学科）	420名		
平成16年度	表現文化学科（日本文学科）	380名	生物薬学科	150名
	実践英語学科（英米文学科）	380名	医療薬学科	150名
	総合歴史学科（史学科）	380名		
平成17年度	表現文化学科（日本文学科）	340名	生物薬学科	225名
	実践英語学科（英米文学科）	340名	医療薬学科	225名
	総合歴史学科（史学科）	340名		

附 則

この改正学則は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学生から適用する。ただし、第4条の2及び第40条第1項ただし書きの規定は、平成16年度以前の入学生についても適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成18年4月1日から施行し、平成18年度入学生から適用する。
- 2 本学薬学部生物薬学科、医療薬学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 平成18年度から平成23年度において薬学部の収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成18年度	薬学部薬学科	150名	生物薬学科	225名
			医療薬学科	225名
平成19年度	薬学部薬学科	300名	生物薬学科	150名
			医療薬学科	150名
平成20年度	薬学部薬学科	450名	生物薬学科	75名
			医療薬学科	75名
平成21年度	薬学部薬学科	600名		
平成22年度	薬学部薬学科	750名		
平成23年度	薬学部薬学科	900名		

附 則

- 1 この改正学則は、平成19年4月1日から施行し、平成19年度入学生から適用する。ただし、第34条の2の規定は平成18年度以前の入学生についても適用する。
- 2 平成19年度から平成22年度において、人文科学部初等教育学科の収容定員は改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成19年度	初等教育学科	75名
平成20年度	初等教育学科	150名
平成21年度	初等教育学科	230名
平成22年度	初等教育学科	310名

附 則

この改正学則は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成21年4月1日から施行し、平成21年度入学生から適用する。ただし、第38条の2の規定は、平成21年度以前の入学生についても適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成22年4月1日から施行し、平成22年度入学生から適用する。
- 2 第4条第2項、第10条の2、第36条、第37条については、平成21年度以前の入学生についても適用する。
- 3 第10条の別表(10)の「香粧品科学」「病態と薬物治療」「チーム医療」「医薬品等評価学」「漢方薬学」「薬学海外研修」については、平成21年度以前の入学生についても適用する。

また、「食薬相互作用学」の削除についても、平成21年度以前の入学生について適用する。

- 4 第10条の別表(11)の「教科教育研究（国語）Ⅳ」「教科教育研究（英語）Ⅳ」「教科教育研究（社会・地理歴史）Ⅳ」については、平成20年度、平成21年度の入学生についても適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学生から適用する。
- 2 本学人文科学部初等教育学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、平成25年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 平成23年度から平成28年度において人文科学部初等教育学科、教育学部、薬学部の収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成23年度	人文科学部初等教育学科	235名
	教育学部初等教育学科	75名
	教育心理学科	60名
平成24年度	薬学部 薬学科	870名
	人文科学部初等教育学科	160名
	教育学部初等教育学科	150名
平成25年度	薬学部 薬学科	840名
	教育学部初等教育学科	230名
	教育心理学科	185名
平成26年度	薬学部 薬学科	810名
	教育学部初等教育学科	310名
	教育心理学科	250名
平成27年度	薬学部 薬学科	780名
	薬学部 薬学科	750名
平成28年度	薬学部 薬学科	720名

附 則

- 1 この改正学則は、平成24年4月1日から施行し、平成24年度入学生から適用する。
- 2 第10条の別表(5)の「漢字検定1」「漢字検定2」の単位変更、別表(7)の「障害児心理学各論」「特別支援教育各論」の科目名・単位変更、第11条の別表(11)の「特別支援教育各論」「障害児心理学各論」の科目追加、別表(12)の「古文書学の基礎」「考古学の基礎」の科目名称変更については、平成23年度

入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度入学生から適用する。
- 2 平成26年度から平成29年度において、経営学部経営学科の収容定員は改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

平成26年度	経営学部経営学科	80名
平成27年度	経営学部経営学科	160名
平成28年度	経営学部経営学科	240名
平成29年度	経営学部経営学科	320名

附 則

この改正学則は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成28年4月1日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成29年4月1日から施行し、平成29年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成30年4月1日から施行し、平成30年度入学生から適用する。

附 則

この改正学則は、平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学生から適用する。

附 則

経営学部経営学科専門教育科目「観光人類学」は、平成30年度生のみ適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、令和2年4月1日から施行し、令和2年度入学生から適用する。ただし、第20条第6項の規定のうち「生涯学習支援論Ⅰ」「生涯学習支援論Ⅱ」「社会教育経営論Ⅰ」「社会教育経営論Ⅱ」については施行日以前の在学生についても適用する。
- 2 令和2年度から令和6年度において、入学定員及び収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
人文科学部	表現文化学科	80名	305名	80名	310名	80名	315名
	実践英語学科	75名	300名	75名	300名	75名	300名
	総合歴史学科	80名	305名	80名	310名	80名	315名
教育学部	初等教育学科	75名 3年次編入5名	310名	75名 3年次編入5名	310名	75名 3年次編入5名	310名
	教育心理学科	62名	247名	62名	244名	62名	246名
薬学部	薬学科	100名	700名	100名	680名	100名	660名
経営学部	経営学科	100名	340名	100名	360名	100名	380名

		令和5年度		令和6年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
人文科学部	表現文化学科	80名	320名	80名	320名
	実践英語学科	75名	300名	75名	300名
	総合歴史学科	80名	320名	80名	320名
教育学部	初等教育学科	75名	310名	75名	310名

		3年次編入5名		3年次編入5名	
	教育心理学科	62名	248名	62名	248名
薬学部	薬学科	100名	640名	100名	620名
経営学部	経営学科	100名	400名	100名	400名

附 則

この改正学則は、令和4年4月1日から施行し、令和4年度入学生から適用する。ただし、別表(5)の「情報処理Ⅲ」の削除は、令和3年度入学生についても適用する。

附 則

- この改正学則は、令和5年4月1日から施行し、令和5年度入学生から適用する。
- 令和5年度から令和8年度において、入学定員及び収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経営学部	経営学科	160名	460名	160名	520名	160名	580名

		令和8年度	
学部	学科	入学定員	収容定員
経営学部	経営学科	160名	640名

附 則

この改正学則は、令和6年4月1日から施行し、令和6年度入学生から適用する。

附 則

- この改正学則は、令和7年4月1日から施行し、令和7年度入学生から適用する。
- 本学教育学部初等教育学科および教育心理学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、令和10年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 令和7年度から令和10年度において、入学定員及び収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
教育学部	初等教育学科	3年次編入5名	235	3年次編入5名	160名	—	80名
	教育心理学科	—	186名	—	124名	—	62名
	教育学科	110名	110名	110名	220名	110名	330名
心理学部	心理学科	100名	100名	100名	200名	100名	300名

		令和10年度	
学部	学科	入学定員	収容定員
教育学部	初等教育学科	—	—
	教育心理学科	—	—
	教育学科	110名	440名
心理学部	心理学科	100名	400名

＜別 表＞

別表（１） 総合教養教育科目・外国語教育科目（人文科学部表現文化学科・実践英語学科・総合歴史学科共通）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学 1		2	講義	1	
	心理学 2		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論 1		2	講義	1	
	日本文化論 2		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	法学		2	講義	1	
	日本国憲法		2	講義	1	
	社会学の世界と歴史		2	講義	1	
	社会学概論		2	講義	1	
	基礎経営論		2	講義	1	
	基礎経済学		2	講義	1	
	経済学概論		2	講義	1	
	労働と社会		2	講義	1	
	政治学概論		2	講義	1	
	現代教育の諸問題		2	講義	1	
	健康と衛生		2	講義	1	
	健康と栄養		2	講義	1	
	環境と地球		2	講義	1	
	環境と生命		2	講義	1	
	化学の世界と歴史		2	講義	1	
	現代生活と化学		2	講義	1	
	からだの構造と機能		2	講義	1	
	からだの化学と生物学		2	講義	1	
	生命機能のプログラム		2	講義	1	
	地球と宇宙のサイエンス		2	講義	1	
	日本伝統の折紙の科学		2	講義	1	
	身体運動と健康の科学		2	講義	1	
	健康・スポーツと社会		2	講義	1	
	スポーツ 1		1	演習	1	
	スポーツ 2		1	演習	1	
	スポーツ 3		1	演習	1	
	スポーツ 4		1	演習	1	
	こころの健康科学		2	講義	1	

	現代人とこころの障害		2	講義	1	
	情報と表現		2	講義	1	
	情報と文化		2	講義	1	
	情報と社会		2	講義	1	
	情報処理演習 1		2	講義	1	
	情報処理演習 2		2	講義	1	
	情報処理基礎演習		2	講義	1	
	プログラミング基礎		2	講義	1	
	プログラミング演習		2	講義	1	
	データ処理演習		2	講義	1	
	A I 基礎		2	講義	1	
	データエンジニアリング基礎		2	講義	1	
	データサイエンス		2	講義	1	
	アジアの世界と文化		2	講義	1	
	欧米の世界と文化		2	講義	1	
	コラボレーション学修 1		2	講義	1	
	仕事に役立つ数学		2	講義	1	
	茶道 1		1	演習	1	
	茶道 2		1	演習	1	
	書道 1		1	演習	1	
	書道 2		1	演習	1	
	インターンシップ・キャリア実習 1		1	実習	2	
	インターンシップ・キャリア実習 2		1	実習	2	
	漢字検定 1		1	演習	1	
	漢字検定 2		1	演習	1	
	異文化コミュニケーション 1		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション 2		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション 3		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション 4		2	講義	1	
	日本事情 1		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	日本事情 2		2	講義	1	
	日本事情 3		2	講義	1	
	日本事情 4		2	講義	1	
	学校制度論		2	講義	3	
	教育学概論		2	講義	1	
	教育心理学(教育・学校心理学)		2	講義	2	
	教職論		2	講義	1	
	図書館概論		2	講義	1	
	生涯学習概論 I		2	講義	1	
	博物館概論		2	講義	1	
	計	2	164			
外国語教育科目	English Reading I	1		演習	1	実践英語学科
	English Reading II	1		演習	1	
	English Reading III	1		演習	2	
	English Reading IV	1		演習	2	
	Oral Communication I	1		演習	1	
	Oral Communication II	1		演習	1	
	Oral Communication III	1		演習	2	
	Oral Communication IV	1		演習	2	
	General English 1	1		演習	1	表現文化学科 総合歴史学科
	General English 2	1		演習	1	
	General English 3	1		演習	2	
	General English 4	1		演習	2	

検定外国語 1		2	演習	1	
検定外国語 2		2	演習	1	
検定外国語 3		2	演習	1	
検定外国語 4		2	演習	1	
ドイツ語初級 1		1	演習	1	
ドイツ語初級 2		1	演習	1	
ドイツ語初級 3		1	演習	1	
ドイツ語初級 4		1	演習	1	
ドイツ語中級 1		1	演習	2	
ドイツ語中級 2		1	演習	2	
ドイツ語中級 3		1	演習	2	
ドイツ語中級 4		1	演習	2	
フランス語初級 1		1	演習	1	
フランス語初級 2		1	演習	1	
フランス語初級 3		1	演習	1	
フランス語初級 4		1	演習	1	
フランス語中級 1		1	演習	2	
フランス語中級 2		1	演習	2	
フランス語中級 3		1	演習	2	
フランス語中級 4		1	演習	2	
中国語初級 1		1	演習	1	
中国語初級 2		1	演習	1	
中国語初級 3		1	演習	1	
中国語初級 4		1	演習	1	
中国語中級 1		1	演習	2	
中国語中級 2		1	演習	2	
中国語中級 3		1	演習	2	
中国語中級 4		1	演習	2	
ハングル初級 1		1	演習	1	
ハングル初級 2		1	演習	1	
ハングル初級 3		1	演習	1	
ハングル初級 4		1	演習	1	
ハングル中級 1		1	演習	2	
ハングル中級 2		1	演習	2	
ハングル中級 3		1	演習	2	
ハングル中級 4		1	演習	2	
日本語 1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
日本語 2		1	演習	1	
日本語 3		1	演習	1	
日本語 4		1	演習	1	
計		12	44		
合 計		14	208		

別表（２） 専門教育科目（人文科学部表現文化学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	卒業研究	8		演習	4	
	文章表現	2		講義	1	
	口頭表現	2		講義	1	
	基礎ゼミナール	2		講義	1	
	表現文化学入門	2		講義	1	
	日本文学入門 1		2	講義	1	
	日本文学入門 2		2	講義	1	

日本語表現入門 1		2	講義	1	8 単位以上選択必修
日本語表現入門 2		2	講義	1	
表現創造入門 1		2	講義	1	
表現創造入門 2		2	講義	1	
作品講読 1		2	講義	1	
作品講読 2		2	講義	1	
作品講読 3		2	講義	1	
作品講読 4		2	講義	1	
表現創造基礎 1		2	講義	1	
表現創造基礎 2		2	講義	1	
表現創造基礎 3		2	講義	1	
表現創造基礎 4		2	講義	1	
実地調査 1		1	講義	1	
実地調査 2		1	講義	1	
実地調査 3		1	講義	1	
実地調査 4		1	講義	1	
古典文学史		2	講義	2	6 単位以上選択必修
近現代文学史		2	講義	2	
日本語史		2	講義	2	
言語表現史		2	講義	2	
身体表現史		2	講義	2	
古典文学研究 1		2	講義	2	8 単位以上選択必修
古典文学研究 2		2	講義	2	
古典文学研究 3		2	講義	2	
近現代文学研究 1		2	講義	2	
近現代文学研究 2		2	講義	2	
近現代文学研究 3		2	講義	2	
日本語研究 1		2	講義	2	
日本語研究 2		2	講義	2	
表現創造研究 1		2	講義	2	
表現創造研究 2		2	講義	2	
表現創造研究 3		2	講義	2	8 単位以上選択必修
表現創造基礎 5		2	講義	2	
表現創造基礎 6		2	講義	2	
古典文学講義 1		2	講義	3	
古典文学講義 2		2	講義	3	
古典文学講義 3		2	講義	3	
近現代文学講義 1		2	講義	3	
近現代文学講義 2		2	講義	3	
近現代文学講義 3		2	講義	3	
日本語講義 1		2	講義	3	
日本語講義 2		2	講義	3	
表現創造講義 1		2	講義	3	
表現創造講義 2		2	講義	3	
表現創造講義 3		2	講義	3	
表現創造講義 4		2	講義	3	
作品読解ゼミナール 1		2	講義	2	
作品読解ゼミナール 2		2	講義	2	
作品読解ゼミナール 3		2	講義	3	
作品読解ゼミナール 4		2	講義	3	
アドバンストゼミナールⅠ		2	演習	3	
アドバンストゼミナールⅡ		2	演習	3	
表現文化ゼミナールⅠ	2		演習	2	

表現文化ゼミナールⅡ	2		演習	2
表現文化ゼミナールⅢ	2		演習	3
表現文化ゼミナールⅣ	2		演習	3
表現文化ゼミナールⅤ	2		演習	4
表現文化ゼミナールⅥ	2		演習	4
合 計	28	104		

別表（３） 専門教育科目（人文科学部実践英語学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	卒業研究	8		演習	4	
	基礎ゼミナールⅠ	2		演習	1	
	基礎ゼミナールⅡ	2		演習	1	
	基礎ゼミナールⅢ	2		演習	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2		演習	2	
	英文法Ⅰ	2		講義	1	
	英文法Ⅱ	2		講義	1	
	留学準備プログラム		2	演習	1	
	English Research SkillsⅠ	2		講義	1	
	English Research SkillsⅡ	2		講義	1	
	Extensive ReadingⅠ	2		講義	2	
	Extensive ReadingⅡ	2		講義	2	
	Intensive EnglishⅠ	4		演習	1	
	Intensive EnglishⅡ	4		演習	1	
	Intensive EnglishⅢ	4		演習	2	
	Intensive EnglishⅣ	4		演習	2	
	英語文化文学研究入門Ⅰ	2		講義	1	
	英語文化文学研究入門Ⅱ	2		講義	1	
	通訳演習入門		2	演習	1	
	翻訳演習入門		2	演習	1	
	英語学研究入門		2	講義	1	
	English WritingⅠ	2		演習	1	
	English WritingⅡ	2		演習	1	
	English WritingⅢ	2		演習	2	
	English WritingⅣ	2		演習	2	
	検定英語Ⅰ	2		講義	2	
	検定英語Ⅱ	2		講義	2	
	英語教育実践法Ⅰ		2	講義	2	
	英語教育実践法Ⅱ		2	講義	2	
	英語学研究Ⅰ		2	講義	2	
	英語学研究Ⅱ		2	講義	2	
	言語文化講読Ⅰ		2	演習	1	
	言語文化講読Ⅱ		2	演習	1	
	言語文化講読Ⅲ		2	演習	1	
	言語文化講読Ⅳ		2	演習	1	
	英文講読Ⅰ	2		講義	3	
	英文講読Ⅱ	2		講義	3	
	English CommunicationⅠ	2		講義	3	
	English CommunicationⅡ	2		講義	3	
	English CommunicationⅢ		2	講義	4	
	English CommunicationⅣ		2	講義	4	英語コミュニケーション Ⅳ

English Communication 5		2	講義	3	8 単位以上選択必修
English Communication 6		2	講義	3	
異文化理解と交流 1		2	講義	3	英米文化コースは 8 単位以上選択必修
異文化理解と交流 2		2	講義	3	
英語文化文学研究 1		2	講義	3	
英語文化文学研究 2		2	講義	3	
英語文化文学研究 3		2	講義	3	
通訳演習 1		2	演習	3	通訳・翻訳コースは 8 単位以上選択必修
通訳演習 2		2	演習	3	
通訳演習 3		2	演習	3	
翻訳演習 1		2	演習	3	
翻訳演習 2		2	演習	3	
翻訳演習 3		2	演習	3	
英語ゼミナールⅠ	2		演習	3	
英語ゼミナールⅡ	2		演習	3	
英語ゼミナールⅢ	2		演習	4	
英語ゼミナールⅣ	2		演習	4	
合 計	76	54			

別表（４） 専門教育科目（人文科学部総合歴史学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	卒業研究	8		演習	4	10単位以上選択必修
	総合歴史基礎ゼミナール	2		講義	1	
	日本史入門 1		2	講義	1	
	日本史入門 2		2	講義	1	
	ヨーロッパ・アメリカ史入門 1		2	講義	1	
	ヨーロッパ・アメリカ史入門 2		2	講義	1	
	アジア史入門 1		2	講義	1	
	アジア史入門 2		2	講義	1	
	歴史遺産入門 1		2	講義	1	
	歴史遺産入門 2		2	講義	1	
	日本史講読 1		2	演習	1	6 単位以上選択必修
	日本史講読 2		2	演習	1	
	日本史講読 3		2	演習	1	
	日本史講読 4		2	演習	1	
	日本史講読 5		2	演習	1	
	日本史講読 6		2	演習	1	
	ヨーロッパ・アメリカ史講読 1		2	演習	1	
	ヨーロッパ・アメリカ史講読 2		2	演習	1	
	ヨーロッパ・アメリカ史講読 3		2	演習	1	
	ヨーロッパ・アメリカ史講読 4		2	演習	1	
	アジア史講読 1		2	演習	1	
	アジア史講読 2		2	演習	1	
	アジア史講読 3		2	演習	1	
	アジア史講読 4		2	演習	1	
	歴史遺産史料講読 1		2	演習	1	
	歴史遺産史料講読 2		2	演習	1	
	歴史遺産史料講読 3		2	演習	1	
	歴史遺産史料講読 4		2	演習	1	
	地理学概論		2	講義	1	

地誌		2	講義	1	2 単位以上選択必修
哲学の世界と歴史		2	講義	1	
国際政治 1		2	講義	1	
国際政治 2		2	講義	1	
国際経済論		2	講義	1	
日本人の思想		2	講義	1	
ヨーロッパ人の思想		2	講義	1	
アジア人の思想		2	講義	1	
日本美術史		2	講義	1	
西洋美術史		2	講義	1	
東洋美術史		2	講義	1	12単位以上選択必修
死生観の歴史		2	講義	1	
倫理と価値観の諸相		2	講義	1	
歴史人物の生と時代 1		2	講義	2	
歴史人物の生と時代 2		2	講義	2	
地域史特殊研究 1		2	講義	1	
地域史特殊研究 2		2	講義	1	
吉備地方文化特論 1		2	講義	1	
吉備地方文化特論 2		2	講義	1	
吉備地方文化特論 3		2	講義	1	
吉備地方文化特論 4		2	講義	1	8 単位以上選択必修
考古学の基礎		2	講義	1	
考古学の現在		2	講義	1	
古文書学の基礎		2	講義	1	
古文書解読		2	講義	1	
総合歴史演習 1		2	演習	2	
総合歴史演習 2		2	演習	2	
総合歴史演習 3		2	演習	2	
総合歴史演習 4		2	演習	2	
日本史研究 1		2	演習	2	
日本史研究 2		2	演習	2	
日本史研究 3		2	演習	2	
日本史研究 4		2	演習	2	
日本史研究 5		2	演習	2	
日本史研究 6		2	演習	2	
ヨーロッパ・アメリカ史研究 1		2	演習	2	
ヨーロッパ・アメリカ史研究 2		2	演習	2	
ヨーロッパ・アメリカ史研究 3		2	演習	2	
ヨーロッパ・アメリカ史研究 4		2	演習	2	
アジア史研究 1		2	演習	2	
アジア史研究 2		2	演習	2	
アジア史研究 3		2	演習	2	
アジア史研究 4		2	演習	2	
歴史遺産研究 1		2	演習	2	
歴史遺産研究 2		2	演習	2	
歴史遺産研究 3		2	演習	2	
歴史遺産研究 4		2	演習	2	
日本史講義 1		2	講義	3	
日本史講義 2		2	講義	3	
日本史講義 3		2	講義	3	
ヨーロッパ・アメリカ史講義 1		2	講義	3	

ヨーロッパ・アメリカ史講義2		2	講義	3	12単位以上選択必修
アジア史講義1		2	講義	3	
アジア史講義2		2	講義	3	
歴史遺産講義1		2	講義	3	
歴史遺産講義2		2	講義	3	
総合歴史ゼミナールⅠ	2		演習	3	
総合歴史ゼミナールⅡ	2		演習	3	
総合歴史ゼミナールⅢ	2		演習	4	
総合歴史ゼミナールⅣ	2		演習	4	
合 計	18	166			

別表（５）総合教養教育科目・外国語教育科目（教育学部教育学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	認定心理士必修 認定心理士必修
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学1		2	講義	1	
	心理学2		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論1		2	講義	1	
	日本文化論2		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	
	人権の現代的課題	2		講義	1	
	法学		2	講義	1	
	日本国憲法	2		講義	1	
	社会学の世界と歴史		2	講義	1	
	社会学概論		2	講義	1	
	基礎経営論		2	講義	1	
	基礎経済学		2	講義	1	
	経済学概論		2	講義	1	
	労働と社会		2	講義	1	
	政治学概論		2	講義	1	
	現代教育の諸問題		2	講義	1	
	健康と衛生		2	講義	1	
	健康と栄養		2	講義	1	
	環境と地球		2	講義	1	
	環境と生命		2	講義	1	
	化学の世界と歴史		2	講義	1	
	現代生活と化学		2	講義	1	
	からだの構造と機能		2	講義	1	

	からだの化学と生物学		2	講義	1	
	生命機能のプログラム		2	講義	1	
	地球と宇宙のサイエンス		2	講義	1	
	日本伝統の折紙の科学		2	講義	1	
	身体運動と健康の科学		2	講義	1	選択必修 2 単位
	健康・スポーツと社会		2	講義	1	
	スポーツ 1		1	演習	1	選択必修 1 単位
	スポーツ 2		1	演習	1	
	スポーツ 3		1	演習	1	
	スポーツ 4		1	演習	1	
	こころの健康科学		2	講義	1	
	現代人とこころの障害		2	講義	1	
	情報と社会		2	講義	1	
	情報と表現		2	講義	1	
	情報と文化		2	講義	1	
	情報処理基礎演習		2	講義	1	
	プログラミング基礎		2	講義	1	
	プログラミング演習		2	講義	1	
	データ処理演習		2	講義	1	
	A I 基礎		2	講義	1	
	データエンジニアリング基礎		2	講義	1	
	データサイエンス		2	講義	1	
	アジアの世界と文化		2	講義	1	
	欧米の世界と文化		2	講義	1	
	コラボレーション学修 1		2	講義	1	
	仕事に役立つ数学		2	講義	1	
	茶道 1		1	演習	1	
	茶道 2		1	演習	1	
	書道 1		1	演習	1	
	書道 2		1	演習	1	
	インターンシップ・キャリア実習 1		1	実習	2	
	インターンシップ・キャリア実習 2		1	実習	2	
	漢字検定 1		1	演習	1	
	漢字検定 2		1	演習	1	
	異文化コミュニケーション 1		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション 2		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション 3		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション 4		2	講義	1	
	日本事情 1		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	日本事情 2		2	講義	1	
	日本事情 3		2	講義	1	
	日本事情 4		2	講義	1	
	計	6	142			
外国語教育科目	English Reading 1	1		演習	1	
	English Reading 2	1		演習	1	
	English Reading 3	1		演習	2	
	English Reading 4	1		演習	2	
	General English 1		1	演習	1	
	General English 2		1	演習	1	
	General English 3		1	演習	1	
	General English 4		1	演習	1	
	検定外国語 1		2	演習	1	
	検定外国語 2		2	演習	1	

検定外国語 3		2	演習	1	
検定外国語 4		2	演習	1	
ドイツ語初級 1		1	演習	1	
ドイツ語初級 2		1	演習	1	
ドイツ語初級 3		1	演習	1	
ドイツ語初級 4		1	演習	1	
ドイツ語中級 1		1	演習	2	
ドイツ語中級 2		1	演習	2	
ドイツ語中級 3		1	演習	2	
ドイツ語中級 4		1	演習	2	
フランス語初級 1		1	演習	1	
フランス語初級 2		1	演習	1	
フランス語初級 3		1	演習	1	
フランス語初級 4		1	演習	1	
フランス語中級 1		1	演習	2	
フランス語中級 2		1	演習	2	
フランス語中級 3		1	演習	2	
フランス語中級 4		1	演習	2	
中国語初級 1		1	演習	1	
中国語初級 2		1	演習	1	
中国語初級 3		1	演習	1	
中国語初級 4		1	演習	1	
中国語中級 1		1	演習	2	
中国語中級 2		1	演習	2	
中国語中級 3		1	演習	2	
中国語中級 4		1	演習	2	
ハングル初級 1		1	演習	1	
ハングル初級 2		1	演習	1	
ハングル初級 3		1	演習	1	
ハングル初級 4		1	演習	1	
ハングル中級 1		1	演習	2	
ハングル中級 2		1	演習	2	
ハングル中級 3		1	演習	2	
ハングル中級 4		1	演習	2	
日本語 1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
日本語 2		1	演習	1	
日本語 3		1	演習	1	
日本語 4		1	演習	1	
計	4	48			
合 計	10	190			

別表（６） 専門教育科目(教育学部教育学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	教職論	2		講義	1	
	教育学概論	2		講義	1	
	教育心理学	2		講義	1	
	学習・言語心理学		2	講義	2	
	学校制度論		2	講義	3	小・幼必修
	特別ニーズ教育総論		2	講義	2	小必修
	子ども家庭支援の心理学		2	講義	3	保必修
	保育者論		2	講義	3	保必修
	保育原理Ⅰ		2	講義	1	保必修

保育原理Ⅱ		2	講義	3	
社会的養護Ⅰ		2	講義	2	保必修
社会的養護Ⅱ		1	演習	2	保必修
社会福祉Ⅰ		2	講義	1	保必修
社会福祉Ⅱ		2	講義	3	
子ども家庭福祉Ⅰ		2	講義	1	保必修
子ども家庭福祉Ⅱ		2	講義	3	
発達心理学	2		講義	2	
臨床心理学概論		2	講義	2	
子どもの保健		2	講義	1	保必修
子どもの健康と安全		1	演習	2	保必修
子どもの食と栄養Ⅰ		1	演習	2	保必修
子どもの食と栄養Ⅱ		1	演習	2	保必修
子ども家庭支援論		2	講義	3	保必修
小学校教育課程論		2	講義	2	小必修
幼稚園教育課程論		2	講義	2	幼・保必修
保育内容総論		2	演習	2	幼・保必修
幼児の健康		2	演習	1	幼・保必修
幼児の人間関係		2	演習	2	幼・保必修
幼児の環境		2	演習	2	幼・保必修
幼児の言葉		2	演習	1	幼・保必修
幼児の表現		2	演習	1	幼・保必修
幼児の健康の指導法		2	演習	2	幼・保必修
幼児の人間関係の指導法		2	演習	3	幼・保必修
幼児の環境の指導法		2	演習	3	幼・保必修
幼児の言葉の指導法		2	演習	2	幼・保必修
幼児の音楽表現の指導法		2	演習	2	幼・保必修
幼児の造形表現の指導法		2	演習	2	幼・保必修
乳児保育Ⅰ		2	講義	1	保必修
乳児保育Ⅱ		1	演習	2	保必修
乳児保育Ⅲ		2	講義	3	
特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ		1	演習	1	幼・保必修
特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ		1	演習	2	幼・保必修
子育て支援		1	演習	3	保必修
児童文化		2	講義	3	幼必修
国語科教育法Ⅰ		2	講義	2	小必修
国語科教育法Ⅱ		2	講義	4	
算数科教育法Ⅰ		2	講義	2	小必修
算数科教育法Ⅱ		2	講義	3	
社会科教育法		2	講義	3	小必修
理科教育法		2	講義	3	小必修
生活科教育法		2	講義	2	小必修
家庭科教育法		2	講義	3	小必修
外国語教育法		2	講義	3	小必修
音楽科教育法		2	講義	2	小必修
図画工作科教育法		2	講義	3	小必修
体育科教育法		2	講義	2	小必修
道徳の指導法		2	講義	2	小必修
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2	講義	3	小必修
教育方法論		2	講義	3	小・幼必修
ICT活用の理論と方法		1	講義	2	小必修
幼児理解とカウンセリング		2	演習	2	幼・保必修
教育相談		2	講義	3	小必修

生徒・進路指導論		2	講義	2	小必修
国語Ⅰ		2	講義	1	小必修
国語Ⅱ		2	講義	1	
算数Ⅰ		2	講義	2	小必修
算数Ⅱ		2	講義	2	
社会Ⅰ		2	講義	2	小必修
社会Ⅱ		2	講義	3	
理科Ⅰ		2	講義	2	小必修
理科Ⅱ		2	講義	3	
家庭		2	講義	1	小必修
生活		2	講義	1	小必修
児童英語Ⅰ		2	講義	2	小必修
児童英語Ⅱ		2	講義	2	
音楽		2	演習	1	小必修
幼小連携教育演習1（音楽）		1	演習	3	
幼小連携教育演習2（音楽）		1	演習	3	
幼小連携教育演習3（造形・図工）		1	演習	3	
幼小連携教育演習4（造形・図工）		1	演習	3	
幼小連携教育演習5（運動・体育）		1	演習	3	
幼小連携教育演習6（運動・体育）		1	演習	3	
ピアノ基礎演習		1	演習	1	
ピアノ実践演習		1	演習	3	小・幼・保必修
図画工作Ⅰ		2	演習	1	小必修
図画工作Ⅱ		2	演習	1	
体育実技		1	演習	1	小必修
体育		2	演習	2	小必修
小学校教育実習		4	実習	3	小必修
小学校教育実習指導Ⅰ		1	実習	3	小必修
小学校教育実習指導Ⅱ		1	実習	3	小必修
介護等体験		1	実習	3	小必修
幼稚園教育実習Ⅰ		1	実習	2	幼必修
幼稚園教育実習Ⅱ		3	実習	3	幼必修
幼稚園教育実習指導Ⅰ		1	実習	3	幼必修
幼稚園教育実習指導Ⅱ		1	実習	3	幼必修
保育実習Ⅰ（保育所）		2	実習	2	保必修
保育実習Ⅰ（施設）		2	実習	2	保必修
保育実習Ⅱ（保育所）		2	実習	3	保は2単位選択必修
保育実習Ⅲ（施設）		2	実習	3	
保育実習指導Ⅰ（事前）		1	演習	2	保必修
保育実習指導Ⅰ（事後）		1	演習	2	保必修
保育実習指導Ⅱ		1	演習	3	保は1単位選択必修
保育実習指導Ⅲ		1	演習	3	
保幼小現場体験		1	実習	1	
特別支援学校現場体験		1	実習	2	
教育・福祉インターンシップ		1	実習	4	
特別支援教育総論		2	講義	1	特支必修
特別支援教育の制度と歴史		2	講義	2	
知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）		2	講義	1	特支必修
知的障害児の生理・病理		1	講義	1	特支必修
肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）		1	講義	1	特支必修
肢体不自由児の生理・病理		1	講義	2	特支必修
病弱児の心理		1	講義	3	特支必修
病弱児の生理・病理		1	講義	2	特支必修

障害児心理学各論		2	講義	3	特支選択必修
知的障害児教育Ⅰ		2	講義	2	特支必修
知的障害児教育Ⅱ		2	講義	2	特支必修
肢体不自由児教育		2	講義	3	特支必修
病弱児教育		2	講義	3	特支必修
特別支援教育各論		2	講義	3	特支選択必修
発達障害の心理学		2	講義	2	特支必修
発達障害児の生理・病理		1	講義	1	特支必修
視覚障害児教育総論		1	講義	3	特支必修
聴覚障害児教育総論		1	講義	3	特支必修
発達障害児教育		2	講義	3	特支必修
重複障害児教育総論		2	講義	3	特支必修
言語障害児教育総論		2	講義	2	
特別支援教育実習指導		1	実習	4	特支必修
特別支援教育実習		2	実習	4	特支必修
初年次教育Ⅰ	1		演習	1	
初年次教育Ⅱ	1		演習	1	
教職研究Ⅰ		1	演習	3	
教職研究Ⅱ		1	演習	4	
保育・教職実践演習（幼・小）		2	演習	4	小・幼・保必修
初等教育ゼミナールⅠ	2		演習	3	
初等教育ゼミナールⅡ	2		演習	3	
初等教育ゼミナールⅢ	2		演習	4	
初等教育ゼミナールⅣ	2		演習	4	
卒業研究	6		演習	4	
合 計	24	219			

※「特別ニーズ教育総論」「特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ」「特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ」の3科目の中から2単位以上選択必修

別表（7）総合教養教育科目・外国語教育科目（心理学部心理学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学1		2	講義	1	認定心理士必修
	心理学2		2	講義	1	認定心理士必修
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論1		2	講義	1	
	日本文化論2		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	

キャリアデザイン論		2	講義	1	
人権の現代的課題	2		講義	1	
法学		2	講義	1	養護必修
日本国憲法		2	講義	1	
社会学の世界と歴史		2	講義	1	
社会学概論		2	講義	1	
基礎経営論		2	講義	1	
基礎経済学		2	講義	1	
経済学概論		2	講義	1	
労働と社会		2	講義	1	
政治学概論		2	講義	1	
現代教育の諸問題		2	講義	1	
健康と衛生		2	講義	1	
健康と栄養		2	講義	1	
環境と地球		2	講義	1	
環境と生命		2	講義	1	
化学の世界と歴史		2	講義	1	
現代生活と化学		2	講義	1	
からだの構造と機能		2	講義	1	養護選択必修 2 単位
からだの化学と生物学		2	講義	1	
生命機能のプログラム		2	講義	1	
地球と宇宙のサイエンス		2	講義	1	
日本伝統の折紙の科学		2	講義	1	養護選択必修 1 単位
身体運動と健康の科学		2	講義	1	
健康・スポーツと社会		2	講義	1	
スポーツ 1		1	演習	1	
スポーツ 2		1	演習	1	
スポーツ 3		1	演習	1	
スポーツ 4		1	演習	1	
こころの健康科学		2	講義	1	
現代人とこころの障害		2	講義	1	
情報と社会		2	講義	1	
情報と表現		2	講義	1	
情報と文化		2	講義	1	
情報処理基礎演習		2	講義	1	
プログラミング基礎		2	講義	1	
プログラミング演習		2	講義	1	
データ処理演習		2	講義	1	
A I 基礎		2	講義	1	
データエンジニアリング基礎		2	講義	1	
データサイエンス		2	講義	1	
アジアの世界と文化		2	講義	1	
欧米の世界と文化		2	講義	1	
コラボレーション学修 1		2	講義	1	
仕事に役立つ数学		2	講義	1	
茶道 1		1	演習	1	
茶道 2		1	演習	1	
書道 1		1	演習	1	
書道 2		1	演習	1	
インターンシップ・キャリア実習 1		1	実習	2	
インターンシップ・キャリア実習 2		1	実習	2	
漢字検定 1		1	演習	1	
漢字検定 2		1	演習	1	

	異文化コミュニケーション1		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション2		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション3		2	講義	1	
	異文化コミュニケーション4		2	講義	1	
	日本事情1		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	日本事情2		2	講義	1	
	日本事情3		2	講義	1	
	日本事情4		2	講義	1	
	計	4	144			
外国語教育科目	English Reading 1	1		演習	1	
	English Reading 2	1		演習	1	
	English Reading 3	1		演習	2	
	English Reading 4	1		演習	2	
	General English 1		1	演習	1	
	General English 2		1	演習	1	
	General English 3		1	演習	1	
	General English 4		1	演習	1	
	検定外国語 1		2	演習	1	
	検定外国語 2		2	演習	1	
	検定外国語 3		2	演習	1	
	検定外国語 4		2	演習	1	
	ドイツ語初級 1		1	演習	1	
	ドイツ語初級 2		1	演習	1	
	ドイツ語初級 3		1	演習	1	
	ドイツ語初級 4		1	演習	1	
	ドイツ語中級 1		1	演習	2	
	ドイツ語中級 2		1	演習	2	
	ドイツ語中級 3		1	演習	2	
	ドイツ語中級 4		1	演習	2	
	フランス語初級 1		1	演習	1	
	フランス語初級 2		1	演習	1	
	フランス語初級 3		1	演習	1	
	フランス語初級 4		1	演習	1	
	フランス語中級 1		1	演習	2	
	フランス語中級 2		1	演習	2	
	フランス語中級 3		1	演習	2	
	フランス語中級 4		1	演習	2	
	中国語初級 1		1	演習	1	
	中国語初級 2		1	演習	1	
	中国語初級 3		1	演習	1	
	中国語初級 4		1	演習	1	
	中国語中級 1		1	演習	2	
	中国語中級 2		1	演習	2	
	中国語中級 3		1	演習	2	
	中国語中級 4		1	演習	2	
	ハングル初級 1		1	演習	1	
	ハングル初級 2		1	演習	1	
	ハングル初級 3		1	演習	1	
	ハングル初級 4		1	演習	1	
	ハングル中級 1		1	演習	2	
	ハングル中級 2		1	演習	2	
	ハングル中級 3		1	演習	2	
	ハングル中級 4		1	演習	2	

	日本語 1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	日本語 2		1	演習	1	
	日本語 3		1	演習	1	
	日本語 4		1	演習	1	
	計	4	48			
合 計		8	192			

別表（８） 専門教育科目(心理学部心理学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	教育学概論		2	講義	1	養護必修
	教職論		2	講義	1	養護必修
	心理学概論	2		講義	1	
	教育心理学(教育・学校心理学)		2	講義	2	養護必修・認定心理士選択必修
	学習・言語心理学		2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	学校制度論		2	講義	3	養護必修
	カウンセリング概論（心理学的支援法）	2		講義	1	
	カウンセリング演習		2	演習	2	認定心理士選択必修
	家族心理学		2	講義	3	認定心理士選択必修
	心理学研究法		2	講義	3	公認心理師・認定心理士必修
	心理学実験		2	実習	2	公認心理師・認定心理士必修
	心理検査法演習(心理的アセスメント)		2	演習	3	公認心理師・認定心理士選択必修・准 学校心理士必修
	社会・集団・家族心理学		2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	心理学統計法Ⅰ	2		講義	1	
	心理学統計法Ⅱ		2	講義	3	
	心理療法		2	講義	3	認定心理士選択必修
	心理演習		2	演習	3	公認心理師必修
	臨床心理実践演習		2	演習	3	
	感情・人格心理学		2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	神経・生理心理学		2	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択 必修
	知覚・認知心理学		2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	発達心理学	2		講義	2	
	臨床心理学概論	2		講義	1	
	精神医学概論(精神疾患とその治療)		2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	公認心理師の職責		2	講義	2	公認心理師必修
	関係行政論		2	講義	2	公認心理師必修
	知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）		2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必 修・准学校心理士必修
	肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）		1	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必 修・准学校心理士必修
	病弱児の心理		1	講義	2	認定心理士選択必修
	障害児心理学各論		2	講義	2	
	発達障害の心理学		2	講義	2	認定心理士選択必修
	教育課程論		2	講義	2	養護必修
	特別ニーズ教育総論		2	講義	2	養護必修
	道徳の指導法		2	講義	2	養護必修
	総合的な学習の時間の指導法		1	講義	3	養護必修
	特別活動の指導法		2	講義	3	養護必修

教育方法論		2	講義	3	養護必修
生徒指導論		2	講義	3	養護必修
教育相談		2	講義	2	養護必修・認定心理士選択必修
養護実習指導		1	演習	3	養護必修
養護実習		4	実習	3	養護必修
教職実践演習(養護)		2	講義	4	養護必修
衛生学		2	講義	2	養護必修
公衆衛生学		2	講義	3	養護必修
学校保健		2	講義	1	養護必修
保健教育論		2	講義	3	養護必修
養護学概論		2	講義	2	養護必修
養護活動論Ⅰ		2	講義	2	養護必修
養護活動論Ⅱ		2	講義	3	
健康相談活動		2	講義	3	養護必修
栄養学(食品学を含む)		2	講義	1	養護必修
食育論		2	講義	4	
人体の構造と機能1(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)		2	講義	1	公認心理師・養護必修
人体の構造と機能2		2	講義	1	養護必修
微生物学		2	講義	2	養護必修
免疫学		2	講義	2	養護必修
薬理概論		2	講義	3	
精神保健		2	講義	2	養護必修・認定心理士選択必修
小児精神医学		2	講義	3	認定心理士選択必修
看護学		2	講義	1	養護必修
看護学演習		1	演習	2	養護必修
看護学臨床実習		1	演習	3	養護必修
学校救急処置演習		1	演習	3	養護必修
小児疾病論1(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)		2	講義	2	公認心理師必修・養護必修
小児疾病論2		2	講義	2	養護必修
小児保健		2	講義	2	養護必修
初年次教育Ⅰ	1		演習	1	
初年次教育Ⅱ	1		演習	1	
ボランティア体験Ⅰ		1	演習	1	養護必修
ボランティア体験Ⅱ		1	演習	2	
教職研究Ⅰ		1	演習	3	
教職研究Ⅱ		1	演習	4	
心理学課題演習1		2	演習	3	
心理学基礎実習		2	実習	2	認定心理士必修
心理学課題演習2		2	演習	3	
コミュニケーションの心理学		2	演習	2	認定心理士選択必修
消費者心理学		2	講義	2	認定心理士選択必修
消費者行動論		2	講義	3	
社会心理学基礎演習		2	演習	3	認定心理士選択必修
心理学課題演習3		2	演習	3	
健康心理学		2	講義	2	認定心理士選択必修

スポーツ科学		2	講義	2	
心理学課題演習4		2	演習	3	
健康・医療心理学		2	講義	3	公認心理師必修，認定心理士選択必修
福祉心理学		2	講義	2	公認心理師必修，認定心理士選択必修・准学校心理士必修
司法・犯罪心理学		2	講義	3	公認心理師必修，認定心理士選択必修
産業・組織心理学		2	講義	3	公認心理師必修，認定心理士選択必修
心理実習Ⅰ		2	実習	4	公認心理師必修
心理実習Ⅱ		2	実習	4	公認心理師必修
心理学とキャリア		1	講義	2	
心理学とキャリア実践		1	講義	3	
心理学検定1		2	演習	1	
心理学検定2		2	演習	1	
心理学ゼミナールⅠ	2		演習	3	
心理学ゼミナールⅡ	2		演習	3	
心理学ゼミナールⅢ	2		演習	4	
心理学ゼミナールⅣ	2		演習	4	
卒業研究	4		演習	4	
合 計	24	161			

※「教育心理学（教育・学校心理学）」，「心理学研究法」，「社会・集団・家族心理学」，「健康心理学」から2単位を選択必修とする。

別表（9） 総合教養教育科目・外国語教育科目（経営学部経営学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学1		2	講義	1	
	心理学2		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論1		2	講義	1	
	日本文化論2		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	法学		2	講義	1	
	日本国憲法		2	講義	1	
	社会学の世界と歴史		2	講義	1	

社会学概論	2	講義	1
基礎経営論	2	講義	1
基礎経済学	2	講義	1
経済学概論	2	講義	1
労働と社会	2	講義	1
政治学概論	2	講義	1
現代教育の諸問題	2	講義	1
健康と衛生	2	講義	1
健康と栄養	2	講義	1
環境と地球	2	講義	1
環境と生命	2	講義	1
化学の世界と歴史	2	講義	1
現代生活と化学	2	講義	1
からだの構造と機能	2	講義	1
からだの化学と生物学	2	講義	1
生命機能のプログラム	2	講義	1
地球と宇宙のサイエンス	2	講義	1
日本伝統の折紙の科学	2	講義	1
身体運動と健康の科学	2	講義	1
健康・スポーツと社会	2	講義	1
スポーツ 1	1	演習	1
スポーツ 2	1	演習	1
スポーツ 3	1	演習	1
スポーツ 4	1	演習	1
こころの健康科学	2	講義	1
現代人とこころの障害	2	講義	1
情報と表現	2	講義	1
情報と文化	2	講義	1
情報と社会	2	講義	1
情報処理基礎演習	2	講義	1
プログラミング基礎	2	講義	1
プログラミング演習	2	講義	1
データ処理演習	2	講義	1
A I 基礎	2	講義	1
データエンジニアリング基礎	2	講義	1
データサイエンス	2	講義	1
アジアの世界と文化	2	講義	1
欧米の世界と文化	2	講義	1
コラボレーション学修 1	2	講義	1
仕事に役立つ数学	2	講義	1
茶道 1	1	演習	1
茶道 2	1	演習	1
書道 1	1	演習	1
書道 2	1	演習	1
インターンシップ・キャリア実習 1	1	実習	2
インターンシップ・キャリア実習 2	1	実習	2
漢字検定 1	1	演習	1
漢字検定 2	1	演習	1
異文化コミュニケーション 1	2	講義	1
異文化コミュニケーション 2	2	講義	1
異文化コミュニケーション 3	2	講義	1
異文化コミュニケーション 4	2	講義	1
日本事情 1	2	講義	1

	日本事情 2		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	日本事情 3		2	講義	1	
	日本事情 4		2	講義	1	
	計	2	146			
外国語教育科目	General English 1	1		演習	1	4 単位以上選択必修
	General English 2	1		演習	1	
	General English 3	1		演習	1	
	General English 4	1		演習	1	
	General English 5		1	演習	1	
	General English 6		1	演習	1	
	General English 7		1	演習	1	
	General English 8		1	演習	1	
	中国語入門 1		1	演習	1	
	中国語入門 2		1	演習	1	
	中国語入門 3		1	演習	1	
	中国語入門 4		1	演習	1	
	留学対策講座(英語) 1		1	演習	2	国際経営は 4 単位選択必修
	留学対策講座(英語) 2		1	演習	2	
	留学対策講座(英語) 3		1	演習	2	
	留学対策講座(英語) 4		1	演習	2	
	留学対策講座(中国語) 1		1	演習	2	
	留学対策講座(中国語) 2		1	演習	2	
	留学対策講座(中国語) 3		1	演習	2	
	留学対策講座(中国語) 4		1	演習	2	
	ドイツ語初級 1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	ドイツ語初級 2		1	演習	1	
	ドイツ語初級 3		1	演習	1	
	ドイツ語初級 4		1	演習	1	
	フランス語初級 1		1	演習	1	
	フランス語初級 2		1	演習	1	
	フランス語初級 3		1	演習	1	
	フランス語初級 4		1	演習	1	
	ハングル初級 1		1	演習	1	
	ハングル初級 2		1	演習	1	
	ハングル初級 3		1	演習	1	
	ハングル初級 4		1	演習	1	
	日本語 1		1	演習	1	
	日本語 2		1	演習	1	
	日本語 3		1	演習	1	
	日本語 4		1	演習	1	
	計	4	32			
合 計		6	178			

別表(10) 専門教育科目 (経営学部経営学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門基礎科目	データサイエンス入門	2		講義	1	

	会計学入門	2		講義	1	8 単位選択必修
	マーケティング入門	2		講義	1	
	経営学入門	2		講義	1	
	マーケティングリサーチ入門	2		講義	1	
	経済学入門	2		講義	1	
	社会統計学	2		講義	2	
	思考・発想法入門	2		講義	1	
	初級簿記		2	講義	1	
	中級簿記Ⅰ		2	講義	1	
	中級簿記Ⅱ		2	講義	1	
	英文ビジネスプレゼンテーション入門		2	講義	1	
	国際ビジネス入門		2	講義	1	
	商業学入門		2	講義	1	
	農業経済学入門		2	講義	1	
	ホスピタリティ入門		2	講義	1	
	経済史入門		2	講義	1	
	経営戦略論入門		2	講義	1	
	経営哲学入門		2	講義	1	
	金融概論		2	講義	1	
	証券市場論入門		2	講義	1	
専門発展科目	企業倫理		2	講義	2	マネジメント系から 8 単位選択必修
	コーポレートガバナンス論		2	講義	2	
	経営管理		2	講義	2	
	企業と社会		2	講義	2	
	外国経営史		2	講義	3	
	日本経営史		2	講義	3	
	経営組織論Ⅰ		2	講義	3	
	経営組織論Ⅱ		2	講義	3	
	経営戦略論		2	講義	3	マーケティング系から 6 単位選択必修
	リーダーシップ論		2	講義	2	
	生産システム論		2	講義	3	
	人的資源管理論		2	講義	3	
	知的所有権		2	講義	3	
	税法概論		2	講義	3	
	マーケティング戦略論		2	講義	3	
	消費者行動論		2	講義	3	
	商業学		2	講義	3	経営情報系から 8 単位選択必修
	広告論		2	講義	2	
	サービス・マーケティング		2	講義	3	
	製品戦略論		2	講義	3	
	地域マーケティング論		2	講義	3	
	市場情報分析		2	講義	3	
	イノベーション・マネジメント		2	講義	3	
	財務会計		2	講義	2	
	管理会計		2	講義	3	
	経営分析		2	講義	3	
	原価計算		2	講義	2	
	上級簿記Ⅰ		2	講義	3	
	上級簿記Ⅱ		2	講義	3	
	ミクロ経済学		2	講義	3	
	マクロ経済学		2	講義	3	

ビジネス・エコノミクス		2	講義	2	グローバル系から 8単位選択必修
法と経済		2	講義	3	
経済統計分析		2	講義	3	
金融政策論		2	講義	3	
価値開発工学論		2	講義	3	
ビジネス・プランニング		2	講義	3	
アジア企業論		2	講義	3	
アジアの農業と経済		2	講義	3	
第6次産業論		2	講義	3	
農業経済学		2	講義	3	
サービスデザイン		2	講義	3	
観光マネジメント		2	講義	3	
中小企業論		2	講義	3	
岡山経済論		2	講義	2	
岡山産業論		2	講義	2	
Introduction to Management		2	講義	2	
Advanced Management		2	講義	3	
フィールド調査論Ⅰ		2	演習	3	
フィールド調査論Ⅱ		2	演習	3	
特別講義Ⅰ		2	講義	2	地域経営・経営実践必修
特別講義Ⅱ		2	講義	3	
導入ゼミナールⅠ	2		演習	1	
導入ゼミナールⅡ	2		演習	1	
専門ゼミナールⅠ	2		演習	2	
専門ゼミナールⅡ		2	演習	2	
専門ゼミナールⅢ	2		演習	3	
専門ゼミナールⅣ	2		演習	3	
専門ゼミナールⅤ	2		演習	4	
専門ゼミナールⅥ	2		演習	4	
留学プログラム		8	実習	2	国際経営必修
長期インターンシップ		8	実習	2	地域経営必修
PBL実習1		2	実習	2	経営実践必修
PBL実習2		2	実習	2	経営実践必修
PBL実習3		2	実習	2	経営実践必修
PBL実習4		2	実習	2	経営実践必修
卒業研究	4		演習	4	
合 計		34	156		

別表(11) 総合教養教育科目・外国語教育科目(薬学部薬学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学1		2	講義	1	
	心理学2		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論1		2	講義	1	

日本文化論 2	2	講義	1
女性の生活と歴史	2	講義	1
現代の女性環境	2	講義	1
漢詩文の表現と心	2	講義	1
漢詩文の表現と思想	2	講義	1
ポピュラー音楽の歴史	2	講義	1
世界の文学	2	講義	1
20世紀史	2	講義	1
ことばの科学	2	講義	1
キャリアデザイン論	2	講義	1
人権の現代的課題	2	講義	1
法学	2	講義	1
日本国憲法	2	講義	1
社会学の世界と歴史	2	講義	1
社会学概論	2	講義	1
基礎経営論	2	講義	1
基礎経済学	2	講義	1
経済学概論	2	講義	1
労働と社会	2	講義	1
政治学概論	2	講義	1
現代教育の諸問題	2	講義	1
健康と衛生	2	講義	1
健康と栄養	2	講義	1
環境と地球	2	講義	1
環境と生命	2	講義	1
化学の世界と歴史	2	講義	1
現代生活と化学	2	講義	1
からだの構造と機能	2	講義	1
からだの化学と生物学	2	講義	1
生命機能のプログラム	2	講義	1
地球と宇宙のサイエンス	2	講義	1
日本伝統の折紙の科学	2	講義	1
身体運動と健康の科学	2	講義	1
健康・スポーツと社会	2	講義	1
スポーツ 1	1	演習	1
スポーツ 2	1	演習	1
スポーツ 3	1	演習	1
スポーツ 4	1	演習	1
こころの健康科学	2	講義	1
現代人とこころの障害	2	講義	1
情報と表現	2	講義	1
情報と文化	2	講義	1
情報と社会	2	講義	1
アジアの世界と文化	2	講義	1
欧米の世界と文化	2	講義	1
コラボレーション学修 1	2	講義	1
仕事に役立つ数学	2	講義	1
茶道 1	1	演習	1
茶道 2	1	演習	1
日本事情 1	2	講義	1
日本事情 2	2	講義	1
日本事情 3	2	講義	1
日本事情 4	2	講義	1

外国人留学生・
帰国子女適用

	情報処理基礎演習		2	講義	1	
	プログラミング基礎		2	講義	1	
	プログラミング演習		2	講義	1	
	データ処理演習		2	講義	1	
	A I 基礎		2	講義	1	
	データエンジニアリング基礎		2	講義	1	
	データサイエンス		2	講義	1	
	薬学基礎入門	1		講義	1	
	計	3	132			
外国語教育科目	English Writing 1		1	演習	1	
	English Writing 2		1	演習	1	
	English Reading 1		1	演習	1	
	English Reading 2		1	演習	1	
	基礎科学英語		1	演習	2	
	フランス語初級 1		1	演習	1	
	フランス語初級 2		1	演習	1	
	フランス語初級 3		1	演習	1	
	フランス語初級 4		1	演習	1	
	ドイツ語初級 1		1	演習	1	
	ドイツ語初級 2		1	演習	1	
	ドイツ語初級 3		1	演習	1	
	ドイツ語初級 4		1	演習	1	
	中国語初級 1		1	演習	1	
	中国語初級 2		1	演習	1	
	中国語初級 3		1	演習	1	
	中国語初級 4		1	演習	1	
	ハングル初級 1		1	演習	1	
	ハングル初級 2		1	演習	1	
	ハングル初級 3		1	演習	1	
	ハングル初級 4		1	演習	1	
	日本語 1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用
	日本語 2		1	演習	1	
	日本語 3		1	演習	1	
	日本語 4		1	演習	1	
	計		25			
	合 計	3	157			

別表 (12) 専門教育科目 (薬学部薬学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	薬学への招待	1		講義	1	
	初年次ゼミナール	1		演習	1	
	早期体験学習	1		演習	1	
	サイエンスコミュニケーション	1		演習	1	
	薬学対話演習	1		演習	2	
	薬学基礎数学	2		講義	1	
	薬学基礎物理学	2		講義	1	
	薬学基礎化学	2		講義	1	
	薬学基礎生物学	2		講義	1	
	医療薬学英語	1		演習	3	
	卒業特別講義	8		講義	6	
	化学物質の構造と性質	1		講義	1	
	溶液の性質と化学反応速度論	2		講義	2	
	熱力学と物理平衡	2		講義	2	
	医薬品分析化学	2		講義	1	
	機器分析学	1		講義	2	

臨床分析技術	2		講義	2
無機化学	1		講義	1
有機薬化学 1	2		講義	1
有機薬化学 2	2		講義	2
有機薬化学 3	2		講義	2
有機薬化学 4	1		講義	3
医薬品化学	1		講義	3
生薬・天然物化学 1	1		講義	1
生薬・天然物化学 2	2		講義	2
化学構造解析学	1		講義	2
生化学 1	2		講義	1
生化学 2	2		講義	2
生体情報化学	1		講義	2
免疫学	2		講義	2
分子生物学	2		講義	1
遺伝子工学	1		講義	2
微生物学	1		講義	2
薬品微生物学	1		講義	2
衛生化学	2		講義	2
公衆衛生学	2		講義	3
食品衛生学	2		講義	3
臨床微生物学	2		講義	3
環境毒性学	2		講義	3
環境衛生学	2		講義	4
解剖生理学 1	2		講義	2
解剖生理学 2	2		講義	2
薬理学 1	2		講義	2
薬理学 2	2		講義	3
薬理学 3	2		講義	3
薬理学 4	1		講義	4
薬物治療学 1	2		講義	3
薬物治療学 2	2		講義	3
薬物治療学 3	1		講義	4
生物薬剤学	2		講義	2
物理薬剤学	2		講義	3
薬物動態学	2		講義	3
薬物代謝学	2		講義	3
製剤学	2		講義	4
製剤機能論	1		講義	4
臨床薬学概論	2		講義	3
医療統計学	2		講義	3
医薬品情報学	2		講義	3
調剤学	2		講義	3
臨床コミュニケーション演習	1		演習	3
薬事関係法規	2		講義	4
新薬開発論	1		講義	4
薬剤師職能論	1		講義	4
漢方薬学	1		講義	4
処方解析学	2		講義	4
医療薬学演習	1		演習	4
基礎薬学実習 1 (分析系・生薬系)	1		実習	1
基礎薬学実習 2 (物理系・化学系)	2		実習	2
生命薬学実習 1 (生化学・免疫学)	2		実習	2
生命薬学実習 2 (衛生・微生物)	2		実習	3
医療薬学実習 (薬理・薬剤)	2		実習	3
実務実習事前学習	4		実習	4
薬学統合演習	2		実習	4
病院・薬局実務実習	20		実習	5
卒業特別研究	10		実習	4-6
臨床心理学		1	講義	2
看護学概論		1	講義	3
創薬化学		1	講義	3

応用生化学		1	講義	3
医療放射化学		1	講義	3
保健衛生学		1	講義	4
社会薬学		1	講義	4
臨床漢方薬学		1	講義	4
臨床動態学		1	講義	4
応用薬理学		1	講義	4
フィジカルアセスメント		1	講義	5
専門薬剤師概論		1	講義	5
薬学海外研修		2	実習	3
キャリア支援科目 (がん医療, 高度医療)		1	講義	2
キャリア支援科目 (危機管理 (災害医療))		1	講義	2
キャリア支援科目 (地域医療と薬局経営)		1	講義	2
キャリア支援科目 (心のケア)		1	実習	2
合 計	158	18		

別表 (13) 教職 (中・高)に関する科目 (人文科学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
教職に関する科目	教職論		2	講義	1	教職必修
	教育学概論		2	講義	1	教職必修
	教育心理学 (教育・学校心理学)		2	講義	2	教職必修
	学校制度論		2	講義	3	教職必修
	特別ニーズ教育総論		2	講義	2	教職必修
	教育課程論		2	講義	2	教職必修
	教科教育法 (国語) I		2	講義	2	教職必修 (表現文化学科)
	教科教育法 (国語) II		2	講義	3	教職必修 (表現文化学科)
	教科教育法 (国語) III		2	講義	3	教職必修 (表現文化学科中一種)
	教科教育法 (国語) IV		2	講義	3	教職必修 (表現文化学科中一種)
	教科教育法 (英語) I		2	講義	2	教職必修 (実践英語学科)
	教科教育法 (英語) II		2	講義	3	教職必修 (実践英語学科)
	教科教育法 (英語) III		2	講義	3	教職必修 (実践英語学科中一種)
	教科教育法 (英語) IV		2	講義	3	教職必修 (実践英語学科中一種)
	教科教育法 (社会・地理歴史) I		2	講義	2	教職必修 (総合歴史学科中一種 (社会)・高一種 (地理歴史))
	教科教育法 (社会・地理歴史) II		2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種 (社会)・高一種 (地理歴史))
	教科教育法 (社会・地理歴史) III		2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種 (社会))
	教科教育法 (社会・地理歴史) IV		2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種 (社会))
	教科教育法 (公民) I		2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科高一種 (公民))
	教科教育法 (公民) II		2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科高一種 (公民))
	道徳の指導法		2	講義	2	教職必修 (中一種)
	総合的な学習の時間の指導法		1	講義	3	教職必修
	特別活動の指導法		2	講義	3	教職必修
	教育方法論		2	講義	3	教職必修
	ICT活用の理論と方法		1	講義	2	教職必修
	生徒・進路指導論		2	講義	3	教職必修
	教育相談		2	講義	2	教職必修
	事前・事後指導		1	講義	3・4	教職必修
	教育実習 I		2	実習	4	教職必修
	教育実習 II		2	実習	4	教職必修 (中一種)
	教職実践演習 (中・高)		2	演習	4	教職必修
	計		59			

別表 (14) 特別支援学校教諭に関する科目 (教育学部教育学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
特別支援学校教諭	特別支援教育総論		2	講義	1	特別支援必修

に関する科目	特別支援教育の制度と歴史		2	講義	2	
	知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）		2	講義	1	特別支援必修
	知的障害児の生理・病理		1	講義	1	特別支援必修
	肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）		1	講義	1	特別支援必修
	肢体不自由児の生理・病理		1	講義	2	特別支援必修
	病弱児の心理		1	講義	3	特別支援必修
	病弱児の生理・病理		1	講義	2	特別支援必修
	知的障害児教育Ⅰ		2	講義	2	特別支援必修
	知的障害児教育Ⅱ		2	講義	2	特別支援必修
	肢体不自由児教育		2	講義	3	特別支援必修
	病弱児教育		2	講義	3	特別支援必修
	特別支援教育各論		2	講義	3	特別支援 2 単位選択必修
	障害児心理学各論		2	講義	3	
	発達障害の心理学		2	講義	2	特別支援必修
	発達障害児の生理・病理		1	講義	1	特別支援必修
	発達障害児教育		2	講義	3	特別支援必修
	重複障害児教育総論		2	講義	3	特別支援必修
	言語障害児教育総論		2	講義	2	
	視覚障害児教育総論		1	講義	3	特別支援必修
	聴覚障害児教育総論		1	講義	3	特別支援必修
	特別支援教育実習指導		1	実習	4	特別支援必修
	特別支援教育実習		2	実習	4	特別支援必修
	計		37			

別表（15） 博物館に関する科目（人文科学部・教育学部・心理学部各学科共通）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
博物館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	博物館必修
	博物館概論		2	講義	1	博物館必修
	博物館経営論		2	講義	2	博物館必修
	博物館資料論		2	講義	3	博物館必修
	博物館資料保存論		2	講義	4	博物館必修
	博物館展示論		2	講義	3	博物館必修
	博物館実習Ⅰ		1	実習	4	博物館必修
	博物館実習Ⅱ		1	実習	4	博物館必修
	博物館実習Ⅲ		1	実習	4	博物館必修
	博物館情報・メディア論		2	講義	2	博物館必修
	博物館教育論		2	講義	2	博物館必修
	日本文化論1		2	講義	1	8 単位博物館必修
	日本文化論2		2	講義	1	
	古文書学の基礎		2	講義	1	
	古文書解説		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	日本美術史		2	講義	1	
	西洋美術史		2	講義	1	
	東洋美術史		2	講義	1	
	考古学の基礎		2	講義	1	
	考古学の現在		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	計		41			

別表（16） 図書館に関する科目（人文科学部・教育学部・心理学部各学科共通）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
図書館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	図書館必修
	図書館概論		2	講義	1	図書館必修
	図書館制度・経営論		2	講義	3	図書館必修
	図書館情報技術論		2	講義	2	図書館必修
	図書館サービス概論		2	講義	1	図書館必修
	情報サービス論		2	講義	1	図書館必修
	児童サービス論		2	講義	2	図書館必修
	情報サービス演習Ⅰ		1	演習	2	図書館必修

情報サービス演習Ⅱ		1	演習	2	図書館必修
図書館情報資源概論		2	講義	1	図書館必修
情報資源組織論		2	講義	2	図書館必修
情報資源組織演習Ⅰ		1	演習	2	図書館必修
情報資源組織演習Ⅱ		1	演習	2	図書館必修
図書館基礎特論		1	講義	2	5科目中2科目 図書館必修
図書館サービス特論		1	講義	1	
図書館情報資源特論		1	講義	2	
図書・図書館史		1	講義	1	
図書館施設論		1	講義	1	
計		27			

別表（17） 司書教諭に関する科目（人文科学部・教育学部各学科共通）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館		2	講義	2	司書教諭必修
	学校図書館メディアの構成		2	講義	2	司書教諭必修
	学習指導と学校図書館		2	講義	2	司書教諭必修
	読書と豊かな人間性		2	講義	2	司書教諭必修
	情報メディアの活用		2	講義	2	司書教諭必修
	計		10			

別表（18） 社会教育に関する科目（人文科学部・教育学部・心理学部各学科共通）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	社会教育必修
	生涯学習概論Ⅱ		2	講義	1	社会教育必修
	生涯学習支援論Ⅰ		2	講義	2	社会教育必修
	生涯学習支援論Ⅱ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育経営論Ⅰ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育経営論Ⅱ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育実習		1	実習	3	社会教育必修
	社会教育演習Ⅰ		1	演習	3	3単位社会教育必修
	社会教育演習Ⅱ		1	演習	3	
	社会教育課題研究Ⅰ		1	演習	3	
	社会教育課題研究Ⅱ		1	演習	3	
	情報と社会		2	講義	1	社会教育必修
	共生社会と社会教育		2	講義	2	
	博物館概論		2	講義	1	
	図書館概論		2	講義	1	
	図書館情報技術論		2	講義	2	2単位選択必修
	博物館情報・メディア論		2	講義	2	
	教育学概論		2	講義	1	
	考古学の基礎		2	講義	1	
	考古学の現在		2	講義	1	社会教育必修
	死生観の歴史		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	環境と生命		2	講義	1	
	健康・スポーツと社会		2	講義	1	
	現代人とこころの障害		2	講義	1	
	社会福祉Ⅰ		2	講義	1	
	計		49			8単位選択必修

別表（19） 医療秘書に関する科目（人文科学部・教育学部・心理学部・経営学部各学科共通）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
医療秘書に関する科目	衛生学		2	講義	2	医療秘書必修
	患者論と医の倫理		2	講義	1	医療秘書必修
	人体の構造と機能1（人体の構造と機能及び疾病Ⅰ）		2	講義	1	医療秘書必修
	人体の構造と機能2		2	講義	1	医療秘書必修
	臨床検査と薬の知識		2	講義	1	医療秘書必修
	医療にかかわる用語		2	講義	1	医療秘書必修

コミュニケーション論		1	講義	1	医療秘書必修
医療秘書概論		2	講義	1	医療秘書必修
医療秘書実務Ⅰ		1	演習	1	医療秘書必修
医療秘書実務Ⅱ		1	演習	2	医療秘書必修
医療情報処理学		2	講義	1	医療秘書必修
医療情報処理Ⅰ		1	演習	1	医療秘書必修
医療情報処理Ⅱ		1	演習	1	医療秘書必修
医療関係法規概論		2	講義	2	医療秘書必修
実務研修		3	実習	2	医療秘書必修
実務演習Ⅰ		1	演習	1	医療秘書必修
実務演習Ⅱ		1	演習	1	医療秘書必修
実務演習Ⅲ		1	演習	1	医療秘書必修
計		29			

(2) 変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

令和 7 年 4 月、心理学部心理学科を設置するとともに、教育学部教育心理学科の学生募集を停止する。また、教育学部初等教育学科を教育学部教育学科への名称変更を行い、収容定員を増加する。以上に伴い、学則の一部を変更する。

(1) 新設する学部・学科

心理学部 心理学科 入学定員 100 人 収容定員 400 人

(2) 学生募集を停止する学部・学科

教育学部 教育心理学科 入学定員 62 人 収容定員 248 人

(3) 収容定員を変更する学部・学科

教育学部 初等教育学科 入学定員 75 人 3 年次編入学定員 5 人 収容定員 310 人

↓

教育学部 教育学科 入学定員 110 人 収容定員 440 人

(令和 7 年 4 月より教育学部初等教育学科から名称変更)

2. 変更点

(1) 第 3 条 (学部・学科及び収容定員)、第 3 条の 2 (学部・学科の人材育成及びその他教育研究上の目的)、第 4 条 (修業年限及び在学年限)、第 4 条の 2 (長期履修制度)、第 19 条 (卒業要件)、第 20 条 (教育職員免許状等) において、新設する学部の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。

(2) 第 21 条 (卒業)、第 22 条 (学位)、第 40 条 (学費の納付) について、新設する学部の記載を加える。

(3) 附則において施行日を明確にし、完成年度までの移行措置を追加する。

(4) 別表 (1) ～ (18) において、新設する学部の記載を加える。また、募集停止する学部・学科の記載を削る。また、新設する学部の記載を加えたことにより、別表 (19) を追加する。(別報番号の変更)

(5) 別表 (5) について、募集停止予定の学科 (教育心理学科) の記載を削除し教育学科のみの記載にしたため、単位数・備考欄の変更を行う。

(6) 第 11 条 (教職等に関する授業科目) において、別表の番号の修正を行う。

3. 変更の時期

令和 7 年 4 月 1 日

(3) 変更部分の新旧対照表

新（改正後）

（学部・学科及び収容定員）

第3条 本学に設置する学部、学科及びその収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
人文科学部	表現文化学科	80名	320名
	実践英語学科	75名	300名
	総合歴史学科	80名	320名
教育学部	教育学科	110名 削除	440名
	削除	削除	削除
心理学部	心理学科	100名	400名
経営学部	経営学科	160名	640名
薬学部	薬学科	100名	600名

（学部・学科の人材育成及びその他教育研究上の目的）

第3条の2 本学において、各学部・学科における人材の育成に関する目的及びその他教育研究上の目的は次のとおりとする。

学 部	学 科	目 的
教育学部	教育学科	子供たちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができるようにするために、保育・教育者としての優れた実践的指導力と自らの成長を創り出す力を備えた、共生社会の形成に貢献できる人材を育成する。
	(削除)	(削除)
心理学部	心理学科	人の心と行動、心身の健康状態を多角的な視点から理解し、立場の異なる人との対話を通して、支えケアすること及び、主体的・協働的に課題を解決することに心理学の専門知識や技能を活用できる人材を育成することを目的とし、社会及び個人の幸福の実現に貢献する。

（修業年限及び在学年限）

第4条 本学の修業年限は、人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部においては4年、薬学部においては6年とする。

2 学生は人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部においては8年、薬学部においては12年を超えて在学することができない。ただし、編入学、再入学した学生は、その学生が在

旧（現行）

（学部・学科及び収容定員）

第3条 本学に設置する学部、学科及びその収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
人文科学部	表現文化学科	80名	320名
	実践英語学科	75名	300名
	総合歴史学科	80名	320名
教育学部	初等教育学科	75名 3年次編入5名	310名
	教育心理学科	62名	248名
経営学部	経営学科	160名	640名
薬学部	薬学科	100名	600名

（学部・学科の人材育成及びその他教育研究上の目的）

第3条の2 本学において、各学部・学科における人材の育成に関する目的及びその他教育研究上の目的は次のとおりとする。

学 部	学 科	目 的
教育学部		現代における教育の諸問題の解決と健全な社会の発展に寄与できる専門性と実践力を備えた保育者・教育者・心理師（士）・職業人を育成する。そのため、人の多様性を踏まえた教育実践、人の心と行動、心身の健康に関する専門的知識・技能を教授するとともに誠実で豊かな人間性を育てる。
	初等教育学科	子供一人一人の多様な個性を尊重し、人格形成期にある子供の自立・協働・創造の力を育成するために必要な保育・教育の専門的な知識やスキル及び豊かな人間性を備えた、共生社会に貢献できる人材を育成する。
	教育心理学科	人の心と行動、心身の健康状態を多角的な視点から理解し、支えケアすること及び、個人や集団の強みを活かすことに専門性と実践力を発揮できる心理師(士)・教育者・職業人を育成する。そのため、心理学・養護に関する専門知識・技能を教授するとともに、共創する力を育てる。
(新規)		

（修業年限及び在学年限）

第4条 本学の修業年限は、人文科学部、教育学部及び経営学部においては4年、薬学部においては6年とする。

2 学生は人文科学部、教育学部及び経営学部においては8年、薬学部においては12年を超えて在学することができない。ただし、編入学、再入学した学生は、その学生が在学すべき年

学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

(長期履修制度)

第4条の2 前条の規定にかかわらず、本学人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部において、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する者があるときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、本学の教育に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

(授業科目)

第10条 本学において開設する総合教養教育科目、外国語教育科目及び専門教育科目に関する授業科目とその単位数は別表(1)から(12)のとおりとする。

(教職等に関する授業科目)

第11条 前条に定めるもののほか、教育職員免許状を取得する者のため、教職に関する科目及び特別支援学校教諭に関する科目を置く。教職に関する授業科目とその単位数は別表(13)のとおりとし、特別支援学校教諭に関する科目とその単位数は別表(14)のとおりとする。

2 学芸員の資格を取得する者のため、博物館に関する科目を置く。博物館に関する授業科目とその単位数は別表(15)のとおりとする。

3 司書の資格を取得する者のため、図書館に関する科目を置く。図書館に関する授業科目とその単位数は別表(16)のとおりとする。

4 司書教諭の資格を取得する者のため、司書教諭に関する科目を置く。司書教諭に関する授業科目とその単位数は別表(17)のとおりとする。

5 社会教育主事の資格を取得する者のため、社会教育に関する科目を置く。社会教育に関する授業科目とその単位数は別表(18)のとおりとする。

6 医療秘書士の申請資格を取得する者のため、医療秘書に関する科目を置く。医療秘書に関する授業科目とその単位数は別表(19)のとおりとする。

7 公認心理師の受験資格を取得しようとする者のため、大学において公認心理師となるために必要な科目を置く。大学において公認心理師となるために必要な授業科目とその単位数は別表(8)のとおりとする。

第19条 本学を卒業するためには、人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、次に定める単位を含め、人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部は124単位以上、薬学部は186単位以上を修得しなければならない。

学部	学科	総合教養 教育科目	外国語 教育科目	専門教育 科目
教育 学部	教育学科	20	6	62
	(削除)			

数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

(長期履修制度)

第4条の2 前条の規定にかかわらず、本学人文科学部、教育学部及び経営学部において、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する者があるときは、教授会において相当の資格があると認めた者につき、本学の教育に支障がない場合に限り、学長が許可することができる。

(授業科目)

第10条 本学において開設する総合教養教育科目、外国語教育科目及び専門教育科目に関する授業科目とその単位数は別表(1)から(11)のとおりとする。

(教職等に関する授業科目)

第11条 前条に定めるもののほか、教育職員免許状を取得する者のため、教職に関する科目及び特別支援学校教諭に関する科目を置く。教職に関する授業科目とその単位数は別表(12)のとおりとし、特別支援学校教諭に関する科目とその単位数は別表(13)のとおりとする。

2 学芸員の資格を取得する者のため、博物館に関する科目を置く。博物館に関する授業科目とその単位数は別表(14)のとおりとする。

3 司書の資格を取得する者のため、図書館に関する科目を置く。図書館に関する授業科目とその単位数は別表(15)のとおりとする。

4 司書教諭の資格を取得する者のため、司書教諭に関する科目を置く。司書教諭に関する授業科目とその単位数は別表(16)のとおりとする。

5 社会教育主事の資格を取得する者のため、社会教育に関する科目を置く。社会教育に関する授業科目とその単位数は別表(17)のとおりとする。

6 医療秘書士の申請資格を取得する者のため、医療秘書に関する科目を置く。医療秘書に関する授業科目とその単位数は別表(18)のとおりとする。

7 公認心理師の受験資格を取得しようとする者のため、大学において公認心理師となるために必要な科目を置く。大学において公認心理師となるために必要な授業科目とその単位数は別表(7)のとおりとする。

第19条 本学を卒業するためには、人文科学部、教育学部及び経営学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、次に定める単位を含め、人文科学部、教育学部及び経営学部は124単位以上、薬学部は186単位以上を修得しなければならない。

学部	学科	総合教養 教育科目	外国語 教育科目	専門教育 科目
教育 学部	初等教育 学科	20	6	62
	教育心理 学科	20	6	62

学部	学科	総合教養 教育科目	外国語 教育科目	専門教育 科目
心理 学部	心理学科	20	6	62

(教育職員免許状等)

第20条 教育職員免許状を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
人文 科学 部	表現文 化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語 国語
	実践英 語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（英語） 外国語（英語）
	総合歴 史学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史 公民
	教育 学科	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状	
(削除)			
心理 学部	心理 学科	養護教諭一種免許状	

7 教育学部教育学科において保育士の資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに児童福祉法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

8 教育学部及び心理学部において認定心理士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに社団法人日本心理学会認定心理士認定資格細則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

9 人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部において医療秘書士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに公益社団法人日本医師会が定める授業科目の単位を修得しなければならない。

10 心理学部心理学科において公認心理師の受験資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに公認心理師施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

11 心理学部心理学科において准学校心理士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに一般社団法人学校心理士認定運営機構が定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(卒業)

第21条 本学において人文科学部、教育学部、心理学部及び経営学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、第19条に定める

学部	学科	総合教養 教育科目	外国語 教育科目	専門教育 科目
(新規)				

(教育職員免許状等)

第20条 教育職員免許状を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに教育職員免許法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
人文 科学 部	表現文 化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語 国語
	実践英 語学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（英語） 外国語（英語）
	総合歴 史学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社会 地理歴史 公民
	初等教 育学科	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 特別支援学校教諭一種免許状	
教育 学部	教育心 理学科	養護教諭一種免許状	
	(新規)		

7 教育学部初等教育学科において保育士の資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに児童福祉法及び同法施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

8 教育学部において認定心理士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに社団法人日本心理学会認定心理士認定資格細則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

9 人文科学部、教育学部及び経営学部において医療秘書士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに公益社団法人日本医師会が定める授業科目の単位を修得しなければならない。

10 教育学部教育心理学科において公認心理師の受験資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに公認心理師施行規則に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

11 教育学部教育心理学科において准学校心理士の申請資格を取得しようとする者は、前条各号に定めるもののほかに一般社団法人学校心理士認定運営機構が定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(卒業)

第21条 本学において人文科学部、教育学部及び経営学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、第19条に定める授業科

授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。

目及び単位数を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。

(学位)

第22条 人文科学部を卒業した者に学士（人文科学）、教育学部を卒業した者には学士（教育学）、心理学部を卒業した者には学士（心理学）、経営学部を卒業した者には学士（経営学）、薬学部を卒業した者には学士（薬学）の学位を授与する。

(学位)

第22条 人文科学部を卒業した者に学士（人文科学）、教育学部を卒業した者には学士（教育学）、経営学部を卒業した者には学士（経営学）、薬学部を卒業した者には学士（薬学）の学位を授与する。

(学費の納付)

第40条 学費は、前学期・後学期の2期に分けて納付しなければならない。ただし、長期履修学生の学費については別に定める。

2 学費の年額は下表のとおりとする。

令和2年度以降入学生 (単位：円)

(学費の納付)

第40条 学費は、前学期・後学期の2期に分けて納付しなければならない。ただし、長期履修学生の学費については別に定める。

2 学費の年額は下表のとおりとする。

令和2年度以降入学生 (単位：円)

項目 学部	授業料	教育充実費	学費 合計
人文科学部	920,000	—	920,000
教育学部 心理学部 経営学部	950,000	—	950,000
薬学部	1,530,000	450,000	1,980,000

項目 学部	授業料	教育充実費	学費 合計
人文科学部	920,000	—	920,000
教育学部 (新規) 経営学部	950,000	—	950,000
薬学部	1,530,000	450,000	1,980,000

新（改正案）

附 則

1 この改正学則は、令和7年4月1日から施行し、令和7年度入学生から適用する。

2 本学教育学部初等教育学科および教育心理学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、令和10年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 令和7年度から令和10年度において、入学定員及び収容定員は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

		令和7年度		令和8年度		令和9年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
教育学部	初等教育学科	3年次編入5名	235	3年次編入5名	160名	—	80名
	教育心理学科	—	186名	—	124名	—	62名
	教育学科	110名	110名	110名	220名	110名	330名
心理学部	心理学科	100名	100名	100名	200名	100名	300名

		令和10年度	
学部	学科	入学定員	収容定員
教育学部	初等教育学科	—	—
	教育心理学科	—	—
	教育学科	110名	440名
心理学部	心理学科	100名	400名

旧（現行）

（追加）

新（改正後）						旧（現行）								
別表（５）総合教養教育科目・外国語教育科目（教育学部 教育学科・削除 ）						別表（５）総合教養教育科目・外国語教育科目（教育学部 初等教育学科・教育心理学科 ）								
授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考	授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考	
		必修	選択						必修	選択				
総合教養教育科目	スタートアップ就業		2	講義	1	認定心理士必修 認定心理士必修	総合教養教育科目	スタートアップ就業		2	講義	1	認定心理士必修 認定心理士必修	
	数値・データサイエンス基礎	1		講義	1			数値・データサイエンス基礎	1		講義	1		
	情報リテラシー	1		講義	1			情報リテラシー	1		講義	1		
	自然地理学		2	講義	1			自然地理学		2	講義	1		
	人類学の世界と歴史		2	講義	1			人類学の世界と歴史		2	講義	1		
	アジアの民族誌		2	講義	1			アジアの民族誌		2	講義	1		
	心理学1		2	講義	1			心理学1		2	講義	1		
	心理学2		2	講義	1			心理学2		2	講義	1		
	現代の哲学と思想		2	講義	1			現代の哲学と思想		2	講義	1		
	現代の倫理		2	講義	1			現代の倫理		2	講義	1		
	日本文化論1		2	講義	1	削除、必修へ移動		日本文化論1		2	講義	1	初等教育学科必修・教育心理必修	
	日本文化論2		2	講義	1			日本文化論2		2	講義	1		
	女性の生活と歴史		2	講義	1			女性の生活と歴史		2	講義	1		
	現代の女性環境		2	講義	1			現代の女性環境		2	講義	1		
	演詩文の表現と心		2	講義	1			演詩文の表現と心		2	講義	1		
	演詩文の表現と思想		2	講義	1			演詩文の表現と思想		2	講義	1		
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1			ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1		
	世界の文学		2	講義	1			世界の文学		2	講義	1		
	20世紀史		2	講義	1			20世紀史		2	講義	1		
	ことばの科学		2	講義	1			ことばの科学		2	講義	1		
	キャリアデザイン論		2	講義	1	選択必修2単位		キャリアデザイン論		2	講義	1	選択必修2単位	
	人権の現代的課題	2		講義	1			人権の現代的課題	2		講義	1		
	法学		2	講義	1			法学		2	講義	1		
	日本国憲法	2		講義	1			日本国憲法		2	講義	1		
	社会学の世界と歴史		2	講義	1			社会学の世界と歴史		2	講義	1		
	社会学概論		2	講義	1			社会学概論		2	講義	1		
	基礎経営論		2	講義	1			基礎経営論		2	講義	1		
	基礎経済学		2	講義	1			基礎経済学		2	講義	1		
	経済学概論		2	講義	1			経済学概論		2	講義	1		
	労働と社会		2	講義	1			労働と社会		2	講義	1		
	政治学概論		2	講義	1	選択必修1単位		政治学概論		2	講義	1	選択必修1単位	
	現代教育の諸問題		2	講義	1			現代教育の諸問題		2	講義	1		
	健康と衛生		2	講義	1			健康と衛生		2	講義	1		
	健康と栄養		2	講義	1			健康と栄養		2	講義	1		
	環境と地球		2	講義	1			環境と地球		2	講義	1		
	環境と生命		2	講義	1			環境と生命		2	講義	1		
	化学の世界と歴史		2	講義	1			化学の世界と歴史		2	講義	1		
	現代生活と化学		2	講義	1			現代生活と化学		2	講義	1		
	からだの構造と機能		2	講義	1			からだの構造と機能		2	講義	1		
	からだの化学と生物学		2	講義	1			からだの化学と生物学		2	講義	1		
	生命機能のプログラム		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用		生命機能のプログラム		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用	
	地球と宇宙のサイエンス		2	講義	1			地球と宇宙のサイエンス		2	講義	1		
	日本伝統の折紙の科学		2	講義	1			日本伝統の折紙の科学		2	講義	1		
	身体運動と健康の科学		2	講義	1			身体運動と健康の科学		2	講義	1		
	健康・スポーツと社会		2	講義	1			健康・スポーツと社会		2	講義	1		
	スポーツ1		1	演習	1			スポーツ1		1	演習	1		
	スポーツ2		1	演習	1			スポーツ2		1	演習	1		
	スポーツ3		1	演習	1			スポーツ3		1	演習	1		
	スポーツ4		1	演習	1			スポーツ4		1	演習	1		
	こころの健康科学		2	講義	1			こころの健康科学		2	講義	1		
	現代人とこころの障害		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用		現代人とこころの障害		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用	
	情報と社会		2	講義	1			情報と社会		2	講義	1		
	情報と表現		2	講義	1			情報と表現		2	講義	1		
	情報と文化		2	講義	1			情報と文化		2	講義	1		
	情報処理基礎演習		2	講義	1			情報処理基礎演習		2	講義	1		
	プログラミング基礎		2	講義	1			プログラミング基礎		2	講義	1		
	プログラミング演習		2	講義	1			プログラミング演習		2	講義	1		
	データ処理演習		2	講義	1			データ処理演習		2	講義	1		
	A1基礎		2	講義	1			A1基礎		2	講義	1		
	データエンジニアリング基礎		2	講義	1			データエンジニアリング基礎		2	講義	1		
データサイエンス		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用		データサイエンス		2	講義	1	外国人留学生・ 帰国子女適用		
アジアの世界と文化		2	講義	1			アジアの世界と文化		2	講義	1			
欧米の世界と文化		2	講義	1			欧米の世界と文化		2	講義	1			
コラボレーション学修1		2	講義	1			コラボレーション学修1		2	講義	1			
仕事に役立つ数学		2	講義	1			仕事に役立つ数学		2	講義	1			
茶道1		1	演習	1			茶道1		1	演習	1			
茶道2		1	演習	1			茶道2		1	演習	1			
書道1		1	演習	1			書道1		1	演習	1			
書道2		1	演習	1			書道2		1	演習	1			
インターンシップ・キャリア実習1		1	実習	2			インターンシップ・キャリア実習1		1	実習	2			
インターンシップ・キャリア実習2		1	実習	2	インターンシップ・キャリア実習2		1	実習	2					
漢字検定1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用		漢字検定1		1	演習	1	外国人留学生・ 帰国子女適用		
漢字検定2		1	演習	1			漢字検定2		1	演習	1			
異文化コミュニケーション1		2	講義	1			異文化コミュニケーション1		2	講義	1			
異文化コミュニケーション2		2	講義	1			異文化コミュニケーション2		2	講義	1			
異文化コミュニケーション3		2	講義	1			異文化コミュニケーション3		2	講義	1			
異文化コミュニケーション4		2	講義	1			異文化コミュニケーション4		2	講義	1			
日本事情1		2	講義	1			日本事情1		2	講義	1			
日本事情2		2	講義	1			日本事情2		2	講義	1			
日本事情3		2	講義	1			日本事情3		2	講義	1			
日本事情4		2	講義	1			日本事情4		2	講義	1			
計		6	142			計		4	144					
外国語教育科目	English Reading 1		1	演習	1	外国語教育科目	English Reading 1		1	演習	1			
	English Reading 2		1	演習	1		English Reading 2		1	演習	1			
	English Reading 3		1	演習	2		English Reading 3		1	演習	2			
	English Reading 4		1	演習	2		English Reading 4		1	演習	2			
	General English 1		1	演習	1		General English 1		1	演習	1			
	General English 2		1	演習	1		General English 2		1	演習	1			
	General English 3		1	演習	1		General English 3		1	演習	1			
	General English 4		1	演習	1		General English 4		1	演習	1			
	検定外国語 1		2	演習	1		検定外国語 1		2	演習	1			
	検定外国語 2		2	演習	1		検定外国語 2		2	演習	1			
	検定外国語 3		2	演習	1		検定外国語 3		2	演習	1			
	検定外国語 4		2	演習	1		検定外国語 4		2	演習	1			
	ドイツ語初級 1		1	演習	1		ドイツ語初級 1		1	演習	1			
	ドイツ語初級 2		1	演習	1		ドイツ語初級 2		1	演習	1			
	ドイツ語初級 3		1	演習	1		ドイツ語初級 3		1	演習	1			
	ドイツ語初級 4		1	演習	1		ドイツ語初級 4		1	演習	1			
	ドイツ語中級 1		1	演習	2		ドイツ語中級 1		1	演習	2			
	ドイツ語中級 2		1	演習	2		ドイツ語中級 2		1	演習	2			
	ドイツ語中級 3		1	演習	2		ドイツ語中級 3		1	演習	2			
	ドイツ語中級 4		1	演習	2		ドイツ語中級 4		1	演習	2			
	フランス語初級 1		1	演習	1		フランス語初級 1		1	演習	1			
	フランス語初級 2		1	演習	1		フランス語初級 2		1	演習	1			
	フランス語初級 3		1	演習	1		フランス語初級 3		1	演習	1			
	フランス語初級 4		1	演習	1		フランス語初級 4		1	演習	1			
	フランス語中級 1		1	演習	2		フランス語中級 1		1	演習	2			

	フランス語中級 2		1	演習	2	
	フランス語中級 3		1	演習	2	
	フランス語中級 4		1	演習	2	
	中国語初級 1		1	演習	1	
	中国語初級 2		1	演習	1	
	中国語初級 3		1	演習	1	
	中国語初級 4		1	演習	1	
	中国語中級 1		1	演習	2	
	中国語中級 2		1	演習	2	
	中国語中級 3		1	演習	2	
	中国語中級 4		1	演習	2	
	ハングル初級 1		1	演習	1	
	ハングル初級 2		1	演習	1	
	ハングル初級 3		1	演習	1	
	ハングル初級 4		1	演習	1	
	ハングル中級 1		1	演習	2	
	ハングル中級 2		1	演習	2	
	ハングル中級 3		1	演習	2	
	ハングル中級 4		1	演習	2	
	日本語 1		1	演習	1	
	日本語 2		1	演習	1	
	日本語 3		1	演習	1	
	日本語 4		1	演習	1	
	計	4	48			
	合 計	10	190			

外国人留学生・
帰国子女適用

	フランス語中級 2		1	演習	2	
	フランス語中級 3		1	演習	2	
	フランス語中級 4		1	演習	2	
	中国語初級 1		1	演習	1	
	中国語初級 2		1	演習	1	
	中国語初級 3		1	演習	1	
	中国語初級 4		1	演習	1	
	中国語中級 1		1	演習	2	
	中国語中級 2		1	演習	2	
	中国語中級 3		1	演習	2	
	中国語中級 4		1	演習	2	
	ハングル初級 1		1	演習	1	
	ハングル初級 2		1	演習	1	
	ハングル初級 3		1	演習	1	
	ハングル初級 4		1	演習	1	
	ハングル中級 1		1	演習	2	
	ハングル中級 2		1	演習	2	
	ハングル中級 3		1	演習	2	
	ハングル中級 4		1	演習	2	
	日本語 1		1	演習	1	
	日本語 2		1	演習	1	
	日本語 3		1	演習	1	
	日本語 4		1	演習	1	
	計	4	48			
	合 計	8	192			

外国人留学生・
帰国子女適用

別表（6） 専門教育科目(教育学部**教育学科**)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
専門教育科目	削 除				
	教職論	2	講義	1	
	教育学概論	2	講義	1	
	教育心理学	2	講義	1	
	学習・言語心理学	2	講義	2	
	学校制度論	2	講義	3	小・幼必修
	特別ニーズ教育総論	2	講義	2	小必修
	子ども家庭支援の心理学	2	講義	3	保必修
	保育者論	2	講義	3	保必修
	保育原理Ⅰ	2	講義	1	保必修
	保育原理Ⅱ	2	講義	3	
	社会的養護Ⅰ	2	講義	2	保必修
	社会的養護Ⅱ	1	演習	2	保必修
	社会福祉Ⅰ	2	講義	1	保必修
	社会福祉Ⅱ	2	講義	3	
	子ども家庭福祉Ⅰ	2	講義	1	保必修
	子ども家庭福祉Ⅱ	2	講義	3	
	発達心理学	2	講義	2	
	臨床心理学概論	2	講義	2	
	子どもの保健	2	講義	1	保必修
	子どもの健康と安全	1	演習	2	保必修
	子どもの食と栄養Ⅰ	1	演習	2	保必修
	子どもの食と栄養Ⅱ	1	演習	2	保必修
	子ども家庭支援論	2	講義	3	保必修
	小学校教育課程論	2	講義	2	小必修
	幼稚園教育課程論	2	講義	2	幼・保必修
	保育内容総論	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の健康	2	演習	1	幼・保必修
	幼児の人間関係	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の環境	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の言葉	2	演習	1	幼・保必修
	幼児の表現	2	演習	1	幼・保必修
	幼児の健康の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の人間関係の指導法	2	演習	3	幼・保必修
	幼児の環境の指導法	2	演習	3	幼・保必修
	幼児の言葉の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の音楽表現の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の造形表現の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	乳児保育Ⅰ	2	講義	1	保必修
	乳児保育Ⅱ	1	演習	2	保必修
	乳児保育Ⅲ	2	講義	3	
	特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ	1	演習	1	幼・保必修
	特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ	1	演習	2	幼・保必修
	子育て支援	1	演習	3	保必修
	児童文化	2	講義	3	幼必修
	国語科教育法Ⅰ	2	講義	2	小必修
	国語科教育法Ⅱ	2	講義	4	
	算数科教育法Ⅰ	2	講義	2	小必修
	算数科教育法Ⅱ	2	講義	3	
	社会科教育法	2	講義	3	小必修
	理科教育法	2	講義	3	小必修
	生活科教育法	2	講義	2	小必修
	家庭科教育法	2	講義	3	小必修
	外国語教育法	2	講義	3	小必修
	音楽科教育法	2	講義	2	小必修
	図画工作科教育法	2	講義	3	小必修
	体育科教育法	2	講義	2	小必修
	道徳の指導法	2	講義	2	小必修
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	講義	3	小必修
	教育方法論	2	講義	3	小・幼必修
	ICT活用の理論と方法	1	講義	2	小必修
	幼児理解とカウンセリング	2	演習	2	幼・保必修
	教育相談	2	講義	3	小必修
	生徒・進路指導論	2	講義	2	小必修
	国語Ⅰ	2	講義	1	小必修
	国語Ⅱ	2	講義	1	
	算数Ⅰ	2	講義	2	小必修
	算数Ⅱ	2	講義	2	
	社会Ⅰ	2	講義	2	小必修
	社会Ⅱ	2	講義	3	
	理科Ⅰ	2	講義	2	小必修
	理科Ⅱ	2	講義	3	
	家庭	2	講義	1	小必修
	生活	2	講義	1	小必修
	児童英語Ⅰ	2	講義	2	小必修
	児童英語Ⅱ	2	講義	2	
	音楽	2	演習	1	小必修
	幼小連携教育演習1（音楽）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習2（音楽）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習3（造形・図工）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習4（造形・図工）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習5（運動・体育）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習6（運動・体育）	1	演習	3	

別表（6） 専門教育科目(教育学部**初等教育学科**)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
専門教育科目	教育の歴史	2	講義	2	
	教職論	2	講義	1	
	教育学概論	2	講義	1	
	教育心理学	2	講義	1	
	学習・言語心理学	2	講義	2	
	学校制度論	2	講義	3	小・幼必修
	特別ニーズ教育総論	2	講義	2	小必修
	子ども家庭支援の心理学	2	講義	3	保必修
	保育者論	2	講義	3	保必修
	保育原理Ⅰ	2	講義	1	保必修
	保育原理Ⅱ	2	講義	3	
	社会的養護Ⅰ	2	講義	2	保必修
	社会的養護Ⅱ	1	演習	2	保必修
	社会福祉Ⅰ	2	講義	1	保必修
	社会福祉Ⅱ	2	講義	3	
	子ども家庭福祉Ⅰ	2	講義	1	保必修
	子ども家庭福祉Ⅱ	2	講義	3	
	発達心理学	2	講義	2	
	臨床心理学概論	2	講義	2	
	子どもの保健	2	講義	1	保必修
	子どもの健康と安全	1	演習	2	保必修
	子どもの食と栄養Ⅰ	1	演習	2	保必修
	子どもの食と栄養Ⅱ	1	演習	2	保必修
	子ども家庭支援論	2	講義	3	保必修
	小学校教育課程論	2	講義	2	小必修
	幼稚園教育課程論	2	講義	2	幼・保必修
	保育内容総論	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の健康	2	演習	1	幼・保必修
	幼児の人間関係	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の環境	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の言葉	2	演習	1	幼・保必修
	幼児の表現	2	演習	1	幼・保必修
	幼児の健康の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の人間関係の指導法	2	演習	3	幼・保必修
	幼児の環境の指導法	2	演習	3	幼・保必修
	幼児の言葉の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の音楽表現の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	幼児の造形表現の指導法	2	演習	2	幼・保必修
	乳児保育Ⅰ	2	講義	1	保必修
	乳児保育Ⅱ	1	演習	2	保必修
	乳児保育Ⅲ	2	講義	3	
	特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ	1	演習	1	幼・保必修
	特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ	1	演習	2	幼・保必修
	子育て支援	1	演習	3	保必修
	児童文化	2	講義	3	幼必修
	国語科教育法Ⅰ	2	講義	2	小必修
	国語科教育法Ⅱ	2	講義	4	
	算数科教育法Ⅰ	2	講義	2	小必修
	算数科教育法Ⅱ	2	講義	3	
	社会科教育法	2	講義	3	小必修
	理科教育法	2	講義	3	小必修
	生活科教育法	2	講義	2	小必修
	家庭科教育法	2	講義	3	小必修
	外国語教育法	2	講義	3	小必修
	音楽科教育法	2	講義	2	小必修
	図画工作科教育法	2	講義	3	小必修
	体育科教育法	2	講義	2	小必修
	道徳の指導法	2	講義	2	小必修
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	講義	3	小必修
	教育方法論	2	講義	3	小・幼必修
	ICT活用の理論と方法	1	講義	2	小必修
	幼児理解とカウンセリング	2	演習	2	幼・保必修
	教育相談	2	講義	3	小必修
	生徒・進路指導論	2	講義	2	小必修
	国語Ⅰ	2	講義	1	小必修
	国語Ⅱ	2	講義	1	
	算数Ⅰ	2	講義	2	小必修
	算数Ⅱ	2	講義	2	
	社会Ⅰ	2	講義	2	小必修
	社会Ⅱ	2	講義	3	
	理科Ⅰ	2	講義	2	小必修
	理科Ⅱ	2	講義	3	
	家庭	2	講義	1	小必修
	生活	2	講義	1	小必修
	児童英語Ⅰ	2	講義	2	小必修
	児童英語Ⅱ	2	講義	2	
	音楽	2	演習	1	小必修
	幼小連携教育演習1（音楽）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習2（音楽）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習3（造形・図工）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習4（造形・図工）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習5（運動・体育）	1	演習	3	
	幼小連携教育演習6（運動・体育）	1	演習	3	

ピアノ基礎演習		1	演習	1	
ピアノ実践演習		1	演習	3	小・幼・保必修
図画工作Ⅰ		2	演習	1	小必修
図画工作Ⅱ		2	演習	1	
体育実技		1	演習	1	小必修
体育		2	演習	2	小必修
小学校教育実習		4	実習	3	小必修
小学校教育実習指導Ⅰ		1	実習	3	小必修
小学校教育実習指導Ⅱ		1	実習	3	小必修
介護等体験		1	実習	3	小必修
幼稚園教育実習Ⅰ		1	実習	2	幼必修
幼稚園教育実習Ⅱ		3	実習	3	幼必修
幼稚園教育実習指導Ⅰ		1	実習	3	幼必修
幼稚園教育実習指導Ⅱ		1	実習	3	幼必修
保育実習Ⅰ（保育所）		2	実習	2	保必修
保育実習Ⅰ（施設）		2	実習	2	保必修
保育実習Ⅱ（保育所）		2	実習	3	保は2単位選択必修
保育実習Ⅲ（施設）		2	実習	3	
保育実習指導Ⅰ（事前）		1	演習	2	保必修
保育実習指導Ⅰ（事後）		1	演習	2	保必修
保育実習指導Ⅱ		1	演習	3	保は1単位選択必修
保育実習指導Ⅲ		1	演習	3	
保幼小児現場体験		1	実習	1	
特別支援学校現場体験		1	実習	2	
教育・福祉インターンシップ		1	実習	4	
特別支援教育総論		2	講義	1	特支必修
特別支援教育の制度と歴史		2	講義	2	
知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）		2	講義	1	特支必修
知的障害児の生理・病理		1	講義	1	特支必修
肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）		1	講義	1	特支必修
肢体不自由児の生理・病理		1	講義	2	特支必修
病弱児の心理		1	講義	3	特支必修
病弱児の生理・病理		1	講義	2	特支必修
障害児心理学各論		2	講義	3	特支選択必修
知的障害児教育Ⅰ		2	講義	2	特支必修
知的障害児教育Ⅱ		2	講義	2	特支必修
肢体不自由児教育		2	講義	3	特支必修
病弱児教育		2	講義	3	特支必修
特別支援教育各論		2	講義	3	特支選択必修
発達障害の心理学		2	講義	2	特支必修
発達障害児の生理・病理		1	講義	1	特支必修
視覚障害児教育総論		1	講義	3	特支必修
聴覚障害児教育総論		1	講義	3	特支必修
発達障害児教育		2	講義	3	特支必修
重複障害児教育総論		2	講義	3	特支必修
言語障害児教育総論		2	講義	2	
特別支援教育実習指導		1	実習	4	特支必修
特別支援教育実習		2	実習	4	特支必修
初年次教育Ⅰ		1	演習	1	
初年次教育Ⅱ		1	演習	1	
教職研究Ⅰ		1	演習	3	
教職研究Ⅱ		1	演習	4	
保育・教職実践演習（幼・小）		2	演習	4	小・幼・保必修
初等教育ゼミナールⅠ		2	演習	3	
初等教育ゼミナールⅡ		2	演習	3	
初等教育ゼミナールⅢ		2	演習	4	
初等教育ゼミナールⅣ		2	演習	4	
卒業研究		6	演習	4	
合 計		24	219		

※「特別ニーズ教育総論」「特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ」「特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ」の3科目の中から2単位以上選択必修

ピアノ基礎演習		1	演習	1	
ピアノ実践演習		1	演習	3	小・幼・保必修
図画工作Ⅰ		2	演習	1	小必修
図画工作Ⅱ		2	演習	1	
体育実技		1	演習	1	小必修
体育		2	演習	2	小必修
小学校教育実習		4	実習	3	小必修
小学校教育実習指導Ⅰ		1	実習	3	小必修
小学校教育実習指導Ⅱ		1	実習	3	小必修
介護等体験		1	実習	3	小必修
幼稚園教育実習Ⅰ		1	実習	2	幼必修
幼稚園教育実習Ⅱ		3	実習	3	幼必修
幼稚園教育実習指導Ⅰ		1	実習	3	幼必修
幼稚園教育実習指導Ⅱ		1	実習	3	幼必修
保育実習Ⅰ（保育所）		2	実習	2	保必修
保育実習Ⅰ（施設）		2	実習	2	保必修
保育実習Ⅱ（保育所）		2	実習	3	保は2単位選択必修
保育実習Ⅲ（施設）		2	実習	3	
保育実習指導Ⅰ（事前）		1	演習	2	保必修
保育実習指導Ⅰ（事後）		1	演習	2	保必修
保育実習指導Ⅱ		1	演習	3	保は1単位選択必修
保育実習指導Ⅲ		1	演習	3	
保幼小児現場体験		1	実習	1	
特別支援学校現場体験		1	実習	2	
教育・福祉インターンシップ		1	実習	4	
特別支援教育総論		2	講義	1	特支必修
特別支援教育の制度と歴史		2	講義	2	
知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）		2	講義	1	特支必修
知的障害児の生理・病理		1	講義	1	特支必修
肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）		1	講義	1	特支必修
肢体不自由児の生理・病理		1	講義	2	特支必修
病弱児の心理		1	講義	3	特支必修
病弱児の生理・病理		1	講義	2	特支必修
障害児心理学各論		2	講義	3	特支選択必修
知的障害児教育Ⅰ		2	講義	2	特支必修
知的障害児教育Ⅱ		2	講義	2	特支必修
肢体不自由児教育		2	講義	3	特支必修
病弱児教育		2	講義	3	特支必修
特別支援教育各論		2	講義	3	特支選択必修
発達障害の心理学		2	講義	2	特支必修
発達障害児の生理・病理		1	講義	1	特支必修
視覚障害児教育総論		1	講義	3	特支必修
聴覚障害児教育総論		1	講義	3	特支必修
発達障害児教育		2	講義	3	特支必修
重複障害児教育総論		2	講義	3	特支必修
言語障害児教育総論		2	講義	2	
特別支援教育実習指導		1	実習	4	特支必修
特別支援教育実習		2	実習	4	特支必修
初年次教育Ⅰ		1	演習	1	
初年次教育Ⅱ		1	演習	1	
教職研究Ⅰ		1	演習	3	
教職研究Ⅱ		1	演習	4	
保育・教職実践演習（幼・小）		2	演習	4	小・幼・保必修
初等教育ゼミナールⅠ		2	演習	3	
初等教育ゼミナールⅡ		2	演習	3	
初等教育ゼミナールⅢ		2	演習	4	
初等教育ゼミナールⅣ		2	演習	4	
卒業研究		6	演習	4	
合 計		24	221		

※「特別ニーズ教育総論」「特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ」「特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ」の3科目の中から2単位以上選択必修

別表（7）総合教養教育科目・外国語教育科目（心理学部心理学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
総合教養教育科目	スタートアップ読実	2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1	講義	1	
	情報リテラシー	1	講義	1	
	自然地理学	2	講義	1	
	人類学の世界と歴史	2	講義	1	
	アジアの民族誌	2	講義	1	
	心理学Ⅰ	2	講義	1	認定心理士必修
	心理学Ⅱ	2	講義	1	認定心理士必修
	現代の哲学と思想	2	講義	1	
	現代の倫理	2	講義	1	
	日本文化論Ⅰ	2	講義	1	
	日本文化論Ⅱ	2	講義	1	
	女性の生活と歴史	2	講義	1	
	現代の女性環境	2	講義	1	
	漢詩文の表現と心	2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想	2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史	2	講義	1	
	世界の文学	2	講義	1	
	20世紀史	2	講義	1	
	ことばの科学	2	講義	1	
	キャリアデザイン論	2	講義	1	
	人権の現代的課題	2	講義	1	
	法学	2	講義	1	
	日本国憲法	2	講義	1	美観必修
	社会学の世界と歴史	2	講義	1	
	社会学概論	2	講義	1	
	基礎経営論	2	講義	1	
	基礎経済学	2	講義	1	
	経済学概論	2	講義	1	
	労働と社会	2	講義	1	
	政治学概論	2	講義	1	
	現代教育の諸問題	2	講義	1	
	健康と衛生	2	講義	1	
	健康と栄養	2	講義	1	
	環境と地球	2	講義	1	
	環境と生命	2	講義	1	
	化学の世界と歴史	2	講義	1	
	現代生活と化学	2	講義	1	
	からだの構造と機能	2	講義	1	
	からだの化学と生物学	2	講義	1	
	生命機能のプログラム	2	講義	1	
	地球と宇宙のサイエンス	2	講義	1	
	日本伝統の折紙の科学	2	講義	1	
	身体運動と健康の科学	2	講義	1	美観選択必修2単位
	健康・スポーツと社会	2	講義	1	

新 規

	スポーツ1		1	演習	1		
	スポーツ2		1	演習	1		
	スポーツ3		1	演習	1		
	スポーツ4		1	演習	1		
	こころの健康科学		2	講義	1		
	現代人とこころの障害		2	講義	1		
	情報と社会		2	講義	1		
	情報と表現		2	講義	1		
	情報と文化		2	講義	1		
	情報処理基礎演習		2	講義	1		
	プログラミング基礎		2	講義	1		
	プログラミング演習		2	講義	1		
	データ処理演習		2	講義	1		
	A I 基礎		2	講義	1		
	データエンジニアリング基礎		2	講義	1		
	データサイエンス		2	講義	1		
	アジアの世界と文化		2	講義	1		
	欧米の世界と文化		2	講義	1		
	コラボレーション学修1		2	講義	1		
	仕事に役立つ数学		2	講義	1		
	茶道1		1	演習	1		
	茶道2		1	演習	1		
	書道1		1	演習	1		
	書道2		1	演習	1		
	インターンシップ・キャリア実習1		1	実習	2		
	インターンシップ・キャリア実習2		1	実習	2		
	漢字検定1		1	演習	1		
	漢字検定2		1	演習	1		
	異文化コミュニケーション1		2	講義	1		
	異文化コミュニケーション2		2	講義	1		
	異文化コミュニケーション3		2	講義	1		
	異文化コミュニケーション4		2	講義	1		
	日本事情1		2	講義	1		
	日本事情2		2	講義	1		
	日本事情3		2	講義	1		
	日本事情4		2	講義	1		
	計	4	144				
外国語教育科目	English Reading1		1	演習	1		
	English Reading2		1	演習	1		
	English Reading3		1	演習	2		
	English Reading4		1	演習	2		
	General English1		1	演習	1		
	General English2		1	演習	1		
	General English3		1	演習	1		
	General English4		1	演習	1		
	検定外国語1		2	演習	1		
	検定外国語2		2	演習	1		
	検定外国語3		2	演習	1		
	検定外国語4		2	演習	1		
	ドイツ語初級1		1	演習	1		
	ドイツ語初級2		1	演習	1		
	ドイツ語初級3		1	演習	1		
	ドイツ語初級4		1	演習	1		
	ドイツ語中級1		1	演習	2		
	ドイツ語中級2		1	演習	2		
	ドイツ語中級3		1	演習	2		
	ドイツ語中級4		1	演習	2		
	フランス語初級1		1	演習	1		
	フランス語初級2		1	演習	1		
	フランス語初級3		1	演習	1		
	フランス語初級4		1	演習	1		
	フランス語中級1		1	演習	2		
	フランス語中級2		1	演習	2		
	フランス語中級3		1	演習	2		
	フランス語中級4		1	演習	2		
	中国語初級1		1	演習	1		
	中国語初級2		1	演習	1		
	中国語初級3		1	演習	1		
	中国語初級4		1	演習	1		
	中国語中級1		1	演習	2		
	中国語中級2		1	演習	2		
	中国語中級3		1	演習	2		
	中国語中級4		1	演習	2		
	ハングル初級1		1	演習	1		
	ハングル初級2		1	演習	1		
	ハングル初級3		1	演習	1		
	ハングル初級4		1	演習	1		
	ハングル中級1		1	演習	2		
	ハングル中級2		1	演習	2		
	ハングル中級3		1	演習	2		
	ハングル中級4		1	演習	2		
	日本語1		1	演習	1		
	日本語2		1	演習	1		
	日本語3		1	演習	1		
	日本語4		1	演習	1		
	計	4	48				
合 計		8	192				

美術選択必修1単位

外国人留学生・
帰国子女適用

外国人留学生・
帰国子女適用

別表（8） 専門教育科目（心理学部心理学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	履修 学年	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	教育学概論	2		講義	1	美術必修
	教職論		2	講義	1	美術必修
	削 除					
	心理学概論	2		講義	1	
	教育心理学(教育・学校心理学)	2		講義	2	美術必修・認定心理士選択必修
	学習・言語心理学	2		講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	学校制度論	2		講義	3	美術必修
	カウンセリング概論（心理学的支援法）	2		講義	1	削 除
	カウンセリング演習	2		演習	2	認定心理士選択必修
	家族心理学	2		講義	3	認定心理士選択必修
	心理学研究法	2		講義	3	公認心理師・認定心理士必修
	心理学実験	2		実習	2	公認心理師・認定心理士必修
	心理検査法演習(心理的アセスメント)	2		演習	3	公認心理師・認定心理士必修 准学校心理士必修
	社会・集団・家族心理学	2		講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	心理学統計法Ⅰ	2		講義	1	削 除
	心理学統計法Ⅱ		2	講義	3	
	心理療法	2		講義	3	認定心理士選択必修
	心理演習	2		演習	3	公認心理師必修
	臨床心理実践演習	2		演習	3	
	感情・人格心理学	2		講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修

別表（7） 専門教育科目（教育学部教育心理学科）

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業 形態	配当 年次	備 考
		必修	選択			
専門教育科目	教育学概論	2		講義	1	
	教職論		2	講義	1	美術必修
	教育の歴史	2		講義	2	
	心理学概論	2		講義	1	
	教育心理学(教育・学校心理学)	2		講義	1	
	学習・言語心理学		2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	学校制度論	2		講義	3	美術必修
	カウンセリング概論（心理学的支援法）	2		講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修 准学校心理士必修
	カウンセリング演習	2		演習	2	認定心理士選択必修
	家族心理学	2		講義	2	認定心理士選択必修
	心理学研究法	2		講義	3	公認心理師・認定心理士必修
	心理学実験	2		実習	3	公認心理師・認定心理士必修
	心理検査法演習(心理的アセスメント)	2		実習	3	公認心理師・認定心理士必修 准学校心理士必修
	社会・集団・家族心理学	2		講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修
	心理学統計法Ⅰ	2		講義	2	公認心理師・認定心理士必修
	心理学統計法Ⅱ		2	講義	3	
	心理療法	2		講義	3	認定心理士選択必修
	心理演習	2		演習	3	公認心理師必修
	臨床心理実践演習	2		演習	3	
	感情・人格心理学	2		講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修

神経・生理心理学				2	講義	3	科目名称変更 公認心理師必修・認定心理士選択必修	生理心理学（神経・生理心理学A）				2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修
削 除								神経心理学（神経・生理心理学B）				1	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修
知覚・認知心理学		2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修	知覚・認知心理学				2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修		
発達心理学	2		講義	2	削 除	発達心理学				2	講義	2	准学校心理士必修		
臨床心理学概論	2		講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修	臨床心理学概論				2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修		
精神医学概論(精神疾患とその治療)		2	講義	2		精神医学概論(精神疾患とその治療)				2	講義	2			
公認心理師の職責		2	講義	2	公認心理師必修	公認心理師の職責				2	講義	2	公認心理師必修		
関係行政論		2	講義	2	公認心理師必修	関係行政論				2	講義	2	公認心理師必修		
知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）		2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修・准学校心理士必修	知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）				2	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修・准学校心理士必修		
肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）		1	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修・准学校心理士必修	肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）				1	講義	1	公認心理師必修・認定心理士選択必修・准学校心理士必修		
病弱児の心理		1	講義	2	認定心理士選択必修	病弱児の心理				1	講義	2	認定心理士選択必修		
障害児心理学各論		2	講義	2	認定心理士選択必修	障害児心理学各論				2	講義	2	認定心理士選択必修		
発達障害の心理学		2	講義	2		発達障害の心理学				2	講義	2			
教育課程論		2	講義	2	養護必修	教育課程論				2	講義	2	養護必修		
特別ニーズ教育総論		2	講義	2	養護必修	特別ニーズ教育総論				2	講義	2	養護必修		
道德の指導法		2	講義	2	養護必修	道德の指導法				2	講義	2	養護必修		
総合的な学習の時間の指導法		1	講義	3	養護必修	総合的な学習の時間の指導法				1	講義	3	養護必修		
特別活動の指導法		2	講義	3	養護必修	特別活動の指導法				2	講義	3	養護必修		
教育方法論		2	講義	3	養護必修	教育方法論				2	講義	3	養護必修		
生徒指導論		2	講義	3	養護必修	生徒指導論				2	講義	3	養護必修		
教育相談		2	講義	2	養護必修・認定心理士選択必修	教育相談				2	講義	2	養護必修・認定心理士選択必修		
養護実習指導		1	演習	3	科目名称変更 養護必修	養護実習指導Ⅰ				1	演習	3	養護必修		
削 除						養護実習指導Ⅱ				1	演習	3	養護必修		
養護実習		4	実習	3	養護必修	養護実習				4	実習	3	養護必修		
教職実践演習(養護)		2	講義	4	養護必修	教職実践演習(養護)				2	演習	4	養護必修		
衛生学		2	講義	2	養護必修	衛生学				2	講義	2	養護必修		
公衆衛生学		2	講義	3	養護必修	公衆衛生学				2	講義	3	養護必修		
学校保健		2	講義	1	養護必修	学校保健				2	講義	1	養護必修		
保健教育論		2	講義	3	養護必修	保健教育論				2	講義	2			
削 除						保健教育演習				1	演習	3	養護必修		
養護学概論		2	講義	2	養護必修	養護学概論				2	講義	1			
養護活動論Ⅰ		2	講義	2	科目名称変更 養護必修	養護活動論				2	講義	2	養護必修		
養護活動論Ⅱ		2	講義	3	養護必修	新 規							養護必修		
削 除							保健宣託演習				2	講義		4	
健康相談活動		2	講義	3	養護必修	健康相談活動				2	講義	3	養護必修		
栄養学（食品学を含む）		2	講義	1	養護必修	栄養学（食品学を含む）				2	講義	1	養護必修		
食育論		2	講義	4	公認心理師・養護必修	食育論				2	講義	4	公認心理師・養護必修		
人体の構造と機能1（人体の構造と機能及び疾病1）		2	講義	1		公認心理師・養護必修	人体の構造と機能1（人体の構造と機能及び疾病1）				2	講義		1	
人体の構造と機能2		2	講義	1	養護必修	人体の構造と機能2				2	講義	1	養護必修		
微生物学		2	講義	2	養護必修	微生物学				2	講義	2	養護必修		
免疫学		2	講義	2	養護必修	免疫学				2	講義	2	養護必修		
薬理概論		2	講義	3	養護必修・認定心理士選択必修	薬理概論				2	講義	3	養護必修・認定心理士選択必修		
精神保健		2	講義	2		養護必修・認定心理士選択必修	精神保健				2	講義		2	
小児精神医学		2	講義	3	認定心理士選択必修	小児精神医学				2	講義	3	認定心理士選択必修		
看護学		2	講義	1	養護必修	看護学				2	講義	1	養護必修		
看護学演習		1	演習	2	養護必修	看護学演習				1	演習	2	養護必修		
看護学臨床実習		1	演習	3	養護必修	看護学臨床実習				2	実習	3	養護必修		
学校救急処置演習		1	演習	3	養護必修	学校救急処置演習				1	演習	3	養護必修		
小児疾病論1（人体の構造と機能及び疾病Ⅱ）		2	講義	2	公認心理師必修・養護必修	小児疾病論1（人体の構造と機能及び疾病Ⅱ）				2	講義	2	公認心理師必修・養護選択必修		
小児疾病論2		2	講義	2	履修年次変更・養護必修	小児疾病論2				2	講義	3	養護選択必修		
小児保健		2	講義	2	養護必修	小児保健				2	講義	2	養護必修		
初年次教育Ⅰ		1	演習	1	養護必修	初年次教育Ⅰ				1	演習	1	養護必修		
初年次教育Ⅱ		1	演習	1		初年次教育Ⅱ				1	演習	1			
ボランティア体験Ⅰ		1	演習	1	養護必修	ボランティア体験Ⅰ				1	演習	1	健康・医療心理学		
ボランティア体験Ⅱ		1	演習	2	ボランティア体験Ⅱ				1	演習	2	健康・医療心理学			
教職研究Ⅰ		1	演習	3	認定心理士必修	教職研究Ⅰ				1	演習	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修		
教職研究Ⅱ		1	演習	4		教職研究Ⅱ				1	演習	4			
心理学概観演習1		2	演習	3	認定心理士必修	新 規							公認心理師必修・認定心理士選択必修		
心理学基礎実習		2	実習	2		新 規									
心理学概観演習2		2	演習	3	認定心理士選択必修	新 規							公認心理師必修・認定心理士選択必修		
コミュニケーションの心理学		2	演習	2		新 規									
消費者心理学		2	講義	2	認定心理士選択必修	新 規							公認心理師必修・認定心理士選択必修		
消費者行動論		2	講義	3	新 規										
社会心理学基礎演習		2	演習	3	認定心理士選択必修	新 規							公認心理師必修・認定心理士選択必修		
心理学概観演習3		2	演習	3	新 規										
健康心理学		2	講義	2	認定心理士選択必修	新 規							公認心理師必修・認定心理士選択必修		
スポーツ科学		2	講義	2	新 規										
心理学概観演習4		2	演習	3	認定心理士選択必修	新 規							公認心理師必修・認定心理士選択必修		
健康・医療心理学		2	講義	3		新 規									
福祉心理学		2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修	健康・医療心理学				2	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修		
司法・犯罪心理学		2	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修	福祉心理学				2	講義	2	公認心理師必修・認定心理士選択必修・准学校心理士必修		
産業・組織心理学		2	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修	司法・犯罪心理学				2	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修		
心理実習Ⅰ		2	実習	4	公認心理師必修	産業・組織心理学				2	講義	3	公認心理師必修・認定心理士選択必修		
心理実習Ⅱ		2	実習	4	公認心理師必修	心理実習Ⅰ				2	実習	3	公認心理師必修		
心理学とキャリア		1	講義	2	公認心理師必修	心理実習Ⅱ				2	実習	3	公認心理師必修		
心理学とキャリア実践		1	講義	3	認定心理士選択必修	心理学とキャリア				1	講義	2	公認心理師必修		
心理学検定1		2	演習	1		心理学とキャリア実践				1	講義	3			
心理学検定2		2	演習	1	認定心理士選択必修	心理学検定1				2	演習	1	認定心理士選択必修		
心理学ゼミナールⅠ		2	演習	3	認定心理士選択必修	心理学検定2				2	演習	1	認定心理士選択必修		
心理学ゼミナールⅡ		2	演習	3		教育心理ゼミナールⅠ				2	演習	3			
心理学ゼミナールⅢ		2	演習	4	認定心理士選択必修	教育心理ゼミナールⅡ				2	演習	3	認定心理士選択必修		
心理学ゼミナールⅣ		2	演習	4	認定心理士選択必修	教育心理ゼミナールⅢ				2	演習	4	認定心理士選択必修		
卒業研究		4	演習	4	認定心理士選択必修	教育心理ゼミナールⅣ				2	演習	4	認定心理士選択必修		
合 計		24	161			卒業研究				6	演習	4			

別表(9) 総合教養教育科目・外国語教育科目(経営学部経営学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学1		2	講義	1	
	心理学2		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論1		2	講義	1	
	日本文化論2		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	

別表(8) 総合教養教育科目・外国語教育科目(経営学部経営学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数理・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学1		2	講義	1	
	心理学2		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論1		2	講義	1	
	日本文化論2		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	

専門発展科目	中級簿記Ⅰ	2	講義	1	8単位選択必修
	中級簿記Ⅱ	2	講義	1	
	英文ビジネスプレゼンテーション入門	2	講義	1	
	国際ビジネス入門	2	講義	1	
	商業学入門	2	講義	1	
	農業経済学入門	2	講義	1	
	ホスピタリティ入門	2	講義	1	
	経済史入門	2	講義	1	
	経営戦略論入門	2	講義	1	
	経営哲学入門	2	講義	1	
	金融概論	2	講義	1	マネジメント系から 8単位選択必修
	証券市場論入門	2	講義	1	
	企業倫理	2	講義	2	
	コーポレートガバナンス論	2	講義	2	
	経営管理	2	講義	2	
	企業と社会	2	講義	2	
	外国経営史	2	講義	3	
	日本経営史	2	講義	3	
	経営組織論Ⅰ	2	講義	3	
	経営組織論Ⅱ	2	講義	3	
	経営戦略論	2	講義	3	マーケティング系から 6単位選択必修
	リーダーシップ論	2	講義	2	
	生産システム論	2	講義	3	
	人的資源管理論	2	講義	3	
	知的所有権	2	講義	3	
	税法概論	2	講義	3	
	マーケティング戦略論	2	講義	3	
	消費者行動論	2	講義	3	
	商業学	2	講義	3	
	広告論	2	講義	2	
	サービス・マーケティング	2	講義	3	経営情報系から 8単位選択必修
	製品戦略論	2	講義	3	
	地域マーケティング論	2	講義	3	
	市場情報分析	2	講義	3	
	イノベーション・マネジメント	2	講義	3	
	財務会計	2	講義	2	
	管理会計	2	講義	3	
	経営分析	2	講義	3	
	原価計算	2	講義	2	
	上級簿記Ⅰ	2	講義	3	
	上級簿記Ⅱ	2	講義	3	グローバル系から 8単位選択必修
	ミクロ経済学	2	講義	3	
	マクロ経済学	2	講義	3	
	ビジネス・エコノミクス	2	講義	2	
	法と経済	2	講義	3	
	経済統計分析	2	講義	3	
	金融政策論	2	講義	3	
	価値開発工学論	2	講義	3	
	ビジネス・プランニング	2	講義	3	
	アジア企業論	2	講義	3	
	アジアの農業と経済	2	講義	3	地域経営・経営実践必修
	第6次産業論	2	講義	3	
	農業経済学	2	講義	3	
	サービスデザイン	2	講義	3	
	観光マネジメント	2	講義	3	
	中小企業論	2	講義	3	
	岡山経済論	2	講義	2	
	岡山産業論	2	講義	2	
	Introduction to Management	2	講義	2	
	Advanced Management	2	講義	3	
	フィールド調査論Ⅰ	2	演習	3	国際経営必修 地域経営必修 経営実践必修 経営実践必修 経営実践必修
	フィールド調査論Ⅱ	2	演習	3	
	特別講義Ⅰ	2	講義	2	
	特別講義Ⅱ	2	講義	3	
	導入ゼミナールⅠ	2	演習	1	
	導入ゼミナールⅡ	2	演習	1	
	専門ゼミナールⅠ	2	演習	2	
	専門ゼミナールⅡ	2	演習	2	
	専門ゼミナールⅢ	2	演習	3	
	専門ゼミナールⅣ	2	演習	3	
	専門ゼミナールⅤ	2	演習	4	国際経営必修 地域経営必修 経営実践必修 経営実践必修 経営実践必修
	専門ゼミナールⅥ	2	演習	4	
	留学プログラム	8	実習	2	
	長期インターンシップ	8	実習	2	
	PBL実習1	2	実習	2	
	PBL実習2	2	実習	2	
	PBL実習3	2	実習	2	
	PBL実習4	2	実習	2	
	卒業研究	4	演習	4	
	合 計	34	156	4	

専門発展科目	中級簿記Ⅰ	2	講義	1	8単位選択必修
	中級簿記Ⅱ	2	講義	1	
	英文ビジネスプレゼンテーション入門	2	講義	1	
	国際ビジネス入門	2	講義	1	
	商業学入門	2	講義	1	
	農業経済学入門	2	講義	1	
	ホスピタリティ入門	2	講義	1	
	経済史入門	2	講義	1	
	経営戦略論入門	2	講義	1	
	経営哲学入門	2	講義	1	マネジメント系から 8単位選択必修
	金融概論	2	講義	1	
	証券市場論入門	2	講義	1	
	企業倫理	2	講義	2	
	コーポレートガバナンス論	2	講義	2	
	経営管理	2	講義	2	
	企業と社会	2	講義	2	
	外国経営史	2	講義	3	
	日本経営史	2	講義	3	
	経営組織論Ⅰ	2	講義	3	
	経営組織論Ⅱ	2	講義	3	マーケティング系から 6単位選択必修
	経営戦略論	2	講義	3	
	リーダーシップ論	2	講義	2	
	生産システム論	2	講義	3	
	人的資源管理論	2	講義	3	
	知的所有権	2	講義	3	
	税法概論	2	講義	3	
	マーケティング戦略論	2	講義	3	
	消費者行動論	2	講義	3	
	商業学	2	講義	3	経営情報系から 8単位選択必修
	広告論	2	講義	2	
	サービス・マーケティング	2	講義	3	
	製品戦略論	2	講義	3	
	地域マーケティング論	2	講義	3	
	市場情報分析	2	講義	3	
	イノベーション・マネジメント	2	講義	3	
	財務会計	2	講義	2	
	管理会計	2	講義	3	
	経営分析	2	講義	3	グローバル系から 8単位選択必修
	原価計算	2	講義	2	
	上級簿記Ⅰ	2	講義	3	
	上級簿記Ⅱ	2	講義	3	
	ミクロ経済学	2	講義	3	
	マクロ経済学	2	講義	3	
	ビジネス・エコノミクス	2	講義	2	
	法と経済	2	講義	3	
	経済統計分析	2	講義	3	
	金融政策論	2	講義	3	地域経営・経営実践必修
	価値開発工学論	2	講義	3	
	ビジネス・プランニング	2	講義	3	
	アジア企業論	2	講義	3	
	アジアの農業と経済	2	講義	3	
	第6次産業論	2	講義	3	
	農業経済学	2	講義	3	
	サービスデザイン	2	講義	3	
	観光マネジメント	2	講義	3	
	中小企業論	2	講義	3	国際経営必修 地域経営必修 経営実践必修 経営実践必修 経営実践必修
	岡山経済論	2	講義	2	
	岡山産業論	2	講義	2	
	Introduction to Management	2	講義	2	
	Advanced Management	2	講義	3	
	フィールド調査論Ⅰ	2	演習	3	
	フィールド調査論Ⅱ	2	演習	3	
	特別講義Ⅰ	2	講義	2	
	特別講義Ⅱ	2	講義	3	
	導入ゼミナールⅠ	2	演習	1	
	導入ゼミナールⅡ	2	演習	1	国際経営必修 地域経営必修 経営実践必修 経営実践必修 経営実践必修
	専門ゼミナールⅠ	2	演習	2	
	専門ゼミナールⅡ	2	演習	2	
	専門ゼミナールⅢ	2	演習	3	
	専門ゼミナールⅣ	2	演習	3	
	専門ゼミナールⅤ	2	演習	4	
	専門ゼミナールⅥ	2	演習	4	
	留学プログラム	8	実習	2	
	長期インターンシップ	8	実習	2	
	PBL実習1	2	実習	2	
	PBL実習2	2	実習	2	国際経営必修 地域経営必修 経営実践必修 経営実践必修 経営実践必修
	PBL実習3	2	実習	2	
	PBL実習4	2	実習	2	
	卒業研究	4	演習	4	
	合 計	34	156	4	

別表 (10) 総合教養教育科目・外国語教育科目 (薬学部薬学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数値・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学Ⅰ		2	講義	1	
	心理学Ⅱ		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論Ⅰ		2	講義	1	
	日本文化論Ⅱ		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	法学		2	講義	1	
	日本国憲法		2	講義	1	
	社会学の世界と歴史		2	講義	1	
	社会学概論		2	講義	1	
	基礎経営論		2	講義	1	
	基礎経済学		2	講義	1	
	経済学概論		2	講義	1	

別表 (11) 総合教養教育科目・外国語教育科目 (薬学部薬学科)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
総合教養教育科目	スタートアップ就実		2	講義	1	
	数値・データサイエンス基礎	1		講義	1	
	情報リテラシー	1		講義	1	
	自然地理学		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	心理学Ⅰ		2	講義	1	
	心理学Ⅱ		2	講義	1	
	現代の哲学と思想		2	講義	1	
	現代の倫理		2	講義	1	
	日本文化論Ⅰ		2	講義	1	
	日本文化論Ⅱ		2	講義	1	
	女性の生活と歴史		2	講義	1	
	現代の女性環境		2	講義	1	
	漢詩文の表現と心		2	講義	1	
	漢詩文の表現と思想		2	講義	1	
	ポピュラー音楽の歴史		2	講義	1	
	世界の文学		2	講義	1	
	20世紀史		2	講義	1	
	ことばの科学		2	講義	1	
	キャリアデザイン論		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	法学		2	講義	1	
	日本国憲法		2	講義	1	
	社会学の世界と歴史		2	講義	1	
	社会学概論		2	講義	1	
	基礎経営論		2	講義	1	
	基礎経済学		2	講義	1	
	経済学概論		2	講義	1	

薬理学 4	1		講義	4
薬物治療学 1	2		講義	3
薬物治療学 2	2		講義	3
薬物治療学 3	1		講義	4
生物薬剤学	2		講義	2
物理薬剤学	2		講義	3
薬物動態学	2		講義	3
薬物代謝学	2		講義	3
製剤学	2		講義	4
製剤機能論	1		講義	4
臨床薬学概論	2		講義	3
医療統計学	2		講義	3
医薬品情報学	2		講義	3
調剤学	2		講義	3
臨床コミュニケーション演習	1		演習	3
薬事関係法規	2		講義	4
新薬開発論	1		講義	4
薬剤師職能論	1		講義	4
漢方薬学	1		講義	4
処方解析学	2		講義	4
医療薬学演習	1		演習	4
基礎薬学実習 1 (分析系・生薬系)	1		実習	1
基礎薬学実習 2 (物理系・化学系)	2		実習	2
生命薬学実習 1 (生化学・免疫学)	2		実習	2
生命薬学実習 2 (衛生・微生物)	2		実習	3
医療薬学実習 (薬理・薬効)	2		実習	3
生薬実習前学習	4		実習	4
薬学総合演習	2		実習	4
病院・薬局実務実習	20		実習	5
卒業特別研究	10		実習	4-6
臨床心理学		1	講義	2
看護学概論		1	講義	3
創薬化学		1	講義	3
応用生化学		1	講義	3
医療放射化学		1	講義	3
保健衛生学		1	講義	4
社会薬学		1	講義	4
臨床漢方薬学		1	講義	4
臨床動態学		1	講義	4
応用薬理学		1	講義	4
フィジカルアセスメント		1	講義	5
専門薬剤師概論		1	講義	5
薬学海外研修		2	実習	3
キャリア支援科目 (がん医療、高度医療)		1	講義	2
キャリア支援科目 (危機管理 (災害医療))		1	講義	2
キャリア支援科目 (地域医療と薬局経営)		1	講義	2
キャリア支援科目 (心のケア)		1	実習	2
合 計	158	18		

薬理学 4	1		講義	4
薬物治療学 1	2		講義	3
薬物治療学 2	2		講義	3
薬物治療学 3	1		講義	4
生物薬剤学	2		講義	2
物理薬剤学	2		講義	3
薬物動態学	2		講義	3
薬物代謝学	2		講義	3
製剤学	2		講義	4
製剤機能論	1		講義	4
臨床薬学概論	2		講義	3
医療統計学	2		講義	3
医薬品情報学	2		講義	3
調剤学	2		講義	3
臨床コミュニケーション演習	1		演習	3
薬事関係法規	2		講義	4
新薬開発論	1		講義	4
薬剤師職能論	1		講義	4
漢方薬学	1		講義	4
処方解析学	2		講義	4
医療薬学演習	1		演習	4
基礎薬学実習 1 (分析系・生薬系)	1		実習	1
基礎薬学実習 2 (物理系・化学系)	2		実習	2
生命薬学実習 1 (生化学・免疫学)	2		実習	2
生命薬学実習 2 (衛生・微生物)	2		実習	3
医療薬学実習 (薬理・薬効)	2		実習	3
生薬実習前学習	4		実習	4
薬学総合演習	2		実習	4
病院・薬局実務実習	20		実習	5
卒業特別研究	10		実習	4-6
臨床心理学		1	講義	2
看護学概論		1	講義	3
創薬化学		1	講義	3
応用生化学		1	講義	3
医療放射化学		1	講義	3
保健衛生学		1	講義	4
社会薬学		1	講義	4
臨床漢方薬学		1	講義	4
臨床動態学		1	講義	4
応用薬理学		1	講義	4
フィジカルアセスメント		1	講義	5
専門薬剤師概論		1	講義	5
薬学海外研修		2	実習	3
キャリア支援科目 (がん医療、高度医療)		1	講義	2
キャリア支援科目 (危機管理 (災害医療))		1	講義	2
キャリア支援科目 (地域医療と薬局経営)		1	講義	2
キャリア支援科目 (心のケア)		1	実習	2
合 計	158	18		

別表 (13) 教職(中・高)に関する科目 (人文科学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
教職に関する科目	教職論	2	講義	1	教職必修
	教育学概論	2	講義	1	教職必修
	教育心理学(教育・学校心理学)	2	講義	2	教職必修
	学校制度論	2	講義	3	教職必修
	特別ニーズ教育総論	2	講義	2	教職必修
	教育課程論	2	講義	2	教職必修
	教科教育法(国語) I	2	講義	2	教職必修 (表現文化学科)
	教科教育法(国語) II	2	講義	3	教職必修 (表現文化学科)
	教科教育法(国語) III	2	講義	3	教職必修 (表現文化学科中一種)
	教科教育法(国語) IV	2	講義	3	教職必修 (表現文化学科中一種)
	教科教育法(英語) I	2	講義	2	教職必修 (実践英語学科)
	教科教育法(英語) II	2	講義	3	教職必修 (実践英語学科)
	教科教育法(英語) III	2	講義	3	教職必修 (実践英語学科中一種)
	教科教育法(英語) IV	2	講義	3	教職必修 (実践英語学科中一種)
	教科教育法(社会・地理歴史) I	2	講義	2	教職必修 (総合歴史学科 中一種(社会)・高一種(地理歴史))
	教科教育法(社会・地理歴史) II	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科 中一種(社会)・高一種(地理歴史))
	教科教育法(社会・地理歴史) III	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種(社会))
	教科教育法(社会・地理歴史) IV	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種(社会))
	教科教育法(公民) I	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科高一種(公民))
	教科教育法(公民) II	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科高一種(公民))
	道徳の指導法	2	講義	2	教職必修 (中一種)
	総合的な学習の時間の指導法	1	講義	3	教職必修
	特別活動の指導法	2	講義	3	教職必修
	教育方法論	2	講義	3	教職必修
	ICT活用の理論と方法	1	講義	2	教職必修
	生徒・進路指導論	2	講義	3	教職必修
	教育相談	2	講義	2	教職必修
	事前・事後指導	1	講義	3・4	教職必修
	教育実習 I	2	実習	4	教職必修
	教育実習 II	2	実習	4	教職必修 (中一種)
	教職実践演習 (中・高)	2	演習	4	教職必修
	計	59			

別表 (14) 特別支援学校教職に関する科目 (教育学部**教育学科**)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
特別支援学校教職 に関する科目	特別支援教育総論	2	講義	1	特別支援必修
	特別支援教育の制度と歴史	2	講義	2	
	知的障害の心理学 (障害者・障害児心理学B)	2	講義	1	特別支援必修
	知的障害児の生理・病理	1	講義	1	特別支援必修
	肢体不自由児の心理 (障害者・障害児心理学A)	1	講義	1	特別支援必修
	肢体不自由児の生理・病理	1	講義	2	特別支援必修
	病弱児の心理	1	講義	3	特別支援必修
	病弱児の生理・病理	1	講義	2	特別支援必修
	知的障害児教育 I	2	講義	2	特別支援必修
	知的障害児教育 II	2	講義	2	特別支援必修
	肢体不自由児教育	2	講義	3	特別支援必修
	病弱児教育	2	講義	3	特別支援必修
	特別支援教育各論	2	講義	3	特別支援 2 単位選択必修
	障害児心理学各論	2	講義	3	
	発達障害の心理学	2	講義	2	特別支援必修
	発達障害児の生理・病理	1	講義	1	特別支援必修
	発達障害児教育	2	講義	3	特別支援必修
	重複障害児教育総論	2	講義	3	特別支援必修
	言語障害児教育総論	2	講義	2	
	視覚障害児教育総論	1	講義	3	特別支援必修
	聴覚障害児教育総論	1	講義	3	特別支援必修
	特別支援教育実習指導	1	実習	4	特別支援必修

別表 (12) 教職(中・高)に関する科目 (人文科学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
教職に関する科目	教職論	2	講義	1	教職必修
	教育学概論	2	講義	1	教職必修
	教育心理学(教育・学校心理学)	2	講義	2	教職必修
	学校制度論	2	講義	3	教職必修
	特別ニーズ教育総論	2	講義	2	教職必修
	教育課程論	2	講義	2	教職必修
	教科教育法(国語) I	2	講義	2	教職必修 (表現文化学科)
	教科教育法(国語) II	2	講義	3	教職必修 (表現文化学科)
	教科教育法(国語) III	2	講義	3	教職必修 (表現文化学科中一種)
	教科教育法(国語) IV	2	講義	3	教職必修 (表現文化学科中一種)
	教科教育法(英語) I	2	講義	2	教職必修 (実践英語学科)
	教科教育法(英語) II	2	講義	3	教職必修 (実践英語学科)
	教科教育法(英語) III	2	講義	3	教職必修 (実践英語学科中一種)
	教科教育法(英語) IV	2	講義	3	教職必修 (実践英語学科中一種)
	教科教育法(社会・地理歴史) I	2	講義	2	教職必修 (総合歴史学科 中一種(社会)・高一種(地理歴史))
	教科教育法(社会・地理歴史) II	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科 中一種(社会)・高一種(地理歴史))
	教科教育法(社会・地理歴史) III	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種(社会))
	教科教育法(社会・地理歴史) IV	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科中一種(社会))
	教科教育法(公民) I	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科高一種(公民))
	教科教育法(公民) II	2	講義	3	教職必修 (総合歴史学科高一種(公民))
	道徳の指導法	2	講義	2	教職必修 (中一種)
	総合的な学習の時間の指導法	1	講義	3	教職必修
	特別活動の指導法	2	講義	3	教職必修
	教育方法論	2	講義	3	教職必修
	ICT活用の理論と方法	1	講義	2	教職必修
	生徒・進路指導論	2	講義	3	教職必修
	教育相談	2	講義	2	教職必修
	事前・事後指導	1	講義	3・4	教職必修
	教育実習 I	2	実習	4	教職必修
	教育実習 II	2	実習	4	教職必修 (中一種)
	教職実践演習 (中・高)	2	演習	4	教職必修
	計	59			

別表 (13) 特別支援学校教職に関する科目 (教育学部**初等教育学科**)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数 必修 選択	授業 形態	履修 学年	備 考
特別支援学校教職 に関する科目	特別支援教育総論	2	講義	1	特別支援必修
	特別支援教育の制度と歴史	2	講義	2	
	知的障害の心理学 (障害者・障害児心理学B)	2	講義	1	特別支援必修
	知的障害児の生理・病理	1	講義	1	特別支援必修
	肢体不自由児の心理 (障害者・障害児心理学A)	1	講義	1	特別支援必修
	肢体不自由児の生理・病理	1	講義	2	特別支援必修
	病弱児の心理	1	講義	3	特別支援必修
	病弱児の生理・病理	1	講義	2	特別支援必修
	知的障害児教育 I	2	講義	2	特別支援必修
	知的障害児教育 II	2	講義	2	特別支援必修
	肢体不自由児教育	2	講義	3	特別支援必修
	病弱児教育	2	講義	3	特別支援必修
	特別支援教育各論	2	講義	3	特別支援 2 単位選択必修
	障害児心理学各論	2	講義	3	
	発達障害の心理学	2	講義	2	特別支援必修
	発達障害児の生理・病理	1	講義	1	特別支援必修
	発達障害児教育	2	講義	3	特別支援必修
	重複障害児教育総論	2	講義	3	特別支援必修
	言語障害児教育総論	2	講義	2	
	視覚障害児教育総論	1	講義	3	特別支援必修
	聴覚障害児教育総論	1	講義	3	特別支援必修
	特別支援教育実習指導	1	実習	4	特別支援必修

	特別支援教育実習		2	実習	4	特別支援必修
	計		37			

	特別支援教育実習		2	実習	4	特別支援必修
	計		37			

別表 (15) 博物館に関する科目 (人文科学部・教育学部・**心理学部**各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
博物館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	博物館必修
	博物館概論		2	講義	1	博物館必修
	博物館経営論		2	講義	2	博物館必修
	博物館資料論		2	講義	3	博物館必修
	博物館資料保存論		2	講義	4	博物館必修
	博物館展示論		2	講義	3	博物館必修
	博物館実習Ⅰ		1	実習	4	博物館必修
	博物館実習Ⅱ		1	実習	4	博物館必修
	博物館実習Ⅲ		1	実習	4	博物館必修
	博物館情報・メディア論		2	講義	2	博物館必修
	博物館教育論		2	講義	2	博物館必修
	日本文化論1		2	講義	1	8単位博物館必修
	日本文化論2		2	講義	1	
	古文書学の基礎		2	講義	1	
	古文書解説		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	日本美術史		2	講義	1	
	西洋美術史		2	講義	1	
	東洋美術史		2	講義	1	
	考古学の基礎		2	講義	1	
	考古学の現在		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	計		41			

別表 (14) 博物館に関する科目 (人文科学部・教育学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
博物館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	博物館必修
	博物館概論		2	講義	1	博物館必修
	博物館経営論		2	講義	2	博物館必修
	博物館資料論		2	講義	3	博物館必修
	博物館資料保存論		2	講義	4	博物館必修
	博物館展示論		2	講義	3	博物館必修
	博物館実習Ⅰ		1	実習	4	博物館必修
	博物館実習Ⅱ		1	実習	4	博物館必修
	博物館実習Ⅲ		1	実習	4	博物館必修
	博物館情報・メディア論		2	講義	2	博物館必修
	博物館教育論		2	講義	2	博物館必修
	日本文化論1		2	講義	1	8単位博物館必修
	日本文化論2		2	講義	1	
	古文書学の基礎		2	講義	1	
	古文書解説		2	講義	1	
	人類学の世界と歴史		2	講義	1	
	日本美術史		2	講義	1	
	西洋美術史		2	講義	1	
	東洋美術史		2	講義	1	
	考古学の基礎		2	講義	1	
	考古学の現在		2	講義	1	
	アジアの民族誌		2	講義	1	
	計		41			

別表 (16) 図書館に関する科目 (人文科学部・教育学部・**心理学部**各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
図書館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	図書館必修
	図書館概論		2	講義	1	図書館必修
	図書館制度・経営論		2	講義	3	図書館必修
	図書館情報技術論		2	講義	2	図書館必修
	図書館サービス概論		2	講義	1	図書館必修
	情報サービス論		2	講義	1	図書館必修
	児童サービス論		2	講義	2	図書館必修
	情報サービス演習Ⅰ		1	演習	2	図書館必修
	情報サービス演習Ⅱ		1	演習	2	図書館必修
	図書館情報資源概論		2	講義	1	図書館必修
	情報資源組織論		2	講義	2	図書館必修
	情報資源組織演習Ⅰ		1	演習	2	図書館必修
	情報資源組織演習Ⅱ		1	演習	2	図書館必修
	図書館基礎特論		1	講義	2	5科目中2科目 図書館必修
	図書館サービス特論		1	講義	1	
	図書館情報資源特論		1	講義	2	
	図書・図書館史		1	講義	1	
	図書館施設論		1	講義	1	
	計		27			

別表 (15) 図書館に関する科目 (人文科学部・教育学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
図書館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	図書館必修
	図書館概論		2	講義	1	図書館必修
	図書館制度・経営論		2	講義	3	図書館必修
	図書館情報技術論		2	講義	2	図書館必修
	図書館サービス概論		2	講義	1	図書館必修
	情報サービス論		2	講義	1	図書館必修
	児童サービス論		2	講義	2	図書館必修
	情報サービス演習Ⅰ		1	演習	2	図書館必修
	情報サービス演習Ⅱ		1	演習	2	図書館必修
	図書館情報資源概論		2	講義	1	図書館必修
	情報資源組織論		2	講義	2	図書館必修
	情報資源組織演習Ⅰ		1	演習	2	図書館必修
	情報資源組織演習Ⅱ		1	演習	2	図書館必修
	図書館基礎特論		1	講義	2	5科目中2科目 図書館必修
	図書館サービス特論		1	講義	1	
	図書館情報資源特論		1	講義	2	
	図書・図書館史		1	講義	1	
	図書館施設論		1	講義	1	
	計		27			

別表 (17) 司書教諭に関する科目 (人文科学部・教育学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館		2	講義	2	司書教諭必修
	学校図書館メディアの構成		2	講義	2	司書教諭必修
	学習指導と学校図書館		2	講義	2	司書教諭必修
	読書と豊かな人間性		2	講義	2	司書教諭必修
	情報メディアの活用		2	講義	2	司書教諭必修
	計		10			

別表 (16) 司書教諭に関する科目 (人文科学部・教育学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館		2	講義	2	司書教諭必修
	学校図書館メディアの構成		2	講義	2	司書教諭必修
	学習指導と学校図書館		2	講義	2	司書教諭必修
	読書と豊かな人間性		2	講義	2	司書教諭必修
	情報メディアの活用		2	講義	2	司書教諭必修
	計		10			

別表 (18) 社会教育に関する科目 (人文科学部・教育学部・**心理学部**各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	社会教育必修
	生涯学習概論Ⅱ		2	講義	1	社会教育必修
	生涯学習支援論Ⅰ		2	講義	2	社会教育必修
	生涯学習支援論Ⅱ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育経営論Ⅰ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育経営論Ⅱ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育実習		1	実習	3	社会教育必修
	社会教育演習Ⅰ		1	演習	3	3単位社会教育必修
	社会教育演習Ⅱ		1	演習	3	
	社会教育課題研究Ⅰ		1	演習	3	
	社会教育課題研究Ⅱ		1	演習	3	
	情報と社会		2	講義	1	社会教育必修
	共生社会と社会教育		2	講義	2	
	博物館概論		2	講義	1	
	図書館概論		2	講義	1	
	図書館情報技術論		2	講義	2	2単位選択必修
	博物館情報・メディア論		2	講義	2	
	教育学概論		2	講義	1	8単位 選択必修
	考古学の基礎		2	講義	1	
	考古学の現在		2	講義	1	
	死生観の歴史		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	環境と生命		2	講義	1	
	健康・スポーツと社会		2	講義	1	
	現代人とおこりの障害		2	講義	1	
	社会福祉Ⅰ		2	講義	1	
	計		49			

別表 (17) 社会教育に関する科目 (人文科学部・教育学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅰ		2	講義	1	社会教育必修
	生涯学習概論Ⅱ		2	講義	1	社会教育必修
	生涯学習支援論Ⅰ		2	講義	2	社会教育必修
	生涯学習支援論Ⅱ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育経営論Ⅰ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育経営論Ⅱ		2	講義	2	社会教育必修
	社会教育実習		1	実習	3	社会教育必修
	社会教育演習Ⅰ		1	演習	3	3単位社会教育必修
	社会教育演習Ⅱ		1	演習	3	
	社会教育課題研究Ⅰ		1	演習	3	
	社会教育課題研究Ⅱ		1	演習	3	
	情報と社会		2	講義	1	社会教育必修
	共生社会と社会教育		2	講義	2	
	博物館概論		2	講義	1	
	図書館概論		2	講義	1	
	図書館情報技術論		2	講義	2	2単位選択必修
	博物館情報・メディア論		2	講義	2	
	教育学概論		2	講義	1	8単位 選択必修
	考古学の基礎		2	講義	1	
	考古学の現在		2	講義	1	
	死生観の歴史		2	講義	1	
	人権の現代的課題		2	講義	1	
	環境と生命		2	講義	1	
	健康・スポーツと社会		2	講義	1	
	現代人とおこりの障害		2	講義	1	
	社会福祉Ⅰ		2	講義	1	
	計		49			

別表 (19) 医療秘書に関する科目 (人文科学部・教育学部・**心理学部**・経営学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
医療秘書に関する科目	衛生学		2	講義	2	医療秘書必修
	患者論と医の倫理		2	講義	1	医療秘書必修

別表 (18) 医療秘書に関する科目 (人文科学部・教育学部・経営学部各学科共通)

授業科目の区分	授 業 科 目	単位数		授業形態	履修学年	備 考
		必修	選択			
医療秘書に関する科目	衛生学		2	講義	2	医療秘書必修
	患者論と医の倫理		2	講義	1	医療秘書必修

人体の構造と機能1（人体の構造と機能及び疾病1）	2	講義	1	医療秘書必修
人体の構造と機能2	2	講義	1	医療秘書必修
臨床検査と薬の知識	2	講義	1	医療秘書必修
医療にかかわる用語	2	講義	1	医療秘書必修
コミュニケーション論	1	講義	1	医療秘書必修
医療秘書概論	2	講義	1	医療秘書必修
医療秘書実務Ⅰ	1	演習	1	医療秘書必修
医療秘書実務Ⅱ	1	演習	2	医療秘書必修
医療情報処理学	2	講義	1	医療秘書必修
医療情報処理Ⅰ	1	演習	1	医療秘書必修
医療情報処理Ⅱ	1	演習	1	医療秘書必修
医療関係法規概論	2	講義	2	医療秘書必修
実務研修	3	実習	2	医療秘書必修
実務演習Ⅰ	1	演習	1	医療秘書必修
実務演習Ⅱ	1	演習	1	医療秘書必修
実務演習Ⅲ	1	演習	1	医療秘書必修
計	29			

人体の構造と機能1（人体の構造と機能及び疾病1）	2	講義	1	医療秘書必修
人体の構造と機能2	2	講義	1	医療秘書必修
臨床検査と薬の知識	2	講義	1	医療秘書必修
医療にかかわる用語	2	講義	1	医療秘書必修
コミュニケーション論	1	講義	1	医療秘書必修
医療秘書概論	2	講義	1	医療秘書必修
医療秘書実務Ⅰ	1	演習	1	医療秘書必修
医療秘書実務Ⅱ	1	演習	2	医療秘書必修
医療情報処理学	2	講義	1	医療秘書必修
医療情報処理Ⅰ	1	演習	1	医療秘書必修
医療情報処理Ⅱ	1	演習	1	医療秘書必修
医療関係法規概論	2	講義	2	医療秘書必修
実務研修	3	実習	2	医療秘書必修
実務演習Ⅰ	1	演習	1	医療秘書必修
実務演習Ⅱ	1	演習	1	医療秘書必修
実務演習Ⅲ	1	演習	1	医療秘書必修
計	29			

学則の変更の趣旨等を 記載した書類

学則の変更の趣旨等を記載した書類（本文） 目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	3
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性	4
(1) 就実大学の沿革	4
(2) 学則変更（収容定員変更）を必要とする理由	4
(3) 教育学部の志願状況	5
(4) 育成する人材ニーズ	7
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	8
(ア)教育課程の変更内容	8
(イ)教育方法及び履修指導方法の変更内容	11
(ウ)教員組織の変更内容	13
(エ)大学全体の施設・設備の変更内容	14
① 校地・運動場	14
② 施設・設備	14

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

就実大学（以下「本学」という。）は令和 7(2025)4 月、教育学部教育心理学科を母体とした新学部として入学定員 100 人、収容定員 400 人の心理学部を設置する。また、教育学部初等教育学科について、教育学部教育学科への名称変更を行うとともに、入学定員を 75 人から 110 人、3 年次編入学定員 5 人を廃止、収容定員を 310 人から 440 人に変更する。これに伴い、大学全体の入学定員は 705 人、収容定員は 3020 人となる。【表 1】。

なお、令和 7(2025)年度に心理学部が設置された場合、既設の教育学部教育心理学科（入学定員 62 人）は募集停止し在学生の卒業を待って廃止することとしている。

【表 1 入学定員及び収容定員変更の新旧対照表】

（単位：人）

学 部 学 科	変更前 (令和 6(2024)年度)			変更後 (令和 7(2025)年度)			増減		
	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
人文科学部 表現文化学科	80	—	320	80	—	320	0	—	0
人文科学部 実践英語学科	75	—	300	75	—	300	0	—	0
人文科学部 総合歴史学科	80	—	320	80	—	320	0	—	0
教育学部 教育学科 (令和 7(2025)年度に 初等教育学科から名 称変更予定)	75	3 年次 5	310	110	—	440	35	△ 5	130
教育学部 教育心理学科	62	—	248	—	—	—	△ 62	—	△ 248
心理学部 心理学科	—	—	—	100	—	400	100	—	400

経営学部 経営学科	160	—	640	160	—	640	0	—	0
薬学部 薬学科	100	—	600	100	—	600	0	—	0
大学全体	632	3 年次 5	2,738	705	0	3,020	73	△5	282

※網掛けしている学部学科は定員変更なし。

※各学科の定員はすべて完成年度時点の人数。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) 就実大学の沿革

本学は、昭和 54（1979）年に文学部（平成 15 年、人文科学部に名称変更）の単科大学として開学し、以来薬学部、教育学部及び経営学部を順次開設し、時代と地域の要請に応じて教育を充実させてきた。今日では、大学 4 学部、大学院 3 研究科の教学組織を構成し、2,640 人（令和 5(2023)年 5 月 1 日現在）の学生を擁する総合大学に発展している。

本学は令和 6（2024）年の学園の創設 120 年を迎えるに当たって、中期計画「就実ビジョン 120」を作成した。教育・研究・学生支援では、学生の主体的参加を促す授業方法や ICT を活用した教育システムの導入、時代の変化に対応した教育改革、学生の学習成果の可視化、研究活動の活性化等、力強く社会を生き抜く人材の育成に取り組んでいる。また、社会貢献では子育て支援、防災支援、地域交流事業への参加や、公開講座等、教育研究成果を社会に還元し、地域から信頼される大学を目指す取り組みを行っている。

本学は現在、これらの実現に向けて取り組んでおり、その一環として、社会的要請に対応するために、より専門的な知識・技能を備えた人材を輩出すべく現行の教育学部の改組を行い教育心理学科を発展的に改組し、心理学部を令和 7(2025)年 4 月に設置する結論に至った（令和 6(2024)年 4 月設置届出予定）。また、教育学部初等教育学科については、すでに教育課程は初等教育以外の学問領域から構成されていることから、教育課程を適切に表す「教育学科」への名称変更を行うこととしている（令和 6(2024)年 4 月届出予定）。

(2) 学則変更（収容定員変更）を必要とする理由

①心理学部(心理学科)の新規設置

現代社会において心身の健康を保ち、個人と社会の幸福を追求することは、重要なテーマである。国民の平均寿命は延びている一方で、うつ病や不安障害などの精神的な問題は増加している。令和 4 年労働安全衛生調査（実態調査）【資料 1】によると、メンタルヘルスの不調により連続 1 か月以上休業した労働者がいた事業所の割合が 10.1%と前年度の 9.2%と比べて増加している。また、働き方の多様化や新型コロナウイルスの影響で、ストレス関連疾患や過労などの健康問題も深刻になってきている。こうした社会的背景により、心理的援助のみならず、関係者への助言や心の健康に対応するための情報提供が求められており、公認心理師などの専門家の活躍が求められている。また、専門家に限らず、一般社会人にも、広く心理的な問題を理解し、心理学の視点から社会的課題を解決していく力が期待されている。

地域に根差した大学として人材育成を行ってきた本学においては、それらの社会の課題に教育という形で応えることが使命であると考え。そのため、教育学部教育心理学科(入学定員 62 人)を改組し心理学部(心理学科)として独立させ、より専門的な知識・技能を備えた人材を多数輩出すべく、入学定員を 100 人、収容定員 400 人と設定した。

②教育学部教育学科の定員増

現在、幼稚園・保育園及び小中学校では、発達障害等を背景とした学習や行動に困難を抱える園児・児童が増加傾向にあり、教職員の適切な対応が求められている。また、【資料 2】からもわかるとおり、公立学校教員の受験者数は年々減少してきており、全国の学校で教員不足が問題視されている。教師不足の理由としては、近年の大量退職に伴う大量採用により、30 代以下の教員が増加したことにより産休・育休取得教員が増加していることや、特別な支援を擁する児童生徒の増加により学級数の見込みが立ちにくい特別支援学級数が増加していることなどに起因する。このような状況が現代の教育再生の課題となっており、深刻な教員不足の解消に貢献するため、学校教育に関する専門的な知識・技能を持ち高い実践的指導力を備えた教員をより多く養成することを目的に、入学定員を 75 人から 110 人（35 人増）、3 年次編入学定員を廃止、収容定員を 310 人から 440 人と設定した。

(3) 教育学部の志願状況

現行の教育学部は、現代の教育諸問題の解決と子どもの健全育成に寄与するため、教育実践力と人間関係能力に関する専門的知識・技能を教授することによって、誠実で教養豊かな人間性ととともにカウンセリング・マインドをもって子どもと向き合い、

教えることと心に寄り添いケアすることに専門性と実践力を発揮できる教育者を育成することを目的とし、初等教育学科と教育心理学科の二学科で平成 23(2011)年に開設した。

開設後は、教育プログラムの改革・改善や、様々なキャリア支援を行っていることなどが評価され、入試における一定の入学志願者数を維持してきた。過去 5 年間の入試における全学部の総志願倍率の平均【資料 3】は、令和元（2019）年度が 6.37 倍、令和 2（2020）年度が 6.08 倍、令和 3（2021）年度が 5.47 倍、令和 4（2022）年度が 5.14 倍、令和 5（2023）年度が 4.24 倍、であり、すべての年度において 4 倍を超える高い志願倍率を維持している。特に今回学則変更を申請する教育学科および心理学部心理学科の基礎となる教育心理学科については高い志願倍率を保っており、過去 5 年間の入試における志願倍率【資料 4】を比較すると、教育学科においては令和元（2019）年度が 9.83 倍、令和 2（2020）年度が 10.07 倍、令和 3（2021）年度が 8.28 倍、令和 4（2022）年度が 7.65 倍、令和 5（2023）年度が 6.03 倍であり、教育心理学科においては 6.85 倍、6.10 倍、6.02 倍、6.45 倍、4.68 倍である。このように両学科の志願倍率は高い水準を保っており、高校生からの進学需要は高い状態であるといえる。令和 5（2023）年度において、学科別・入試区分ごとに志願倍率を比較すると、下記のとおりどの入試区分においても倍率は 4 倍以上で多様な高校生からの進学需要があるといえる。

令和 5(2023)年度入試における志願倍率

	総合型	学校推薦型	一般	共通テスト
初等教育学科	5.76 倍	4.00 倍	8.24 倍	6.87 倍
教育心理学科	4.09 倍	3.78 倍	5.40 倍	6.33 倍

また、令和元（2019）年度より学生の定員管理を厳格化し、入学定員での学生受け入れを実施してきた。その結果、合格者数を抑えたため本学の入試が難化し、進学需要への対応が十分ではなくなっている。そのことは株式会社進研アドの過去 3 年分の本学教育学部初等教育学科及び教育心理学科の B 判定値【資料 5】を比較しても、2021 年度は初等教育学科の偏差値 56.3、教育心理学科の偏差値 53.6 であるが、2023 年度は初等教育学科の偏差値 57.0、教育心理学科の偏差値 55.3 と上昇していることから見て取れる。

以上のことから、教育学部教育心理学科を母体として新規設置となる心理学部(心理学科)及び定員増を計画している教育学部教育学科の学生確保は見込めると認識して

いる。

(4) 育成する人材ニーズ

次に、本学心理学部及び教育学部で育成する人材が地域社会から期待されているのかを確認するため、株式会社進研アドを通じて、岡山県、広島県、香川県を中心に本学学生の採用実績がある企業や卒業生就職先として想定される企業、教育委員会、民間の保育園・幼稚園等の人事関連業務に携わっている人を対象に採用意向のアンケート調査を行った。アンケート調査の概要は次のとおりである。

①心理学部心理学科

【資料 6】の 26、27 ページに記載されているが、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は 89.5%（348 企業・団体）であり、予定している入学定員 100 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。また、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「心理学部心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 583 名で、予定している入学定員数を大きく上回る採用意向がみられた。これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

次に、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会は合わせて 52.5%（62 企業・団体）である。「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会へ、「心理学部心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて 74 名である。

「心理学部心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は 71.4%（297 園・小学校）であり、予定している入学定員数 100 名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する小学校、中学校・高校、教育委員会の視点でみても、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

この結果からも、当該学科の要請する人材の需要は十分あると考える。

②教育学部教育学科

【資料 7】の 26、27 ページに記載されているが、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会は合わせて 95.8%（114 企業・団体）であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会へ、「教育学部 教育学科」

卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて 236 名で、予定している入学定員数を 2 倍以上上回っている。

また、「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は 94.7%（394 園・小学校）であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会の視点でみても、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は 82.3%（320 企業・団体）であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 535 名で、予定している入学定員数を 4 倍以上上回っている。

この結果からも、当該学科の要請する人材の需要は十分あると考える。

以上のことから、育成する人材ニーズは十分あると考え、心理学部(心理学科)の入学定員を 100 人、収容定員 400 人とし、教育学部教育学科の入学定員を 75 人から 110 人（35 人増）、3 年次編入学定員を廃止、収容定員を 310 人から 440 人と設定した。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

本学では、開設するすべての学部・学科の教育課程は、「総合教養教育科目」「外国語教育科目」「専門教育科目」の 3 科目区分から編成しており、今回の心理学部の設置及び教育学部教育学科の収容定員増においてもその編成方針に変更はない。また、学科によっては資格取得のための科目を設定している。

①総合教養教育科目

総合教養教育科目は、全学共通の科目区分である（一部例外をのぞく）。教育課程は、「グローバル社会で活躍できるように学問の裾野を広げ、様々な角度から物事を見ることのできる能力、自主的、総合的に考え適確に判断する論理的思考力と問題解決力ならびに豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置付けることのできる人材を育てること」を目的としており、「初年次教育科目」「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「健康・スポーツ科目」「情報科目」「語学・グローバル科目」「学際領域科目」「導入科目・技能科目・その他」に区分される。全学

共通科目として、「スタートアップ就実」「数理・データサイエンス基礎」「情報リテラシー」の3科目を設定している。「スタートアップ就実」（必修科目）では入学直後の学生が大学での学修や生活を円滑にスタートできるよう「自校教育」「仲間づくり・人権」「キャリア・ライフデザイン」の3分野を通じて、大学生に必要なスキルを早い段階から学ぶ。

「数理・データサイエンス基礎」「情報リテラシー」（必修科目）は「就実大学数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム」を構成する科目である。「数理・データサイエンス基礎」は「数理・データサイエンス・AI に関する基礎知識を身に付け、データを適切に読み解く力・データを適切に説明する力・データを扱うための力を養うこと」を目的とする。「情報リテラシー」は「PC 操作の基礎知識および基本的な技能を幅広く習得すること、さらに情報化社会において各種データを扱い保護する上で必要なモラルやセキュリティに関する知識を習得すること」を目的としている。

以上の3科目は大学生全員が必ず履修する科目であり、「数理・データサイエンス基礎」「情報リテラシー」は全授業回、「スタートアップ就実」はグループワーク以外がオンデマンド科目である。定員増により履修者数が増加するが教育の質の維持に努める。

②外国語教育科目

外国語教育科目は「グローバル社会で活躍できるように学問の裾野を広げ、様々な角度から物事を見ることのできる能力、自主的、総合的に考え適確に判断する論理的思考力と問題解決力ならびに豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置付けることのできる人材を育てること」を目的としている。

(1) 心理学部(心理学科)

教育課程については、既存の教育学部教育心理学科の教育課程を継承する。必修科目として「English Reading I～IV」を設定しているが、定員が増えることから、開講クラス数を増やすことで対応する。

(2) 教育学部教育学科

今回の定員増にあたり、教育課程の変更は行わない。学科の必修科目として「English Reading I～IV」を設定しているが、定員増にあたり、開講クラス数を増やすことで対応する。

③専門教育科目

(1) 心理学部(心理学科)

教育課程については、既存の教育学部教育心理学科の教育課程を基礎心理学の分野に広げる形で継承する。取得できる資格については、大きな変更はない。心理学

部心理学科では、「人の心と行動、心身の健康状態を多角的な視点から理解し、立場の異なる人との対話を通して、支えケアすること及び、主体的・協働的に課題を解決することに心理学の専門知識や技能を活用できる人材を育成することを目的とし、社会及び個人の幸福の実現に貢献する。」という教育理念を実現するために、社会人としての汎用的な力（心理学に基づいた、多角的な人間理解、傾聴力・対話力、データ収集・分析力、自己管理力、批判的実証的態度、振り返る力）を備え、心理支援、養護・看護の高度な専門的知識・技能を身に付け、広い視野を持った人材を育成することを目的としている。

心理学部における専門教育科目は、学生が自己の学習目標に焦点を当て、心理学における専門的な知識を深めていくために、「心理学導入科目」、「専門基礎科目」、「専門発展科目」の三つの科目区分から編成される。

「心理学導入科目」は、学生が大学での学びの基盤と心理学への導入となる基礎的な科目で構成され、総合的な学問的視野や将来の専門分野での学びに備え社会で活躍するために必要な基盤を形成するために、また、科学的な思考や研究スキルを向上させることを目指すために配置される。具体的には、大学での自らの学びの見通しを得て、専門的な学問を学修するために不可欠なアカデミックスキルズ、心理学の学びに必要な基本、心の構造や機能、行動の基本原則等に関する理解を深め、各々の専門領域へ進むための基盤を築くことができるよう構成される。

「専門基礎科目」は、本学部を中心となる学問領域（教育心理学・健康心理学・社会心理学・基礎心理学・臨床心理学・養護教育学）を中心として複数の学問分野を学ぶことで自らの重点目標の入り口としての役割を担っており、心理学の主要な学問領域に焦点を当てた基礎的な知識を身に着けるために配置される。これら学問領域を総合的に学ぶことで、広範で包括的な学びを促進させ、また、学生は興味や将来のキャリアの方向に応じて科目を柔軟に選択することで、理解を深めると同時に実践的な演習へと繋げられるように構成されている。

「専門発展科目」は、より高度な専門知識とスキルを磨くために配置される。当カテゴリーでは具体的な研究領域や応用分野に焦点を当てた科目が含まれ、学生は独自の視点から心理学の理解を深め、社会においてその専門知識を実践的に活用する能力を養うことができるように配置されている。また、学生のキャリアに応じた専門性を発展させ、卒業研究へ繋げられるように構成されている。

このように心理学部の教育課程は、教育の方針に基づき体系的に編成されており、心理学における広範で総合的な知識を構築し、同時に自らの興味や目標に従って深化させ、実践的な視点から社会に貢献できる人材を育成できるように構成される。

(2) 教育学部教育学科

今回の定員増にあたり、大幅な教育課程の変更は行わない。

教育学部教育学科では「子供たちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができるようにするために、保育・教育者としての優れた実践的指導力と自らの成長を創り出す力を備えた、共生社会の形成に貢献できる人材を育成する。」という教育理念を実現するために、広く豊かな教養を有し、コミュニケーション力・リーダーシップを有し、使命感・向上心を身につけた人材を育成することを目的としている。今回の定員変更において、この人材育成及びその他教育研究上の目的の変更は行わない。

前述のとおり、教育課程については変更を行わない。より学修効果を高めるために卒業後の進路に対応した履修モデルとして 3 つのコース（①乳幼児教育コース、②小学校教育コース、③特別支援教育コース）を導入する。各コースでは、①乳幼児教育コースでは、乳幼児教育の基礎的知識・技能を身に付けるとともに、保育所や認定こども園、幼稚園等の保育者として、小学校教育以降の育ちに見通しをもちながら、保育現場の様々なニーズや課題に取り組み、乳幼児期に必要な豊かな体験を創造できる人材の育成を目的とする。②小学校教育コースでは、小学校教育の基礎的知識・技能を身に付けるとともに、小学校の教員として、児童一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援、また、幼児期の教育及び中学校の教育との円滑な接続を意識した指導や支援ができる人材の育成を目的とする。③特別支援教育コースでは、特別支援教育の基礎的知識・技能を身に付けるとともに、特別支援学校の教員として、様々な障害による特別の支援ならびに教育的ニーズを理解し、子供の自立と社会参加に向けた取り組みを支援できる人材の育成を目的とする。卒業要件に変更がないが、コース制度を導入することにより、学生に学修目標をより明確に持たせることができるようになり、社会的要請に応えられる知識・技能の習得を目指すこととする。

コース制の導入により、現在は時間割上難しい幼稚園教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状の併有を可能とするため、時間割の見直しを行う。

(イ)教育方法及び履修指導方法の変更内容

(1) 心理学部(心理学科)

1 年次は心理学を広く理解するために、心理学の基本的理論・概念、大学での学びの基礎を作ることを目的としている。必修科目として「初年次教育Ⅰ」「初年次教育Ⅱ」を開講する。「初年次教育Ⅰ」では心理学科で学びを深めるために必要な知識

や方法を理解するとともに、能動的学びへ向けた基本的な学び方、特に課題に応じた情報や文献の検索方法、クリティカルリーディング、アカデミックライティング等の大学での能動的学び求められるアカデミックスキルの習得を目指す。「初年次教育Ⅱ」では、他者の意見・価値観を理解・尊重しながら、自己の意見を述べる練習を行い、プレゼンテーション能力の向上も図る。また同じく必修科目である、「心理学概論」においては、心理学の基本的な知見を学ぶことで、素朴な心の理解から、専門知にもとづく心の理解への移行を促し、多様な領域の教養を得ることを学ぶ。

2年次では学びの軸を定め、専門基礎知識・スキルを身に付けることを目的とし、目指す資格の科目、軸としたい分野の専門基礎科目を受講する設定となっている。必修科目である「発達心理学」では、修得した知識やスキルを、実際の心理支援活動や教育活動に活かすため、関連した幅広い専門知識を獲得することができるようになる。

3年次では、取得する資格や軸とする分野の専門知識を深め、実践スキルを磨くことを目的としている。主要授業科目である「心理学課題演習 1」では、心理支援や臨床心理学の基礎的な知識をもとに、心の健康に関する適切な情報提供、さまざまなストレスへの対処スキルなど地域生活の中で役立てられる実践力を身に付けることを目的とする。また、必修科目である「心理学ゼミナールⅠ」「心理学ゼミナールⅡ」では、4年次の卒業研究に向けて、研究の基本的スキルを身に付け、具体的な研究計画の概要を作成することを目的としている。

4年次では、4年間の学びをまとめ、主体的に社会に踏み出すことを目的とし、必修科目として「心理学ゼミナールⅢ」「心理学ゼミナールⅣ」「卒業研究」を配置している。「心理学ゼミナールⅢ」「心理学ゼミナールⅣ」では「心理学ゼミナールⅠ」「心理学ゼミナールⅡ」での経験を踏まえ、研究計画を遂行し着実に研究を行うことを目的としている。「卒業研究」では、学びの総括として教育・健康心理、社会・産業心理、心理データサイエンス、臨床心理におけるテーマを設定した上で、アンケート調査、インタビュー調査、実証実験、質的研究、文献調査、フィールドワーク、公開データの統計解析などを実施し、研究結果を分析・考察し、卒業論文にまとめ、今までに修得した知識やスキルを活かし、自ら課題を見つけることを行う。

(2) 教育学部教育学科

教育課程において変更はなく、教育方法及び履修指導方法についても変更はない。クラス分けで行う演習科目等については、クラスを増やして実施することにより、学生に不利益がでないように配慮する。3コース制を導入することにより、早い時期に学生の目標が定まるため、目標に沿った指導を行うことが可能となる。

(ウ)教員組織の変更内容

今般の収容定員に係る学則変更を行う学部・学科及び大学全体における基幹教員数は、大学設置基準上の必要教員数を上回っている。本学の基幹教員はすべて大学設置基準第8条に定める専ら教員によって構成されている。また、ST比についても後述のとおり同程度である。収容定員に係る学則変更の前後において、教員組織体制の低下はない。収容定員変更を行わない既存の学部・学科の教員組織はそのまま維持されるため、他学科への影響も皆無である。【資料8】

(1) 心理学部(心理学科)

心理学科では、基準教員10人(内教授5人)に対し、19人(内教授5人)の基幹教員を配置する。職位種別には教授5人、准教授7人、講師6人、助教1人で構成する。基幹教員は、令和7年度に学生募集を停止する既存の教育学部教育心理学科の教員および併設の就実短期大学からの移行教員が9割近くを占め、残りは新規採用を行うことから、心理学部が設置されることにより他学部等の教員組織に与える影響はない。既存の教育心理学科のST比は17.7であり、心理学科の完成年度におけるST比は21.1となる。主要授業科目である「心理学ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」および「卒業研究」のクラス増には、この教員体制で対応が可能である。心理学科のST比の妥当性を検討するために近隣の競合校のデータを確認することとした。競合校は既存の教育学部教育心理学科と併願されることが多く、心理学科においても併願されられると思われる近隣の大学から6校を選んだ。令和5(2023)年度の競合校の心理系学部のST比は平均値23.7であり、本学科のST比は21.1と高くない数値であることからST比の面からも適正と考える。以上により、定員変更前に比して、同等以上の教員組織が担保できていると判断できる。【資料9】

(2) 教育学部教育学科

教育学部教育学科は、基準教員10人(内教授5人)に対し、基幹教員25人(内教授12人)で構成しており、大学設置基準上の人数を十分満たしている。入学定員の増加による新採用での教員補充は行わないが、併設する就実短期大学幼児教育学科が令和7(2025)年度より学生募集停止することに伴い、同所属の教員が移籍をすることになっている。定員変更1年目の令和7(2025)年度は3人が先行して移籍し、令和8(2026)年度には全教員が移籍をする予定である。教員補充が計画通りに進んだ場合は、完成年度である令和10(2028)年度の教員配置は、教授12人、准教授8人、講師5人の計25人とし、教育活動に支障がないように配慮した教員組織を計画している。

令和5(2023)年度現在のST比は18.2であり、令和10(2028)年度のST比は17.6で

あるため、定員変更前に比して、同等以上の教員組織が担保できていると判断できる。

【資料 9】

(エ)大学全体の施設・設備の変更内容

① 校地・運動場

本学の西川原キャンパス（岡山県岡山市中区西川原）は、JR 岡山駅の北東 2km、岡山後楽園から旭川沿い北 1km に位置し、岡山駅から 1 駅にある最寄り駅の JR「西川原・就実」駅からは徒歩 1 分という場所にある。「西川原・就実駅」から大学の正面玄関へ続くプロムナードが令和 3(2021)年 1 月に完成し、利便性がアップした。

校地面積は、短期大学との共用部分も含めて 40,089.42 m²を有しており、学内の中心地に位置するスクエアコモンズを中心に、学生の休息できる場所が多く確保され大学教育にふさわしい環境を整えている。基準校地面積は 30,200 m²であり基準を満たしている。【資料 10】

運動場は、西川原キャンパスから 300mほどのところに位置するサブグラウンド（4,474.87 m²）と、2 kmのところに位置する祇園グラウンドがあり、サブグラウンドは、主に授業で使用し、祇園グラウンド（47,011.81 m²）は照明設備を完備した野球場、多目的に使用できる人工芝の陸上競技場、3 面のテニスコートを整備しており、主に課外活動に利用している。

② 施設・設備

本学では、平成 27(2015)年 8 月から 3 期に分けて耐震改築を行い令和 3(2021)年 1 月にすべて完了し 12 棟の校舎となった。平成 25(2013)年度 改築前 33,028 m²であった校舎面積は、これからの大学の新しい展開を視野に、講義室の拡張・充実を行い、53,135.97 m²とした。各サイズ（大・中・小）の教室には、一部のセミナー室を除き、プロジェクター、書画カメラ（OHC）、DVD 再生装置等を設置しており、大・中教室には大型のスクリーンや視聴覚設備、学生証 IC カードによる出席管理システムを配備している。基準校舎面積は 20,162.5 m²であり、基準を大きく上回っている。

【資料 10】

情報教室（8 室、総面積 1,309.39 m²）にはパソコン 429 台を設置しており、学生が講義以外でも自由に利用することができる。また、学内全域で Wi-Fi が利用できるネットワーク環境を整備し、個人所有のノートパソコンやタブレットを接続することができ、対面の講義や自主学習の際に利用するだけでなく、オンデマンド授業を学内で受講する際にも利用することができる。

学生の学修・協働・発信・交流スペースとしては、学内の各所にコモンズを配備し、3 期に完成した A 館には、ひかりてらす、情報ラウンジ、学習室等、学生が思い思いに活用できる場が充実している。

また、本学の図書館では、これまで図書等の資料を、計画的かつ継続的な整備に努めてきており専門図書、学術雑誌等を含め約 375,000 冊の整備がなされている。これらを有効的に利用することにより、教育に支障をきたすことはないと考えている。

12 棟の校舎、図書館以外に、学生食堂を設けた学生会館 (3,624 m²)、トレーニングルームが充実した体育館 (2,820.41 m²) を整備し、学生の福利厚生環境整備の充実に努めている。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限指針を定め、教室の CO2 測定を基に換気機能の強化し、教室の環境整備に努めている。

これらのことから、収容定員を変更した場合でも、教育・研究上の支障はないものと考えているが、今後とも必要に応じて施設・設備の継続的な整備と充実に努める。

【添付資料】教育課程等の概要（別紙様式第 2 号その 2 の 1）

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料） 目次

【資料 1】メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者がいた事業所割合

【資料 2】公立学校教員採用選考試験の実施状況

【資料 3】過去5年間の入試概要（就実大学全体）

【資料 4】過去5年間の入試概要（教育学部）

【資料 5】株式会社進研アドの本学教育学部のB判定値

【資料 6】入学定員増に関するニーズ調査 結果報告書（就職先対象）（心理学部）

【資料 7】入学定員増に関するニーズ調査 結果報告書（就職先対象）（教育学部）

【資料 8】完成年度における設置基準教員数一覧

【資料 9】学則変更を申請する学科のST比（近隣校との比較）

【資料 10】基準校舎・校地面積

【添付資料】教育課程等の概要（心理学部心理学科）

教育課程等の概要（教育学部教育学科）

1. (書類等の題名)

【資料 1】メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者がいた事業所割合

2. (出典)

厚生労働省 「令和4年 労働安全衛生調査(実態調査)」

3. (引用範囲)

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/r04-46-50_gaikyo.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 2】公立学校教員採用選考試験の実施状況

2. (出典)

文部科学省 「優れた教師人材の確保に向けた奨学金返還支援の在り方について関連資料」

3. (引用範囲)

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoo/content/20231204-mxt_kyoikujinzai01-000032933_04-1.pdf

【資料 3】過去5年間の入試概要(就実大学全体)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人文科学部	入学定員	225	235	235	235	235
	志願者数	1,228	1,275	1,084	991	877
	合格者数	493	559	630	714	652
	入学者数	227	227	231	280	265
	志願倍率	5.46	5.43	4.61	4.22	3.73
教育学部	入学定員	135	137	137	137	137
	志願者数	1,162	1,133	994	974	742
	合格者数	392	441	402	460	448
	入学者数	138	159	138	159	167
	志願倍率	8.61	8.27	7.26	7.11	5.42
経営学部	入学定員	80	100	100	100	160
	志願者数	783	687	649	535	671
	合格者数	173	207	219	221	382
	入学者数	79	101	98	111	167
	志願倍率	9.79	6.87	6.49	5.35	4.19
薬学部	入学定員	120	100	100	100	100
	志願者数	394	383	400	441	387
	合格者数	323	328	332	385	357
	入学者数	94	83	82	101	80
	志願倍率	3.28	3.83	4.00	4.41	3.87
合計	入学定員	560	572	572	572	632
	志願者数	3,567	3,478	3,127	2,941	2,677
	合格者数	1,381	1,535	1,583	1,780	1,839
	県内高校卒業生	17,520	17,257	16,792	16,274	15,822
	入学者数	538	570	549	651	679
	志願倍率	6.37	6.08	5.47	5.14	4.24

就実大学入試結果より。

県内高校卒業生数は岡山県学校基本調査参照

【資料 4】過去5年間の入試概要（教育学部）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
初等教育学科	入学定員	75	75	75	75	75
	志願者数	737	755	621	574	452
	合格者数	220	256	242	276	276
	入学者数	72	83	77	79	94
	志願倍率	9.83	10.07	8.28	7.65	6.03
教育心理学科	入学定員	62	62	62	62	62
	志願者数	425	378	373	400	290
	合格者数	172	185	160	184	172
	入学者数	66	76	61	80	73
	志願倍率	6.85	6.10	6.02	6.45	4.68
合計	入学定員	137	137	137	137	137
	志願者数	1,162	1,133	994	974	742
	合格者数	392	441	402	460	448
	県内高校卒業生	17,520	17,257	16,792	16,274	15,822
	入学者数	138	159	138	159	167
	志願倍率	8.48	8.27	7.26	7.11	5.42

就実大学入試結果より。

初等教育学科は教育学科へ令和7年度名称変更予定。

1. (書類等の題名)

【資料 5】株式会社進研アドの本学教育学部のB判定値

2. (出典)

株式会社進研アド マナビジョン

3. (引用範囲)

<https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/nyushi/hantei/2022/3nen4k/shi-chushi.html>

<https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/nyushi/hantei/2023/3nen4k/shi-chushi.html>

<https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/nyushi/hantei/2024/3nen4k/shi-chushi.html>

4. (その他の説明)

上記のデータを加工し、表にまとめた。

就実大学
「心理学部 心理学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【就職先対象調査】

令和6年3月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2025年4月開設予定の就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)の設置構想に関して、企業・団体、教育委員会、校長・園長からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査		
		調査①	調査②	調査③
調査対象		企業・団体の 採用担当者	教育委員会	校長・園長
調査エリア		兵庫県、鳥取県、 島根県、岡山県、 広島県、山口県、 徳島県、香川県、 愛媛県、高知県	岡山県	岡山県、香川県
調査方法		郵送調査		
調査 対象数	依頼数	1,171企業・団体	22団体	821園・小学校
	回収数 (回収率)	499企業・団体 (42.6%)	10団体 (45.5%)	416園・小学校 (50.7%)
調査時期		2023年11月1日(水)～2023年12月8日(金)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

3. 調査項目

企業・団体対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本社所在地
- ・ 業種
- ・ 正規社員の従業員数
- ・ 正規社員の平均採用人数
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 採用したい学問分野
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

教育委員会対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本部所在地
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の教育現場における必要性
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する採用意向
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する年間の採用想定人数

校長・園長対象調査

- ・ 学校設置区分(国公私)
- ・ 学校設置区分(園・小学校)
- ・ 所在地(県)
- ・ 所在地(市町村)
- ・ 回答者の職名
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の学びの内容に対する教育現場における必要性
- ・ 就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

採用意向調査 調査結果 (企業・団体)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業・団体全体(499企業・団体)

回答企業・団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、499企業・団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は33.7%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が54.3%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業・団体の本社(本部)所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が64.5%と最も多く、次いで「広島県」が15.6%、「香川県」が7.8%と続く。
- 回答企業・団体の業種としては「卸売・小売業」が22.4%で最も多い。次いで「幼稚園・保育園・こども園」が21.6%、「製造業」が14.0%と続く。
- 回答企業・団体の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が38.1%と最も多く、次いで「50名未満」が26.3%、「50名～100名未満」が20.6%と続く。半数超は、100名以上の比較的規模が大きい企業・団体である。

回答企業・団体の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業・団体の平均的な正規社員の採用人数は「1名～5名未満」が42.1%と最も多く、次いで「5名～10名未満」が20.8%、「10名～20名未満」が17.4%と続く。毎年正規社員を採用している企業・団体がほとんどである。
- 回答企業・団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が63.7%と最も多く、次いで「増やす」が27.3%である。回答企業・団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業・団体の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が41.5%で最も高い。

「心理学部 心理学科」の学びと関連する学問分野で最も高いのは「心理学」で21.0%である。「養護教諭養成課程」は5.8%である。

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	あり、採用の決定権が かわつていない	ない、採用の決定権は かわつていない	提供か採用 見かを するを 収集 する 場 に あ る	無 回 答
全体	499	33.7 168	54.3 271	9.6 48	2.4 12

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	東 京 都	愛 知 県	大 阪 府	兵 庫 県	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	広 島 県	山 口 県	香 川 県	愛 媛 県	高 知 県	無 回 答
全体	499	2.6 13	0.2 1	0.8 4	2.2 11	1.6 8	2.0 10	64.5 322	15.6 78	0.8 4	7.8 39	1.4 7	0.4 2	0.0 0

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	学教育 習支 関連 業・ 業・	こ 幼 稚 園 ・ 保 育 園 ・	小 学 校	中 学 校 ・ 高 校	医 療 ・ 福 祉	建 設 業	製 造 業	卸 売 ・ 小 売 業	情 報 通 信 業
全体	499	1.2 6	21.6 108	0.2 1	0.2 1	10.6 53	3.2 16	14.0 70	22.4 112	3.2 16

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	観飲 光食 業・ 宿 泊 業 ・	不金 動融 産業 ・ 保 險 業 ・	旅運 客輸 業・ 鉄 道 業 ・	熱電 供給 ・ガ ス・ 水 道 業	事複 業合 サー ビス	サー ビス 業	公 務	そ の 他	無 回 答
全体	499	2.6 13	4.4 22	3.4 17	1.0 5	1.2 6	6.4 32	0.4 2	3.8 19	0.0 0

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 0 名 名 未 満	未 1 5 満 , 0 0 0 0 名 名	5 1 , , 0 0 0 0 名 名 未 未 満	5 , 0 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)								
全体	499	26.3 131	20.6 103	38.1 190	6.6 33	6.2 31	1.8 9	0.4 2

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 名 名 未 未 満	1 5 0 名 名 未 満	2 1 0 0 0 名 名 未 満	3 2 0 0 0 名 名 未 満	5 3 0 0 0 名 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	1 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	1.0 5	42.1 210	20.8 104	17.4 87	8.0 40	4.4 22	3.2 16	3.0 15	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)						
全体	499	27.3 136	63.7 318	3.2 16	5.8 29	0.0 0

採用したい学問分野

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	心 理 学	教 育 学 関 係 (教 育 学、 教 科 教 育 学 な ど)	(幼 稚 園 教 員 養 成 課 程)	(小 学 校 教 員 養 成 課 程)	中 学 校 課 程・ 高 等 学 校 課 程	特 別 教 科 課 程 (書 道・ 美 術・ 工 芸 な ど)	特 別 支 援 教 育 課 程 (盲 学 校、 聾 学 校、 障 害 児 教 育 な ど)	養 護 教 諭 養 成 課 程	教 育 学 そ の 他 (保 育 学、 乳 幼 児 教 育 学 な ど)
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	21.0 105	15.6 78	24.0 120	7.6 38	5.6 28	3.4 17	14.6 73	5.8 29	22.6 113

	標 本 数	文 学・ 史 学	哲 学 (心 理 学 を 除 く)	経 済 学、 社 会 学 な ど	保 健 (医 学、 歯 学、 薬 学、 看 護 学 な ど)	理 学・ 工 学 (数 学、 化 学、 物 理 工 学 な ど)	農 学・ 農 学、 水 産 学 な ど	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	6.4 32	2.2 11	15.4 77	10.6 53	13.8 69	7.2 36	7.2 36	41.5 207	0.2 1

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- ・「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「C. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」(89.0%)。「D. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。」は86.8%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色C. 〈心理学部 心理学科〉心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色D. 〈心理学部 心理学科〉学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。

		標 本 数	魅 と 力 を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ な い	魅 ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業・団体)								
心理学部 心理学科	特色C	499	33.3	55.7	9.6	0.6	89.0	0.8
			166	278	48	3	444	4
	特色D	499	32.9	53.9	11.2	1.0	86.8	1.0
			164	269	56	5	433	5

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「心理学部 心理学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性

- ・「心理学部 心理学科」について「必要だと思う」と回答した企業・団体は94.8% (473企業・団体)であり、多くの企業・団体がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体は80.8% (403企業・団体)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体へ、「心理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**649名**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇業種別

- ・業種を「一般企業」に絞った場合の採用意向は、89.5% (389企業・団体中、**348企業・団体**)。採用想定人数の合計は**583名**で、予定している入学定員数を5倍以上上回っている。
- ・業種を「幼稚園、保育園、子ども園」に絞った場合の採用意向は、50.0% (108企業・団体中、**54企業・団体**)。採用想定人数の合計は**66名**である。

就実大学「心理学部 心理学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	499	94.8 473	4.6 23	0.6 3

■就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	499	80.8 403	17.0 85	2.2 11



「採用したいと思う」と答えた403企業・団体のみ抽出

■就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	⇒	(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 を 示 し た 企 業 ・ 採 用 想 定 団 体 人 数 ・ 計 計
全 体	403	%	66.5%	17.4%	6.5%	0.5%	3.2%	2.2%			
		企業・団体数	268	70	26	2	13	9			
		名	268	140	78	8	65	90			
											388
											649

※%の母数は、「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体
(403企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

企業・団体
対象

就実大学「心理学部 心理学科」の 採用想定人数＜属性別＞

■就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数 ＜属性別＞

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上		(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 を 計 計 し た 企 業 ・ 団 体 数 を お よ び 採 用 想 定 人 数 を 計 計
一般企業	348	%	64.4%	18.4%	7.5%	0.6%	3.7%	2.3%	⇒	
		企業・団体数	224	64	26	2	13	8		337
		名	224	128	78	8	65	80		583
幼稚園・ 保育園・ こども園	54	%	81.5%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	⇒	
		企業・団体数	44	6	0	0	0	1		51
		名	44	12	0	0	0	10		66

※%の母数は、「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」かつ
業種が「一般企業」と回答した企業・団体(348企業・団体)
「幼稚園、保育園、子ども園」と回答した企業・団体(54企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (教育委員会)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答団体全体(10団体)

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

回答団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、10団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は20.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が30.0%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答団体の本部所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が100.0%である。

本年度の採用予定数

- 回答団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が40.0%と最も多く、次いで「増やす」が20.0%である。回答団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	かあり、採用の決裁権が かわつて選考している	かな採用の決裁権 にかわつて選考している	提意見か採用時 供見かを収めず、直 接情報や	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)					
全体	10	20.0 2	30.0 3	50.0 5	0.0 0

■本部所在地

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	岡 山 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)			
全体	10	100.0 10	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)						
全体	10	20.0 2	40.0 4	10.0 1	20.0 2	10.0 1

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- ・「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、「Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」「Ⅳ. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。」はいずれも100.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅲ. 〈心理学部 心理学科〉心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色Ⅳ. 〈心理学部 心理学科〉心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。

上段: % 下段: 件数(団体)		標 本 数	魅 と も を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ な い	魅 ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
心理学部 心理学科	特色Ⅲ	10	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			2	8	0	0	10	0
	特色Ⅳ	10	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			6	4	0	0	10	0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の教育現場に おける必要性

- 「心理学部 心理学科」が養成する人材について「必要だと思う」と回答した団体は100.0% (10団体) であり、多くの団体がこれからの教育現場にとって必要な人材と捉えていることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する 採用意向/年間の採用想定人数

- 「心理学部 心理学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体は80.0% (8団体) である。
- 「心理学部 心理学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体へ、「心理学部 心理学科」が養成する人材の採用を年間何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は8名である。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の教育現場における必要性

Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	10	100.0 10	0.0 0	0.0 0

■就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する採用意向

Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	10	80.0 8	0.0 0	20.0 2



「採用したいと思う」と答えた8団体のみ抽出

■就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の年間の採用想定人数

Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	
		%	62.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
全体	8	団体数	5	0	1	0	0	0	⇒ 6
		名	5	0	3	0	0	0	8

※%の母数は、「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した団体
(8団体)

※ 年間の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (校長・園長)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答園・小学校全体(416園・小学校)

回答園・小学校(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される園・小学校の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、416園・小学校から回答を得た。

- 回答者の学校設置区分(国公私)は、「国立」が1.2%、「公立」が98.6%である。
- 回答者の学校設置区分(園・小学校)は、「幼稚園」が25.2%、「保育園」が8.2%、「子ども園」が4.8%、「小学校」が61.5%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(県)は、就実大学の所在地である「岡山県」が83.7%、「香川県」が16.3%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(市町村)は、「岡山市」が26.7%で最も多く、次いで「倉敷市」が14.9%、「高松市」が5.8%と続く。
- 回答者の職名は「校長(園長)」が72.4%で最も多く、次いで「教頭」が20.0%と続く。

回答園・小学校(回答者)の属性

■学校設置区分(国公私)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
全体	416	1.2 5	98.6 410	0.0 0	0.2 1

■学校設置区分(園・小学校)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	幼 稚 園	保 育 園	子 ど も 園	小 学 校	無 回 答
全体	416	25.2 105	8.2 34	4.8 20	61.5 256	0.2 1

■所在地(県)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	岡 山 県	香 川 県	無 回 答
全体	416	83.7 348	16.3 68	0.0 0

回答園・小学校(回答者)の属性

■所在地(市町村)

	標 本 数	岡 山 市	倉 敷 市	総 社 市	赤 磐 市	津 山 市	真 庭 市	高 梁 市	新 見 市	玉 野 市	井 原 市	美 作 市	笠 岡 市	瀬 戸 内 市	浅 口 市	吉 備 中 央 町
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	26.7 111	14.9 62	4.8 20	4.1 17	4.1 17	3.6 15	3.4 14	2.9 12	2.4 10	2.2 9	1.9 8	1.7 7	1.7 7	1.7 7	1.4 6

	標 本 数	備 前 市	和 気 町	鏡 野 町	矢 掛 町	美 咲 町	英 田 郡 西 栗 倉 村	久 米 南 町	勝 央 町	小 倉 島 町	小 田 郡 矢 掛 町	浅 口 郡 里 庄 町	都 窪 郡 早 島 町	奈 義 町	高 松 市	丸 亀 市
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.2 5	1.0 4	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	5.8 24	1.4 6

	標 本 数	三 豊 市	観 音 寺 市	坂 出 市	さ ぬ き 市	ま ん の う 町	善 通 寺 市	多 度 津 町	東 か が わ 市	小 豆 島 町	綾 川 町	宇 多 津 町	三 木 町	直 島 町	木 田 郡 三 木 町	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.7 7	1.2 5	1.2 5	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1

■回答者の職名

	標 本 数	校 長 (園 長)	副 校 長 (副 園 長)	教 頭	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)						
全体	416	72.4 301	1.9 8	20.0 83	4.8 20	1.0 4

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- ・「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「Ⅳ. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。」(97.4%)。「Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」は94.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
学びの内容について、魅力的に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅲ. 〈心理学部 心理学科〉心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色Ⅳ. 〈心理学部 心理学科〉心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。

		標 本 数	魅 力 的 に 感 じ る	感 魅 じ 力 な い に は	無 回 答
上段: % 下段: 件数(園・小学校)					
心理学部 心理学科	特色Ⅲ	416	94.0	5.5	0.5
			391	23	2
心理学部 心理学科	特色Ⅳ	416	97.4	2.4	0.2
			405	10	1

就実大学「心理学部 心理学科」の学びの教育現場における必要性/勤務意向

就実大学「心理学部 心理学科」の学びの教育現場における必要性

- ・「心理学部 心理学科」の学びについて「必要だと思う」と回答した園・小学校は99.0% (412園・小学校)であり、多くの園・小学校が教育現場にとって必要な学びと捉えていることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- ・「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は71.4% (297園・小学校)であり、予定している入学定員数100名を上回る勤務意向がみられた。

■就実大学「心理学部 心理学科」の学びの教育現場における必要性

Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	必要だと思う	必要だと思わない	無回答
全体	416	99.0 412	0.5 2	0.5 2

■就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)
※「②心理学部 心理学科」について、貴校・貴園では養護教諭が勤務する機会がない場合は、「3.勤務する機会がない」をお選びください。

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	勤務してほしいと思う	勤務してほしいとは思わない	勤務する機会がない	無回答
全体	416	71.4 297	0.7 3	25.5 106	2.4 10

採用意向調査 調査結果まとめ



就実大学「心理学部 心理学科」の 採用意向/採用想定人数

【企業・団体(一般企業)】

就実大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- 「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は89.5%
(348企業・団体)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- 「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「心理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**583名**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

これらのことから、一般企業の視点から見た場合、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」の 採用意向/採用想定人数/勤務意向

【企業・団体(幼稚園、保育園、子ども園)、教育委員会】 就実大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会は合わせて52.5% (62企業・団体)である。
- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会へ、「心理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて74名である。

【校長・園長】 就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- ・「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は71.4% (297園・小学校)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する小学校、中学校・高校、教育委員会の視点でも、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でも、安定した人材需要があることがうかがえる。

巻末資料 調査票



就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では2025年(令和7年)4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開
設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大
学や学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定
することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
(いずれも仮称、新学部構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 教育関連業・学習支援業	7. 製造業	13. 電気・ガス・熱供給・水道業
2. 幼稚園・保育園・こども園	8. 卸売・小売業	14. 複合サービス事業
3. 小学校	9. 情報通信業	15. サービス業
4. 中学校・高校	10. 飲食業・宿泊業・観光業	16. 公務
5. 医療・福祉	11. 金融業・保険業・不動産業	17. その他
6. 建設業	12. 運輸業・鉄道業・旅客運輸業	

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 50名未満	3. 100名～500名未満	5. 1,000名～5,000名未満
2. 50名～100名未満	4. 500名～1,000名未満	6. 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 0名	4. 10名～20名未満	7. 50名～100名未満
2. 1名～5名未満	5. 20名～30名未満	8. 100名以上
3. 5名～10名未満	6. 30名～50名未満	

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす	2. 昨年度並み	3. 減らす	4. 未定

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 心理学	7. 特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害児教育など)	13. 保健(医学、歯学、薬学、看護学など)
2. 教育学関係(教育学、教科教育学など)	8. 養護教諭養成課程	14. 理学・工学(数学、化学、物理工学など)
3. 幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)	9. 教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)	15. 農学(農学、林学、水産学など)
4. 小学校課程(小学校教員養成課程)	10. 文学・史学	16. その他
5. 中学校課程・高等学校課程	11. 哲学(心理学を除く)	17. 学んだ学問分野にはこだわらない
6. 特別教科課程(書道・美術・工芸など)	12. 社会科学(法学、商学・経済学、社会学など)	

裏面へ続く→

就実大学では、2025年(令和7年)4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

- Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	○○である。	→	1	2	3	4
教育学部	A. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	→	1	2	3	4
教育学科	B. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学部	C. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学科	D. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。	→	1	2	3	4

- Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を
卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
教育学部 教育学科	→	1	2	3	4	5	6
心理学部 心理学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

調査票(教育委員会)

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは、貴団体の採用に関わる皆様からご意見をお伺いし、より充実した学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することはありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

本部所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。
(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす
2. 昨年度並み
3. 減らす
4. 未定

就実大学では、2025(令和7)年4月に、新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

調査票(教育委員会)

- Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、
以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	まったく 魅力を感じ ない
例.	○○である。	⇒ 1	2	3	4
教育学部 教育学科	I. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2	3	4
教育学部 教育学科	II. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部 心理学科	III. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部 心理学科	IV. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2	3	4

- Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名～ 5名未満	5名～ 10名未満	10名～ 30名未満	30名～ 50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 150名未満	150名～ 200名未満	200名 以上
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2	3	4	5	6	7	8
		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上		
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2	3	4	5	6		

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは幼稚園・保育園・小学校の園長・学校長等管理職の先生方から、就実大学の構想に対するご意見をお伺いし、より充実した大学にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

はじめに、貴校(貴園)ならびにあなたご自身についてお伺いいたします。

F. 以下の項目について、お答えください。

学校設置区分	国立 ・ 公立 ・ 私立 (←1つに○)
	幼稚園 ・ 保育園 ・ 子ども園 ・ 小学校 (←1つに○)
学校所在地	[] 県 [] 市 ・ 町 ・ 村
ご回答者の 職名 (1つに○)	1. 校長(園長) 2. 副校長(副園長) 3. 教頭 4. その他(具体的に:)

就実大学では、2025(令和7)年4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)
を開設することを構想しています。

※ 次ページは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

- Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
 学びの内容について、魅力的に感じますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.魅力的に 感じる	2.魅力的には 感じない
例. ○○である。			⇒ ①	2
教育学部	I.	自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2
	II.	「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2
心理学部	III.	心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2
	IV.	心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2

- Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なだと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2

- Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※「②心理学部 心理学科」について、貴校・貴園では養護教諭が勤務する機会がない場合は、「3.勤務する機会がない」をお選びください。

			1.勤務してほしいと 思う	2.勤務してほしい とは思わない	3.勤務する機会がない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2	*
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2	3

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

◆ 学費等納付金（2025年度予定） ◆

	教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
入学金	270,000円	270,000円
授業料	950,000円	950,000円
初年度納付金	1,220,000円	1,220,000円
次年度納付金	950,000円	950,000円

※このほかに諸会費等を徴収。

◆ 取得可能な資格・免許／想定される進路 ◆

教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
■ 取得可能な資格・免許 - 保育士資格 - 幼稚園教諭一種免許状 - 小学校教諭一種免許状 - 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病） - 中学校教諭二種免許状（国・英・社）※ - 認定心理士申請資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 - 学校図書館司書教諭申請資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 ■ 想定される進路 - 保育所 - 認定こども園 - 幼稚園 - 児童福祉施設 - 小学校 - 特別支援学校 - 義務教育学校 - 小中一貫型小中学校 など	■ 取得可能な資格・免許 - 公認心理師受験要件学科科目 - 養護教諭一種免許状 - 認定心理士申請資格 - 認定心理士（心理調査）申請資格 - 准学校心理士 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 - 児童指導員任用資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 ■ 想定される進路 - 公認心理師・臨床心理士（大学院進学） - 養護教諭（小・中学校・高等学校） - 地方・国家公務員（一般職・心理専門職） - 教育・医療・福祉（医療秘書、児童指導員など） - 情報通信業（IT） - サービス業（ヘルスケアなど） - 卸売業・小売業（総合商社） - 金融業（銀行など） - 製造業（メーカー） など

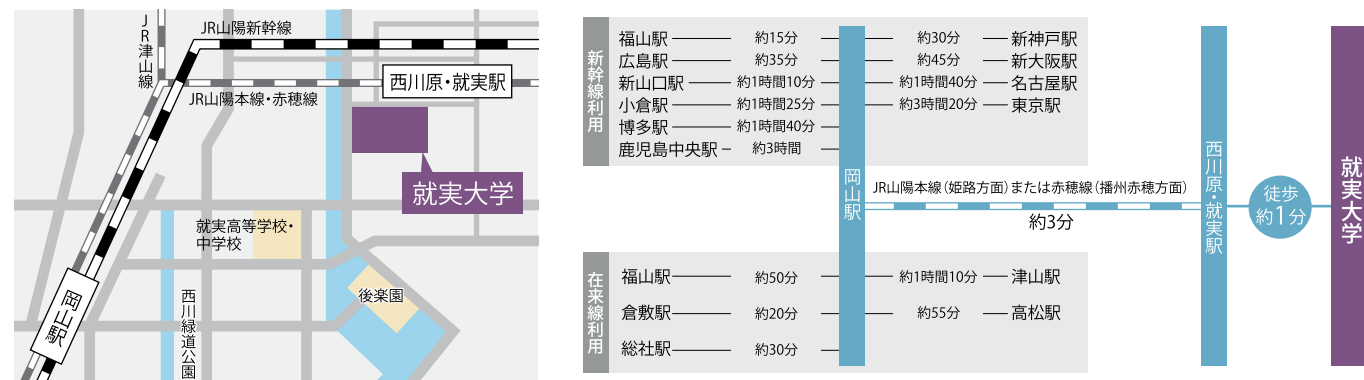
※ 小学校教諭一種免許状取得を前提とする

◆ 類似する大学・学部・学科 ◆

教育学部 教育学科
- ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 児童学科 - 広島修道大学 人文学部 教育学科 - 広島文教大学 教育学部 教育学科 初等教育学専攻 - 岡山理科大学 教育学部 初等教育学科 - くらしき作陽大学 子ども教育学部 子ども教育学科 - 環太平洋大学 次世代教育学部 子ども発達学科

心理学部 心理学科
- 広島修道大学 健康科学部 心理学科 - 安田女子大学 心理学部 現代心理学科 - 広島文教大学 人間科学部 心理学科 - 山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科 - 比治山大学 現代文化学部 社会臨床心理学科 - 徳島文理大学 人間生活学部 心理学科

ACCESS JR西川原・就実駅から 徒歩1分



就実大学

- 人文科学部 表現文化学科／実践英語学科／総合歴史学科
- 教育学部 初等教育学科／教育心理学科
- 経営学部 経営学科 ■ 薬学部 薬学科

2025年4月 教育学部が進化！心理学部が誕生！

先生になろう！

心の世界を
探究しよう！

2024年まで

教育学部

初等教育学科 入学定員 75名

教育心理学科 入学定員 62名

New

2025年から

教育学部 教育学科

入学定員 110名

心理学部 心理学科

入学定員 100名

新学部構想中

※記載の内容はすべて仮称・構想中であり、変更される場合があります。



就実大学

2025年4月、2つの新学部が誕生します！

教育学部 教育学科

子どもたちが豊かな人生を切り拓けるよう支援できる、
保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。

■ アドミッション・ポリシー

子どもへの愛情に溢れ、保育・教育者となり、一人ひとりの子どもの幸せのために力を尽くしたいと強く願う人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭になって活躍したい人
- ・人が好きで、相手意識をもち、物事を柔軟に捉えようとする気持ちをもっている人
- ・いろいろなことにチャレンジし、仲間と共に粘り強く取り組める人
- ・入学後の修学に必要な基礎学力を有している人

心理学部 心理学科

心理学を広く学んだ後に、自分の将来像に合わせてコースを選択。
さらに、コースを越えた学び、演習・実習によって専門性と実践力を高めます。

■ アドミッション・ポリシー

心理学に強い関心があり、人と関わることが好きで、心身の健康を支えケアすることや人と協働して社会の課題を解決することに喜びを感じる人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・心理学に関心を持ち、社会人、心理師（士）、養護教諭として、現代社会の問題に取り組みたいと思う人
- ・自分を活かしながら様々な人と協働し、探究心を持って自分を高めていきたい人
- ・伝えたいことを相手の立場に立ってわかりやすく表現しようと努力している人
- ・理系・文系を問わず、入学後の修学に必要な基礎学力のある人

心理学で社会に羽ばたこう！

各コースの特色／修得できる能力



■ 乳幼児教育コース

保育所や認定こども園、幼稚園などで、乳幼児期に必要な豊かな体験を創造できる保育者を育成します。障害のある子どもにも対応できるよう、特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得することも可能です。

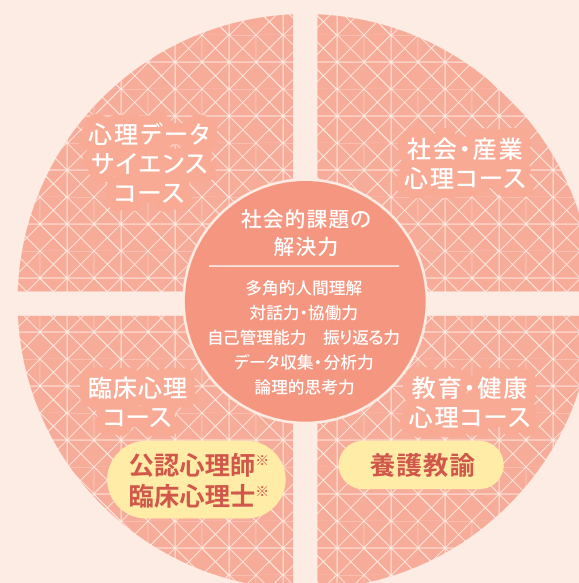
■ 小学校教育コース

児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導や支援ができる小学校の教員を育成します。幼稚園教諭や特別支援学校教諭の一種免許状を合わせて取得することも可能です。さらに、国語・英語・社会の中学校教諭二種免許状の取得にも挑戦できます（小学校教諭一種免許状の取得が必須）。

■ 特別支援教育コース

さまざまな障害に必要な支援と教育的ニーズを理解し、多様性を尊重しながら子どもの自立と将来の社会参加に向けた取り組みを支援できる、特別支援学校の教員を育成します。

各コースの特色／修得できる能力



■ 心理データサイエンスコース

心理学の方法や考え方で人の心や行動を数値化し、データサイエンスを通じて人や社会の隠されたものを見出し、課題を解決します。データを通じて色々な人と協力し、新しい社会づくりに挑戦する力を身に付けます。

■ 臨床心理コース

心の支援を必要としている個人やコミュニティ（家族や学校、職場や地域社会）を、臨床心理学的方法を用いて多角的に理解し、支援する力、他者との深い対話を通して解決に必要な新たな価値を創り出す力を身に付けます。

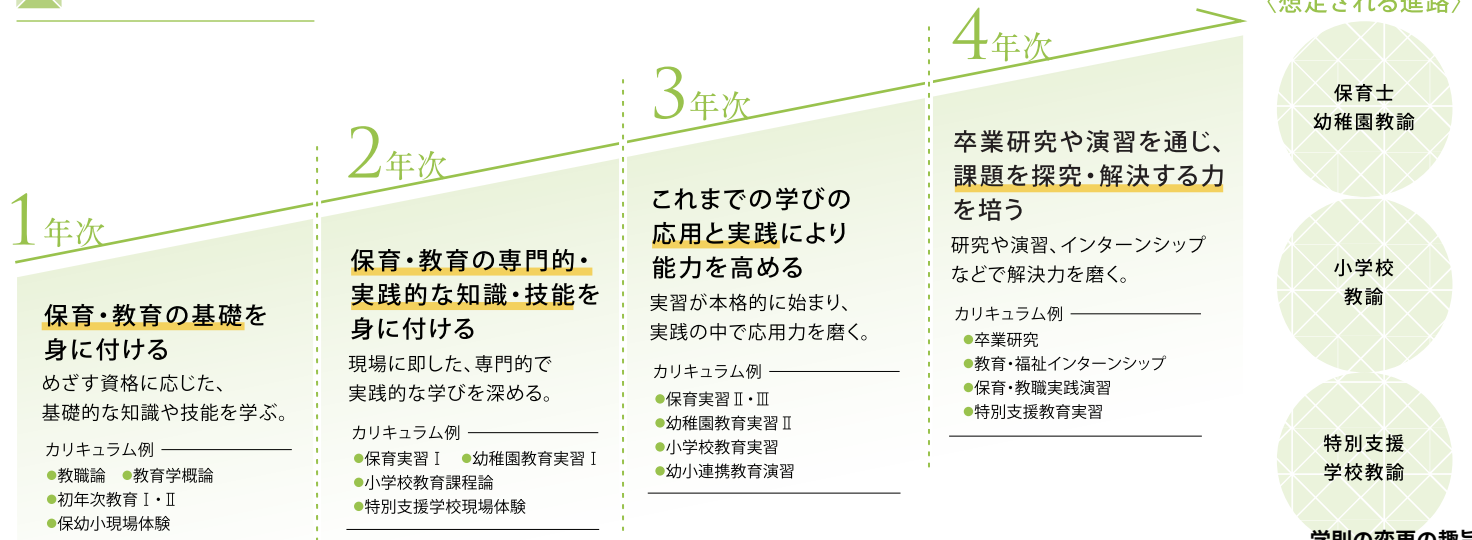
■ 社会・産業心理コース

心理学の視点から、社会・組織・集団の中で他者により良くコミュニケーションし、関係性を築くための理論と方法を学びます。社会生活上の様々な課題に気づき、乗り越えていくために心理学を賢く応用する力を身に付けます。

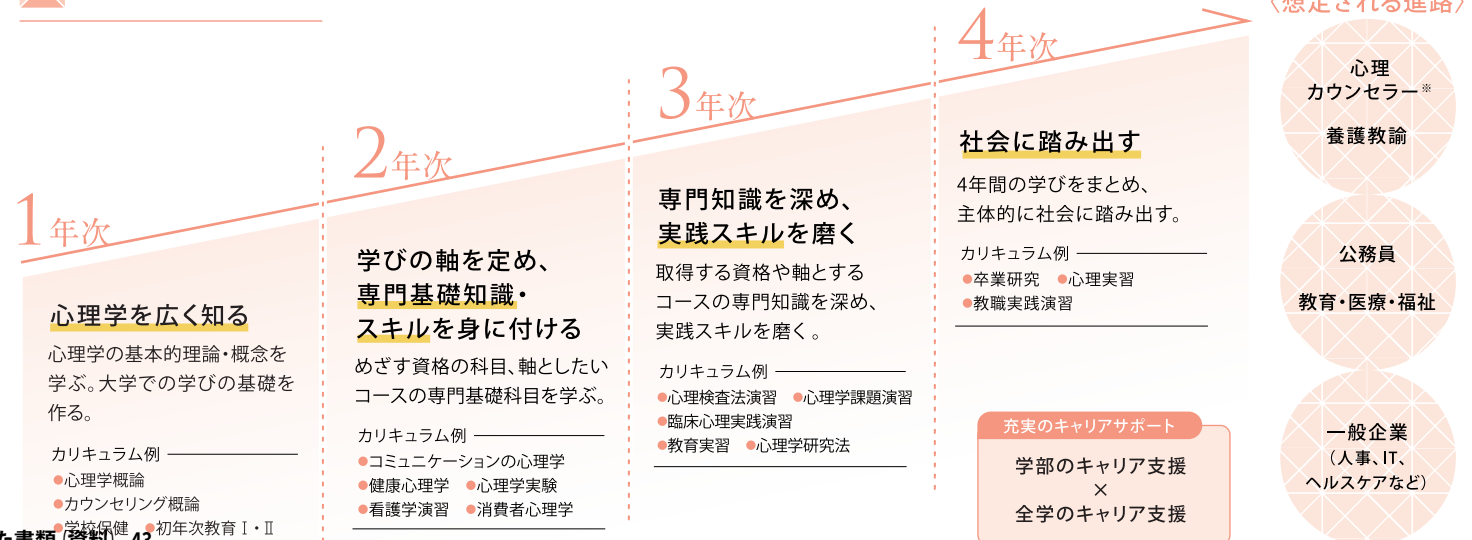
■ 教育・健康心理コース

心と体の関わりや健康について科学的理解を深め、信頼性のある評価と指導力、情報を読み解き活用する力、コミュニケーションを図り問題を解決する力を身に付け、人の健康を総合的な視点から支援できる実践的な人材や養護教諭を育成します。

4年間の学び



4年間の学び



※公認心理師・臨床心理士の受験資格取得は大学院進学が必要

就実大学
「教育学部 教育学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【就職先対象調査】

令和6年3月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2025年4月開設予定の就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)の設置構想に関して、企業・団体、教育委員会、校長・園長からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査		
		調査①	調査②	調査③
調査対象		企業・団体の 採用担当者	教育委員会	校長・園長
調査エリア		兵庫県、鳥取県、 島根県、岡山県、 広島県、山口県、 徳島県、香川県、 愛媛県、高知県	岡山県	岡山県、香川県
調査方法		郵送調査		
調査 対象数	依頼数	1,171企業・団体	22団体	821園・小学校
	回収数 (回収率)	499企業・団体 (42.6%)	10団体 (45.5%)	416園・小学校 (50.7%)
調査時期		2023年11月1日(水)～2023年12月8日(金)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

3. 調査項目

企業・団体対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本社所在地
- ・ 業種
- ・ 正規社員の従業員数
- ・ 正規社員の平均採用人数
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 採用したい学問分野
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の社会的必要性
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する採用意向
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

教育委員会対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本部所在地
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の教育現場における必要性
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する採用意向
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する年間の採用想定人数

校長・園長対象調査

- ・ 学校設置区分(国公私)
- ・ 学校設置区分(園・小学校)
- ・ 所在地(県)
- ・ 所在地(市町村)
- ・ 回答者の職名
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の学びの内容に対する教育現場における必要性
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

採用意向調査 調査結果 (企業・団体)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業・団体全体(499企業・団体)

回答企業・団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、499企業・団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は33.7%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が54.3%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業・団体の本社(本部)所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が64.5%と最も多く、次いで「広島県」が15.6%、「香川県」が7.8%と続く。
- 回答企業・団体の業種としては「卸売・小売業」が22.4%で最も多い。次いで「幼稚園・保育園・こども園」が21.6%、「製造業」が14.0%と続く。
- 回答企業・団体の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が38.1%と最も多く、次いで「50名未満」が26.3%、「50名～100名未満」が20.6%と続く。半数超は、100名以上の比較的規模が大きい企業・団体である。

回答企業・団体の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業・団体の平均的な正規社員の採用人数は「1名～5名未満」が42.1%と最も多く、次いで「5名～10名未満」が20.8%、「10名～20名未満」が17.4%と続く。毎年正規社員を採用している企業・団体がほとんどである。
- 回答企業・団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が63.7%と最も多く、次いで「増やす」が27.3%である。回答企業・団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業・団体の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が41.5%で最も高い。

「教育学部 教育学科」の学びと関連する学問分野で最も高いのは「幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)」で24.0%である。次いで「教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)」が22.6%と続く。

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	あり、採用の決定権が かわつていない	ない、採用の決定権は かわつていない	提供か採用 見かを するを する 立集 場・ 情報 や	無 回 答
全体	499	33.7 168	54.3 271	9.6 48	2.4 12

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	東 京 都	愛 知 県	大 阪 府	兵 庫 県	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	広 島 県	山 口 県	香 川 県	愛 媛 県	高 知 県	無 回 答
全体	499	2.6 13	0.2 1	0.8 4	2.2 11	1.6 8	2.0 10	64.5 322	15.6 78	0.8 4	7.8 39	1.4 7	0.4 2	0.0 0

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	学教育 習支 関連 業・	こ ど も 園・ 保 育 園・	小 学 校	中 学 校・ 高 校	医 療・ 福 祉	建 設 業	製 造 業	卸 売・ 小 売 業	情 報 通 信 業
全体	499	1.2 6	21.6 108	0.2 1	0.2 1	10.6 53	3.2 16	14.0 70	22.4 112	3.2 16

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	観飲 光食 業・ 宿 泊 業・	不金 動融 産業 業・ 保 険 業・	旅運 客輸 業・ 鉄 道 業・	熱電 供給 ・ガ ス・ 水 道 業	事複 業合 サー ビス	サー ビス 業	公 務	そ の 他	無 回 答
全体	499	2.6 13	4.4 22	3.4 17	1.0 5	1.2 6	6.4 32	0.4 2	3.8 19	0.0 0

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 0 名 名 未 満	未 1 5 満 , 0 0 0 0 名 名	5 1 , , 0 0 0 0 名 名 未 未 満	5 , 0 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)								
全体	499	26.3 131	20.6 103	38.1 190	6.6 33	6.2 31	1.8 9	0.4 2

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 名 名 名 未 未 満	1 5 0 名 名 未 未 満	2 1 0 0 0 名 名 未 未 満	3 2 0 0 0 名 名 未 未 満	5 3 0 0 0 名 名 未 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 未 満	1 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	1.0 5	42.1 210	20.8 104	17.4 87	8.0 40	4.4 22	3.2 16	3.0 15	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)						
全体	499	27.3 136	63.7 318	3.2 16	5.8 29	0.0 0

採用したい学問分野

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	心 理 学	教 育 学 関 係 (教 育 学、 教 科 教 育 学 な ど)	(幼 稚 園 教 員 養 成 課 程)	(小 学 校 教 員 養 成 課 程)	中 学 校 課 程・ 高 等 学 校 課 程	特 別 教 科 課 程 (書 道・ 美 術・ 工 芸 な ど)	特 別 支 援 教 育 課 程 (盲 学 校、 聾 学 校、 障 害 児 教 育 な ど)	養 護 教 諭 養 成 課 程	教 育 学 そ の 他 (保 育 学、 乳 幼 児 教 育 学 な ど)
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	21.0 105	15.6 78	24.0 120	7.6 38	5.6 28	3.4 17	14.6 73	5.8 29	22.6 113

	標 本 数	文 学・ 史 学	哲 学 (心 理 学 を 除 く)	経 済 学、 社 会 学 な ど	保 健 (医 学、 歯 学、 薬 学、 看 護 学 な ど)	理 学・ 工 学 (数 学、 化 学、 物 理 工 学 な ど)	農 学・ 農 学、 水 産 学 な ど	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	6.4 32	2.2 11	15.4 77	10.6 53	13.8 69	7.2 36	7.2 36	41.5 207	0.2 1

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

- ・「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「B.「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」(86.4%)。「A. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」は73.5%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. 〈教育学部 教育学科〉自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色B. 〈教育学部 教育学科〉「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

		標 本 数	魅 と も 感 じ る	魅 あ る 程 度 感 じ る	魅 あ ま り 感 じ な い	魅 ま つ た く 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業・団体)								
教育学部 教育学科	特色A	499	28.7	44.9	20.6	5.4	73.5	0.4
			143	224	103	27	367	2
	特色B	499	47.7	38.7	11.4	1.6	86.4	0.6
			238	193	57	8	431	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「教育学部 教育学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「教育学部 教育学科」の社会的必要性

- ・「教育学部 教育学科」について「必要だと思う」と回答した企業・団体は96.4% (481企業・団体)であり、多くの企業・団体がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体は85.4% (426企業・団体)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**744名**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇業種別

- ・業種を「幼稚園・保育園・こども園、小学校」に絞った場合の採用意向は、97.2% (109企業・団体中、**106企業・団体**)。採用想定人数の合計は**209名**で、予定している入学定員数を上回っている。
- ・業種を「一般企業」に絞った場合の採用意向は、82.3% (389企業・団体中、**320企業・団体**)。採用想定人数の合計は**535名**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

就実大学「教育学部 教育学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「教育学部 教育学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	499	96.4 481	3.2 16	0.4 2

■就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	499	85.4 426	13.6 68	1.0 5



「採用したいと思う」と答えた426企業・団体のみ抽出

■就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	⇒	(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 を 示 し た 企 業 ・ 団 体 数 ・ 計 算
全 体	426	%	58.7%	22.8%	8.5%	0.7%	4.2%	2.1%		
		企業・団体数	250	97	36	3	18	9		413
		名	250	194	108	12	90	90		744

※%の母数は、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体
(426企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

企業・団体
対象

就実大学「教育学部 教育学科」の 採用想定人数＜属性別＞

■就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数 ＜属性別＞

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上		(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 ・ 計 計
幼稚園・ 保育園・ こども園、 小学校	106	%	42.5%	35.8%	9.4%	1.9%	5.7%	1.9%	⇒	103 209
		企業・団体数	45	38	10	2	6	2		
		名	45	76	30	8	30	20		
一般企業	320	%	64.1%	18.4%	8.1%	0.3%	3.8%	2.2%	⇒	310 535
		企業・団体数	205	59	26	1	12	7		
		名	205	118	78	4	60	70		

※%の母数は、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」かつ
業種が「幼稚園・保育園・こども園、小学校」と回答した企業・団体(106企業・団体)
「一般企業」と回答した企業・団体(320企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (教育委員会)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答団体全体(10団体)

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

回答団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、10団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は20.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が30.0%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答団体の本部所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が100.0%である。

本年度の採用予定数

- 回答団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が40.0%と最も多く、次いで「増やす」が20.0%である。回答団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	かあり、 かわつ選 考に裁 権が	かな採 かい用の わがの決 つて選裁 考権に	提意か採 供見かわ すをわ時 る収らに 立集ず、 場・直 に情接 ある報 や	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)					
全体	10	20.0 2	30.0 3	50.0 5	0.0 0

■本部所在地

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	岡 山 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)			
全体	10	100.0 10	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 やす	昨 年 度 並 み	減 らす	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)						
全体	10	20.0 2	40.0 4	10.0 1	20.0 2	10.0 1

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

- 「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、「Ⅰ. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」「Ⅱ. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」はいずれも100.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅰ. 〈教育学部 教育学科〉自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色Ⅱ. 〈教育学部 教育学科〉「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

		標 本 数	魅 と も 力 を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ ない	魅 ま つ た く を 感 じ ない	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)								
教育学部 教育学科	特色Ⅰ	10	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			6	4	0	0	10	0
	特色Ⅱ	10	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			8	2	0	0	10	0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の教育現場 における必要性

- 「教育学部 教育学科」が養成する人材について「必要だと思う」と回答した団体は100.0% (10団体)であり、多くの団体がこれからの教育現場にとって必要な人材と捉えていることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する 採用意向/年間の採用想定人数

- 「教育学部 教育学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体は80.0% (8団体)である。
- 「教育学部 教育学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体へ、「教育学部 教育学科」が養成する人材の採用を年間何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は27名である。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の教育現場における必要性

Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	10	100.0 10	0.0 0	0.0 0

■就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する採用意向

Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	10	80.0 8	0.0 0	20.0 2



「採用したいと思う」と答えた8団体のみ抽出

■就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の年間の採用想定人数

Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名 5名未満	5名 10名未満	10名 30名未満	30名 50名未満	50名 100名未満	100名 150名未満	150名 200名未満	200名 以上	計(※)
全体	8	% 25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	年間の採用想定人数を およびた採用想定人数を 計(※)
		団体数 2	3	1	0	0	0	0	0	6
		名 2	15	10	0	0	0	0	0	27

※%の母数は、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した団体
(8団体)

※ 年間の採用想定人数・計
「1名～5名未満」=1名、「5名～10名未満」=5名、「10名～30名未満」=10名、「30名～50名未満」=30名、「50名～100名未満」=50名、
「100名～150名未満」=100名、「150名～200名未満」=150名、「200名以上」=200名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (校長・園長)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答園・小学校全体(416園・小学校)

回答園・小学校(回答者)の属性

回答園・小学校(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される園・小学校の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、416園・小学校から回答を得た。

- 回答者の学校設置区分(国公私)は、「国立」が1.2%、「公立」が98.6%である。
- 回答者の学校設置区分(園・小学校)は、「幼稚園」が25.2%、「保育園」が8.2%、「子ども園」が4.8%、「小学校」が61.5%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(県)は、就実大学の所在地である「岡山県」が83.7%、「香川県」が16.3%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(市町村)は、「岡山市」が26.7%で最も多く、次いで「倉敷市」が14.9%、「高松市」が5.8%と続く。
- 回答者の職名は「校長(園長)」が72.4%で最も多く、次いで「教頭」が20.0%と続く。

回答園・小学校(回答者)の属性

■学校設置区分(国公私)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
全体	416	1.2 5	98.6 410	0.0 0	0.2 1

■学校設置区分(園・小学校)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	幼 稚 園	保 育 園	子 ど も 園	小 学 校	無 回 答
全体	416	25.2 105	8.2 34	4.8 20	61.5 256	0.2 1

■所在地(県)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	岡 山 県	香 川 県	無 回 答
全体	416	83.7 348	16.3 68	0.0 0

回答園・小学校(回答者)の属性

■所在地(市町村)

	標 本 数	岡 山 市	倉 敷 市	総 社 市	赤 磐 市	津 山 市	真 庭 市	高 梁 市	新 見 市	玉 野 市	井 原 市	美 作 市	笠 岡 市	瀬 戸 内 市	浅 口 市	吉 備 中 央 町
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	26.7 111	14.9 62	4.8 20	4.1 17	4.1 17	3.6 15	3.4 14	2.9 12	2.4 10	2.2 9	1.9 8	1.7 7	1.7 7	1.7 7	1.4 6

	標 本 数	備 前 市	和 気 町	鏡 野 町	矢 掛 町	美 咲 町	英 田 郡 西 栗 倉 村	久 米 南 町	勝 央 町	小 倉 島 町	小 田 郡 矢 掛 町	浅 口 郡 里 庄 町	都 窪 郡 早 島 町	奈 義 町	高 松 市	丸 亀 市
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.2 5	1.0 4	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	5.8 24	1.4 6

	標 本 数	三 豊 市	観 音 寺 市	坂 出 市	さ ぬ き 市	ま ん の う 町	善 通 寺 市	多 度 津 町	東 か が わ 市	小 豆 島 町	綾 川 町	宇 多 津 町	三 木 町	直 島 町	木 田 郡 三 木 町	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.7 7	1.2 5	1.2 5	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1

■回答者の職名

	標 本 数	校 長 (園 長)	副 校 長 (副 園 長)	教 頭	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)						
全体	416	72.4 301	1.9 8	20.0 83	4.8 20	1.0 4

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

- ・「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「Ⅱ.「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」(97.8%)。「Ⅰ. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」は96.2%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
学びの内容について、魅力的に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅰ.〈教育学部 教育学科〉自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色Ⅱ.〈教育学部 教育学科〉「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

		標 本 数	魅 力 的 に 感 じ る	魅 力 的 に は 感 じ な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数(園・小学校)					
教育学部 教育学科	特色Ⅰ	416	96.2	3.6	0.2
		400		15	1
教育学部 教育学科	特色Ⅱ	416	97.8	1.7	0.5
		407		7	2

就実大学「教育学部 教育学科」の学びの教育現場における必要性/勤務意向

就実大学「教育学部 教育学科」の学びの教育現場における必要性

- 「教育学部 教育学科」の学びについて「必要だと思う」と回答した園・小学校は99.0% (412園・小学校)であり、多くの園・小学校が教育現場にとって必要な学びと捉えていることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- 「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は94.7% (394園・小学校)であり、予定している入学定員数110名を上回る勤務意向がみられた。

■就実大学「教育学部 教育学科」の学びの教育現場における必要性

Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要だと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	必要だと思う	必要だと思わない	無回答
全体	416	99.0 412	0.7 3	0.2 1

■就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	勤務してほしいと思う	勤務してほしいとは思わない	無回答
全体	416	94.7 394	1.2 5	4.1 17

採用意向調査 調査結果まとめ



就実大学「教育学部 教育学科」の 採用意向／採用想定人数／勤務意向

【企業・団体(幼稚園・保育園・こども園、小学校)、教育委員会】 就実大学「教育学部 教育学科」卒業生の採用意向／ 毎年の採用想定人数

- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会は合わせて95.8%(114企業・団体)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて236名で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

【校長・園長】 就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- ・「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は94.7%(394園・小学校)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会の視点でも、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でも、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」の 採用意向／採用想定人数

【企業・団体(一般企業)】

就実大学「教育学部 教育学科」卒業生の採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は82.3%
(320企業・団体)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- 「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は535名で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

巻末資料 調査票



就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では2025年(令和7年)4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開
設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大
学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定
することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
(いずれも仮称、新学部構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 教育関連業・学習支援業	7. 製造業	13. 電気・ガス・熱供給・水道業
2. 幼稚園・保育園・こども園	8. 卸売・小売業	14. 複合サービス事業
3. 小学校	9. 情報通信業	15. サービス業
4. 中学校・高校	10. 飲食業・宿泊業・観光業	16. 公務
5. 医療・福祉	11. 金融業・保険業・不動産業	17. その他
6. 建設業	12. 運輸業・鉄道業・旅客運輸業	

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 50名未満	3. 100名～500名未満	5. 1,000名～5,000名未満
2. 50名～100名未満	4. 500名～1,000名未満	6. 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 0名	4. 10名～20名未満	7. 50名～100名未満
2. 1名～5名未満	5. 20名～30名未満	8. 100名以上
3. 5名～10名未満	6. 30名～50名未満	

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす	2. 昨年度並み	3. 減らす	4. 未定

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 心理学	7. 特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害児教育など)	13. 保健(医学、歯学、薬学、看護学など)
2. 教育学関係(教育学、教科教育学など)	8. 養護教諭養成課程	14. 理学・工学(数学、化学、物理工学など)
3. 幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)	9. 教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)	15. 農学(農学、林学、水産学など)
4. 小学校課程(小学校教員養成課程)	10. 文学・史学	16. その他
5. 中学校課程・高等学校課程	11. 哲学(心理学を除く)	17. 学んだ学問分野にはこだわらない
6. 特別教科課程(書道・美術・工芸など)	12. 社会科学(法学、商学・経済学、社会学など)	

裏面へ続く→

就実大学では、2025年(令和7年)4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

- Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	○○である。	→	1	2	3	4
教育学部	A. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	→	1	2	3	4
教育学科	B. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学部	C. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学科	D. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。	→	1	2	3	4

- Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を
卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
教育学部 教育学科	→	1	2	3	4	5	6
心理学部 心理学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

調査票(教育委員会)

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは、貴団体の採用に関わる皆様からご意見をお伺いし、より充実した学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

本部所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。
(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす
2. 昨年度並み
3. 減らす
4. 未定

就実大学では、2025(令和7)年4月に、新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

調査票(教育委員会)

- Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、
以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を感じ	ある程度 魅力を感じ	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
例.	○○である。	⇒ 1	2	3	4
教育学部	I. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2	3	4
教育学科	II. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部	III. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学科	IV. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2	3	4

- Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名～ 5名未満	5名～ 10名未満	10名～ 30名未満	30名～ 50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 150名未満	150名～ 200名未満	200名 以上
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2	3	4	5	6	7	8
		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上		
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2	3	4	5	6		

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは幼稚園・保育園・小学校の園長・学校長等管理職の先生方から、就実大学の構想に対するご意見をお伺いし、より充実した大学にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

はじめに、貴校(貴園)ならびにあなたご自身についてお伺いいたします。

F. 以下の項目について、お答えください。

学校設置区分	国立 ・ 公立 ・ 私立 (←1つに○)
	幼稚園 ・ 保育園 ・ 子ども園 ・ 小学校 (←1つに○)
学校所在地	[] 県 [] 市 ・ 町 ・ 村
ご回答者の 職名 (1つに○)	1. 校長(園長) 2. 副校長(副園長) 3. 教頭 4. その他(具体的に:)

就実大学では、2025(令和7)年4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)
を開設することを構想しています。

※ 次ページは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

調査票(校長・園長)

- Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
 学びの内容について、魅力的に感じますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.魅力的に 感じる	2.魅力的には 感じない
例. ○○である。			⇒ ①	2
教育学部	I.	自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2
	II.	「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2
心理学部	III.	心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2
	IV.	心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2

- Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なだと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2

- Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※「②心理学部 心理学科」について、貴校・貴園では養護教諭が勤務する機会がない場合は、「3.勤務する機会がない」をお選びください。

			1.勤務してほしいと 思う	2.勤務してほしい とは思わない	3.勤務する機会がない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2	*
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2	3

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

◆ 学費等納付金（2025年度予定） ◆

	教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
入学金	270,000円	270,000円
授業料	950,000円	950,000円
初年度納付金	1,220,000円	1,220,000円
次年度納付金	950,000円	950,000円

※このほかに諸会費等を徴収。

◆ 取得可能な資格・免許／想定される進路 ◆

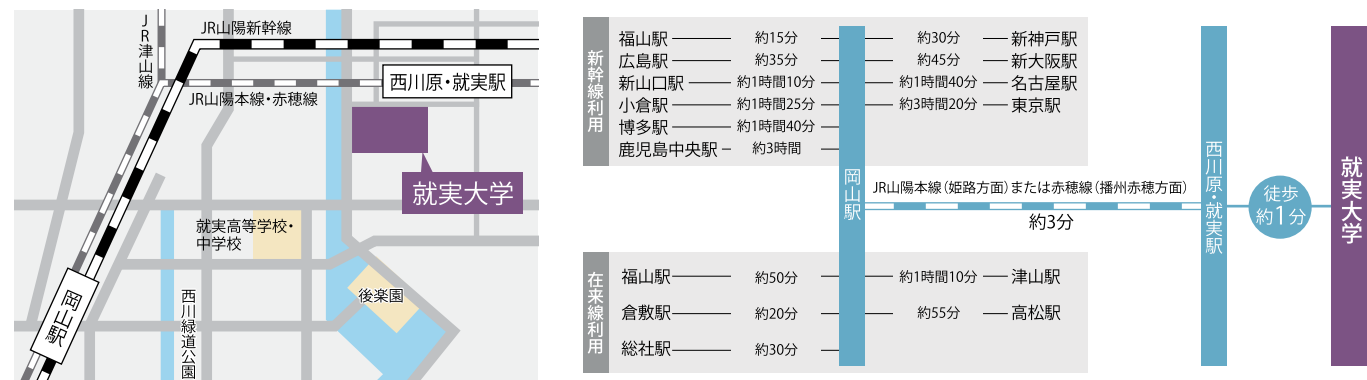
教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
■ 取得可能な資格・免許 - 保育士資格 - 幼稚園教諭一種免許状 - 小学校教諭一種免許状 - 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病） - 中学校教諭二種免許状（国・英・社）※ - 認定心理士申請資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 - 学校図書館司書教諭申請資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 ■ 想定される進路 - 保育所 - 認定こども園 - 幼稚園 - 児童福祉施設 - 小学校 - 特別支援学校 - 義務教育学校 - 小中一貫型小中学校 など ※ 小学校教諭一種免許状取得を前提とする	■ 取得可能な資格・免許 - 公認心理師受験要件学科科目 - 養護教諭一種免許状 - 認定心理士申請資格 - 認定心理士（心理調査）申請資格 - 准学校心理士 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 - 児童指導員任用資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 ■ 想定される進路 - 公認心理師・臨床心理士（大学院進学） - 養護教諭（小・中学校・高等学校） - 地方・国家公務員（一般職・心理専門職） - 教育・医療・福祉（医療秘書、児童指導員など） - 情報通信業（IT） - サービス業（ヘルスケアなど） - 卸売業・小売業（総合商社） - 金融業（銀行など） - 製造業（メーカー） など

◆ 類似する大学・学部・学科 ◆

教育学部 教育学科
- ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 児童学科 - 広島修道大学 人文学部 教育学科 - 広島文教大学 教育学部 教育学科 初等教育学専攻 - 岡山理科大学 教育学部 初等教育学科 - くらしき作陽大学 子ども教育学部 子ども教育学科 - 環太平洋大学 次世代教育学部 子ども発達学科

心理学部 心理学科
- 広島修道大学 健康科学部 心理学科 - 安田女子大学 心理学部 現代心理学科 - 広島文教大学 人間科学部 心理学科 - 山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科 - 比治山大学 現代文化学部 社会臨床心理学科 - 徳島文理大学 人間生活学部 心理学科

ACCESS JR西川原・就実駅から 徒歩1分



- 人文科学部 表現文化学科／実践英語学科／総合歴史学科
- 教育学部 初等教育学科／教育心理学科
- 経営学部 経営学科 ■ 薬学部 薬学科

2025年4月 教育学部が進化！心理学部が誕生！

先生になろう！

心の世界を
探究しよう！

2024年まで

教育学部

初等教育学科 入学定員 75名

教育心理学科 入学定員 62名

New

2025年から

教育学部 教育学科

入学定員 110名

心理学部 心理学科

入学定員 100名

新学部構想中

※記載の内容はすべて仮称・構想中であり、変更される場合があります。



2025年4月、2つの新学部が誕生します！

教育学部 教育学科

子どもたちが豊かな人生を切り拓けるよう支援できる、
保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。

■ アドミッション・ポリシー

子どもへの愛情に溢れ、保育・教育者となり、一人ひとりの子どもの幸せのために力を尽くしたいと強く願う人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭になって活躍したい人
- ・人が好きで、相手意識をもち、物事を柔軟に捉えようとする気持ちをもっている人
- ・いろいろなことにチャレンジし、仲間と共に粘り強く取り組める人
- ・入学後の修学に必要な基礎学力を有している人

心理学部 心理学科

心理学を広く学んだ後に、自分の将来像に合わせてコースを選択。
さらに、コースを越えた学び、演習・実習によって専門性と実践力を高めます。

■ アドミッション・ポリシー

心理学に強い関心があり、人と関わることが好きで、心身の健康を支えケアすることや人と協働して社会の課題を解決することに喜びを感じる人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・心理学に関心を持ち、社会人、心理師（士）、養護教諭として、現代社会の問題に取り組みたいと思う人
- ・自分を活かしながら様々な人と協働し、探究心を持って自分を高めていきたい人
- ・伝えたいことを相手の立場に立ってわかりやすく表現しようと努力している人
- ・理系・文系を問わず、入学後の修学に必要な基礎学力のある人

心理学で社会に羽ばたこう！

各コースの特色／修得できる能力



■ 乳幼児教育コース

保育所や認定こども園、幼稚園などで、乳幼児期に必要な豊かな体験を創造できる保育者を育成します。障害のある子どもにも対応できるよう、特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得することも可能です。

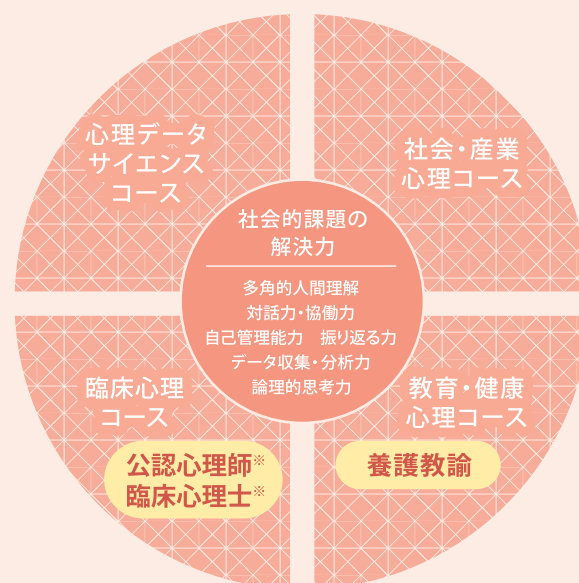
■ 小学校教育コース

児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導や支援ができる小学校の教員を育成します。幼稚園教諭や特別支援学校教諭の一種免許状を合わせて取得することも可能です。さらに、国語・英語・社会の中学校教諭二種免許状の取得にも挑戦できます（小学校教諭一種免許状の取得が必須）。

■ 特別支援教育コース

さまざまな障害に必要な支援と教育的ニーズを理解し、多様性を尊重しながら子どもの自立と将来の社会参加に向けた取り組みを支援できる、特別支援学校の教員を育成します。

各コースの特色／修得できる能力



■ 心理データサイエンスコース

心理学の方法や考え方で人の心や行動を数値化し、データサイエンスを通じて人や社会の隠されたものを見出し、課題を解決します。データを通じて色々な人と協力し、新しい社会づくりに挑戦する力を身に付けます。

■ 臨床心理コース

心の支援を必要としている個人やコミュニティ（家族や学校、職場や地域社会）を、臨床心理学的方法を用いて多角的に理解し、支援する力、他者との深い対話を通して解決に必要な新たな価値を創り出す力を身に付けます。

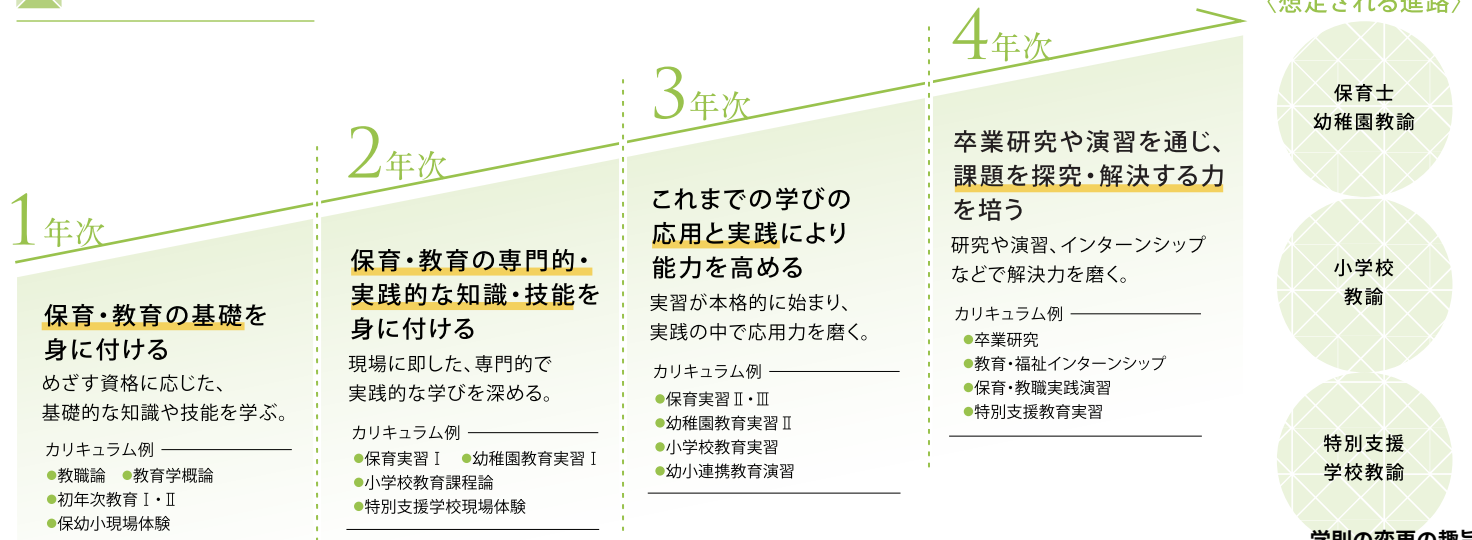
■ 社会・産業心理コース

心理学の視点から、社会・組織・集団の中で他者により良くコミュニケーションし、関係性を築くための理論と方法を学びます。社会生活上の様々な課題に気づき、乗り越えていくために心理学を賢く応用する力を身に付けます。

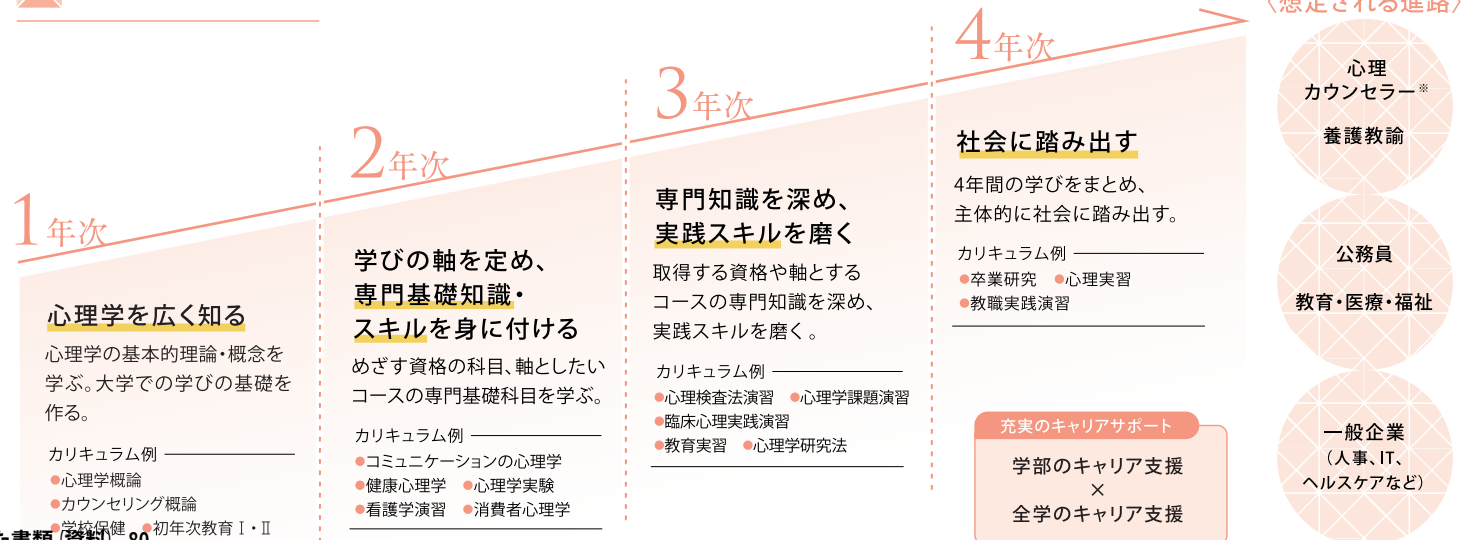
■ 教育・健康心理コース

心と体の関わりや健康について科学的理解を深め、信頼性のある評価と指導力、情報を読み解き活用する力、コミュニケーションを図り問題を解決する力を身に付け、人の健康を総合的な視点から支援できる実践的な人材や養護教諭を育成します。

4年間の学び



4年間の学び



※公認心理師・臨床心理士の受験資格取得は大学院進学が必要

【資料 8】完成年度における設置基準教員数一覧

設置基準教員数一覧（令和10年度）完成年度

■大学

学部	学科	収容定員	学部の種類	別表第一関係	内教授数
				基準収容定員 までの 必要基幹教員数	
人文科学部	表現文化学科	320	文学	6	3
	実践英語学科	300	文学	6	3
	総合歴史学科	320	文学	6	3
	小計	940		18	9
教育学部	教育学科	440	教育学	10	5
	小計	440		10	5
心理学部	心理学科	400	文学	10	5
	小計	400		10	5
経営学部	経営学科	640	経済学	14	7
	小計	640		14	7
薬学部	薬学科	600	薬学	28	14
	小計	600		28	14
大学全体(別表第二関係)				29	15
大学合計		3,020		109	55

1. (書類等の題名)

【資料 9】学則変更を申請する学科の ST 比 (近隣校との比較)

2. (出典)

各大学の情報公開ページ

3. (引用範囲)

競合他大学の収容定員、専任教員数

4. (その他の説明)

上記のデータを加工し、表にまとめた。

【資料10】基準校舎・校地面積

設置基準上必要校地面積・校舎面積 算出根拠

【校地面積】（完成年度時収容定員）

学部	学科	収容定員	学部の種類	計算式	校地基準面積
人文科学部	表現文化学科	320	文学関係	(合計収容定員)3,020 名×10	30,200.0
	実践英語学科	300			
	総合歴史学科	320			
	小計	940			
教育学部	教育学科	440	教育学・保育学関係		
	小計	440			
心理学部	心理学科	400	文学関係		
	小計	400			
経営学部	経営学科	640	経済学関係		
	小計	640			
薬学部	薬学科	600	薬学関係		
	小計	600			
合計		3,020			

【校舎面積】

学部	学科	収容定員	学部の種類	計算式（表イ）		最大値	計算式（表ハ）	校舎基準面積（表イ最大値＋表ハ）
人文学部	表現文化学科	320	文学関係	801人以上の場合 $(940-800) \times 1,322 \div 400 + 4,958$	5,420.7		1,000人 までの場合 4,462	20,162.5
	実践英語学科	300						
	総合歴史学科	320						
	小計	940						
教育学部	教育学科	440	教育学・保育学関係	800人までの場合 $(440-400) \times 1,653 \div 400 + 3,305$	3,470.30		600人 までの場合 2,975	
	小計	440						
心理学部	心理学科	400	文学関係	400人までの場合 $(400-200) \times 661 \div 200 + 2,644$	3,305.00		400人 までの場合 2,148	
	小計	400						
経営学部	経営学科	640	経済学関係	800人までの場合 $(640-400) \times 1653 \div 400 + 3,305$	4,296.8		600人 までの場合 3,801	
	小計	640						
薬学部	薬学科	600	薬学関係	800人までの場合 $(600-400) \times 1,983 \div 400 + 5,785$	6,776.5	○		
	小計	600						
合計		3,020						

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(心理学部心理学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員		
総合教養教育科目	スタートアップ就実	1前			2		○									6	メディア、オムニバス、共同（一部）
	数理・データサイエンス基礎	1前		1			○									2	メディア、共同
	情報リテラシー	1前		1			○									2	メディア、オムニバス
	自然地理学	1前			2		○									1	
	人類学の世界と歴史	1前			2		○									1	
	アジアの民族誌	1後			2		○									1	
	心理学1	1前			2		○									1	
	心理学2	1後			2		○									1	
	現代の哲学と思想	1後			2		○									1	
	現代の倫理	1前			2		○									1	
	日本文化論1	1前			2		○									1	
	日本文化論2	1後			2		○									1	
	女性の生活と歴史	1前			2		○									1	
	現代の女性環境	1後			2		○									1	
	漢詩文の表現と心	1前			2		○									1	
	漢詩文の表現と思想	1後			2		○									1	
	ポピュラー音楽の歴史	1前			2		○									1	
	世界の文学	1後			2		○									1	隔年開講
	20世紀史	1後			2		○									3	オムニバス、隔年開講
	ことばの科学	1後			2		○									1	
	キャリアデザイン論	1後			2		○									1	メディア
	人権の現代的課題	1後		2			○									1	
	法学	1後			2		○									1	
	日本国憲法	1前			2		○									1	
	社会学の世界と歴史	1前			2		○									1	
	社会学概論	1後			2		○									1	
	基礎経営論	1前			2		○									1	隔年開講
	基礎経済学	1前			2		○									1	隔年開講
	経済学概論	1前			2		○									1	隔年開講
	労働と社会	1後			2		○									1	
	政治学概論	1前			2		○									1	
	現代教育の諸問題	1前			2		○									1	
	健康と衛生	1前			2		○									3	オムニバス
	健康と栄養	1後			2		○									3	オムニバス
	環境と地球	1前			2		○									2	オムニバス
	環境と生命	1後			2		○									2	オムニバス
	化学の世界と歴史	1前			2		○									2	オムニバス
	現代生活と化学	1後			2		○									1	
	からだの構造と機能	1前			2		○									3	オムニバス
	からだの化学と生物学	1後			2		○									2	オムニバス
	生命機能のプログラム	1前			2		○									1	
	地球と宇宙のサイエンス	1前			2		○									2	オムニバス
	日本伝統の折紙の科学	1後			2		○									1	
	身体運動と健康の科学	1前			2		○										
	健康・スポーツと社会	1後			2		○					1					
	スポーツ1	1前			1	1			○			1					
スポーツ2	1後			1				○							2		
スポーツ3	1前			1				○			1				1		
スポーツ4	1後			1				○			1				1		
こころの健康科学	1後			2		○									1		
現代人とこころの障害	1後			2		○						1					
情報と社会	1後			2		○									1	メディア	
情報と表現	1後			2		○									1		

	情報と文化	1前		2	○							1	メディア
	情報処理基礎演習	1前・後		2	○							2	
	プログラミング基礎	1前・後		2	○							1	
	プログラミング演習	1前・後		2	○							1	
	データ処理演習	1前・後		2	○							1	
	A I 基礎	1前		2	○							1	
	データエンジニアリング基礎	1後		2	○							1	
	データサイエンス	1後		2	○							1	
	アジアの世界と文化	1後		2	○							2	オムニバス、隔年開講
	欧米の世界と文化	1後		2	○							3	オムニバス、共同（一部）、隔年開講
	コラボレーション学修 1	1後		2	○				1			7	メディア、オムニバス、共同（一部）
	仕事に役立つ数学	1前		2	○							4	メディア、オムニバス
	茶道 1	1前		1			○					1	
	茶道 2	1後		1			○					1	
	書道 1	1前		1			○					1	
	書道 2	1後		1			○					1	
	インターンシップ・キャリア実習 1	2後		1				○				1	
	インターンシップ・キャリア実習 2	2後		1				○				1	
	漢字検定 1	1通		1			○					1	
	漢字検定 2	1通		1			○					1	
	異文化コミュニケーション 1	1通		2	○							1	
	異文化コミュニケーション 2	1通		2	○							1	
	異文化コミュニケーション 3	1通		2	○							1	
	異文化コミュニケーション 4	1通		2	○							1	
	日本事情 1	1前		2	○							1	隔年開講
	日本事情 2	1後		2	○							1	隔年開講
	日本事情 3	1前		2	○							1	隔年開講
	日本事情 4	1後		2	○							1	隔年開講
	小計（81科目）	—	—			—							
外国語教育科目	English Reading 1	1前		1		○						2	
	English Reading 2	1後		1		○						2	
	English Reading 3	2前		1		○						2	
	English Reading 4	2後		1		○						2	
	General English 1	1前		1		○						1	隔年開講
	General English 2	1後		1		○						1	隔年開講
	General English 3	1前		1		○						1	隔年開講
	General English 4	1後		1		○						1	隔年開講
	検定外国語 1	1通		2		○						1	
	検定外国語 2	1通		2		○						1	
	検定外国語 3	1通		2		○						1	
	検定外国語 4	1通		2		○						1	
	ドイツ語初級 1	1前		1		○						1	
	ドイツ語初級 2	1後		1		○						1	
	ドイツ語初級 3	1前		1		○						1	
	ドイツ語初級 4	1後		1		○						1	
	ドイツ語中級 1	2前		1		○						1	隔年開講
	ドイツ語中級 2	2後		1		○						1	隔年開講
	ドイツ語中級 3	2前		1		○						1	隔年開講
	ドイツ語中級 4	2後		1		○						1	隔年開講
	フランス語初級 1	1前		1		○						2	
	フランス語初級 2	1後		1		○						2	
	フランス語初級 3	1前		1		○						2	
	フランス語初級 4	1後		1		○						2	
	フランス語中級 1	2前		1		○						1	隔年開講
	フランス語中級 2	2後		1		○						1	隔年開講
	フランス語中級 3	2前		1		○						1	隔年開講
	フランス語中級 4	2後		1		○						1	隔年開講
	中国語初級 1	1前		1		○						3	
	中国語初級 2	1後		1		○						3	
	中国語初級 3	1前		1		○						2	
	中国語初級 4	1後		1		○						2	
	中国語中級 1	2前		1		○						1	
	中国語中級 2	2後		1		○						1	
	中国語中級 3	2前		1		○						1	
	中国語中級 4	2後		1		○						1	
	ハングル初級 1	1前		1		○						2	

	ハングル初級 2	1後			1		○							2	
	ハングル初級 3	1前			1		○							2	
	ハングル初級 4	1後			1		○							2	
	ハングル中級 1	2前			1		○							1	
	ハングル中級 2	2後			1		○							1	
	ハングル中級 3	2前			1		○							1	
	ハングル中級 4	2後			1		○							1	
	日本語 1	1前			1		○							1	
	日本語 2	1後			1		○							1	
	日本語 3	1前			1		○							1	
	日本語 4	1後			1		○							1	
	小計 (48科目)	—	—				—								
専門 教育 科目	教育学概論	1後			2		○							1	オムニバス
	教職論	1前			2		○					1		1	
	心理学概論	1前	○	2			○				1				
	教育心理学(教育・学校心理学)	2前	○		2		○							1	
	学習・言語心理学	1後			2		○							1	
	学校制度論	3前			2		○							1	
	カウンセリング概論 (心理学的支援法)	1前	○	2			○				1				
	カウンセリング演習	2前	○		2			○				1			
	家族心理学	3前			2		○				1				
	心理学研究法	3前	○		2		○			1					
	心理学実験	2後			2				○	1		2			オムニバス
	心理検査法演習(心理的アセスメント)	3前			2			○		1		1	1		オムニバス
	社会・集団・家族心理学	2後	○		2		○				1				
	心理学統計法Ⅰ	1後	○	2			○					1			
	心理学統計法Ⅱ	3前			2		○			1					
	心理療法	3後			2		○					1			
	心理演習	3前			2			○			1	1			オムニバス
	臨床心理実践演習	3後			2			○		1	1				オムニバス
	感情・人格心理学	1後			2		○				1	1			オムニバス、共同 (一部)
	神経・生理心理学	3後			2		○							2	オムニバス、集中
	知覚・認知心理学	2前			2		○					1			
	発達心理学	2前	○	2			○			1					
	臨床心理学概論	1前	○	2			○			2	2	3	1		オムニバス
	精神医学概論(精神疾患とその治療)	2前			2		○							1	
	公認心理師の職責	2前			2		○				1		1		オムニバス
	関係行政論	2後			2		○					1	1		オムニバス
	知的障害の心理学 (障害者・障害児心理学B)	1後			2		○							1	
	肢体不自由児の心理 (障害者・障害児心理学A)	1前			1		○							1	集中
	病弱児の心理	2前			1		○							1	
	障害児心理学各論	2後			2		○							1	
	発達障害の心理学	2前			2		○							1	
	教育課程論	2前			2		○					1		1	オムニバス
	特別ニーズ教育総論	2前			2		○							2	オムニバス
	道徳の指導法	2後			2		○							1	
	総合的な学習の時間の指導法	3後			1		○							1	
	特別活動の指導法	3前			2		○							1	
	教育方法論	3前			2		○					1		1	オムニバス、メディア
	生徒指導論	3前			2		○							1	
	教育相談	2前			2		○					1			
	養護実習指導	3通			1			○		1	2				オムニバス、共同 (一部)、集中
	養護実習	3後			4				○	1	2				共同、集中
	教職実践演習(養護)	4後			2		○			2	2	1			オムニバス、共同 (一部)
	衛生学 (予防医学を含む。)	2前			2		○			1				2	オムニバス、メディア、集中
	公衆衛生学	3後			2		○							1	
	学校保健	1前			2		○				1				
	保健教育論	3前			2		○				1				
	養護学概論	2前			2		○				1				
	養護活動論Ⅰ	2後			2		○				1				
	養護活動論Ⅱ	3後			2		○				1				
	健康相談活動	3後			2		○							1	
	栄養学 (食品学を含む)	1後			2		○							1	
	食育論	4前			2		○							1	

	人体の構造と機能1（人体の構造と機能及び疾病Ⅰ）	1前			2		○			1				1	
	人体の構造と機能2	1後			2		○							3	オムニバス
	微生物学	2前			2		○			1					
	免疫学	2後			2		○			1					
	薬理概論	3前			2		○			1					
	精神保健	2後			2		○				1			1	
	小児精神医学	3後			2		○							1	
	看護学	1後			2		○				1				
	看護学演習	2後			1			○			1			1	共同
	看護学臨床実習	3通			1			○		1	1			共同	
	学校救急処置演習	3前			1			○			1				
	小児疾病論1（人体の構造と機能及び疾病Ⅱ）	2後			2		○							3	オムニバス
	小児疾病論2	2前			2		○							6	オムニバス
	小児保健	2前			2		○				1				
	初年次教育Ⅰ	1前	○	1				○		1	1	2			オムニバス、共同（一部）
	初年次教育Ⅱ	1後	○	1				○		2	1				オムニバス、共同（一部）
	ボランティア体験Ⅰ	1前			1			○		1			1		共同、集中
	ボランティア体験Ⅱ	2後			1			○		1			1		共同、集中
	教職研究Ⅰ	3後			1			○		1	2	1			オムニバス
	教職研究Ⅱ	4前			1			○		1	2	1			共同
	心理学課題演習1	3前	○		2			○			1	1			
	心理学基礎実習	2前			2				○		1	2			オムニバス
	心理学課題演習2	3後	○		2			○		1		1			
	コミュニケーションの心理学	2後	○		2			○			1				
	消費者心理学	2後			2		○				1				
	消費者行動論	3前			2		○							1	
	社会心理学基礎演習	3前	○		2			○			1				
	心理学課題演習3	3後	○		2			○			1				
	健康心理学	2後	○		2		○					1			
	スポーツ科学	2後			2		○				1				
	心理学課題演習4	3前	○		2			○			2	1			共同
	健康・医療心理学	3後			2		○				1				
	福祉心理学	2後			2		○							2	オムニバス、集中
	司法・犯罪心理学	3前			2		○				1			2	オムニバス、集中
	産業・組織心理学	3前			2		○					1			
	心理実習Ⅰ	4前			2				○	2	2	3	1		オムニバス、共同（一部）、集中
	心理実習Ⅱ	4後			2				○	2	2	3	1		オムニバス、共同（一部）、集中
	心理学とキャリア	2後			1		○			1	1	1			オムニバス、共同（一部）
	心理学とキャリア実践	3通			1		○			1	1				共同
	心理学検定1	1通			2			○					1		
	心理学検定2	1通			2			○					1		
	心理学ゼミナールⅠ	3前	○	2				○		5	7	6			
	心理学ゼミナールⅡ	3後	○	2				○		5	7	6			
	心理学ゼミナールⅢ	4前	○	2				○		5	7	6			
	心理学ゼミナールⅣ	4後	○	2				○		5	7	6			
	卒業研究	4通	○	4				○		5	7	6			
	小計（98科目）	—	—	24	164	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
博物館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2		○							1	
	博物館概論	1前			2		○							1	
	博物館経営論	2前			2		○							4	オムニバス
	博物館資料論	3後			2		○							5	オムニバス
	博物館資料保存論	4前			2		○							3	オムニバス
	博物館展示論	3前			2				○					3	オムニバス
	博物館実習Ⅰ	4前			1				○					1	
	博物館実習Ⅱ	4後			1				○					1	
	博物館実習Ⅲ	4後			1		○							1	集中
	博物館情報・メディア論	2後			2		○							1	
	博物館教育論	2後			2		○							4	オムニバス
	古文書学の基礎	1後			2		○							1	
	古文書解読	1後			2		○							1	
	日本美術史	1後			2		○							1	
	西洋美術史	1前			2		○							1	
	東洋美術史	1後			2		○							1	
	考古学の基礎	1前			2		○							1	

	考古学の現在	1後			2		○								1	
	小計（18科目）	—	—	0	33	0	—									
図書館に関する科目	図書館概論	1前			2		○								1	
	図書館制度・経営論	3前			2		○								1	
	図書館情報技術論	2前			2		○								1	
	図書館サービス概論	1後			2		○								1	
	情報サービス論	1後			2		○								1	
	児童サービス論	2前			2		○								1	
	情報サービス演習Ⅰ	2前			1			○							1	
	情報サービス演習Ⅱ	2後			1				○						1	
	図書館情報資源概論	1前			2		○								1	
	情報資源組織論	2前			2		○								1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1				○						1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1					○					1	
	図書館基礎特論	2前			1		○								1	
	図書館サービス特論	1後			1		○								1	
	図書館情報資源特論	2前			1		○								1	
	図書・図書館史	1後			1		○								1	
	図書館施設論	1後			1		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	25	0	—									
社会教育に関する科目	生涯学習概論Ⅱ	1後			2		○								1	
	生涯学習支援論Ⅰ	2前			2		○								1	
	生涯学習支援論Ⅱ	2後			2		○								1	
	社会教育経営論Ⅰ	2前			2		○								1	
	社会教育経営論Ⅱ	2後			2		○								1	
	社会教育実習	3通			1					○					1	
	社会教育演習Ⅰ	3前			1				○						1	
	社会教育演習Ⅱ	3後			1					○					1	
	社会教育課題研究Ⅰ	3前			1					○					1	
	社会教育課題研究Ⅱ	3後			1						○				1	
	共生社会と社会教育	2後			2		○								1	
	死生観の歴史	1前			2		○								1	
	社会福祉Ⅰ	1前			2		○								1	
	小計（13科目）	—	—	0	21	0	—									
医療秘書に関する科目	患者論と医の倫理	1後			2		○				1					
	臨床検査と薬の知識	1前			2		○								1	
	医療にかかわる用語	1後			2		○								2	
	コミュニケーション論	1後			1		○								1	
	医療秘書概論	1前			2		○								1	
	医療秘書実務Ⅰ	1後			1				○						1	
	医療秘書実務Ⅱ	2前			1				○						1	
	医療情報処理学	1前			2		○								1	
	医療情報処理Ⅰ	1後			1				○						1	
	医療情報処理Ⅱ	1前			1					○					1	
	医療関係法規概論	2前			2		○				1					
	実務研修	2前			3						1				1	
	実務演習Ⅰ	1前			1						1					
	実務演習Ⅱ	1前			1						1					
	実務演習Ⅲ	1後			1						1					
	小計（15科目）	—	—	0	23	0	—									
合計（290科目）		—	—	32	460	0	—									
学位又は称号		学士（心理学）			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
総合教養教育科目20単位（必修科目4単位）、外国語教育科目6単位（必修科目4単位）、専門教育科目62単位（必修科目24単位）、自由選択科目36単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお、総合教養教育科目の選択科目のうち、「スタートアップ就実」を必修修とする。また、専門教育科目の選択科目のうち、「教育心理学（教育・学校心理学）」、「心理学研究法」、「社会・集団・家族心理学」、「健康心理学」から2単位を選択必修とする。 ※自由選択科目 総合教養教育科目、外国語教育科目、専門教育科目において各最低修得単位数を超えて修得した単位の他、他学部受講制度を利用して修得した単位、資格課程で修得した単位、入学前ないし在学中に他大学で修得した単位のうち専門科目に読み替えてできない単位を「自由選択科目」の単位とし、卒業要件単位としてカウントする。							1 学年の学期区分				2期					
							1 学期の授業期間				15週					
							1 時限の授業の標準時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(教育学部教育学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 (除く) の教員		
総合教養教育科目	スタートアップ就実	1前			2		○									6	メディア、オムニバス、共同（一部）
	数理・データサイエンス基礎	1前		1			○									2	メディア、共同
	情報リテラシー	1前		1			○									2	メディア、オムニバス
	自然地理学	1前			2		○									1	
	人類学の世界と歴史	1前			2		○									1	
	アジアの民族誌	1後			2		○									1	
	心理学 1	1前			2		○			1							
	心理学 2	1後			2		○			1							
	現代の哲学と思想	1後			2		○									1	
	現代の倫理	1前			2		○									1	
	日本文化論 1	1前			2		○									1	
	日本文化論 2	1後			2		○									1	
	女性の生活と歴史	1前			2		○									1	
	現代の女性環境	1後			2		○									1	
	漢詩文の表現と心	1前			2		○									1	
	漢詩文の表現と思想	1後			2		○									1	
	ポピュラー音楽の歴史	1前			2		○									1	
	世界の文学	1後			2		○									1	隔年開講
	20世紀史	1後			2		○									3	オムニバス、隔年開講
	ことばの科学	1後			2		○									1	
	キャリアデザイン論	1後			2		○									1	メディア
	人権の現代的課題	1後		2			○									1	
	法学	1後			2		○									1	
	日本国憲法	1前			2		○									1	
	社会学の世界と歴史	1前			2		○									1	
	社会学概論	1後			2		○									1	
	基礎経営論	1前			2		○									1	隔年開講
	基礎経済学	1前			2		○									1	隔年開講
	経済学概論	1前			2		○									1	隔年開講
	労働と社会	1後			2		○									1	
	政治学概論	1前			2		○									1	
	現代教育の諸問題	1前			2		○					1					
	健康と衛生	1前			2		○									3	オムニバス
	健康と栄養	1後			2		○									3	オムニバス
	環境と地球	1前			2		○									2	オムニバス
	環境と生命	1後			2		○									2	オムニバス
	化学の世界と歴史	1前			2		○									2	オムニバス
	現代生活と化学	1後			2		○									1	
	からだの構造と機能	1前			2		○									3	オムニバス
	からだの化学と生物学	1後			2		○									2	オムニバス
生命機能のプログラム	1前			2		○									1		
地球と宇宙のサイエンス	1前			2		○									2	オムニバス	
日本伝統の折紙の科学	1後			2		○									1		
身体運動と健康の科学	1前			2		○									1		
健康・スポーツと社会	1後			2		○									1		
スポーツ 1	1前			1				○							1		
スポーツ 2	1後			1				○	○						2		
スポーツ 3	1前			1				○	○						2		
スポーツ 4	1後			1				○	○						2		
こころの健康科学	1後			2		○									1		
現代人とこころの障害	1後			2		○									1		
情報と社会	1後			2		○									1	メディア	
情報と表現	1後			2		○									1		

	情報と文化	1前			2	○							1	メディア
	情報処理基礎演習	1前・後			2	○							2	
	プログラミング基礎	1前・後			2	○							1	
	プログラミング演習	1前・後			2	○							1	
	データ処理演習	1前・後			2	○							1	
	A I 基礎	1前			2	○							1	
	データエンジニアリング基礎	1後			2	○							1	
	データサイエンス	1後			2	○							1	
	アジアの世界と文化	1後			2	○							2	オムニバス、隔年開講
	欧米の世界と文化	1後			2	○							3	オムニバス、共同（一部）、隔年開講
	コラボレーション学修 1	1後			2	○				1			7	メディア、オムニバス、共同（一部）
	仕事に役立つ数学	1前			2	○							4	メディア、オムニバス
	茶道 1	1前			1		○						1	
	茶道 2	1後			1		○						1	
	書道 1	1前			1		○						1	
	書道 2	1後			1		○						1	
	インターンシップ・キャリア実習 1	2後			1			○					1	
	インターンシップ・キャリア実習 2	2後			1			○					1	
	漢字検定 1	1通			1		○						1	
	漢字検定 2	1通			1		○						1	
	異文化コミュニケーション 1	1通			2	○							1	
	異文化コミュニケーション 2	1通			2	○							1	
	異文化コミュニケーション 3	1通			2	○							1	
	異文化コミュニケーション 4	1通			2	○							1	
	日本事情 1	1前			2	○							1	隔年開講
	日本事情 2	1後			2	○							1	隔年開講
	日本事情 3	1前			2	○							1	隔年開講
	日本事情 4	1後			2	○							1	隔年開講
	小計（81科目）	—	—	4	144	0	—							
外国語教育科目	English Reading 1	1前		1			○						2	
	English Reading 2	1後		1			○						2	
	English Reading 3	2前		1			○						2	
	English Reading 4	2後		1			○						2	
	General English 1	1前			1		○						1	隔年開講
	General English 2	1後			1		○						1	隔年開講
	General English 3	1前			1		○						1	隔年開講
	General English 4	1後			1		○						1	隔年開講
	検定外国語 1	1通			2		○						1	
	検定外国語 2	1通			2		○						1	
	検定外国語 3	1通			2		○						1	
	検定外国語 4	1通			2		○						1	
	ドイツ語初級 1	1前			1		○						1	
	ドイツ語初級 2	1後			1		○						1	
	ドイツ語初級 3	1前			1		○						1	
	ドイツ語初級 4	1後			1		○						1	
	ドイツ語中級 1	2前			1		○						1	隔年開講
	ドイツ語中級 2	2後			1		○						1	隔年開講
	ドイツ語中級 3	2前			1		○						1	隔年開講
	ドイツ語中級 4	2後			1		○						1	隔年開講
	フランス語初級 1	1前			1		○						2	
	フランス語初級 2	1後			1		○						2	
	フランス語初級 3	1前			1		○						2	
	フランス語初級 4	1後			1		○						2	
	フランス語中級 1	2前			1		○						1	隔年開講
	フランス語中級 2	2後			1		○						1	隔年開講
	フランス語中級 3	2前			1		○						1	隔年開講
	フランス語中級 4	2後			1		○						1	隔年開講
	中国語初級 1	1前			1		○						2	
	中国語初級 2	1後			1		○						2	
	中国語初級 3	1前			1		○						2	
	中国語初級 4	1後			1		○						2	
	中国語中級 1	2前			1		○						1	
	中国語中級 2	2後			1		○						1	
	中国語中級 3	2前			1		○						1	
	中国語中級 4	2後			1		○						1	
	ハングル初級 1	1前			1		○						2	

	ハングル初級 2	1後			1		○						2	
	ハングル初級 3	1前			1		○						2	
	ハングル初級 4	1後			1		○						2	
	ハングル中級 1	2前			1		○						1	
	ハングル中級 2	2後			1		○						1	
	ハングル中級 3	2前			1		○						1	
	ハングル中級 4	2後			1		○						1	
	日本語 1	1前			1		○						1	
	日本語 2	1後			1		○						1	
	日本語 3	1前			1		○						1	
	日本語 4	1後			1		○						1	
	小計 (48科目)	—	—	4	48	0	—							
専門 教育 科目	教職論	1前	○	2			○			1				
	教育学概論	1後	○	2			○						1	
	教育心理学	1前	○	2			○			1				
	学習・言語心理学	2後			2		○						1	
	学校制度論	3後			2		○						1	
	特別ニーズ教育総論	2前	○		2		○			1	1			オムニバス、メディア
	子ども家庭支援の心理学	3後			2		○						1	
	保育者論	3後			2		○				1			
	保育原理Ⅰ	1前			2		○				1			
	保育原理Ⅱ	3前			2		○				1			
	社会的養護Ⅰ	2前			2		○			1				
	社会的養護Ⅱ	2後			1		○			1				
	社会福祉Ⅰ	1前			2		○			1				
	社会福祉Ⅱ	3前			2		○			1				
	子ども家庭福祉Ⅰ	1後			2		○			1				
	子ども家庭福祉Ⅱ	3後			2		○			1				
	発達心理学	2後		2			○						1	
	臨床心理学概論	2前			2		○						1	
	子どもの保健	1後			2		○						1	
	子どもの健康と安全	2前			1		○						1	
	子どもの食と栄養Ⅰ	2前			1		○						1	
	子どもの食と栄養Ⅱ	2後			1		○						1	
	子ども家庭支援論	3後			2		○			1				
	小学校教育課程論	2後			2		○						1	
	幼稚園教育課程論	2後			2		○				1			
	保育内容総論	2前			2			○			1			
	幼児の健康	1後			2		○			1				
	幼児の人間関係	2前			2		○				1			
	幼児の環境	2前			2		○			1				
	幼児の言葉	1前			2		○			1				
	幼児の表現	1前			2		○			2	1			オムニバス
	幼児の健康の指導法	2後			2		○				1			
	幼児の人間関係の指導法	3前			2		○					1		
	幼児の環境の指導法	3前			2		○			1				
	幼児の言葉の指導法	2前			2		○			1				
	幼児の音楽表現の指導法	2後			2		○				1			
	幼児の造形表現の指導法	2前			2		○			1				
	乳児保育Ⅰ	1後			2		○			1				
	乳児保育Ⅱ	2前			1			○		1				
	乳児保育Ⅲ	3前			2		○			1				
	特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅰ	1後	○		1			○		1				
	特別支援教育（障がい児保育を含む）Ⅱ	2前	○		1			○		1				
	子育て支援	3後			1			○			1			
	児童文化	3前			2		○				1			
	国語科教育法Ⅰ	2後			2		○			1				
	国語科教育法Ⅱ	4後			2		○			1				
	算数科教育法Ⅰ	2後			2		○			1				
	算数科教育法Ⅱ	3前			2		○			1				
	社会科教育法	3前			2		○				1			
	理科教育法	3前			2		○			1				
	生活科教育法	2前			2		○			1				
	家庭科教育法	3前			2		○						1	
	外国語教育法	3後			2		○						1	
	音楽科教育法	2前			2		○				1			

図画工作科教育法	3前			2	○			1											
体育科教育法	2前			2	○				1										
道徳の指導法	2後			2	○					1									
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3後			2	○			1											
教育方法論	3後			2	○												1		
ICT活用の理論と方法	2前			1	○												1		
幼児理解とカウンセリング	2後			2		○											1		
教育相談	3後			2	○			1											
生徒・進路指導論	2前			2	○			1											
国語Ⅰ	1前			2	○			1											
国語Ⅱ	1後			2	○			1											
算数Ⅰ	2前			2	○			1											
算数Ⅱ	2後			2	○			1											
社会Ⅰ	2後			2	○									1					
社会Ⅱ	3後			2	○									1					
理科Ⅰ	2後			2	○			1											
理科Ⅱ	3後			2	○			1											
家庭	1後			2	○												1		
生活	1後			2	○			1											
児童英語Ⅰ	2前			2	○												1		
児童英語Ⅱ	2後			2	○												1		
音楽	1前			2		○		1											
幼小連携教育演習1（音楽）	3前			1		○											1		
幼小連携教育演習2（音楽）	3後			1		○											1		
幼小連携教育演習3（造形・図工）	3前			1		○		1											
幼小連携教育演習4（造形・図工）	3後			1		○		1											
幼小連携教育演習5（運動・体育）	3前			1		○						1							
幼小連携教育演習6（運動・体育）	3後			1		○						1							
ピアノ基礎演習	1後			1		○							1				1		
ピアノ実践演習	3前			1		○											2		
図画工作Ⅰ	1前			2		○		1											
図画工作Ⅱ	1後			2		○		1											
体育実技	1前			1		○						1							
体育	2後			2		○						1							
小学校教育実習	3後	○		4			○	2									集中、共同		
小学校教育実習指導Ⅰ	3前			1			○	2									共同		
小学校教育実習指導Ⅱ	3後			1			○	2									共同		
介護等体験	3前			1			○	2											
幼稚園教育実習Ⅰ	2前	○		1			○						1				集中		
幼稚園教育実習Ⅱ	3後	○		3			○						1				集中		
幼稚園教育実習指導Ⅰ	3前			1			○						1						
幼稚園教育実習指導Ⅱ	3後			1			○						1						
保育実習Ⅰ（保育所）	2前	○		2			○	1									集中		
保育実習Ⅰ（施設）	2後	○		2			○					1					集中		
保育実習Ⅱ（保育所）	3前			2			○	1									集中		
保育実習Ⅲ（施設）	3後			2			○					1					集中		
保育実習指導Ⅰ（事前）	2前			1		○		1				1		1					
保育実習指導Ⅰ（事後）	2後			1		○		1				1							
保育実習指導Ⅱ	3通			1		○		1											
保育実習指導Ⅲ	3通			1		○		1											
保幼小現場体験	1後	○		1			○	2					1				集中、共同		
特別支援学校現場体験	2通			1			○	1				1		1			集中、共同		
教育・福祉インターンシップ	4前			1			○	1									集中		
特別支援教育総論	1後			2		○						1					2		
特別支援教育の制度と歴史	2後			2		○											1		
知的障害の心理学（障害者・障害児心理学B）	1後			2		○							1						
知的障害児の生理・病理	1前			1		○						1							
肢体不自由児の心理（障害者・障害児心理学A）	1前			1		○											1		メディア
肢体不自由児の生理・病理	2前			1		○		1									2		オムニバス
病弱児の心理	3前			1		○								1					
病弱児の生理・病理	2前			1		○											1		
障害児心理学各論	3後			2		○							1						
知的障害児教育Ⅰ	2前			2		○						1							
知的障害児教育Ⅱ	2後			2		○						1							
肢体不自由児教育	3前			2		○											1		
病弱児教育	3後			2		○		1											

	特別支援教育各論	3前			2		○			1						
	発達障害の心理学	2後			2		○					1				
	発達障害児の生理・病理	1後			1		○				1					
	視覚障害児教育総論	3後			1		○								1	
	聴覚障害児教育総論	3後			1		○								1	
	発達障害児教育	3前			2		○				1					
	重複障害児教育総論	3後			2		○				1					
	言語障害児教育総論	2後			2		○				1					
	特別支援教育実習指導	4前			1				○	1		1				集中、共同
	特別支援教育実習	4前	○		2				○	1	1					集中、共同
	初年次教育Ⅰ	1前	○	1				○			1	1				オムニバス
	初年次教育Ⅱ	1後	○	1				○		1		1				オムニバス
	教職研究Ⅰ	3後			1			○		2						オムニバス
	教職研究Ⅱ	4前			1			○		2						オムニバス
	保育・教職実践演習（幼・小）	4後	○		2			○		3		1				オムニバス
	初等教育ゼミナールⅠ	3前	○	2				○		11	8	5				
	初等教育ゼミナールⅡ	3後	○	2				○		11	8	5				
	初等教育ゼミナールⅢ	4前	○	2				○		11	8	5				
	初等教育ゼミナールⅣ	4後	○	2				○		11	8	5				
	卒業研究	4通	○		6			○		11	8	5				
	小計（140科目）	—	—	24	219	0	—									
博物館に関する科目	生涯学習概論Ⅰ	1前			2		○								1	
	博物館概論	1前			2		○								1	
	博物館経営論	2前			2		○								4	オムニバス
	博物館資料論	3後			2		○								5	オムニバス
	博物館資料保存論	4前			2		○								3	オムニバス
	博物館展示論	3前			2				○						3	オムニバス
	博物館実習Ⅰ	4前			1				○						1	
	博物館実習Ⅱ	4後			1				○						1	
	博物館実習Ⅲ	4後			1		○								1	集中
	博物館情報・メディア論	2後			2		○								1	
	博物館教育論	2後			2		○								4	オムニバス
	古文書の基礎	1後			2		○								1	
	古文書解読	1後			2		○								1	
	日本美術史	1後			2		○								1	
	西洋美術史	1前			2		○								1	
	東洋美術史	1後			2		○								1	
	考古学の基礎	1前			2		○								1	
	考古学の現在	1後			2		○								1	
	小計（18科目）	—	—	0	33	0	—									
図書館に関する科目	図書館概論	1前			2		○								1	
	図書館制度・経営論	3前			2		○								1	
	図書館情報技術論	2前			2		○								1	
	図書館サービス概論	1後			2		○								1	
	情報サービス論	1後			2		○								1	
	児童サービス論	2前			2		○								1	
	情報サービス演習Ⅰ	2前			1			○							1	
	情報サービス演習Ⅱ	2後			1			○							1	
	図書館情報資源概論	1前			2		○								1	
	情報資源組織論	2前			2		○								1	
	情報資源組織演習Ⅰ	2前			1			○							1	
	情報資源組織演習Ⅱ	2後			1			○							1	
	図書館基礎特論	2前			1		○								1	
	図書館サービステ論	1後			1		○								1	
	図書館情報資源特論	2前			1		○								1	
	図書・図書館史	1後			1		○								1	
	図書館施設論	1後			1		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	25	0	—									
司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	2前			2		○								1	
	学校図書館メディアの構成	2後			2		○								1	
	学習指導と学校図書館	2後			2		○								1	
	読書と豊かな人間性	2後			2		○								1	
	情報メディアの活用	2前			2		○								1	
	小計（5科目）	—	—	0	10	0	—									
社会教	生涯学習概論Ⅱ	1後			2		○								1	
	生涯学習支援論Ⅰ	2前			2		○								1	

社会教育に関する科目	生涯学習支援論Ⅱ	2後			2		○								1	
	社会教育経営論Ⅰ	2前			2		○								1	
	社会教育経営論Ⅱ	2後			2		○								1	
	社会教育実習	3通			1				○						1	
	社会教育演習Ⅰ	3前			1			○							1	
	社会教育演習Ⅱ	3後			1			○							1	
	社会教育課題研究Ⅰ	3前			1			○							1	
	社会教育課題研究Ⅱ	3後			1			○							1	
	共生社会と社会教育	2後			2		○								1	
	死生観の歴史	1前			2		○								1	
小計（12科目）		—	—	0	19	0	—									
医療秘書に関する科目	衛生学	2前			2		○								3	オムニバス、メディア、集中

学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文） 目次

1. 心理学部心理学科

(1)収容定員を増加する組織の概要.....	4
① 収容定員を増加する組織の概要	4
② 収容定員を増加する組織の特色	4
(2)人材需要の社会的な動向等	5
① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	5
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析.....	7
③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域.....	7
④ 既設組織の定員充足の状況.....	8
(3)学生確保の見通し.....	8
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	8
ア 既設組織における取組とその目標	8
イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標.....	9
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	10
② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	11
ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織における取組とその目標	11
イ 競合校の入学志願動向等	12
ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等	13
エ 学生納付金等の金額設定の理由	14
③ 先行事例分析.....	15
④ 学生確保に関するアンケート調査.....	15
⑤人材需要に関するアンケート調査	16
(4)新設組織の定員設定の理由	21

2. 教育学部教育学科

(1)収容定員を増加する組織の概要.....	21
①収容定員を増加する組織の概要.....	21
②収容定員を増加する組織の特色.....	22
(2)人材需要の社会的な動向等.....	22
①収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析.....	22
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析.....	23
③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域.....	24
④既設組織の定員充足の状況.....	25
(3)学生確保の見通し.....	25
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	25
ア 既設組織における取組とその目標.....	25
イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標.....	26
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数.....	27
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）.....	28
ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織における取組とその目標.....	28
イ 競合校の入学志願動向等.....	29
ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等.....	29
エ 学生納付金等の金額設定の理由.....	31
③先行事例分析.....	31
④学生確保に関するアンケート調査.....	31
⑤人材需要に関するアンケート調査.....	33
(4)新設組織の定員設定の理由.....	38

学生の確保の見通し等を記載した書類

本学は令和 7(2025)4 月、教育学部教育心理学科を母体とした新学部として入学定員 100 人、収容定員 400 人の心理学部を設置する。また、教育学部初等教育学科は、教育学部教育学科へ名称変更を行う。入学定員を 75 人から 110 人、3 年次編入学定員 5 人を廃止、収容定員を 310 人から 440 人に変更する。

収容定員を増加する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
心理学部(心理学科) ※1	100 人	—	400 人	岡山県岡山市中区 西川原一丁目 6 番 1 号
教育学部教育学科 ※2	110 人	—	440 人	

※1 令和 7(2025)年 4 月設置予定（令和 6(2024) 年 4 月届出予定）

※2 令和 7(2025)年 4 月から名称変更予定（令和 6(2024) 年 4 月届出予定）

初等教育学科 → 教育学科

以下、学部学科ごとに、収容定員を増加する組織の概要、人材需要の社会的な動向、学生確保の見通し、新設組織の定員設定の理由を記述する。

1. 心理学部(心理学科)

(1)収容定員を増加する組織の概要

① 収容定員を増加する組織の概要

本学は令和 7(2025)4 月、教育学部教育心理学科を母体とした新学部として、入学定員 100 人、収容定員 400 人の心理学部を設置する。

収容定員を増加する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
心理学部(心理学科) ※	100 人	—	400 人	岡山県岡山市中区 西川原一丁目 6 番 1 号

※ 令和 7(2025)年 4 月設置予定（令和 6(2024) 年 4 月届出予定）

② 収容定員を増加する組織の特色

心理学部心理学科は既存の教育学部教育心理学科(入学定員 62 人、収容定員 248

人) の教育課程を発展的に継承し、令和 7(2025)年 4 月に設置を予定している。令和 7(2025)年 4 月の心理学部開設と同時に、教育学部教育心理学科は学生募集を停止し、在学生の卒業をもって廃止する。

心理学部心理学科では、「人の心と行動、心身の健康状態を多角的な視点から理解し、立場の異なる人との対話を通して、支えケアすること及び、主体的・協働的に課題を解決することに心理学の専門知識や技能を活用できる人材を育成することを目的とし、社会及び個人の幸福の実現に貢献する。」という教育理念を実現するために、社会人としての汎用的な力（心理学に基づいた、多角的な人間理解、傾聴力・対話力、データ収集・分析力、自己管理力、批判的実証的態度、振り返る力）を備えた人材を身につけた人材や心理支援、養護・看護の高度な専門的知識・技能を身に付け、広い視野を持った人材を育成することを目的としている。

(2)人材需要の社会的な動向等

① 収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

文部科学省【資料 1】の調査で不登校は児童生徒数 29 万に急増しており、その他の様々な課題に対しても、学校がスクールカウンセラー等の専門家を含めたチーム学校で対応するよう、生徒指導提要（改訂版）【資料 2】の随所で求められている。中でも問題への事後的な対応に終わらず、心身の健康な発達を促進したり、課題を未然に防止するための対応方針が明確にされ、そうした取り組みができるスクールカウンセラー、またそうした専門家と協働できる人材が求められている。

また、特定の領域に限らず、医療はもとより、産業、福祉、司法・矯正の幅広い領域で、心理的援助のみならず、関係者への助言や心の健康に対応するための情報提供ができる、公認心理師などの専門家が求められている。心身の不調による休業等の労働者の心身の健康問題【資料 3】、児童虐待の増加（こども家庭庁 2023）【資料 4】、高齢者虐待の問題（厚生労働省 2023）【資料 5】等々の社会的背景により、広い領域で多職種と協働できる心理専門職が必要とされている。

一方、心身の健康は、専門家のみの取り組みに終わるのではなく、むしろコミュニティで暮らす人・働く人が主体となって取り組むべき問題である。WHO は、健康（Well-being）を身体的、精神的、そして社会的にも良い状態を意味するものとしている。よって、一般社会人として、人を生物学的（身体的）、心理学的、社会的視点から包括的に理解し、自身や身近な他者の心身の健康管理だけでなく、コミュニティの心身の健康増進に寄与できる人材が必要とされていると言える。

さらに、変化が激しく、デジタル化が進む中、画一的でない多様な幸せが実現さ

れる社会の形成が求められている【資料 6】。そうした社会の動向より、健康に限らず、心理学の視点から人間と社会の課題を理解し、多様な幸せの実現を目指して解決に挑むことができる人材が必要とされていると考える。

第四次産業革命下では大量のデータを処理し、活用するためにデータサイエンスなどの知識を持った人材が必要になってくる。経済産業省、厚生労働省、文部科学省の三省連携で人材需給の試算を行ったところ、令和 12(2030)年で最大 79 万人の IT 人材が不足するとされている【資料 7】。しかし、人と社会の多様な幸せの実現のためには、単にデータサイエンスの技能を有するのではなく、人の心と行動を科学的に解明する心理学の視点から、人間と社会の課題を理解できる人材が必要と考える。心理学部では、心理学の方法や考え方によって人の心や行動を数値化し、データサイエンスを通じて人や社会の課題を解決する力を持った人材を育成することを目的としており、データを通じて多様な幸せを実現できる社会づくりを行うことができる IT 人材の輩出ができると考える。

養成する人材の地域的ニーズの調査のため、岡山県、広島県、香川県を中心に、本学学生の採用実績がある企業や卒業生の就職先として想定される企業・団体、岡山県内の教育委員会、岡山県・香川県の公立学校の校長と園長に対して、郵送による採用意向調査を行った。

【資料 8】の 26.27 ページにある通り、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は 89.5%（348 企業・団体）であり、予定している入学定員 100 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。また、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「心理学部心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 583 名で、予定している入学定員数を大きく上回る採用意向がみられた。これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

次に、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会は合わせて 52.5%（62 企業・団体）である。「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会へ、「心理学部心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて 74 名である。

「心理学部心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は 71.4%（297 園・小学校）であり、予定している入学定員数 100 名を

上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する小学校、中学校・高校、教育委員会の視点でみても、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

この結果からも、当該学部の養成する人材の需要は十分あると考える。

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

2022(令和 4)年に 112.1 万人である日本の 18 歳人口は縮小傾向にあり、2025(令和 7)年にはいったん増加するものの、2034(令和 16)年には 100.6 万人まで減少すると予測されている【資料 9】。減少数が大きいのは近畿(2022(令和 4)年比 22,958 人減)、減少率が高いのは東北(同年比 80.9%)となっており、本学が位置する中国地方においては、減少数は同年比 7,523 人減、減少率は同年比 88.7%となっている【資料 10】。また、全体としても東京・福岡・沖縄を除くすべての道府県で減少傾向になっている【資料 11】。

こうした厳しい社会情勢においても、本学全体における全入試方式の志願倍率【資料 12】は 2019(令和元)年度から 2023(令和 5)年度の 5 年間全てで 4 倍を上回る高い水準を維持しており、中でも、心理学部の実質的基礎となる教育心理学科の倍率が 4 倍以上と高い水準を維持している【資料 13】。本学は主に中国地方から、特に岡山県から大半の志願者を集めており【資料 14】、中国地方は 2034(令和 16)年の 18 歳人口の減少率は 2022(令和 4)年比 88.7%となっており、エリア別に 3 番目に低く、岡山県においても減少(同 87.6%)はするものの、全国的には中位の緩やかな減少率であり、中長期的にみても大学受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。また、中国地方の大学進学率は年々増加しており 2022(令和 4)年が 51%であり、岡山県についても同 50.1%となっており、18 歳人口の減少期においても安定した大学等進学状況で推移していることから、中長期的な確保の見通しがあるものと考えられる【資料 15】。

③ 収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

本学の位置する岡山県へ出身高校の所在地県別の入学者数は、【別紙 1】にあるとおり、岡山県が 44.6%を占めている。そのような状況において、今回収容定員の増加を申請する 2 学科の主な学生募集地域は、岡山県を中心として中国地方、四国地方と考える。

本学における 2023(令和 5)年の大学全体の出身高校の所在地県別入学者数をみると、岡山県からの入学者が 72.8%を占めている。新たに設置する心理学部心理学科の実質的基礎となる教育心理学科は 47.9%となっており、続いて広島県、香

川県をはじめとした中国・四国地方の各県となっている【資料 16】。また、【資料 14】にあるとおり志願者についても同様で、中国地方、四国地方、特に岡山県からの志願者が大半を占めている。学校基本調査によると、2023(令和 5)年に岡山県内の高等学校出身で進学した 9,727 人のうち、岡山県内の大学への進学者数は 3,942 人(40.5%)である【資料 17-1】。そのうち本学には 494 人(5.1%)が入学してきており、新たに設置する心理学部心理学科の実質的基礎となる教育心理学科について、【資料 16】のとおり 35 人が入学している。なお、【資料 17-2】では岡山県に所在する高校の生徒の進学先は岡山県が 40.5%を占めており、群を抜いて高いことがわかる。

また、【資料 17-1】【資料 17-2】からわかるように、岡山県内に所在する高校に在学する生徒の進学先は岡山県について、大阪府・東京都・兵庫県という都市が続いている。これらの都市へ流出する岡山県内の生徒を取り込むことも必要と考える。その点においては、設置予定の心理学部心理学科については、心理学を学ぶために県外へ、特に京阪神に流出していた受験生の取り込むことができると考える。

上記理由により、主な学生募集地域を中国地方、四国地方、特に岡山県とすることの妥当性については、問題がないといえる。

④ 既設組織の定員充足の状況

既設組織の入学定員充足状況については、【別紙 2-1～9】のとおりである。過去 5 年間の平均入学定員充足率は、就実大学においては薬学科(0.85 倍)を除き 1 倍を上回っている。今回新たに設置する心理学部心理学科の基礎となる教育学部教育心理学科の入学定員充足率は 5 年間の平均で 1.16 倍となっている。併設する就実短期大学は 1 倍を下回っており、幼児教育学科 0.81 倍、生活実践科学科 0.98 倍である。

収容定員の充足率については、【資料 18】のとおりである。就実大学においては薬学科(0.76 倍)を除き 1 倍を上回っている。今回新たに設置する心理学部心理学科の基礎となる教育学部教育心理学科の定員充足率は 1.19 倍となっているが、教育学部全体では 1.12 倍となっている。併設する就実短期大学幼児教育学科において、充足率が 0.67 であり 0.7 を下回っているが、令和 7 年度より募集停止するため、今回の収容定員変更申請には影響はない。

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生募集のための取組としては、主にオープンキャンパス、ガイダンス・進学相談会、資料請求を行っている。新たに設置する心理学部心理学科の実質的基礎となる教育学部教育心理学科における過去のオープンキャンパスの来場者数、資料請求者数の実績は【別紙 3-1】のとおりである。

オープンキャンパスは毎年 6 回程度（3・6・7・8 月）、高校生や保護者を対象とし開催している。また、令和元（2019）年度より予備校と協力し、本学の推薦選抜と一般選抜の入試対策講座を対面で実施しているが、令和 2（2020）年度より新型コロナウイルスへの対応で WEB に期間限定で動画を掲載し期間中は何度も閲覧可能としている。これにより高校生のニーズに沿った参加が可能となっている。両学科とも過去 2 年間に於いてオープンキャンパス参加者のうち 50%から 60%以上が受験をし、初等教育学科では同平均で 28.8%が、教育心理学科では 39.2%が入学していることから、オープンキャンパスの参加者を増やすことが学生確保の主たる方法だといえる。なお、オープンキャンパス参加者の増員および受験者数の確保のために、高等学校訪問をおこなっている。令和 5（2023）年度入試に向けては 355 校訪問しており、毎年度 350 校程度訪問することを目標としている。

学生募集エリアについては学部ごとに設定し、それぞれの地域の高校の特性や志願状況等を踏まえた学生募集活動を行っている。具体的にはこのエリアに沿ってサテライト入試会場（津山、大阪、姫路、鳥取、松江、防府、広島、高松、松山、高知、福岡、那覇の 12 会場）の設定、高校内ガイダンスや進学相談会への参加、高校訪問での前年度の入試結果の報告・在学生の活躍・新たな入試情報の案内等の実施、WEB 広告の掲載内容・掲載先の決定等を行っている。学生募集エリアは、志願実績や近隣大学の動向等を踏まえ適宜見直している。

本学ホームページの受験生応援サイト・オープンキャンパスサイトを設置しているが、のアクセス人数は令和 4（2022）年度に約 39,000 人（延べ数）である。在学生が大学での学びなどの大学生活を紹介するページについて、全体のアクセス総数に対するアクセス割合が令和 3（2021）年度の 3%から 13%へ伸長しており、オープンキャンパスや受験情報などの顕在層になる手前の潜在層向けの情報提供の役割を果たしていることがうかがえる。

イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

収容定員を増加することに伴う学生募集のための PR 活動の方針などについては、既設学部学科を母体とする計画であることから、従来のものから大きくは変更しない。オープンキャンパスに重点をおき、いかにオープンキャンパスに参加してもらうかを第一に行う。実施回数は 3・6・7・8 月に 6 回を維持し、高等学校訪問に

より広報活動を行う。学校訪問先は本学への進学実績が豊富なエリア・学校に加え、本学への受験者数が少ない地域を訪問し新たな受験者を開拓することにより、参加者数を増加させることを目標とする。

インターネットを利用した広報活動としては、特設サイトにて学修内容や大学生活など学科への興味を持ってもらうコンテンツを充実させる予定である。なおInstagramにより学科情報をコンスタントに発信するほか、YouTube内の大学公式チャンネルにおいて、学科の魅力・特色を紹介し、潜在層向けの情報発信を行っていく予定である。

また、高等学校から出前授業の依頼があった際には、積極的に参加し、大学進学への動機づけや、主体的な進路選択の参考になるような授業を行うこととし、同様に進学相談会や高校内ガイダンスについても、大学での学びや入試制度等の説明を行い、本学の特色ある学びをより深く知ってもらうとともに、疑問の解消などの機会として利用していく。その他大学の見学会については、大学ガイダンスや、実際の授業見学、食堂体験、在校生との交流会など多彩なメニューからなり、本学を実際に感じてもらう機会とする。高等学校からだけではなく、個人やグループでの申し込みも受け付け、同様に対応していく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

1) オープンキャンパス

・取組概要

オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者等を対象に入試概要の説明や、学科説明・施設見学・体験授業、学科別のQ & Aコーナー、入試・就職・資格・奨学金など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。

R4 年度入試対象（R3 開催）：計 6 回開催（3/6. 6/20. 7/17. 7/18. 8/21. 8/22）

R5 年度入試対象（R4 開催）：計 6 回開催（3/12. 6/19. 7/16. 7/17. 8/20. 8/21）

・過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析

過去 2 年間の平均において、オープンキャンパス参加者（264 人）のうち 57.2%（87 人）が受験をし、39.2%（60 人）が入学をしている。また、教育心理学科全体の入学者数に対して、78.4%の入学生がオープンキャンパスに参加をしている。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。【別紙 3-1】

2) ガイダンス・進学相談会

・取組概要

岡山県を中心に開催される会場ガイダンス・進学相談会、高校内ガイダンス・進

学相談会等に参加し直接高校生や保護者等に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。

- ・過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析

ガイダンス・進学相談会参加者の2年間の平均受験率は50.6%、入学率は37.5%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。【別紙3-1】

3)資料請求

- ・取組概要

大学案内を作成、学科紹介パンフレット、募集要項を作成し、大学ホームページから資料請求者に対し送付する。また、大学案内等は、高校訪問、オープンキャンパス、ガイダンス・進学相談会等において幅広く配布している。

- ・過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析

資料請求者の2年間の平均受験率は50.8%、入学率は26.1%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。【別紙3-1】

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織における取組とその目標

○競合校の選定理由

下記のとおり、心理学を学ぶ大学を本学所在地である岡山県、中四国地方（広島県、徳島県）から選出した6校を競合校とした。

大学	所在地
山陽学園大学総合人間学部ビジネス心理学科	岡山県岡山市
広島修道大学健康科学部心理学科	広島県広島市
安田女子大学心理学部現代心理学科	広島県広島市
広島文教大学人間科学部心理学科	広島県広島市
比治山大学現代文化学部社会臨床心理学科	広島県広島市
徳島文理大学人間生活学部心理学科	徳島県徳島市

既存の教育学部教育心理学科の主な募集地域である中四国地方に位置する心理学系統の学科を持ち、学力層においても同学科の偏差値と同程度である大学を選定している。

○競合校との比較分析

競合校としてあげた 6 大学と本学を比較したものが【資料 19】である。本学の優位性について、それぞれの観点から説明をしたものが下記のとおりである。

- ・学納金：競合校の初年度納付金の平均金額は 1,281,220 円であるが、本学は 1,220,000 円であり、低く抑えられている。
- ・ST 比：競合校の平均は 23.7 であるが、本学が 21.1 と平均より低く、学生に対し、きめ細かいサポート体制をとることが可能である。
- ・取得できる資格：新設学部であるが、教育学部教育心理学科の教育課程を踏襲している。そのため、通常の心理学系統の学科で取得できる認定心理士申請資格や公認心理師受験要件学部科目に加え、養護教諭一種免許状を取得することができる。競合校において同様の資格取得が可能な大学は 2 校しかない。
- ・就職支援について：競合校の平均就職率は 97.5% であるが、新設する心理学部心理学科の基礎となる教育学部教育心理学科の就職率は 100% である。また、就職に関する職員数で比較すると、本学は競合校に対して、一番多く、きめ細かい就職支援を行うことが可能である。
- ・入試：総合型選抜の試験日については 1 校のみが重複している。一般選抜入試においては、4 校が重複しているが、入試日程を 2 日間としているため、完全な重複とはならない。そのため本学と競合校の両方を受験することができ、受験生にとっては選択幅がふえている。
- ・キャンパスへのアクセスについて：本学の最寄り駅は JR 岡山駅から 3 分で到着する西川原・就実駅である。同駅の改札からは徒歩一分で学内となる好位置に立地している。そのため、岡山県内はもとより、香川県や広島県・兵庫県の自宅からも通学することができ、経済的に大きなメリットともなる。また、岡山駅まで一駅であり、岡山市中心部に位置するため、下宿した場合の帰省に便利だけでなく、受験の際の負担も少ない。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の過去 3 年間の入学志願動向は【資料 20】のとおりである。過去 3 年間の平均定員充足率は 113.7% であり、特に広島県内に位置する競合校においては、127.0% と高い数値を示している。志願倍率も平均 4.6 倍であり、どの大学も入学定員を上回る志願者数を確保している。また、日本私立学校振興・共済事業団によると、心理学部の令和 5 年度志願者数は令和 4 年度に比べ 4,457 人増加し、入学者数も増加している【資料 21】。このようなことから、心理学系統を学ぶ学科への需要は高いと判断でき、心理学部心理学科は十分な学生確保が見込まれると推測

できる。

ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等

令和 5 年度の学校基本調査では、岡山県内の大学への進学者を出身高校の所在地別にみると、広島県が岡山県に次いで 2 番目に高い。また、岡山県内の高校生において、大阪府・東京都・兵庫県・京都府・広島県への進学者数の合計は岡山県内の大学への進学者と大差がない。このことから広島県の高校生及び、他都道府県へ流出する高校生を確保すれば定員を充足できると考える。以上のことを前提とし、心理学部心理学科において定員を充足できる根拠を説明する。【資料 17-1】

現在の教育学部教育心理学科は教育学部に設置されており、学位の分野が教育学であったことから、一般的な心理学を学ぼうとする高校生は広島県などの他県へ流出していたと思われる。本学と同じ岡山県に位置する山陽学園大学においては順調に志願者を確保しており、また広島県に位置する競合校の定員充足率は過去 3 年間で平均 127.0% と高く、心理学系統への高い需要が確認できる。なお、徳島文理大学人間生活学部心理学科は過去三年間で定員充足ができていないが、同大学の入学者は四国地方の高校生が大半を占めており、岡山県出身者の数は四国四県、沖縄に次ぐ順位であることから、本学への影響は少ないと思われる。【資料 20】

さらに、(3) ②アで記述したように、本学は学納金において競合校の平均金額より低く、就職率についても 100% であることから、保護者層への大きなアピールポイントとなっている。【資料 19】

株式会社進研アドに依頼し、令和 7(2025)年度に大学へ進学予定の高校 2 年生対象に対し進学意向のアンケートを行った。【資料 22】の 12 ページにあるように以下の通りとなった。

卒業後の進路として私立大学への進学を希望し、「心理学心理学科」の学びと関連する学問分野に興味がある者のうち、

本学心理学部心理学科を

- ・「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 39 名
- ・「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 15 名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 7 名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、61 名であった。

また、

- ・「第一志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 3 名
- ・「第二志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 62 名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 163 名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、228 名であった。

本学で実施した、令和 5(2023)年度の入学生に対しての新入生アンケートでは、心理学部心理学科の前身となる教育学部教育心理学科を第 1 志望として入学した学生は 51%、第 2 志望 24%・第 3 志望で入学した学生は 8%、無回答 17%であったことから、第 1 志望以外での入学生も多数存在する。【資料 23】

このことから、第 1 志望・第 2 志望・第 3 志望以降として受験し、他の志望校が不合格の場合入学すると回答した者の合計 228 人に、過去 5 年間の教育学部教育心理学科の歩留率 0.41 をかけると 93 人となる。これに第 1 志望・第 2 志望・第 3 志望以降として受験し入学すると回答した者の合計 61 人を加えると 154 人となり、入学定員 100 人を上まわる。【別紙 2-5】

以上のことより、心理学部心理学科においては入学定員を充足できると判断できる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

入学金、授業料等の学生納付金については以下のとおりである。心理学部心理学科については、基礎となる教育学部教育心理学科と同じとする。

	入学金	年間授業料
心理学部心理学科	270,000 円	950,000 円

金額設定の理由としては、大学の経営に係る財政的な視点と学生への還元といった受益者（学生・保護者）に対しての責任を重視しながら、施設・設備の充実を図ることを考慮した結果である。

また、大学の定員が増加するが、教室等施設はキャンパスを共有する短期大学を令和 7 年度に募集停止するため、学生の総数は大きく増加しないため校舎の増改築は必要ないと考える。また、同様の理由により、大学運営上のランニングコストについても大きくは増加しないと考える

以上の理由により、学生納付金について、新設する心理学部心理学科は基礎となる教育学部教育心理学科と同額と設定する。

③ 先行事例分析

龍谷大学(京都府京都市)が、令和5年4月に心理学部心理学科(入学定員255人、3年次編入学定員10人)を開設し、同年同月に文学部臨床心理学科(入学定員99人、編入学定員2人)を募集停止している。心理学部心理学科の2023年度の志願者数は3569人、文学部臨床心理学科の2022年度の志願者数は1949人と1620人増加し、前年比183%となっている。このことから、心理学系統を学ぶ学科への需要は高いと判断でき、心理学部心理学科は十分な学生確保が見込まれると推測できる。

④ 学生確保に関するアンケート調査

下記のとおり、本学に進学実績がある高等学校の2年生にアンケート調査を行った。

調査エリアは、本学への志願者が多い岡山県、広島県、香川県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県とし、調査対象校は本学への進学実績のある高等学校を中心に75校を調査対象とした。調査対象とした高等学校から入学した在学学生は1,688人であり、大学全体の在籍者数2,609人の64%にあたり、当該組織の学生募集地域等にも合致している。【資料24】

調査対象		高校2年生
調査エリア		鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、高知県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	13,780人(83校)
	有効回収数 (回収校数)	9,959人(75校) 有効回収率：72.3%
調査時期		2023年11月2日(木)～2023年12月12日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

調査結果については、【資料22】の12ページにあるように以下の通りである。

卒業後の進路として私立大学への進学を希望し、「心理学心理学科」の学びと関連する学問分野に興味がある者のうち、

本学心理学部心理学科を

- ・「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は39名
- ・「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は15名

・「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は7名
上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、61名であった。

また、

- ・「第一志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は3名
- ・「第二志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は62名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は163名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、228名であった。

本学が実施した、令和5(2023)年度の入学生に対する新入生アンケートでは、心理学部心理学科の前身となる教育学部教育心理学科を第1志望として入学した学生は51%、第2志望24%・第3志望で入学した学生は8%、無回答17%であったことから、第1志望以外での入学生も多数存在する。【資料23】

このことから、第1志望・第2志望・第3志望以降として受験し、他の志望校が不合格の場合入学すると回答した者の合計228人に、過去5年間の教育学部教育心理学科の歩留率0.41をかけると93人となる。これに第1志望・第2志望・第3志望以降として受験し入学すると回答した者の合計61人を加えると154人となり、入学定員100人を上まわる。【別紙2-5】

以上のことより、心理学部心理学科においては入学定員を充足できると判断できる。

⑤人材需要に関するアンケート調査

1) 既設学部・学科の求人状況等

一般就職について、本学における最近4年間の求人件数（薬学及び教職幼保の専門求人を除く。）の実績は、令和元年(2019)年度は1,058件、令和2(2020)年度は863件、令和3(2021)年度は893件、令和4(2022)年度は1,034件となっている。求人件数は、令和2(2020)年度はコロナ禍の影響により少し減少はしているが、令和4(2022)年度から回復しており、最近4年間の平均は962件、また令和4(2022)年度の一人当たりの求人件数は3.02社となっており、高い数字を保っている。【資料25】

公立学校の教員採用候補予定者数は、各自治体により異なっているため、実施要項などの情報収集を迅速かつ的確に行い、学生に周知している

2) 本学におけるキャリア支援の取組

a) キャリア支援を行うための体制

本学では、教職・幼保を除く一般就職について支援を行うキャリア支援・開発課と、保育・教職についての支援をおこなう保育・教職支援課を置いている。

キャリア支援・開発課には、キャリアカウンセラー資格を持つ2名を含む9名の職員が学生の対応にあたっている。全般的な方針や問題処理に関しては、各学部・学科所属教員から選任された10名の委員とキャリア支援・開発部等の部課長からなるキャリア支援・開発委員会を設け、支援活動全体の方針や状況に応じた対策、全学的活動と学部・学科ごとの活動との調整、支援活動や成果の学内広報の在り方等の協議、また最新の学生の内定状況を共有するために、ほぼ毎月行っている。

保育・教職支援課には、幼稚園小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員及び養護教諭、保育士などの免許状、資格取得見込みの学生に特化した支援を行っている。実習・教職など関わる総合的な側面から、教育学部所属の教授を筆頭に公立の校長(前)、園長(前)、キャリアカウンセラー資格を持つスタッフ8名が、教員と連携しつつ強力な支援体制を構築しながら、学生の対応にあたっている。各学部・学科所属教員から選任された13名の保育・教職課程委員と保育・教職支援部及び教務部の部課長からなる保育・教職課程委員会を設け、「学び」の主体である児童生徒の成長・発達を促すという使命を持つ教員を養成するために、保育・教職課程全体の方針や状況に応じた対策などの協議を行っている。

b) キャリア支援の実施

本学では入学生全員が履修する「スタートアップ就実」(キャリア・ライフデザインを含む。)のほか、「キャリアデザイン論」「インターンシップ1・2」等を開講し、キャリアの基礎知識や自身のキャリアを考えるきっかけとしている。また、正規授業科目以外に、キャリア支援・開発課が「1年次キャリアガイダンス」「2年次キャリアガイダンス」「卒業生と語る会」も開講している。「キャリアデザイン論」等の授業を履修していない学生にもカバーできるよう、大学生活の目標設定とコミュニケーション能力の向上等を図っている。

また、「教職研究Ⅰ・Ⅱ」を設け、学校現場における様々な問題の現状や取り組みについて学びながら、採用試験の問題分析や、筆記試験、集団討論、模擬授業など採用試験の各試験種別に応じた対策を行っている。これには、4年生が参加して後輩学生の応援をしている。さらに、採用試験報告会を実施して後輩学生との交流

を行い、採用試験問題の収集・提供、採用試験報告書の作成配布を行っている。

教員就職率を高めるために、保育・教職支援課職員と連携して指導している。学内で模擬試験を低学年からの受験可能にすることや2年後期からの採用試験対策講座の受講など、筆記試験対策を重点的に行えるようにしている。夏期休業中には各学科・研究科で教員採用試験二次試験対策（模擬授業、面接等）を実施している。

c) 進路選択に関わるガイダンスの実施

就職ガイダンスでは、一般就職を希望する学生全員対象のガイダンスは全17回、希望者対象のセミナー等を全20回企画し、令和5（2023）年度は延べ3,145名の学生が出席している【資料26】。

県外出身者に対しては、出身地での就職を希望する学生を対象にU・J・Iターン就職に特化したセミナーを実施するほか、出身者の多い鳥取県、島根県、香川県、愛媛県、高知県とは就職支援に関する協定を結び、地元企業情報の提供や就職説明会の開催、低年次学生の交流会を通じて地元就職の促進を図っている。

教職就職ガイダンス（小・中・高・特支・養護）では、教職を希望する学生全員対象のガイダンスは全4回、令和4（2022）年度は延べ257名の学生が出席している【資料27】。

コロナ禍においては、ガイダンスや学生面談の方法が対面からWEB化に大きく変化し、臨機応変にハイブリット形式で対応できるようにしている。

3) 既設学部の実績

心理学部心理学科の母体となる教育学部教育心理学科の就職率及び実就職率は、次のとおりである。同学科は平成23（2011）年度に開設され、これまで9期の学生を送り出してきたが、いずれの期の就職率、実就職率とも非常に高く、過去4年間の就職率の平均では99.2%、実就職率の平均では94.8%となっている【資料28】。

また、令和4（2022）年度卒業生の進路別の内訳は、次のとおりとなっている【資料29】。

進路の上位3業種は、①教育、学習支援業（養護教諭、小学校教員、特別支援学校教員、事務など）、②卸売業、小売業、③製造業となっており、約半数が学校等、残り約半数が民間企業を中心に幅広い業種への就職実績を有している。

主な進路先は以下のとおりである。

[養護教諭（正規）]（公立）岡山市、広島県・広島市（2）、島根県、山口県、高知県（3）、兵庫県、静岡県

[施設]まがたま、四ツ葉会、アール・ケア

[一般]山陽新聞事業社、両備システムズ、ベーシック、SBSフレック、北星産業

(コメリ流通管理センター)、笠岡信用組合、高松信用金庫、吉備学園、グロップ、
メディカル・コンシェルジュ、岡山県商工会連合会[進学]就実大学大学院 (4)、

※ () の数字は内定者数

4) 「就職先アンケート」結果の概要

本学では、令和2(2020)年度から、卒業生の主な就職先に「求める人材像」等の調査を行い、その内容を本学のキャリア支援や教育内容の向上に反映させることを目的とした「就職先アンケート」【資料30】を行っている。令和5(2023)年度の調査では、一般就職関係の企業等140社に調査票を送り、66社から回答を得た(回答率47.1%)。

その結果、「本学の卒業生は、全体として貴社等の人材ニーズや期待に応じていると思われますか」との問いでは、95%を超える大多数の企業の方は、本学卒業生が会社の期待に応じていると評価している。次に「本学の卒業生の能力水準において、どう感じておられますか」の問いには、56社84%の多くの企業の方は、本学卒業生の能力水準を高いと評価している。また、「今後、本学卒業生の採用はどのようにお考えでしょうか」の問いには、65社98%の企業の方は、今後も本学学生を採用したいと回答している。なお今後本学学生を採用したくないという企業はなく、本学学生に一定の信頼度は築けているものと考えられる。

また、本学では、専門就職関係学校や園を対象とした「就職先アンケート」を行っている。令和3(2021)年度は、専門就職関係の学校・園90校園に調査票を送り、67校・園から回答を得た(回答率74.4%)【資料31】。

その結果、「本学の卒業生は、幼児・児童・生徒のよさを多角的な視点から見つけるなど幼児・児童・生徒理解に努めている」との問いでは、92.5%を超える学校・園の方は、本学卒業生が幼児・児童・生徒理解に努めていると評価している。次に「本学の就職支援についてどのようにお考えですか」の問いには、77.5%の多くの学校・園は、本学の就職支援が熱心だと感じると評価している。本学学生に一定の信頼度は築けているものと考えられる。

5) 人材需要に関するアンケート調査

養成する人材の地域的ニーズの調査のため、岡山県、広島県、香川県を中心に、本学学生の採用実績がある企業や卒業生の就職先として想定される企業・団体、教育委員会、校長・園長に対して、郵送による採用意向調査を行った。

企業対象調査				
		調査①	調査②	調査③
調査対象		企業・団体の採用担当者	教育委員会	校長・園長
調査エリア		兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	岡山県	岡山県、香川県
調査方法		郵送調査		
調査対象数	依頼数	1,171企業・団体	22団体	821園・小学校
	回収数 (回収率)	499企業・団体 (42.6%)	10団体 (45.5%)	416園・小学校 (50.7%)
調査時期		2023年11月1日(水)～2023年12月8日(金)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

【資料 8】の 26. 27 ページにある通り、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は 89.5% (348 企業・団体) であり、予定している入学定員 100 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。また、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「心理学部心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 583 名で、予定している入学定員数を大きく上回る採用意向がみられた。これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

次に、「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会は合わせて 52.5% (62 企業・団体) である。「心理学部心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会へ、「心理学部心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて 74 名である。

「心理学部心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は 71.4% (297 園・小学校) であり、予定している入学定員数 100 名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する小学校、中学校・高校、教育委員会の視点でも、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でも、安定した人材需要があることがうかがえる。

この結果からも、当該学科の要請する人材の需要は十分あると考える。【資料 8】

(4)新設組織の定員設定の理由

心理学部心理学科の定員は 100 人とした理由については、以下のとおりである。

本学の過去 5 年間の入試における総志願倍率【資料 12】を比較すると、全学平均で令和元(2019)年度が 6.37 倍、令和 2(2020)年度が 6.08 倍、令和 3(2021)年度が 5.47 倍であり、令和 4(2022)年度が 5.14 倍、令和 5(2023)年度が 4.24 倍であり 4 倍を超える高い志願倍率を維持している。心理学部の基礎となる教育学部教育心理学科(定員 62 人)だけで見ると令和元(2019)年度が 6.85 倍、令和 2(2020)年度が 6.10 倍、令和 3(2021)年度が 6.02 倍、令和 4(2022)年度が 6.45 倍、令和 5(2023)年度が 4.68 倍であり、高い志願倍率を維持しており高い進学需要が安定的にあるといえる。

【資料 13】今回の心理学部設置により、(3) ②ウなどで説明したように、また、心理学を学ぶため、県外へ流出していた受験生の取り込むことにより、今までより多くの入学生を見込まれることから、入学定員を 100 人と設定したことは合理的であるといえる。

2. 教育学部教育学科

(1)収容定員を増加する組織の概要

①収容定員を増加する組織の概要

本学は令和 7(2025)4 月、教育学部初等教育学科について、教育学部教育学科へ名称変更を行うとともに、入学定員を 75 人から 110 人、3 年次編入学定員 5 人を廃止、収容定員を 310 人から 440 人に変更する。

収容定員を増加する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
教育学部教育学科※	110 人	—	440 人	岡山県岡山市中区 西川原一丁目 6 番 1 号

※ 令和 7(2025)年 4 月から名称変更予定(令和 6(2024)年 4 月届出予定)

初等教育学科 → 教育学科

②収容定員を増加する組織の特色

教育学部教育学科は「子供たちが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができるようにするために、保育・教育者としての優れた実践的指導力と自らの成長を創り出す力を備えた、共生社会の形成に貢献できる人材を育成する。」という教育理念を実現するために、広く豊かな教養を有し、コミュニケーション力・リーダーシップを有し、使命感・向上心を身につけた人材を育成することを目的としている。

(2)人材需要の社会的な動向等

①収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

教育学部教育学科では、専門的知識やスキル及び豊かな人間性を備えた、共生社会に貢献できる人材の育成を目指しているが、教育界には、「なり手不足」という問題が存在している。

令和3(2021)年4月6日の文部科学大臣の定例記者会見によると、特に小学校について教員のなり手不足が深刻な課題になっている。また、令和4(2022)年1月に文部科学省が発表した「教師不足」に関する実態調査によると、令和3年5月1日現在で、日本全国で小学校979人、特別支援学校205人の教師が不足していることがわかる【資料32】。教師不足に対する文部科学省や各自治体の取組としては、複数年を見越した計画的な採用、講師登録者数の増加、年齢構成に鑑みた採用・配置・人事面の取組、大学等との連携を掲げている。また、文部科学省として、公立学校教員採用選考試験における取組の収集・発信、「学校・子供応援サポーター人材バンク」等を通じた講師のなり手確保に向けた取組、学校における働き方改革の推進などの勤務環境の改善を含めた教職の魅力向上、といった取組を推進することにより、教師不足の解消を目指している。

教師不足の背景には、教員採用試験の競争倍率の低下がみてとれる。文部科学省の「令和4年度公立学校教員採用選考試験の実施状況」【資料33】によると、小学校では平成24年度では4.4倍であった競争倍率が令和4年度では2.5倍に、特別支援学校では3.4倍から2.8倍まで落ち込んでいる。本学が位置する岡山県においても、令和4年度の競争倍率は教員志望者全体ではあるが、前年度比で岡山県が-1.0倍、岡山市が-0.6倍と低下している【資料34】。

また、幼児教育・保育の全国的な動向では、「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」によると、令和4(2022)年10月の保育士の有効求人倍率は2.49倍であり、全職種平均の1.35倍と比較すると高い水準であることがうかがえる。本学が位置する岡山県では保育士の有効求人倍率が2.91倍であり、全職種平均が1.35倍で

あることから、保育人材が不足している状況である【資料 35】。

このような教育・保育人材の不足は、教員の質の低下を招く一因にもなり、現代の教育再生の課題の一因となっている。保育・教育者としての優れた実践的指導力と自らの成長を創り出す力を備えた、共生社会の形成に貢献できる人材を育成する本学教育学部教育学科の定員増は社会的要請に対応するものといえる。

また、養成する人材の地域的ニーズの調査のため、岡山県、広島県、香川県を中心に、本学学生の採用実績がある企業や卒業生の就職先として想定される企業・団体、教育委員会、校長・園長に対して、郵送による採用意向調査を行った

【資料 36】の 26.27 ページにある通り、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会は合わせて 95.8%（114 企業・団体）であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて 236 名で、予定している入学定員数を 2 倍以上上回っている。

また、「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は 94.7%（394 園・小学校）であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会の視点でみても、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は 82.3%（320 企業・団体）であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 535 名で、予定している入学定員数を 4 倍以上上回っている。

これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

2022(令和 4)年に 112.1 万人である日本の 18 歳人口は縮小傾向にあり、2025(令

和 7) 年にはいったん増加するものの、2034(令和 16)年には 100.6 万人まで減少すると予測されている【資料 9】。減少数が大きいのは近畿(2022(令和 4)年比 22,958 人減)、減少率が高いのは東北(同年比 80.9%)となっており、本学が位置する中国地方においては、減少数は同年比 7,523 人減、減少率は同年比 88.7%となっている【資料 10】。また、全体としても東京・福岡・沖縄を除くすべての道府県で減少傾向になっている【資料 11】。

こうした厳しい社会情勢においても、本学全体における全入試方式の志願倍率【資料 12】は 2019(令和元)年度から 2023(令和 5)年度の 5 年間全てで 4 倍を上回る高い水準を維持しており、中でも、今回収容定員の増加を申請する初等教育学科の志願倍率は、6 倍以上と大学全体の志願倍率より高い水準を維持している【資料 13】。本学は主に中国地方から、特に岡山県から大半の志願者を集めており【資料 14】、中国地方は 2034(令和 16)年の 18 歳人口の減少率は 2022(令和 4)年比 88.7%となっており、エリア別に 3 番目に低く、岡山県においても減少(同 87.6%)はするものの、全国的には中位の緩やかな減少率であり、中長期的にみても大学受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。また、中国地方の大学進学率は年々増加しており 2022(令和 4)年が 51%であり、岡山県についても同 50.1%となっており、18 歳人口の減少期においても安定した大学等進学状況で推移していることから、中長期的な確保の見通しがあるものと考えられる【資料 15】。

③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

本学の位置する岡山県へ出身高校の所在地県別の入学者数は、【別紙 1】にあるとおり、岡山県が 44.6%を占めている。そのような状況において、今回収容定員の増加を申請する 2 学科の主な学生募集地域は、岡山県を中心として中国地方、四国地方と考える。

本学における 2023(令和 5)年の出身高校の所在地県別入学者数をみると、岡山県からの入学者が 72.8%を占めており、収容定員の増加を申請する教育学科が 63.8%となっており、続いて広島県、香川県をはじめとした中国・四国地方の各県となっている【資料 16】。また、【資料 14】にあるとおり志願者についても同様で、中国地方、四国地方、特に岡山県からの志願者が大半を占めている。学校基本調査によると、2023(令和 5)年に岡山県内の高等学校出身で進学した 9,727 人のうち、岡山県内の大学への進学者数は 3,942 人であり【資料 17-1】、そのうち本学には 494 人が入学してきており、収容定員の増加を申請する教育学については、60 人となっている。なお、【資料 17-2】では岡山県に所在する高校の生徒の進学先は岡山県が 40.5%を占めており、群を抜いて高いことがわかる。

また、【資料 17-1】【資料 17-2】からわかるように、岡山県内に所在する高校に在学する生徒の進学先は岡山県について、大阪府・東京都・兵庫県という都市が続いている。これらの都市へ流出する岡山県内の生徒を取り込むことも必要と考える。その点においては、県外へ、特に京阪神に流出していた受験生の取り込むことが必要であると考え。また、令和 7(2025)年度に併設の短期大学幼児教育学科(定員 100 人)の募集停止を行うため、同学科の受験意向があった受験生の受け皿となることが可能であると考え。

上記理由により、主な学生募集地域を中国地方、四国地方、特に岡山県とすることの妥当性については、問題がないといえる。

④既設組織の定員充足の状況

既設組織の入学定員充足状況については、【別紙 2-1～9】のとおりである。過去 5 年間の平均入学定員充足率は、就実大学においては薬学科(0.85 倍)を除き 1 倍を上回っている。教育学部初等教育学科の入学定員充足率は 5 年間の平均で 1.08 倍となっている。併設する就実短期大学は 1 倍を下回っており、幼児教育学科 0.81 倍、生活実践科学科 0.98 倍である。

収容定員の充足率については、【資料 18】のとおりである。就実大学においては薬学科(0.76 倍)を除き 1 倍を上回っている。教育学部初等教育学科の定員充足率は 1.07 倍となっている。併設する就実短期大学幼児教育学科において、充足率が 0.67 であり 0.7 を下回っているが、令和 7 年度より募集停止するため、今回の収容定員変更申請には影響はない。

(3)学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生募集のための取組としては、主にオープンキャンパス、ガイダンス・進学相談会、資料請求を行っている。教育学部初等教育学科における過去のオープンキャンパスの来場者数、資料請求者数の実績は【別紙 3-2】のとおりである。

オープンキャンパスは毎年 6 回程度(3・6・7・8 月)、高校生や保護者を対象とし開催している。また、令和元(2019)年度より予備校と協力し、本学の推薦選抜と一般選抜の入試対策講座を対面で実施しているが、令和 2(2020)年度より新型コロナウイルスへの対応で WEB に期間限定で動画を掲載し期間中は何度も閲覧可能としている。これにより高校生のニーズに沿った参加が可能となっている。両学科とも過去 2 年間に於いてオープンキャンパス参加者のうち 50%から 60%以上が

受験をし、初等教育学科では同平均で 28.8%が入学していることから、オープンキャンパスの参加者を増やすことが学生確保の主たる方法だといえる。なお、オープンキャンパス参加者の増員および受験者数の確保のために、高等学校訪問をおこなっている。令和 5(2023)年度入試に向けては 355 校訪問しており、毎年度 350 校程度訪問することを目標としている。

学生募集エリアについては学部ごとに設定し、それぞれの地域の高校の特性や志願状況等を踏まえた学生募集活動を行っている。具体的にはこのエリアに沿ってサテライト入試会場(津山、大阪、姫路、鳥取、松江、防府、広島、高松、松山、高知、福岡、那覇の 12 会場)の設定、高校内ガイダンスや進学相談会への参加、高校訪問での前年度の入試結果の報告・在学生の活躍・新たな入試情報の案内等の実施、WEB 広告の掲載内容・掲載先の決定等を行っている。学生募集エリアは、志願実績や近隣大学の動向等を踏まえ適宜見直している。

本学ホームページの受験生応援サイト・オープンキャンパスサイトを設置しているが、のアクセス人数は令和 4(2022)年度に約 39,000 人(延べ数)である。在学生が大学での学びなどの大学生活を紹介するページについて、全体のアクセス総数に対するアクセス割合が令和 3(2021)年度の 3%から 13%へ伸長しており、オープンキャンパスや受験情報などの顕在層になる手前の潜在層向けの情報提供の役割を果たしていることがうかがえる。

イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

収容定員を増加することに伴う学生募集のための PR 活動の方針などについては、従来のものから大きくは変更しない。オープンキャンパスに重点をおき、いかにオープンキャンパスに参加してもらうかを第一に行う。実施回数は 3・6・7・8 月に 6 回を維持し、高等学校訪問により広報活動を行う。学校訪問先は本学への進学実績が豊富なエリア・学校に加え、本学への受験者数が少ない地域を訪問し新たな受験者を開拓することにより、参加者数を増加させることを目標とする。

インターネットを利用した広報活動としては、特設サイトにて学修内容や大学生活など学科への興味を持ってもらうコンテンツを充実させる予定である。なおインスタグラムにより学科情報をコンスタントに発信するほか、YouTube 内の大学公式チャンネルにおいて、学科の魅力・特色を紹介し、潜在層向けの情報発信を行っていく予定である。

また、高等学校から出前授業の依頼があった際には、積極的に参加し、大学進学への動機づけや、主体的な進路選択の参考になるような授業を行うこととし、同様に進学相談会や高校内ガイダンスについても、大学での学びや入試制度等の説明

を行い、本学の特色ある学びをより深く知ってもらうとともに、疑問の解消などの機会として利用していく。その他大学の見学会については、大学ガイダンスや、実際の授業見学、食堂体験、在校生との交流会など多彩なメニューからなり、本学を実際に感じてもらう機会とする。高等学校からだけではなく、個人やグループでの申し込みも受け付け、同様に対応していく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

1) オープンキャンパス

・取組概要

オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者等を対象に入試概要の説明や、学科説明・施設見学・体験授業、学科別のQ & Aコーナー、入試・就職・資格・奨学金など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。

R4 年度入試対象（R3 開催）：計 6 回開催（3/6. 6/20. 7/17. 7/18. 8/21. 8/22）

R5 年度入試対象（R4 開催）：計 6 回開催（3/12. 6/19. 7/16. 7/17. 8/20. 8/21）

・過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析

過去 2 年間の平均において、オープンキャンパス参加者（341 人）のうち 60.9%（128 人）が受験をし、28.7%（60 人）が入学をしている。また、初等教育学科全体の入学者数に対して、69.3%の入学者がオープンキャンパスに参加をしている。今後も同程度の受験率と入学率が見込まれる。【別紙 3-2】

2) ガイダンス・進学相談会

・取組概要

岡山県を中心に開催される会場ガイダンス・進学相談会、高校内ガイダンス・進学相談会等に参加し直接高校生や保護者等に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。

・過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析

ガイダンス・進学相談会参加者の 2 年間の平均受験率は 36.7%、入学率は 19.0% と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。【別紙 3-2】

3) 資料請求

・取組概要

大学案内を作成、学科紹介パンフレット、募集要項を作成し、大学ホームページから資料請求者に対し送付する。また、大学案内等は、高校訪問、オープンキャンパス、ガイダンス・進学相談会等において幅広く配布している。

- ・過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析

資料請求者の２年間の平均受験率は 41.9%、入学率は 13.8%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。【別紙 3-2】

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織における取組とその目標

○競合校の選定理由

競合校として、教育学を学ぶ大学を本学所在地である岡山県、広島県から 6 校選んだ。主な募集地域である中四国地方に位置する教育学科を持ち、学力層においても同学科の偏差値と同程度である大学を選定している。

大学	所在地
ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科	岡山県岡山市
広島修道大学人文学部教育学科	広島県広島市
広島文教大学教育学部教育学科初等教育学専攻	広島県広島市
岡山理科大学教育学部初等教育学科	岡山県岡山市
くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科	岡山県倉敷市
環太平洋大学次世代教育学部子ども発達学科	岡山県岡山市

○競合校との比較分析

競合校としてあげた 6 大学と本学を比較したものが【資料 37】である。本学の優位性について、それぞれの観点から説明をしたものが下記のとおりである。

- ・学納金：競合校の初年度納付金の平均金額は 1,264,882 円であるが、本学は 1,220,000 円であり、低く抑えられている。
- ・ST 比：競合校の平均は 27.9 であるが、本学が 17.6 と平均より低く、学生に対し、きめ細かいサポート体制をとることが可能である。
- ・取得できる資格：学科で取得できる主な資格としては、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格である。
- ・就職支援について：競合校の平均就職率は 99.6%であるが、本学科の就職率は 100%である。また、就職に関する職員数で比較すると、本学は競合校に対して、一番多く、きめ細かい就職支援を行うことが可能である。

・入試：総合型選抜の試験日については 1 校のみが重複している。一般選抜入試においては、4 校が重複しているが、入試日程を 2 日間としているため、完全な重複とはならない。そのため本学と競合校の両方を受験することができ、受験生にとっては選択幅がふえている。

・キャンパスへのアクセスについて：本学の最寄り駅は JR 岡山駅から 3 分で到着する西川原・就実駅である。同駅の改札からは徒歩一分で学内となる好位置に立地している。そのため、岡山県内はもとより、香川県や広島県・兵庫県の自宅からも通学することができ、経済的に大きなメリットともなる。また、岡山駅まで一駅であり、岡山市中心部に位置するため、下宿した場合の帰省に便利だけでなく、受験の際の負担も少ない。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の過去 3 年間の入学志願動向は【資料 20】のとおりである。過去 3 年間の平均定員充足率は 85.9%であるが、特に広島県内に位置する競合校においては、115.5%と高い数値を示している。志願倍率も平均 3.6 倍であり、どの大学も入学定員を上回る志願者数を確保している。また、日本私立学校振興・共済事業団によると、教育学部の令和 5 年度志願者数は令和 4 年度に比べ 7,189 人減少しているにもかかわらず、69,059 人という多数の志願者数であり、教育学部への需要はいまだに高いことが推測できる【資料 21】。また、岡山県内の競合校は定員を確保できていないが、本学は過去 3 年間にわたり定員を確保しており、令和 3.4.5 年度の志願倍率は 8.28、7.65、6.03 と高い倍率を維持している。以上のことから、教育学部教育学科は十分な学生確保が見込まれると推測できる。

ウ 収容定員を増加する組織において定員を充足できる根拠等

令和 5 年度の学校基本調査では、岡山県内の大学への進学者を出身高校の所在地別にみると、広島県が岡山県に次いで 2 番目に高い。また、岡山県内の高校生において、大阪府・東京都・兵庫県・京都府・広島県への進学者数の合計は岡山県内の大学への進学者と大差がない。このことから広島県の高校生及び、他都道府県へ流出する高校生を確保すれば定員を充足できると考える。以上のことを前提とし、各学科において定員を充足できる根拠を説明する。【資料 17-1】

名称変更前の教育学部初等教育学科において、過去 3 年間の志願倍率は 6～8 倍を推移している。特に令和 5 年度入試においては、定員 75 人に対し 94 人の入学生があり、高校生からの需要は高いといえる。また、広島県に位置する競合校では、

過去 3 年間の定員充足率は平均 115.5%と高く、教育学部教育学科への高い需要を判断できる。岡山県に位置する競合校の学科は過去 3 年間定員を充足できていないが、競合学科だけでなく大学全体で定員を充足できていないため、今回の定員増に対する影響はないといえる。【資料 20】

さらに、(3) ②アにて述べたように、本学で取得可能な資格は他校と比較しても多く、学生の希望進路の幅を広げることに一役買って出ている。また、本学は学納金において競合校の平均金額より低く、就職率についても 100%であることから、保護者層への大きなアピールポイントとなっている。【資料 37】

株式会社進研アドに依頼し、令和 7(2025)年度に大学へ進学予定の高校 2 年生対象に対し進学意向のアンケートを行った。【資料 22】の 8 ページにあるように以下の通りとなった。

卒業後の進路として私立大学への進学を希望し、「教育学部教育学科」の学びと関連する学問分野に興味がある者のうち、
本学教育学部教育学科を

- ・「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 34 名
- ・「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 13 名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 4 名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、51 名であった。

また、

- ・「第一志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 2 名
- ・「第二志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 41 名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 167 名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、210 名であった。

本学が実施した、令和 5(2023)年度入学生に対する新入生アンケートでは、教育学部教育学科の名称変更前の教育学部初等教育学科を第 1 志望として入学した学生は 30%、第 2 志望 39%、第 3 志望 11%・それ以下で入学した学生は 5%、無回答 15%であったことから、第 1 志望以外での入学生も多数存在する。【資料 23】

このことから、第 1 志望・第 2 志望・第 3 志望以降として受験し、他の志望校が

不合格の場合入学すると回答した者の合計 210 人に、過去 5 年間の教育学部初等教育学科の歩留率 0.32 をかけると 67 人となる。これに第 1 志望・第 2 志望・第 3 志望以降として受験し入学すると回答した者の合計 51 人を加えると 118 人となり、入学定員 110 人を上まわる。【別紙 2-4】

以上のことより、教育学部教育学科においては入学定員を充足できると判断できる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

入学金、授業料等の学生納付金については以下のとおりである。教育学部教育学科についても、収容定員増加前と増加後では変更しない。

	入学金	年間授業料
教育学部教育学科	270,000 円	950,000 円

金額設定の理由としては、大学の経営に係る財政的な視点と学生への還元といった受益者（学生・保護者）に対しての責任を重視しながら、施設・設備の充実を図ることを考慮した結果である。

また、大学の定員が増加するが、教室等施設は、キャンパスを共有する短期大学を令和 7 年度に募集停止するため、学生の総数は大きく増加しないため校舎の増改築は必要ないと考える。また、同様の理由により、大学運営上のランニングコストについても大きくは増加しないと考える

以上の理由により、学生納付金について、定員変更前と同額と設定する。

③ 先行事例分析

兵庫大学(兵庫県加古川市)が、令和 5 年 4 月に教育学部教育学科(入学定員 100 人、3 年次編入学定員 5 人)を開設し、同年同月に生涯福祉学部こども福祉学科(入学定員 50 人、編入学定員 5 人)を募集停止している。教育学部教育学科の 2023 年度の志願者数は 158 人、生涯福祉学部こども福祉学科の 2022 年度の志願者数は 46 人と 112 人増加し、前年比 343%となっている。このことから、教育学系統を学ぶ学科への需要は高いと判断でき、教育学部教育学科は十分な学生確保が見込まれると推測できる。

④ 学生確保に関するアンケート調査

下記のとおり株式会社進研アドを通じて、本学に進学実績がある高等学校の 2 年生にアンケート調査を行った。

調査エリアは、本学への志願者が多い岡山県、広島県、香川県、鳥取県、島根県、

愛媛県、高知県とし、調査対象校は本学への進学実績のある高等学校を中心に 75 校を調査対象とした。調査対象とした高等学校から入学した在學生は 1,688 人であり、大学全体の在籍者数 2,609 人の 64%にあたり、当該組織の学生募集地域等にも合致している。【資料 24】

調査対象		高校 2 年生
調査エリア		鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、高知県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	13,780 人 (83 校)
	有効回収数 (回収校数)	9,959 人 (75 校) 有効回収率：72.3%
調査時期		2023 年 11 月 2 日 (木) ～2023 年 12 月 12 日 (火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

調査結果については、【資料 22】の 8 ページにあるように以下の通りとなった。

卒業後の進路として私立大学への進学を希望し、「教育学部教育学科」の学びと関連する学問分野に興味がある者のうち、

- ・「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 34 名
- ・「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 13 名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は 4 名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、51 名であった。

また、

- ・「第一志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 2 名
- ・「第二志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 41 名
- ・「第三志望以降として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は 167 名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、210 名であった。

本学が実施した、令和 5(2023)年度入学生に対する新入生アンケートでは、教育学部教育学科の名称変更前の教育学部初等教育学科を第 1 志望として入学した学

生は 30%、第 2 志望 39%、第 3 志望 11%・それ以下で入学した学生は 5%、無回答 15%であったことから、第 1 志望以外での入学生も多数存在する。【資料 23】

このことから、第 1 志望・第 2 志望・第 3 志望以降として受験し、他の志望校が不合格の場合入学すると回答した者の合計 210 人に、過去 5 年間の教育学部初等教育学科の歩留率 0.32 をかけると 62 人となる。これに第 1 志望・第 2 志望・第 3 志望以降として受験し入学すると回答した者の合計 51 人を加えると 118 人となり、入学定員 110 人を上まわる。【別紙 2-4】

また、名称変更前の教育学部初等教育学科においては、令和元(2019)年度が 9.83 倍、令和 2(2020)年度が 10.07 倍、令和 3(2021)年度が 8.28 倍、令和 4(2022)年度が 7.65 倍、令和 5(2023)年度が 6.03 倍であり、本学において特に高い志願倍率を維持しており、高校生からの進学需要は高い状態であるといえる。【資料 13】

以上のことより、教育学部教育学科においては入学定員を充足できると判断できる。

⑤人材需要に関するアンケート調査

1) 既設学部・学科の求人状況等

教育学科における幼保支援では、最近 4 年間の求人件数の実績は、令和元年(2019)年度は 951 件、令和 2 年(2020)年度は 806 件、令和 3(2021)年度は 750 件、令和 4(2022)年度は 704 件となっている。令和 2(2020)年度からコロナ禍の影響により少し減少はしているが、最近 4 年間の平均は 803 件、また令和 4(2022)年度の一人当たりの求人件数は 9.6 園となっており、高い数字を保っている。【資料 38】

公立学校の教員採用候補予定者数は、各自治体により異なっているため、実施要項などの情報収集を迅速かつ的確に行い、学生に周知している。

一般就職についての求人件数は【資料 25】のとおりである。

2) 本学におけるキャリア支援の取組

a) キャリア支援を行うための体制

本学では、教職・幼保を除く一般就職について支援を行うキャリア支援・開発課と、保育・教職についての支援をおこなう保育・教職支援課を置いている。

キャリア支援・開発課には、キャリアカウンセラー資格を持つ 2 名を含む 9 名の職員が学生の対応にあたっている。全般的な方針や問題処理に関しては、各学部・学科所属教員から選任された 10 名の委員とキャリア支援・開発部等の部課長からなるキャリア支援・開発委員会を設け、支援活動全体の方針や状況に応じた対策、全学的活動と学部・学科ごとの活動との調整、支援活動や成果の学内広報の在り方等の協議、また最新の学生の内定状況を共有するために、ほぼ毎月行っている。

保育・教職支援課には、幼稚園小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員及び養護教諭、保育士などの免許状、資格取得見込みの学生に特化した支援を行っている。実習・教職など関わる総合的な側面から、教育学部所属の教授を筆頭に公立の校長(前)、園長(前)、キャリアカウンセラー資格を持つスタッフ8名が、教員と連携しつつ強力な支援体制を構築しながら、学生の対応にあたっている。各学部・学科所属教員から選任された13名の保育・教職課程委員と保育・教職支援部及び教務部の部課長からなる保育・教職課程委員会を設け、「学び」の主体である児童生徒の成長・発達を促すという使命を持つ教員を養成するために、保育・教職課程全体の方針や状況に応じた対策などの協議を行っている。

b) キャリア支援の実施

本学では入学生全員が履修する「スタートアップ就実」(キャリア・ライフデザインを含む。)のほか、「キャリアデザイン論」「インターンシップ1・2」等を開講し、キャリアの基礎知識や自身のキャリアを考えるきっかけとしている。また、正規授業科目以外に、キャリア支援・開発課が「1年次キャリアガイダンス」「2年次キャリアガイダンス」「卒業生と語る会」も開講している。「キャリアデザイン論」等の授業を履修していない学生にもカバーできるよう、大学生活の目標設定とコミュニケーション能力の向上等を図っている。

教育学部では保育・教職課程委員が、自治体の応募状況、採用試験の情報等を提供している。毎年4月には、「キャリア支援説明会」を行い、保育者や教員を目指すために必要な情報を提供し、卒業生の現職教員による情報交換会や採用試験受験4年生による「採用試験報告会」も行っている。また、「教職研究Ⅰ・Ⅱ」を設け、学校現場における様々な問題の現状や取り組みについて学びながら、採用試験の問題分析や、筆記試験、集団討論、模擬授業など採用試験の各試験種別に応じた対策を行っている。これには、4年生が参加して後輩学生の応援をしている。さらに、採用試験報告会を実施して後輩学生との交流を行い、採用試験問題の収集・提供、採用試験報告書の作成配布を行っている。

教員就職率を高めるために、保育・教職支援課職員と連携して指導している。学内で模擬試験を低学年からの受験可能にすることや2年後期からの採用試験対策講座の受講など、筆記試験対策を重点的に行えるようにしている。夏期休業中には各学科・研究科で教員採用試験二次試験対策(模擬授業、面接等)を実施している。

また、卒業生による「採用試験直前激励会(小・特)」、「卒業生を囲む会(幼)」を実施し、卒業生との連携を図っている。また、卒業生の様子を「教職論」の授業で紹介し、4年次「保育・教職実践演習」では卒業生を講師として招聘している。

さらに毎年、複数名の卒業生が、教員採用試験対策の指導も行っている。

c) 進路選択に関わるガイダンスの実施

教職就職ガイダンス(小・中・高・特支・養護)では、教職を希望する学生全員対象のガイダンスは全 4 回、令和 4(2022)年度は延べ 257 名の学生が出席している【資料 27】。

幼保専門就職ガイダンスでは、教育学部初等教育学科 3 年 26 名の保育所・幼稚園・こども園に希望する学生全員対象のガイダンスは、全 11 回、令和 4(2022)年度は延べ 270 名の学生が出席している【資料 27】。

就職ガイダンスでは、一般就職を希望する学生全員対象のガイダンスは全 17 回、希望者対象のセミナー等を全 20 回企画し、令和 5(2023)年度は延べ 3,145 名の学生が出席している【資料 26】。

県外出身者に対しては、出身地での就職を希望する学生を対象に U・J・I ターン就職に特化したセミナーを実施するほか、出身者の多い鳥取県、島根県、香川県、愛媛県、高知県とは就職支援に関する協定を結び、地元企業情報の提供や就職説明会の開催、低年次学生の交流会を通じて地元就職の促進を図っている。

コロナ禍においては、ガイダンスや学生面談の方法が対面から WEB 化に大きく変化し、臨機応変にハイブリット形式で対応できるようにしている。

3) 既設学部 of 就職実績

教育学部の最近 4 年間の就職率及び実就職率は次のとおりである。教育学部初等教育学科は就職率、実就職率とも非常に高く、就職率の平均では 99.7%、実就職率の平均では 98.5%となっている【資料 28】。

また、令 4(2020)年度卒業生の進路別内訳は次のとおりとなっている【資料 29】。初等教育学科においては、教員(小学校・特別支援学校)が 42.5%、幼稚園・保育所・こども園が 42.5%となっている。

主な進路先は以下のとおりである。

[小学校(正規)](公立)岡山県(6)、岡山市(2)、広島県・広島市(2)、香川県(3)、愛媛県(2)、鳥取県、愛知県

[特別支援学校(正規)](公立)岡山県(4)、広島県・広島市(2)

[幼稚園・保育園・こども園](公立)岡山市(4)、倉敷市(2)、備前市、赤磐市、玉野市、高松市、善通寺市(私立)橘会、報恩会(2)、河本学園

[施設]吉備の里[一般]白十字グループ、菅公学生服、福山市農業協同組合、トーカー

※（ ）の数字は内定者数

4) 「就職先アンケート」結果の概要

本学では、令和2(2020)年度から、卒業生の主な就職先に「求める人材像」等の調査を行い、その内容を本学のキャリア支援や教育内容の向上に反映させることを目的とした「就職先アンケート」【資料30】を行っている。令和5(2023)年度の調査では、一般就職関係の企業等140社に調査票を送り、66社から回答を得た(回答率47.1%)。

その結果、「本学の卒業生は、全体として貴社等の人材ニーズや期待に据えていると思われるか」との問いでは、95%を超える大多数の企業の方は、本学卒業生が会社の期待に据えていると評価している。次に「本学の卒業生の能力水準において、どう感じておられますか」の問いには、56社84%の多くの企業の方は、本学卒業生の能力水準を高いと評価している。また、「今後、本学卒業生の採用はどのようにお考えでしょうか」の問いには、65社98%の企業の方は、今後も本学学生を採用したいと回答している。なお今後本学学生を採用したくないという企業はなく、本学学生に一定の信頼度は築けているものと考えられる。

本学では、令和2(2020)年度から、卒業生の主な就職先に「求める人材像」等の調査を行い、その内容を本学のキャリア支援や教育内容の向上に反映させることを目的とした「就職先アンケート」を行っている。令和3(2021)年度は、専門就職関係の学校・園90校園に調査票を送り、67校・園から回答を得た(回答率74.4%)【資料31】。

その結果、「本学の卒業生は、幼児・児童・生徒のよさを多角的な視点から見つけるなど幼児・児童・生徒理解に努めている」との問いでは、92.5%を超える学校・園の方は、本学卒業生が幼児・児童・生徒理解に努めていると評価している。次に「本学の就職支援についてどのようにお考えですか」の問いには、77.5%の多くの学校・園は、本学の就職支援が熱心だと感じると評価している。本学学生に一定の信頼度は築けているものと考えられる。

5) 人材需要に関するアンケート調査

養成する人材の地域的ニーズの調査のため、岡山県、広島県、香川県を中心に、本学学生の採用実績がある企業や卒業生の就職先として想定される企業・団体、教育委員会、校長・園長に対して、郵送による採用意向調査を行った。

企業対象調査				
		調査①	調査②	調査③
調査対象		企業・団体の採用担当者	教育委員会	校長・園長
調査エリア		兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	岡山県	岡山県、香川県
調査方法		郵送調査		
調査対象数	依頼数	1,171企業・団体	22団体	821園・小学校
	回収数 (回収率)	499企業・団体 (42.6%)	10団体 (45.5%)	416園・小学校 (50.7%)
調査時期		2023年11月1日(水)～2023年12月8日(金)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

【資料 36】の 26. 27 ページにある通り、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会は合わせて 95. 8% (114 企業・団体) であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて 236 名で、予定している入学定員数を 2 倍以上上回っている。

また、「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は 94. 7% (394 園・小学校) であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会の視点でみても、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は 82. 3% (320 企業・団体) であり、予定している入学定員数 110 名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」

と回答した一般企業へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は 535 名で、予定している入学定員数を 4 倍以上上回っている。

これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

(4) 新設組織の定員設定の理由

前述のとおり、大学全体はここ数年高い志願倍率を維持している。名称変更前の教育学部初等教育学科においては、令和元(2019)年度が 9.83 倍、令和 2(2020)年度が 10.07 倍、令和 3(2021)年度が 8.28 倍、令和 4(2022)年度が 7.65 倍、令和 5(2023)年度が 6.03 倍であり、本学において特に高い志願倍率を維持しており、高校生からの進学需要は高い状態であるといえる。

また、令和 7(2025)年度には併設の短期大学幼児教育学科(定員 100 人)の募集停止を行うが、近年は高等教育の修学支援制度などによる四年制大学志向が高まっているため、同学科の受験意向があったと考えられる受験生の受け皿となることが可能である。

このような理由から、現在 75 人の入学定員を 110 人に設定することは合理的であると考ええる。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料） 目次

- 【資料 1】文部科学省（2023） 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要 P15, P20
- 【資料 2】文部科学省（2022）生徒指導提要（改訂版） P17, P19-21
- 【資料 3】メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者がいた事業所割合
- 【資料 4】こども家庭庁（2023） 令和4年度児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値） P1
- 【資料 5】厚生労働省（2023） 令和4年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果
- 【資料 6】総務省（2021）令和3年版 情報通信白書 P226-227
- 【資料 7】IT人材需要の試算結果
- 【資料 8】入学定員に関するニーズ調査結果報告書（就職先対象）（心理学部）
- 【資料 9】18歳人口予測（全国）
- 【資料 10】18歳人口予測（全体：エリア別）
- 【資料 11】18歳人口予測（全体：都道府県別）
- 【資料 12】過去5年間の志願状況（就実大学全体）
- 【資料 13】過去5年間の志願状況（申請2学科）
- 【資料 14】2023年度都道府県別志願者・合格者数
- 【資料 15】18歳人口予測（全体：中国地方）
- 【資料 16】令和5年度 都道府県別入学者数
- 【資料 17-1】出身高校の所在地別進学先（2023年度）

- 【資料 1 7 - 2】岡山県内高校生の進学先（2023 年度）
- 【資料 1 8】就実大学・就実短期大学収容定員充足率
- 【資料 1 9】競合校との比較(心理学部)
- 【資料 2 0】競合校の入学志願動向比較
- 【資料 2 1】学部別の志願者・入学者動向
- 【資料 2 2】入学定員増に関するニーズ調査結果報告書（高校生対象）
- 【資料 2 3】令和 5(2023)年度入学生に対する新入生アンケート(抜粋)
- 【資料 2 4】調査対象高等学校と調査対象校からの在籍者数一覧
- 【資料 2 5】過去 4 年間の求人件数
- 【資料 2 6】令和 5（2023）年度就職ガイダンス出席数（延べ数）
- 【資料 2 7】令和 4（2022）年度教職就職ガイダンス出席数
- 【資料 2 8】過去 4 年間の就職率
- 【資料 2 9】令和 4 年度(2022)の進路別内訳
- 【資料 3 0】就職先企業へのアンケート調査結果
- 【資料 3 1】教職就職先アンケート調査結果
- 【資料 3 2】教師不足の状況
- 【資料 3 3】公立学校教員採用試験受験者数などの推移
- 【資料 3 4】各県市別公立学校受験者数などの前年度比較
- 【資料 3 5】保育士の有効求人倍率
- 【資料 3 6】入学定員に関するニーズ調査結果報告書（就職先対象）（教育学部）
- 【資料 3 7】競合校との比較(教育学部)

【資料 38】求人状況(幼稚園・保育園等)

【別紙1】収容定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況

【別紙2】既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間)

【別紙3】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

1（書類等の題名）

【資料 1】文部科学省（2023） 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導の諸課題に関する調査結果の概要 P15, P20

2（出典）

文部科学省

3（引用範囲）

https://www.mext.go.jp/content/20231004-mxt_jidou01-100002753_2.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 2】文部科学省 (2022) 生徒指導提要 (改訂版) P17, P19-21

2. (出典)

文部科学省

3. (引用範囲)

https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 3】メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者がいた事業所割合

2. (出典)

厚生労働省「令和4年労働安全衛生調査(実態調査)」

3. (引用範囲)

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/r04-46-50_gaikyo.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 4】 こども家庭庁 (2023) 令和4年度児童相談所における児童虐待相談
対応件数とその推移

2. (出典)

こども家庭庁

3. (引用範囲)

[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/a176d
e99-390e-4065-a7fb-fe569ab2450c/12d7a89f/20230401_policies_jidougyakutai_19.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/a176de99-390e-4065-a7fb-fe569ab2450c/12d7a89f/20230401_policies_jidougyakutai_19.pdf)

1. (書類等の題名)

【資料 5】厚生労働省(2023) 令和4年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果

2. (出典)

厚生労働省

3. (引用範囲)

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196989_00025.html

1. (書類等の題名)

【資料 5】厚生労働省(2023) 令和4年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果

2. (出典)

厚生労働省

3. (引用範囲)

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196989_00025.html

1. (書類等の題名)

【資料 6】総務省 (2021) 令和 3 年版 情報通信白書 P226-227

2. (出典)

総務省

3. (引用範囲)

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/pdf/01honpen.pdf>

1. (書類等の題名)

【資料 7】IT人材需要の試算結果

2. (出典)

経済産業省 「IT 人材需給に関する調査(概要)」

3. (引用範囲)

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf

就実大学
「心理学部 心理学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【就職先対象調査】

令和6年3月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2025年4月開設予定の就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)の設置構想に関して、企業・団体、教育委員会、校長・園長からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査		
		調査①	調査②	調査③
調査対象		企業・団体の 採用担当者	教育委員会	校長・園長
調査エリア		兵庫県、鳥取県、 島根県、岡山県、 広島県、山口県、 徳島県、香川県、 愛媛県、高知県	岡山県	岡山県、香川県
調査方法		郵送調査		
調査 対象数	依頼数	1,171企業・団体	22団体	821園・小学校
	回収数 (回収率)	499企業・団体 (42.6%)	10団体 (45.5%)	416園・小学校 (50.7%)
調査時期		2023年11月1日(水)～2023年12月8日(金)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

3. 調査項目

企業・団体対象調査
・ 人事採用への関与度 ・ 本社所在地 ・ 業種 ・ 正規社員の従業員数 ・ 正規社員の平均採用人数 ・ 本年度の採用予定数 ・ 採用したい学問分野 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

教育委員会対象調査
・ 人事採用への関与度 ・ 本部所在地 ・ 本年度の採用予定数 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の教育現場における必要性 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する採用意向 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する年間の採用想定人数

校長・園長対象調査
・ 学校設置区分(国公私) ・ 学校設置区分(園・小学校) ・ 所在地(県) ・ 所在地(市町村) ・ 回答者の職名 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」の学びの内容に対する教育現場における必要性 ・ 就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

採用意向調査 調査結果 (企業・団体)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業・団体全体(499企業・団体)

回答企業・団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、499企業・団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は33.7%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が54.3%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業・団体の本社(本部)所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が64.5%と最も多く、次いで「広島県」が15.6%、「香川県」が7.8%と続く。
- 回答企業・団体の業種としては「卸売・小売業」が22.4%で最も多い。次いで「幼稚園・保育園・こども園」が21.6%、「製造業」が14.0%と続く。
- 回答企業・団体の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が38.1%と最も多く、次いで「50名未満」が26.3%、「50名～100名未満」が20.6%と続く。半数超は、100名以上の比較的規模が大きい企業・団体である。

回答企業・団体の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業・団体の平均的な正規社員の採用人数は「1名～5名未満」が42.1%と最も多く、次いで「5名～10名未満」が20.8%、「10名～20名未満」が17.4%と続く。毎年正規社員を採用している企業・団体がほとんどである。
- 回答企業・団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が63.7%と最も多く、次いで「増やす」が27.3%である。回答企業・団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業・団体の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が41.5%で最も高い。
「心理学部 心理学科」の学びと関連する学問分野で最も高いのは「心理学」で21.0%である。「養護教諭養成課程」は5.8%である。

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	あり、採用の決定権が かわつていない	ない、採用の決定権は かわつていない	提供か採用 見かを するを する 立集 場・ 情報 や	無 回 答
全体	499	33.7 168	54.3 271	9.6 48	2.4 12

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	東京 都	愛 知 県	大 阪 府	兵 庫 県	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	広 島 県	山 口 県	香 川 県	愛 媛 県	高 知 県	無 回 答
全体	499	2.6 13	0.2 1	0.8 4	2.2 11	1.6 8	2.0 10	64.5 322	15.6 78	0.8 4	7.8 39	1.4 7	0.4 2	0.0 0

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	学教育 習支 関連 業・	こ ど も 園・ 保 育 園・	小 学 校	中 学 校・ 高 校	医 療・ 福 祉	建 設 業	製 造 業	卸 売・ 小 売 業	情 報 通 信 業
全体	499	1.2 6	21.6 108	0.2 1	0.2 1	10.6 53	3.2 16	14.0 70	22.4 112	3.2 16

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	観飲 光食 業・ 宿 泊 業・	不金 動融 産業 業・ 保 険 業・	旅運 客輸 業・ 鉄 道 業・	熱電 供給 ・ガ ス・ 水 道 業	事複 業合 サー ビス	サー ビス 業	公 務	そ の 他	無 回 答
全体	499	2.6 13	4.4 22	3.4 17	1.0 5	1.2 6	6.4 32	0.4 2	3.8 19	0.0 0

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 0 名 名 未 満	未 1 5 満 , 0 0 0 0 名 名 未 満	5 1 , , 0 0 0 0 名 名 未 満	5 , 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)								
全体	499	26.3 131	20.6 103	38.1 190	6.6 33	6.2 31	1.8 9	0.4 2

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 名 名 未 満	1 5 0 名 名 未 満	2 1 0 0 名 名 未 満	3 2 0 0 名 名 未 満	5 3 0 0 名 名 未 満	1 5 0 0 名 名 未 満	1 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	1.0 5	42.1 210	20.8 104	17.4 87	8.0 40	4.4 22	3.2 16	3.0 15	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)						
全体	499	27.3 136	63.7 318	3.2 16	5.8 29	0.0 0

採用したい学問分野

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	心 理 学	教育学関係（教育学、 教科教育学など）	幼稚園課程 （幼稚園教員養成課程）	小学校課程 （小学校教員養成課程）	中学校課程・ 高等学校課程	特別教科課程（書道・ 美術・工芸など）	特別支援教育課程 （盲学校、聾学校、 障害児教育など）	養護教諭養成課程	教育学その他（保育学、 子ども教育学、 乳幼児教育学など）
上段：％ 下段：件数 （企業・団体）										
全体	499	21.0 105	15.6 78	24.0 120	7.6 38	5.6 28	3.4 17	14.6 73	5.8 29	22.6 113

	標 本 数	文 学 ・ 史 学	哲 学 (心 理 学 を 除 く)	経 済 学 ・ 社 会 学 ・ 法 学 ・ 商 学 ・ 社 会 学 な ど)	保 健 (医 学 、 歯 学 、 薬 学 、 看 護 学 な ど)	理 学 ・ 工 学 (数 学 、 化 学 、 物 理 工 学 な ど)	農 学 (農 学 、 水 産 学 な ど)	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	6.4 32	2.2 11	15.4 77	10.6 53	13.8 69	7.2 36	7.2 36	41.5 207	0.2 1

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- 「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「C. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」(89.0%)。「D. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。」は86.8%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色C. 〈心理学部 心理学科〉心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色D. 〈心理学部 心理学科〉学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。

		標 本 数	魅 と 力 を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ な い	魅 ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業・団体)								
心理学部 心理学科	特色C	499	33.3	55.7	9.6	0.6	89.0	0.8
			166	278	48	3	444	4
	特色D	499	32.9	53.9	11.2	1.0	86.8	1.0
			164	269	56	5	433	5

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「心理学部 心理学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性

- ・「心理学部 心理学科」について「必要だと思う」と回答した企業・団体は94.8%
(473企業・団体)であり、多くの企業・団体がこれからの社会にとって必要な学部・
学科と捉えていることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体は
80.8%(403企業・団体)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の採用
意向企業・団体がみられた。
- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体へ、「心
理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、
採用想定人数の合計は649名で、予定している入学定員数を大きく上回ってい
る。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇業種別

- ・業種を「一般企業」に絞った場合の採用意向は、89.5%(389企業・団体中、348
企業・団体)。採用想定人数の合計は583名で、予定している入学定員数を5倍以
上上回っている。
- ・業種を「幼稚園、保育園、子ども園」に絞った場合の採用意向は、50.0%(108企
業・団体中、54企業・団体)。採用想定人数の合計は66名である。

就実大学「心理学部 心理学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「心理学部 心理学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	499	94.8 473	4.6 23	0.6 3

■就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	499	80.8 403	17.0 85	2.2 11



「採用したいと思う」と答えた403企業・団体のみ抽出

■就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	⇒	(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 を 示 し た 企 業 ・ 採 用 想 定 団 体 人 数 ・ 計 計
全 体	403	%	66.5%	17.4%	6.5%	0.5%	3.2%	2.2%		
		企 業 ・ 団 体 数	268	70	26	2	13	9		
		名	268	140	78	8	65	90		

※%の母数は、「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体
(403企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

企業・団体
対象

就実大学「心理学部 心理学科」の 採用想定人数＜属性別＞

■就実大学「心理学部 心理学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数 ＜属性別＞

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上		(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 ・ 団 体 数 ・ 計 計
一般企業	348	%	64.4%	18.4%	7.5%	0.6%	3.7%	2.3%	⇒	
		企業・団体数	224	64	26	2	13	8		337
		名	224	128	78	8	65	80		583
幼稚園・ 保育園・ こども園	54	%	81.5%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	⇒	
		企業・団体数	44	6	0	0	0	1		51
		名	44	12	0	0	0	10		66

※%の母数は、「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」かつ
業種が「一般企業」と回答した企業・団体(348企業・団体)
「幼稚園、保育園、子ども園」と回答した企業・団体(54企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (教育委員会)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答団体全体(10団体)

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

回答団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、10団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は20.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が30.0%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答団体の本部所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が100.0%である。

本年度の採用予定数

- 回答団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が40.0%と最も多く、次いで「増やす」が20.0%である。回答団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	かあり、 かわつ選 考に裁 権が	かな採 かい用の わがの決 つて選裁 考権に	提意か採 供見かわ すをわ時 る収らに 立集ず、 場・直 に情接 ある報 や	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)					
全体	10	20.0 2	30.0 3	50.0 5	0.0 0

■本部所在地

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	岡 山 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)			
全体	10	100.0 10	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 やす	昨 年 度 並 み	減 らす	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)						
全体	10	20.0 2	40.0 4	10.0 1	20.0 2	10.0 1

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- ・「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、「Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」「Ⅳ. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。」はいずれも100.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅲ. 〈心理学部 心理学科〉心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色Ⅳ. 〈心理学部 心理学科〉心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。

上段: % 下段: 件数(団体)		標 本 数	魅 と も 力 を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ な い	魅 ま っ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
心理学部 心理学科	特色Ⅲ	10	20.0	80.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			2	8	0	0	10	0
	特色Ⅳ	10	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			6	4	0	0	10	0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の教育現場に おける必要性

- 「心理学部 心理学科」が養成する人材について「必要だと思う」と回答した団体は100.0% (10団体) であり、多くの団体がこれからの教育現場にとって必要な人材と捉えていることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する 採用意向/年間の採用想定人数

- 「心理学部 心理学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体は80.0% (8団体) である。
- 「心理学部 心理学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体へ、「心理学部 心理学科」が養成する人材の採用を年間何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は8名である。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の教育現場における必要性

Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	10	100.0 10	0.0 0	0.0 0

■就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材に対する採用意向

Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	10	80.0 8	0.0 0	20.0 2



「採用したいと思う」と答えた8団体のみ抽出

■就実大学「心理学部 心理学科」が養成する人材の年間の採用想定人数

Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	
全体	8	%	62.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
		団体数	5	0	1	0	0	0	⇒ 6
		名	5	0	3	0	0	0	8

※%の母数は、「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した団体
(8団体)

※ 年間の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (校長・園長)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答園・小学校全体(416園・小学校)

回答園・小学校(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「心理学部 心理学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される園・小学校の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、416園・小学校から回答を得た。

- 回答者の学校設置区分(国公私)は、「国立」が1.2%、「公立」が98.6%である。
- 回答者の学校設置区分(園・小学校)は、「幼稚園」が25.2%、「保育園」が8.2%、「子ども園」が4.8%、「小学校」が61.5%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(県)は、就実大学の所在地である「岡山県」が83.7%、「香川県」が16.3%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(市町村)は、「岡山市」が26.7%で最も多く、次いで「倉敷市」が14.9%、「高松市」が5.8%と続く。
- 回答者の職名は「校長(園長)」が72.4%で最も多く、次いで「教頭」が20.0%と続く。

回答園・小学校(回答者)の属性

■学校設置区分(国公私)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
全体	416	1.2 5	98.6 410	0.0 0	0.2 1

■学校設置区分(園・小学校)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	幼 稚 園	保 育 園	子 ど も 園	小 学 校	無 回 答
全体	416	25.2 105	8.2 34	4.8 20	61.5 256	0.2 1

■所在地(県)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	岡 山 県	香 川 県	無 回 答
全体	416	83.7 348	16.3 68	0.0 0

回答園・小学校(回答者)の属性

■所在地(市町村)

	標 本 数	岡 山 市	倉 敷 市	総 社 市	赤 磐 市	津 山 市	真 庭 市	高 梁 市	新 見 市	玉 野 市	井 原 市	美 作 市	笠 岡 市	瀬 戸 内 市	浅 口 市	吉 備 中 央 町
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	26.7 111	14.9 62	4.8 20	4.1 17	4.1 17	3.6 15	3.4 14	2.9 12	2.4 10	2.2 9	1.9 8	1.7 7	1.7 7	1.7 7	1.4 6

	標 本 数	備 前 市	和 気 町	鏡 野 町	矢 掛 町	美 咲 町	英 田 郡 西 栗 倉 村	久 米 南 町	勝 央 町	小 倉 島 町	小 田 郡 矢 掛 町	浅 口 郡 里 庄 町	都 窪 郡 早 島 町	奈 義 町	高 松 市	丸 亀 市
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.2 5	1.0 4	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	5.8 24	1.4 6

	標 本 数	三 豊 市	観 音 寺 市	坂 出 市	さ ぬ き 市	ま ん の う 町	善 通 寺 市	多 度 津 町	東 か が わ 市	小 豆 島 町	綾 川 町	宇 多 津 町	三 木 町	直 島 町	木 田 郡 三 木 町	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.7 7	1.2 5	1.2 5	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1

■回答者の職名

	標 本 数	校 長 (園 長)	副 校 長 (副 園 長)	教 頭	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)						
全体	416	72.4 301	1.9 8	20.0 83	4.8 20	1.0 4

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- ・「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「Ⅳ. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。」(97.4%)。「Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」は94.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
学びの内容について、魅力的に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅲ. 〈心理学部 心理学科〉心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色Ⅳ. 〈心理学部 心理学科〉心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。

		標 本 数	魅 力 的 に 感 じ る	感 魅 じ 力 な い に は	無 回 答
上段: % 下段: 件数(園・小学校)					
心理学部 心理学科	特色Ⅲ	416	94.0	5.5	0.5
		391		23	2
心理学部 心理学科	特色Ⅳ	416	97.4	2.4	0.2
		405		10	1

就実大学「心理学部 心理学科」の学びの教育現場における必要性/勤務意向

就実大学「心理学部 心理学科」の学びの教育現場における必要性

- ・「心理学部 心理学科」の学びについて「必要だと思う」と回答した園・小学校は99.0% (412園・小学校)であり、多くの園・小学校が教育現場にとって必要な学びと捉えていることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- ・「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は71.4% (297園・小学校)であり、予定している入学定員数100名を上回る勤務意向がみられた。

■就実大学「心理学部 心理学科」の学びの教育現場における必要性

Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	416	99.0 412	0.5 2	0.5 2

■就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)
※「②心理学部 心理学科」について、貴校・貴園では養護教諭が勤務する機会がない場合は、「3.勤務する機会がない」をお選びください。

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	勤務して ほしい と思う	勤務して ほしい とは思わない	勤務する 機会がない	無回答
全体	416	71.4 297	0.7 3	25.5 106	2.4 10

採用意向調査 調査結果まとめ



就実大学「心理学部 心理学科」の 採用意向/採用想定人数

【企業・団体(一般企業)】

就実大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- 「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は89.5%
(348企業・団体)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- 「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「心理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**583名**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

これらのことから、一般企業の視点から見た場合、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「心理学部 心理学科」の 採用意向/採用想定人数/勤務意向

【企業・団体(幼稚園、保育園、子ども園)、教育委員会】 就実大学「心理学部 心理学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会は合わせて52.5% (62企業・団体)である。
- ・「心理学部 心理学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園、保育園、子ども園、教育委員会へ、「心理学部 心理学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて74名である。

【校長・園長】 就実大学「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- ・「心理学部 心理学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は71.4% (297園・小学校)であり、予定している入学定員数100名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する小学校、中学校・高校、教育委員会の視点でも、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でも、安定した人材需要があることがうかがえる。

巻末資料 調査票



就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では2025年(令和7年)4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開
設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大
学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定
することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
(いずれも仮称、新学部構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 教育関連業・学習支援業	7. 製造業	13. 電気・ガス・熱供給・水道業
2. 幼稚園・保育園・こども園	8. 卸売・小売業	14. 複合サービス事業
3. 小学校	9. 情報通信業	15. サービス業
4. 中学校・高校	10. 飲食業・宿泊業・観光業	16. 公務
5. 医療・福祉	11. 金融業・保険業・不動産業	17. その他
6. 建設業	12. 運輸業・鉄道業・旅客運輸業	

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 50名未満	3. 100名～500名未満	5. 1,000名～5,000名未満
2. 50名～100名未満	4. 500名～1,000名未満	6. 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 0名	4. 10名～20名未満	7. 50名～100名未満
2. 1名～5名未満	5. 20名～30名未満	8. 100名以上
3. 5名～10名未満	6. 30名～50名未満	

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす	2. 昨年度並み	3. 減らす	4. 未定

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 心理学	7. 特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害児教育など)	13. 保健(医学、歯学、薬学、看護学など)
2. 教育学関係(教育学、教科教育学など)	8. 養護教諭養成課程	14. 理学・工学(数学、化学、物理工学など)
3. 幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)	9. 教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)	15. 農学(農学、林学、水産学など)
4. 小学校課程(小学校教員養成課程)	10. 文学・史学	16. その他
5. 中学校課程・高等学校課程	11. 哲学(心理学を除く)	17. 学んだ学問分野にはこだわらない
6. 特別教科課程(書道・美術・工芸など)	12. 社会科学(法学、商学・経済学、社会学など)	

裏面へ続く→

就実大学では、2025年(令和7年)4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

- Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
	例. ○○である。	→	1	2	3	4
教育学部	A. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	→	1	2	3	4
教育学科	B. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学部	C. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学科	D. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。	→	1	2	3	4

- Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を
卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
教育学部 教育学科	→	1	2	3	4	5	6
心理学部 心理学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

調査票(教育委員会)

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは、貴団体の採用に関わる皆様からご意見をお伺いし、より充実した学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することはありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

本部所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。
(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす
2. 昨年度並み
3. 減らす
4. 未定

就実大学では、2025(令和7)年4月に、新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

調査票(教育委員会)

- Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、
以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	まったく 魅力を感じ ない
例.	○○である。	⇒ 1	2	3	4
教育学部 教育学科	I. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2	3	4
教育学部 教育学科	II. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部 心理学科	III. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部 心理学科	IV. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2	3	4

- Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名～ 5名未満	5名～ 10名未満	10名～ 30名未満	30名～ 50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 150名未満	150名～ 200名未満	200名 以上
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2	3	4	5	6	7	8
		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上		
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2	3	4	5	6		

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは幼稚園・保育園・小学校の園長・学校長等管理職の先生方から、就実大学の構想に対するご意見をお伺いし、より充実した大学にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

はじめに、貴校(貴園)ならびにあなたご自身についてお伺いいたします。

F. 以下の項目について、お答えください。

学校設置区分	国立 ・ 公立 ・ 私立 (←1つに○)
	幼稚園 ・ 保育園 ・ 子ども園 ・ 小学校 (←1つに○)
学校所在地	[] 県 [] 市 ・ 町 ・ 村
ご回答者の 職名 (1つに○)	1. 校長(園長) 2. 副校長(副園長) 3. 教頭 4. その他(具体的に:)

就実大学では、2025(令和7)年4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)
を開設することを構想しています。

※ 次ページは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

- Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
 学びの内容について、魅力的に感じますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.魅力的に 感じる	2.魅力的には 感じない
例. ○○である。			⇒ ①	2
教育学部	I.	自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2
	II.	「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2
心理学部	III.	心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2
	IV.	心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2

- Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なだと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2

- Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※「②心理学部 心理学科」について、貴校・貴園では養護教諭が勤務する機会がない場合は、「3.勤務する機会がない」をお選びください。

			1.勤務してほしいと 思う	2.勤務してほしい とは思わない	3.勤務する機会がない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2	*
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2	3

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

◆ 学費等納付金（2025年度予定） ◆

	教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
入学金	270,000円	270,000円
授業料	950,000円	950,000円
初年度納付金	1,220,000円	1,220,000円
次年度納付金	950,000円	950,000円

※このほかに諸会費等を徴収。

◆ 取得可能な資格・免許／想定される進路 ◆

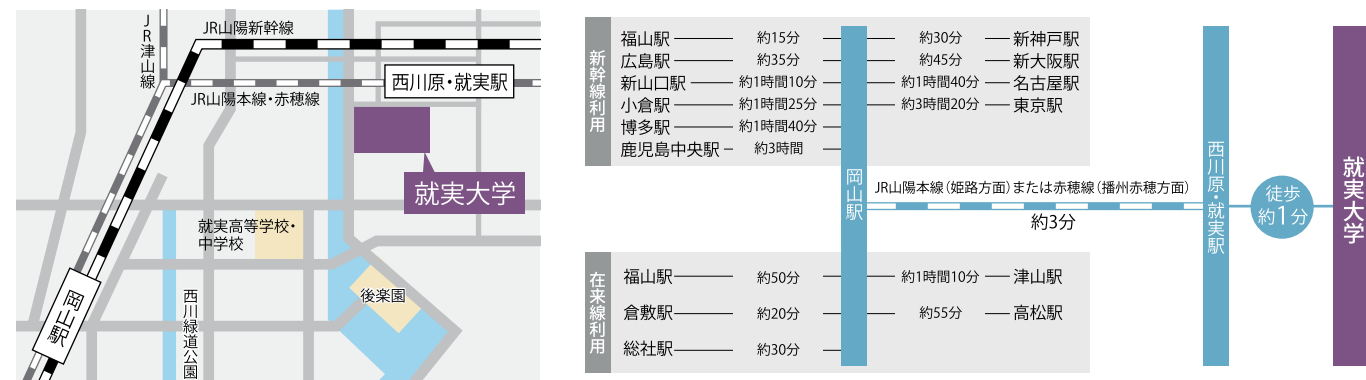
教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
■ 取得可能な資格・免許 - 保育士資格 - 幼稚園教諭一種免許状 - 小学校教諭一種免許状 - 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病） - 中学校教諭二種免許状（国・英・社）※ - 認定心理士申請資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 - 学校図書館司書教諭申請資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 ■ 想定される進路 - 保育所 - 認定こども園 - 幼稚園 - 児童福祉施設 - 小学校 - 特別支援学校 - 義務教育学校 - 小中一貫型小中学校 など	■ 取得可能な資格・免許 - 公認心理師受験要件学科科目 - 養護教諭一種免許状 - 認定心理士申請資格 - 認定心理士（心理調査）申請資格 - 准学校心理士 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 - 児童指導員任用資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 ■ 想定される進路 - 公認心理師・臨床心理士（大学院進学） - 養護教諭（小・中学校・高等学校） - 地方・国家公務員（一般職・心理専門職） - 教育・医療・福祉（医療秘書、児童指導員など） - 情報通信業（IT） - サービス業（ヘルスケアなど） - 卸売業・小売業（総合商社） - 金融業（銀行など） - 製造業（メーカー） など

※ 小学校教諭一種免許状取得を前提とする

◆ 類似する大学・学部・学科 ◆

教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
- ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 児童学科 - 広島修道大学 人文学部 教育学科 - 広島文教大学 教育学部 教育学科 初等教育学専攻 - 岡山理科大学 教育学部 初等教育学科 - くらしき作陽大学 子ども教育学部 子ども教育学科 - 環太平洋大学 次世代教育学部 子ども発達学科	- 広島修道大学 健康科学部 心理学科 - 安田女子大学 心理学部 現代心理学科 - 広島文教大学 人間科学部 心理学科 - 山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科 - 比治山大学 現代文化学部 社会臨床心理学科 - 徳島文理大学 人間生活学部 心理学科

ACCESS JR西川原・就実駅から 徒歩1分



- 人文科学部 表現文化学科／実践英語学科／総合歴史学科
- 教育学部 初等教育学科／教育心理学科
- 経営学部 経営学科 ■ 薬学部 薬学科

2025年4月 教育学部が進化！心理学部が誕生！

先生になろう！

心の世界を
探究しよう！

2024年まで

教育学部

初等教育学科 入学定員 75名

教育心理学科 入学定員 62名

New

2025年から

教育学部 教育学科

入学定員 110名

心理学部 心理学科

入学定員 100名

新学部構想中

※記載の内容はすべて仮称・構想中であり、変更される場合があります。



2025年4月、2つの新学部が誕生します！

教育学部 教育学科

子どもたちが豊かな人生を切り拓けるよう支援できる、
保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。

■ アドミッション・ポリシー

子どもへの愛情に溢れ、保育・教育者となり、一人ひとりの子どもの幸せのために力を尽くしたいと強く願う人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭になって活躍したい人
- ・人が好きで、相手意識をもち、物事を柔軟に捉えようとする気持ちをもっている人
- ・いろいろなことにチャレンジし、仲間と共に粘り強く取り組める人
- ・入学後の修学に必要な基礎学力を有している人

心理学部 心理学科

心理学を広く学んだ後に、自分の将来像に合わせてコースを選択。
さらに、コースを越えた学び、演習・実習によって専門性と実践力を高めます。

■ アドミッション・ポリシー

心理学に強い関心があり、人と関わることが好きで、心身の健康を支えケアすることや人と協働して社会の課題を解決することに喜びを感じる人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・心理学に関心を持ち、社会人、心理師（士）、養護教諭として、現代社会の問題に取り組みたいと思う人
- ・自分を活かしながら様々な人と協働し、探究心を持って自分を高めていきたい人
- ・伝えたいことを相手の立場に立ってわかりやすく表現しようと努力している人
- ・理系・文系を問わず、入学後の修学に必要な基礎学力のある人

心理学で社会に羽ばたこう！

各コースの特色／修得できる能力



■ 乳幼児教育コース

保育所や認定こども園、幼稚園などで、乳幼児期に必要な豊かな体験を創造できる保育者を育成します。障害のある子どもにも対応できるよう、特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得することも可能です。

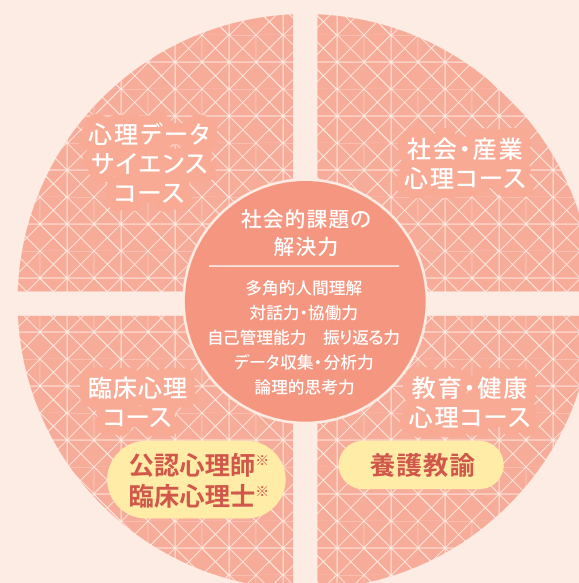
■ 小学校教育コース

児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導や支援ができる小学校の教員を育成します。幼稚園教諭や特別支援学校教諭の一種免許状を合わせて取得することも可能です。さらに、国語・英語・社会の中学校教諭二種免許状の取得にも挑戦できます（小学校教諭一種免許状の取得が必須）。

■ 特別支援教育コース

さまざまな障害に必要な支援と教育的ニーズを理解し、多様性を尊重しながら子どもの自立と将来の社会参加に向けた取り組みを支援できる、特別支援学校の教員を育成します。

各コースの特色／修得できる能力



■ 心理データサイエンスコース

心理学の方法や考え方で人の心や行動を数値化し、データサイエンスを通じて人や社会の隠されたものを見出し、課題を解決します。データを通じて色々な人と協力し、新しい社会づくりに挑戦する力を身に付けます。

■ 臨床心理コース

心の支援を必要としている個人やコミュニティ（家族や学校、職場や地域社会）を、臨床心理学的方法を用いて多角的に理解し、支援する力、他者との深い対話を通して解決に必要な新たな価値を創り出す力を身に付けます。

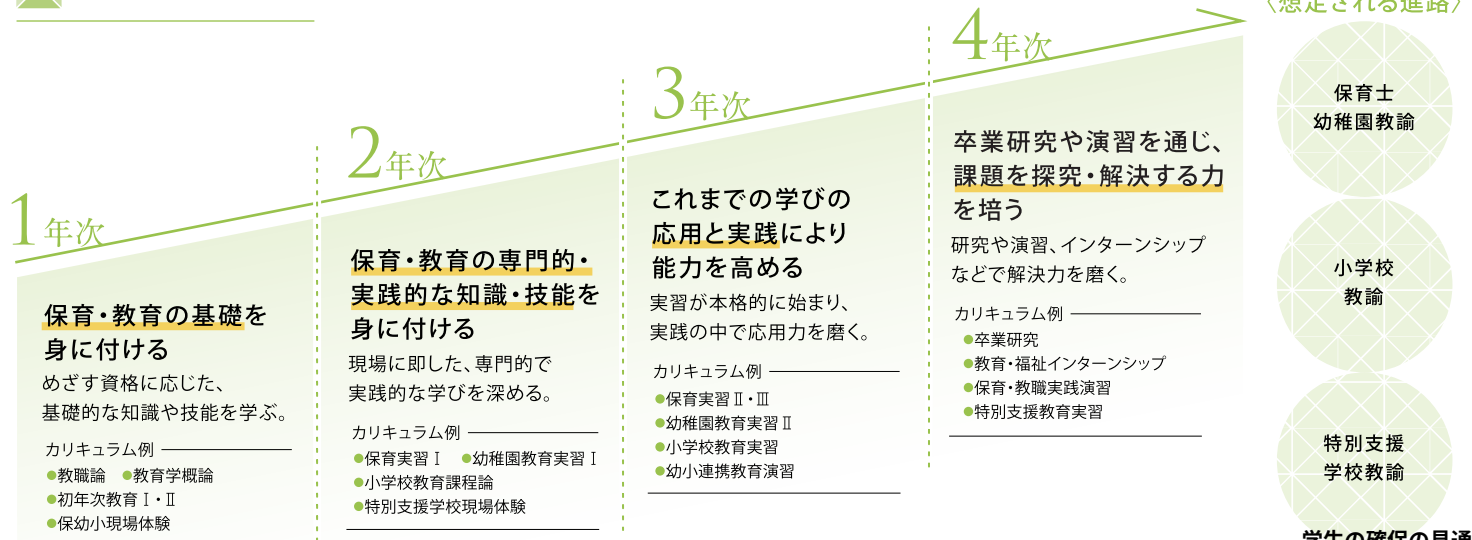
■ 社会・産業心理コース

心理学の視点から、社会・組織・集団の中で他者により良くコミュニケーションし、関係性を築くための理論と方法を学びます。社会生活上の様々な課題に気づき、乗り越えていくために心理学を賢く応用する力を身に付けます。

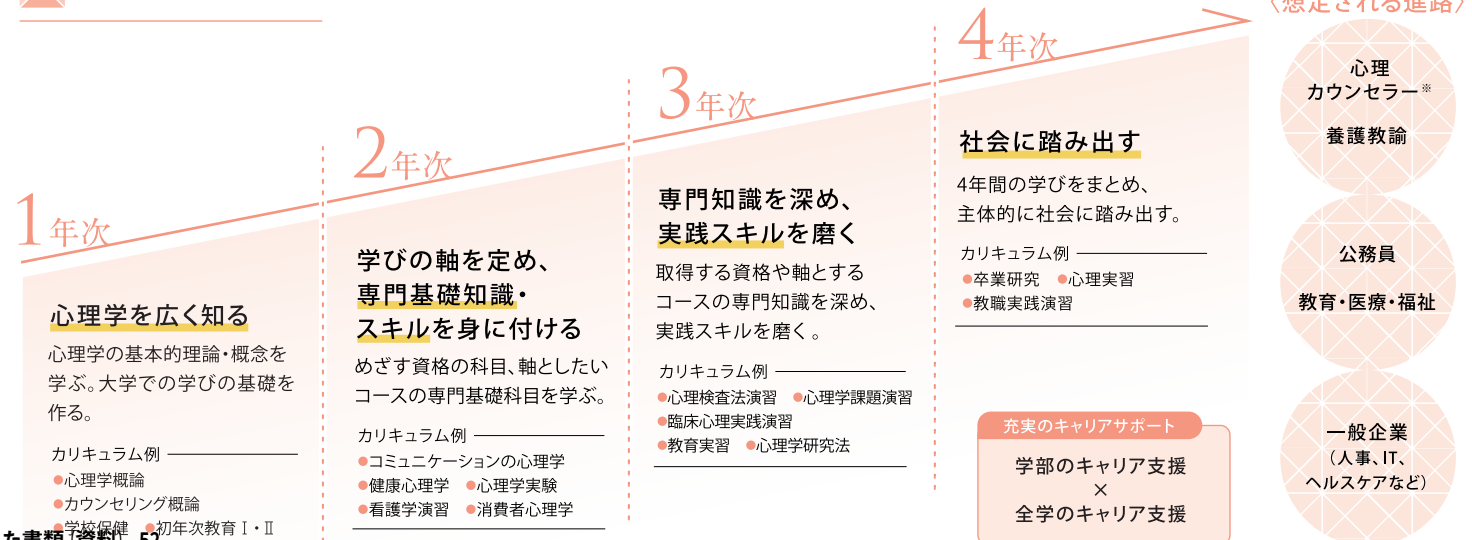
■ 教育・健康心理コース

心と体の関わりや健康について科学的理解を深め、信頼性のある評価と指導力、情報を読み解き活用する力、コミュニケーションを図り問題を解決する力を身に付け、人の健康を総合的な視点から支援できる実践的な人材や養護教諭を育成します。

4年間の学び



4年間の学び



1. (書類等の題名)

【資料 9】18 歳人口予測 (全国)

2. (出典)

リクルート進学総研マーケットリポート 2022 2023 年 2 月号

「【全国版】18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」

3. (引用範囲)

<https://souken.shingakunet.com/research/2023/02/182022.html>

1. (書類等の題名)

【資料 10】18歳人口予測 (全体：エリア別)

2. (出典)

リクルート進学総研マーケットリポート 2022 2023 年 2 月号

「【全国版】18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」

3. (引用範囲)

<https://souken.shingakunet.com/research/2023/02/182022.html>

1. (書類等の題名)

【資料 1 1】18 歳人口予測 (全体：都道府県別)

2. (出典)

リクルート進学総研マーケットレポート 2022 2023 年 2 月号

「【全国版】18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」

3. (引用範囲)

<https://souken.shingakunet.com/research/2023/02/182022.html>

【資料 12】過去5年間の志願状況(就実大学全体)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人文科学部	入学定員	225	235	235	235	235
	志願者数	1,228	1,275	1,084	991	877
	受験者数	1,223	1,269	1,081	987	869
	合格者数	493	559	630	714	652
	辞退者数	266	332	399	434	387
	入学者数	227	227	231	280	265
	志願倍率	5.46	5.43	4.61	4.22	3.73
	歩留率	0.46	0.41	0.37	0.39	0.41
教育学部	入学定員	135	137	137	137	137
	志願者数	1,162	1,133	994	974	742
	受験者数	1,153	1,125	991	969	738
	合格者数	392	441	402	460	448
	辞退者数	254	282	264	301	281
	入学者数	138	159	138	159	167
	志願倍率	8.61	8.27	7.26	7.11	5.42
	歩留率	0.35	0.36	0.34	0.35	0.37
経営学部	入学定員	80	100	100	100	160
	志願者数	783	687	649	535	671
	受験者数	778	683	646	535	664
	合格者数	173	207	219	221	382
	辞退者数	94	106	121	110	215
	入学者数	79	101	98	111	167
	志願倍率	9.79	6.87	6.49	5.35	4.19
	歩留率	0.46	0.49	0.45	0.50	0.44
薬学部	入学定員	120	100	100	100	100
	志願者数	394	383	400	441	387
	受験者数	389	380	397	435	385
	合格者数	323	328	332	385	357
	辞退者数	229	245	250	284	277
	入学者数	94	83	82	101	80
	志願倍率	3.28	3.83	4.00	4.41	3.87
	歩留率	0.29	0.25	0.25	0.26	0.22
合計	入学定員	560	572	572	572	632
	志願者数	3,567	3,478	3,127	2,941	2,677
	受験者数	3,543	3,457	3,115	2,926	2,656
	合格者数	1,381	1,535	1,583	1,780	1,839
	県内高校卒業生	17,520	17,257	16,792	16,274	15,822
	辞退者数	843	965	1034	1,129	1,160
	入学者数	538	570	549	651	679
	志願倍率	6.37	6.08	5.47	5.14	4.24
	歩留率	0.39	0.37	0.35	0.37	0.37

【資料 13】過去 5 年間の志願状況（申請 2 学科）

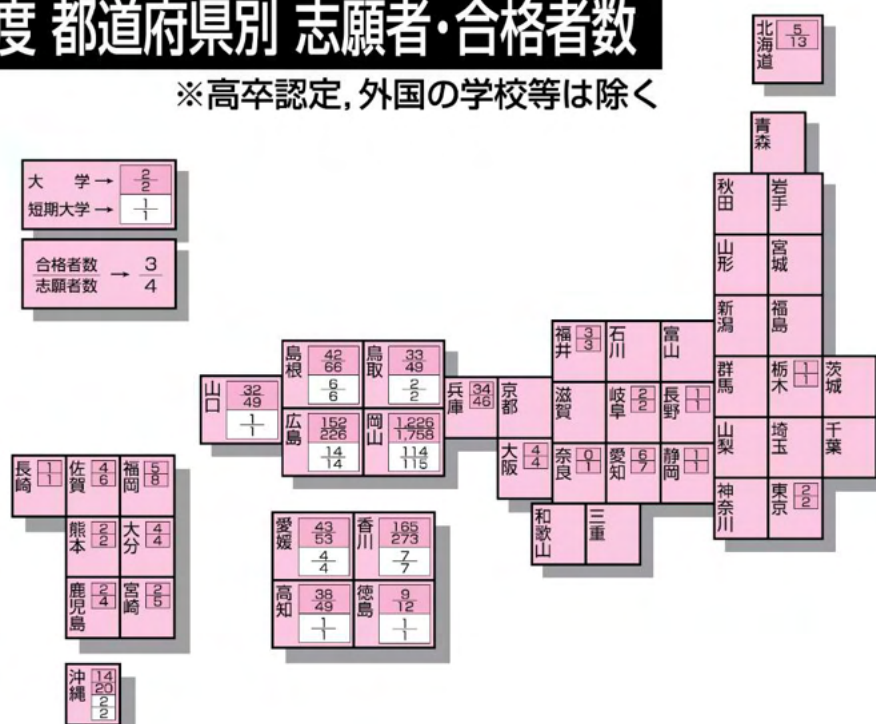
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
初等教育学科	入学定員	75	75	75	75	75
	志願者数	737	755	621	574	452
	受験者数	732	749	618	570	450
	合格者数	220	256	242	276	276
	辞退者数	148	173	165	197	182
	入学者数	72	83	77	79	94
	志願倍率	9.83	10.07	8.28	7.65	6.03
	歩留率	0.33	0.32	0.32	0.29	0.34
教育心理学科	入学定員	62	62	62	62	62
	志願者数	425	378	373	400	290
	受験者数	421	376	373	399	288
	合格者数	172	185	160	184	172
	辞退者数	106	109	99	104	99
	入学者数	66	76	61	80	73
	志願倍率	6.85	6.10	6.02	6.45	4.68
	歩留率	0.38	0.41	0.38	0.43	0.42
合計	入学定員	137	137	137	137	137
	志願者数	1,162	1,133	994	974	742
	受験者数	1,153	1,125	991	969	738
	合格者数	392	441	402	460	448
	県内高校卒業生	17,520	17,257	16,792	16,274	15,822
	辞退者数	254	282	264	301	281
	入学者数	138	159	138	159	167
	志願倍率	8.48	8.27	7.26	7.11	5.42
	歩留率	0.35	0.36	0.34	0.35	0.37

初等教育学科は、令和7年度教育学科へ名称変更予定

【資料 14】2023 年度都道府県別志願者・合格者数

2023年度 都道府県別 志願者・合格者数

※高卒認定, 外国の学校等は除く



出典: 2024 年度 就実大学学生募集要項

1. (書類等の題名)

【資料 15】18歳人口予測 (全体：中国地方)

2. (出典)

リクルート進学総研マーケットリポート 2022 2023 年 2 月号

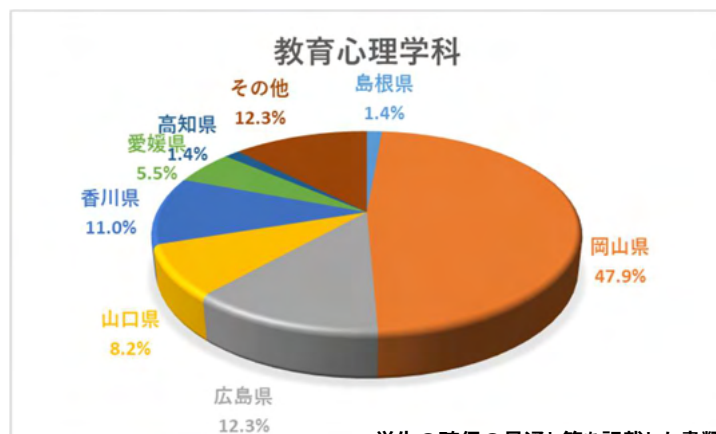
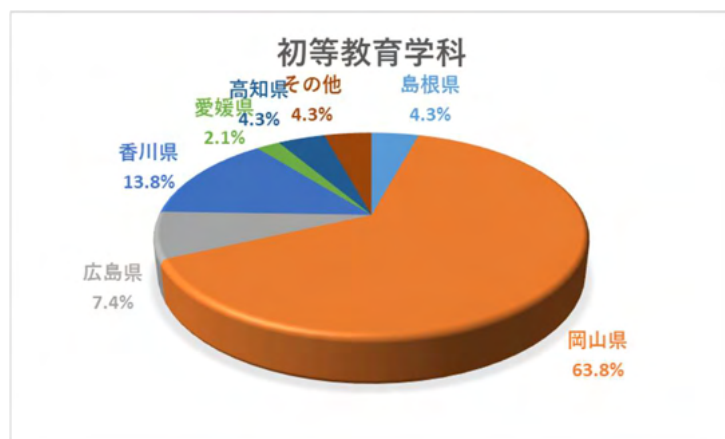
「【全国版】18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」

3. (引用範囲)

<https://souken.shingakunet.com/research/2023/02/182022.html>

【資料 16】令和 5 年度 都道府県別入学者数

出身地 \ 学科	初等教育	教育心理	表現文化	実践英語	総合歴史	経営	薬	総計（人）
北海道						1		1
栃木県						1		1
東京都							1	1
愛知県					1			1
大阪府							2	2
兵庫県	2	4				1	4	11
鳥取県		1	1			1	1	4
島根県	4	1	1		1		1	8
岡山県	60	35	69	61	62	149	58	494
広島県	7	9	8	11	6	3	2	46
山口県		6			1	1		8
徳島県	2							2
香川県	13	8	8	6	8	8	9	60
愛媛県	2	4	4	3	3			16
高知県	4	1	2		2	1		10
福岡県		2						2
佐賀県					1			1
大分県			1				1	2
宮崎県		1						1
鹿児島県				1				1
沖縄県		1	1		2	1		5
その他			1				1	2
総計	94	73	96	82	87	167	80	679



1. (書類等の題名)

【資料 1 7-1】出身高校の所在地別進学先 (2023 年度)

【資料 1 7-2】岡山県内高校生の進学先 (2023 年度)

2. (出典)

文部科学省「令和 5 年度学校基本調査」

3. (引用範囲)

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

4. (その他の説明)

上記のデータを加工し、表にまとめた。

【資料 18】就実大学・就実短期大学収容定員充足率

大学・ 学部名等	入学定員	収容定員	学生数 (令和5年5月1 日現在)	収容定員充足率	備考
就実大学 人文科学部 (合計)	235	940	1018	1.08	
表現文化学科	80	320	340	1.06	
実践英語学科	75	300	323	1.07	
総合歴史学科	80	320	355	1.10	
教育学部 (合計)	137	558	628	1.12	
初等教育学科	75	310	332	1.07	
教育心理学科	62	248	296	1.19	
経営学部 経営学科	160	460	473	1.02	令和5年4月収容定員変更 変更前収容定員:400 変更後収容定員:640
薬学部 薬学科	100	640	490	0.76	令和2年4月収容定員変更 変更前収容定員:720 変更後収容定員:600
就実短期大学 幼児教育学科	100	200	134	0.67	
生活実践科学科	80	160	133	0.83	

1. (書類等の題名)

【資料 19】競合校との比較 (心理学部)

2. (出典)

旺文社「螢雪時代特別編集 2024 年度用 大学の真の実力 情報公開 BOOK」

各大学の情報公開ページ抜粋

中国・四国地区私立大学実態調査

旺文社 螢雪時代 9 月臨時増刊 全国大学受験年鑑 [推薦&総合型選抜ガイド]

旺文社 螢雪時代 11 月臨時増刊 全国大学受験年鑑 [一般選抜ガイド]

3. (引用範囲)

競合他大学の学納金、ST 比、取得可能資格、就職率 (2023 年 3 月卒)、入試日程 (令和 5 年度入試)、教育内容、アクセス

4. (その他の説明)

上記のデータを加工し、表にまとめた。

1. (書類等の題名)

【資料 20】競合校の入学志願動向比較

2. (出典)

中国・四国地区私立大学実態調査、R5 については大学 HP、旺文社パスナビ

3. (引用範囲)

競合校の令和3年度・4年度・5年度の入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

4. (その他の説明)

上記のデータを加工し、定員充足率・志願倍率を算出し、表にまとめた。

1. (書類等の題名)

【資料 21】学部別の志願者・入学者動向

2. (出典)

日本私立学校振興・共済事業団「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」

3. (引用範囲)

<https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR5.pdf>

就実大学
「教育学部 教育学科」
「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和6年3月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2025年4月開設予定の就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

高校生対象調査		
調査対象		高校2年生
調査エリア		鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、高知県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	13,780名(83校)
	有効回収数 (回収校数)	9,959名(75校) 有効回収率:72.3%
調査時期		2023年11月2日(木)～2023年12月12日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・志望する設置者 ・興味のある学問分野 ・就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度 ・就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」への受験意向 ・就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」への入学意向

入学意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答者全体(9,959名)

回答者の属性

回答者の属性

※本調査は、就実大学の「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)に対する需要を確認するための調査として設計。就実大学の主な学生募集エリアである鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県、愛媛県、高知県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し9,959名から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が42.1%、「女性」が55.3%である。
- 回答者の学年は「2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は「公立」が69.9%、「私立」が30.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が55.1%を占め、最も多い。次に「香川県」が22.9%、「広島県」が9.2%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が50.2%で最も多い。次に「理系クラス(理系コース)」が24.4%と続く。

■性別

	標 本 数	男 性	女 性	回 答 し な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)					
全体	9,959	42.1 4,192	55.3 5,503	2.1 213	0.5 51

■学年

	標 本 数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)					
全体	9,959	0.0 0	100.0 9,959	0.0 0	0.0 0

回答者の属性

■高校種別

	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)					
全体	9,959	0.0 0	69.9 6,961	30.1 2,998	0.0 0

■高校所在地

	標 本 数	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	広 島 県	香 川 県	愛 媛 県	高 知 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)									
全体	9,959	3.9 386	4.7 465	55.1 5,489	9.2 913	22.9 2,280	1.9 187	2.4 239	0.0 0

■所属クラス

	標 本 数	(文系 文系クラス コース)	(理系 理系クラス コース)	コ ー ス 選 択 は な い	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)						
全体	9,959	50.2 5,003	24.4 2,426	4.8 474	16.2 1,618	4.4 438

高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路

- 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人が78.3%と最も多い。
次いで、「専門学校」に進学が18.5%、「就職」が8.2%と続く。「短期大学」に進学は6.7%、「専門職大学」に進学は3.1%、「専門職短期大学」に進学は0.8%である。
- 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。
その結果、就実大学の該当する「私立」への進学を希望する人は52.3%、「国立」が56.5%、「公立」が43.5%であった。

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	大 学	短 期 大 学	専 門 職 大 学	専 門 職 短 期 大 学	専 門 学 校	就 職	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)									
全体	9,959	78.3 7,800	6.7 667	3.1 308	0.8 80	18.5 1,840	8.2 815	1.2 119	0.4 40

※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した8,239名を抽出

■希望する大学等の区分(設置者)

Q2. Q1で①～④を選択した方に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	私 立	国 立	公 立	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)					
全体	8,239	52.3 4,313	56.5 4,657	43.5 3,582	0.5 38

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「社会科学(法学、商学・経済学、社会学など)」が21.6%で最も高い。次いで、「その他」を除き「保健(医学、歯学、薬学、看護学など)」が19.3%と続く。
- 「教育学部 教育学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「教育学関係(教育学、教科教育学など)」が9.5%で最も高い。次いで、「幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)」が4.9%と続く。「心理学部 心理学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「心理学」が12.4%で最も高い。「養護教諭養成課程」は2.0%である。
- 回答者のうち、私立大学進学希望者に限定すると、興味のある学問分野は「社会科学(法学、商学・経済学、社会学など)」が27.8%で最も高い。次いで、「その他」を除き「保健(医学、歯学、薬学、看護学など)」が18.6%と続く。
- また、私立大学進学希望者の「教育学部 教育学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「教育学関係(教育学、教科教育学など)」が11.0%で最も高い。次いで、「幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)」が5.7%と続く。「心理学部 心理学科」の学びと関連する学問分野への関心は、「心理学」が15.1%で最も高い。「養護教諭養成課程」は2.5%である。

<私立大学進学希望者>

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。

興味のある学問分野

■興味のある学問分野

Q3. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

	標本数	心理学	教育学関係(教育学、教科教育学など)	(幼稚園教員養成課程)	(小学校教員養成課程)	高等学校課程・中学校課程	特別教科課程(書道・美術・工芸など)	特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害児教育など)	養護教諭養成課程	教育学その他(保育学、乳幼児教育学など)
上段: % 下段: 件数(名)										
全体	9,959	12.4 1,230	9.5 946	4.9 485	3.7 370	6.2 622	3.0 295	1.1 114	2.0 196	4.6 458

	標本数	文学・史学	哲学(心理学を除く)	社会科学(法学、社会学・経済学、社会学など)	保健(医学、歯学、薬学、看護学など)	物理学・工学(数学、化学、物理工学など)	農学(農学、水産学など)	その他	わからない	無回答
上段: % 下段: 件数(名)										
全体	9,959	11.6 1,151	3.0 294	21.6 2,155	19.3 1,924	13.4 1,336	4.0 394	20.8 2,072	7.2 720	1.1 105

<私立大学進学希望者ベース>

	標本数	心理学	教育学関係(教育学、教科教育学など)	(幼稚園教員養成課程)	(小学校教員養成課程)	高等学校課程・中学校課程	特別教科課程(書道・美術・工芸など)	特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害児教育など)	養護教諭養成課程	教育学その他(保育学、乳幼児教育学など)
上段: % 下段: 件数(名)										
私立大学 進学希望者	3,986	15.1 601	11.0 438	5.7 229	4.1 162	7.1 284	2.9 117	1.2 48	2.5 99	4.8 190

	標本数	文学・史学	哲学(心理学を除く)	社会科学(法学、社会学・経済学、社会学など)	保健(医学、歯学、薬学、看護学など)	物理学・工学(数学、化学、物理工学など)	農学(農学、水産学など)	その他	わからない	無回答
上段: % 下段: 件数(名)										
私立大学 進学希望者	3,986	14.7 587	3.0 119	27.8 1,108	18.6 741	9.4 374	2.9 115	19.1 761	6.7 266	0.3 10

※%の母数は、私立大学進学希望者(3,986名)

就実大学「教育学部 教育学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
就実大学「教育学部 教育学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「教育学部 教育学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
(教育学関係(教育学、教科教育学など)、幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)、
小学校課程(小学校教員養成課程)、特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害
児教育など)、教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)の
いずれかに興味あり)

就実大学「教育学部 教育学科」への受験・入学意向

- ・上記の①～③の条件すべてに合致する回答者(教育学部 教育学科のターゲット層該当者)は、684名である。
 - ・ターゲット層該当者の、「教育学部 教育学科」への受験意向、入学意向をみると、
 - ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は34名
 - ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は13名
 - ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は4名上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、51名。
 - ◇「第一志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は2名
 - ◇「第二志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は41名
 - ◇「第三志望以降として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は167名
- 上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、210名。

就実大学「教育学部 教育学科」への受験・入学意向

■就実大学「教育学部 教育学科」への受験・入学意向

Q5. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次よりそれぞれ一つ選択してください。

Q6. また、受験して合格した場合、入学を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次よりそれぞれ一つ選択してください。

		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の 他の志望校が 不合格の場合に 入学する	入学しない
上段: %				
下段: 件数(名)				
受験 意 向	第一志望	0.3 34	0.0 2	0.0 2
	第二志望	0.1 13	0.4 41	0.0 0
	第三志望以降	0.0 4	1.7 167	0.2 15
	受験意向あり・合計	0.4 51	2.1 210	0.2 17
	受験しない	3.6 356		

※%の母数は、回答者全体(9,959名)

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

【教育学部 教育学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 684名（回答者全体の6.9%）

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「教育学部 教育学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（教育学関係（教育学、教科教育学など）、幼稚園課程（幼稚園教員養成課程）、小学校課程（小学校教員養成課程）、特別支援教育課程（盲学校、聾学校、障害児教育など）、教育学その他（保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など）のいずれかに興味あり）



- ・ターゲット層における「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度（※）をみると、2つの特色のうちより高いのは「Ⅱ．「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」（90.1%）。「Ⅰ．自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」は89.6%である。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度（※）をみると、「Ⅰ．自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」「Ⅱ．「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」は同率でいずれも100.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅰ. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色Ⅱ. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

上段: % 下段: 件数(名)	標本数	特色Ⅰ	特色Ⅱ
ターゲット層	684	89.6 613	90.1 616
第一志望者	34	100.0 34	100.0 34

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
就実大学「教育学部 教育学科」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

就実大学「心理学部 心理学科」への受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、就実大学「心理学部 心理学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「心理学部 心理学科」の学びと関連する学問分野への興味あり（心理学、養護教諭養成課程のいずれかに興味あり）

就実大学「心理学部 心理学科」への受験・入学意向

- ・上記の①～③の条件すべてに合致する回答者（心理学部 心理学科のターゲット層該当者）は、661名である。

- ・ターゲット層該当者の、「心理学部 心理学科」への受験意向、入学意向をみると、

◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は39名

◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は15名

◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は7名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、61名。

◇「第一志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は3名

◇「第二志望として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は62名

◇「第三志望以降として受験する」かつ「他の志望校不合格の場合入学する」と回答した人は163名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、228名。

就実大学「心理学部 心理学科」への受験・入学意向

■就実大学「心理学部 心理学科」への受験・入学意向

Q5. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次よりそれぞれ一つ選択してください。

Q6. また、受験して合格した場合、入学を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次よりそれぞれ一つ選択してください。

		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の 他の志望校が 不合格の場合に 入学する	入学しない
上段: %				
下段: 件数(名)				
受験 意 向	第一志望	0.4 39	0.0 3	0.0 0
	第二志望	0.2 15	0.6 62	0.0 2
	第三志望以降	0.1 7	1.6 163	0.0 4
	受験意向あり・合計	0.7 61	2.2 228	0.0 6
受験しない		3.1 306		

※%の母数は、回答者全体(9,959名)

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に 対する魅力度

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

【心理学部 心理学科 ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 661名（回答者全体の6.6%）

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「心理学部 心理学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
（心理学、養護教諭養成課程のいずれかに興味あり）



- ・ターゲット層における「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうち高いのは「Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」(89.6%)。次に高いのは「Ⅳ. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。」(88.4%)である。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、2つの特色のうち高いのは「Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。」(100.0%)。次に高いのは「Ⅳ. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。」(97.4%)である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

■就実大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅲ. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。

特色Ⅳ. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。

上段: % 下段: 件数(名)	標本数	特色Ⅲ	特色Ⅳ
ターゲット層	661	89.6 592	88.4 584
第一志望者	39	100.0 39	97.4 38

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
就実大学「心理学部 心理学科」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

巻末資料 調査票



就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中) に関するアンケート

就実大学では2025年(令和7年)4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、就実大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。
※ このアンケートや同封した資料に記載されている「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」いずれも仮称、新学部構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

1. 回答は、**あてはまる番号に「○」印**をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、【○】印は、**番号丸枠からはみ出さないように**につけてください。

ここに○印をつけてください

心理学

ID 32

良い記入例	○ 心理学 ② 教育学	悪い記入例	① 心理学 ② 教育学	① 心理学 ② 教育学	○ 心理学 ② 教育学	○ 心理学 ② 教育学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	① 男性	② 女性	③ 回答しない
学年 (1つに○)	① 1年生	② 2年生	③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 ① 国立 ② 公立 ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス(文系コース) ③ コース選択はない ② 理系クラス(理系コース) ④ その他 ※商業系学科、総合学科等は「4.その他」をお選びください。		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路**すべてに○**をつけてください。(複数選択可)

① 大学	③ 専門職大学	⑤ 専門学校	⑦ その他
② 短期大学	④ 専門職短期大学	⑥ 就職	

↓

Q2 **Q1で①～④を選択した方**に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者**すべてに○**をつけてください。(複数選択可)

① 私立	② 国立	③ 公立

Q3 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野**すべてに○**をつけてください。(複数選択可)
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

① 心理学	⑥ 特別教科課程 (書道・美術・工芸など)	⑩ 文学・史学	⑭ 理学・工学 (数学、化学、物理工学など)
② 教育学関係 (教育学、教科教育学など)	⑦ 特別支援教育課程 (盲学校、聾学校、障害児教育など)	⑪ 哲学(心理学を除く)	⑮ 農学 (農学、林学、水産学など)
③ 幼稚園課程 (幼稚園教員養成課程)	⑧ 養護教諭養成課程	⑫ 社会科学 (法学、商学・経済学、社会学など)	⑯ その他
④ 小学校課程 (小学校教員養成課程)	⑨ 教育学その他 (保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)	⑬ 保健 (医学、歯学、薬学、看護学など)	⑰ わからない
⑤ 中学校課程・高等学校課程			

◆就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」（いずれも仮称、新学部構想中）についてお聞きします。

就実大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2025年（令和7年）4月に、新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」（いずれも仮称）を開設することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」（いずれも仮称、新学部構想中）には、以下のような特色があります。

Q 4

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		とても 魅力を感じ	ある程度 魅力を感じ	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
例	〇〇である	→ ①	○	③	④
教育学部 教育学科	I. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	→ ①	②	③	④
	II. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	→ ①	②	③	④
心理学部 心理学科	III. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	→ ①	②	③	④
	IV. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。	→ ①	②	③	④

Q 5

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」（いずれも仮称、新学部構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次よりそれぞれ一つ選択してください。

Q 6

また、受験して合格した場合、入学を希望しますか。あなたの考えに近い選択肢を、次よりそれぞれ一つ選択してください。

教育学部 教育学科

Q5-A 【受験を希望しますか】(①～④から一つ選択)

- ① 第一志望として受験する
② 第二志望として受験する
③ 第三志望以降として受験する
④ 受験しない → Q5-Bへ

合格した場合...

Q6-A 【入学を希望しますか】(①～③から一つ選択)

- ① 入学する
② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
③ 入学しない

心理学部 心理学科

教育学部(Q5-A)で「①第一志望として受験する」を選択した場合、心理学部(Q5-B)では「①第一志望として受験する」を選択することはできません。※「②第二志望として受験する」も同様。

Q5-E 【受験を希望しますか】(①～④から一つ選択)

- ① 第一志望として受験する
② 第二志望として受験する
③ 第三志望以降として受験する
④ 受験しない → 回答終了

合格した場合...

Q6-E 【入学を希望しますか】(①～③から一つ選択)

- ① 入学する
② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
③ 入学しない

実際に入学できる大学は1大学のため、Q6-A、Q6-Bで「①入学する」は教育学部、心理学部のどちらか1つまでにしてください。

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

◆ 学費等納付金（2025年度予定） ◆

	教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
入学金	270,000円	270,000円
授業料	950,000円	950,000円
初年度納付金	1,220,000円	1,220,000円
次年度納付金	950,000円	950,000円

※このほかに諸会費等を徴収。

◆ 取得可能な資格・免許／想定される進路 ◆

教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
■ 取得可能な資格・免許 - 保育士資格 - 幼稚園教諭一種免許状 - 小学校教諭一種免許状 - 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病） - 中学校教諭二種免許状（国・英・社）※ - 認定心理士申請資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 - 学校図書館司書教諭申請資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 ■ 想定される進路 - 保育所 - 認定こども園 - 幼稚園 - 児童福祉施設 - 小学校 - 特別支援学校 - 義務教育学校 - 小中一貫型小中学校 など	■ 取得可能な資格・免許 - 公認心理師受験要件学科科目 - 養護教諭一種免許状 - 認定心理士申請資格 - 認定心理士（心理調査）申請資格 - 准学校心理士 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 - 児童指導員任用資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 ■ 想定される進路 - 公認心理師・臨床心理士（大学院進学） - 養護教諭（小・中学校・高等学校） - 地方・国家公務員（一般職・心理専門職） - 教育・医療・福祉（医療秘書、児童指導員など） - 情報通信業（IT） - サービス業（ヘルスケアなど） - 卸売業・小売業（総合商社） - 金融業（銀行など） - 製造業（メーカー） など

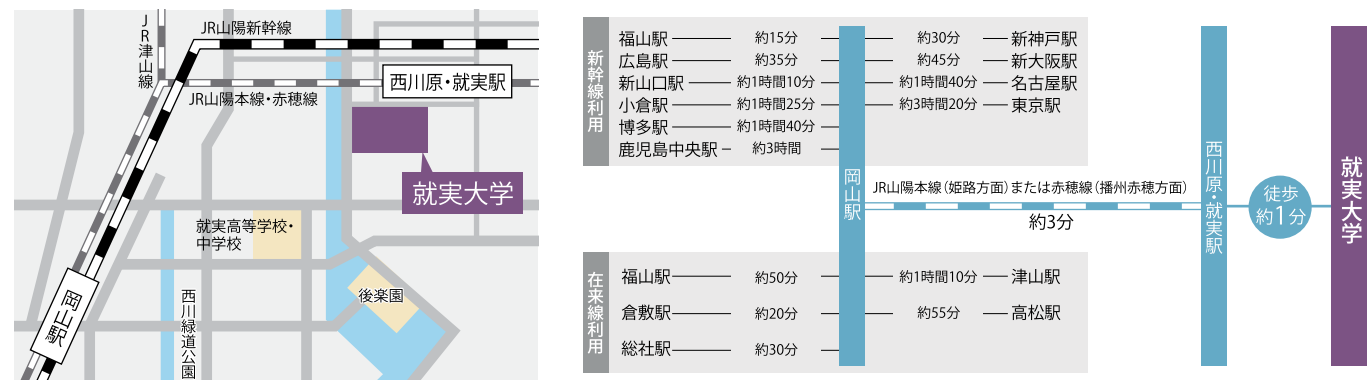
※ 小学校教諭一種免許状取得を前提とする

◆ 類似する大学・学部・学科 ◆

教育学部 教育学科
- ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 児童学科 - 広島修道大学 人文学部 教育学科 - 広島文教大学 教育学部 教育学科 初等教育学専攻 - 岡山理科大学 教育学部 初等教育学科 - くらしき作陽大学 子ども教育学部 子ども教育学科 - 環太平洋大学 次世代教育学部 子ども発達学科

心理学部 心理学科
- 広島修道大学 健康科学部 心理学科 - 安田女子大学 心理学部 現代心理学科 - 広島文教大学 人間科学部 心理学科 - 山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科 - 比治山大学 現代文化学部 社会臨床心理学科 - 徳島文理大学 人間生活学部 心理学科

ACCESS JR西川原・就実駅から 徒歩1分



- 人文科学部 表現文化学科／実践英語学科／総合歴史学科
- 教育学部 初等教育学科／教育心理学科
- 経営学部 経営学科 ■ 薬学部 薬学科

2025年4月 教育学部が進化！心理学部が誕生！

先生になろう！

心の世界を
探究しよう！

2024年まで

教育学部

初等教育学科 入学定員 75名

教育心理学科 入学定員 62名

New

2025年から

教育学部 教育学科

入学定員 110名

心理学部 心理学科

入学定員 100名

新学部構想中

※記載の内容はすべて仮称・構想中であり、変更される場合があります。



2025年4月、2つの 新学部が誕生します！

教育学部 教育学科

子どもたちが豊かな人生を切り拓けるよう支援できる、
保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。

■ アドミッション・ポリシー

子どもへの愛情に溢れ、保育・教育者となり、一人ひとりの子どもの幸せのために力を尽くしたいと強く願う人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭になって活躍したい人
- ・人が好きで、相手意識をもち、物事を柔軟に捉えようとする気持ちをもっている人
- ・いろいろなことにチャレンジし、仲間と共に粘り強く取り組める人
- ・入学後の修学に必要な基礎学力を有している人

心理学部 心理学科

心理学を広く学んだ後に、自分の将来像に合わせてコースを選択。
さらに、コースを越えた学び、演習・実習によって専門性と実践力を高めます。

■ アドミッション・ポリシー

心理学に強い関心があり、人と関わることが好きで、心身の健康を支えケアすることや人と協働して社会の課題を解決することに喜びを感じる人を求めています。

■ 入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・心理学に関心を持ち、社会人、心理師（士）、養護教諭として、現代社会の問題に取り組みたいと思う人
- ・自分を活かしながら様々な人と協働し、探究心を持って自分を高めていきたい人
- ・伝えたいことを相手の立場に立ってわかりやすく表現しようと努力している人
- ・理系・文系を問わず、入学後の修学に必要な基礎学力のある人

心理学で社会に羽ばたこう！

各コースの特色／修得できる能力



■ 乳幼児教育コース

保育所や認定こども園、幼稚園などで、乳幼児期に必要な豊かな体験を創造できる保育者を育成します。障害のある子どもにも対応できるよう、特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得することも可能です。

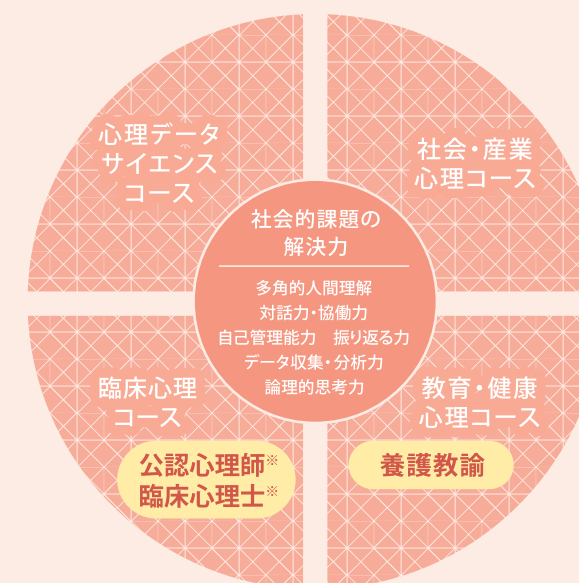
■ 小学校教育コース

児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導や支援ができる小学校の教員を育成します。幼稚園教諭や特別支援学校教諭の一種免許状を合わせて取得することも可能です。さらに、国語・英語・社会の中学校教諭二種免許状の取得にも挑戦できます（小学校教諭一種免許状の取得が必須）。

■ 特別支援教育コース

さまざまな障害に必要な支援と教育的ニーズを理解し、多様性を尊重しながら子どもの自立と将来の社会参加に向けた取り組みを支援できる、特別支援学校の教員を育成します。

各コースの特色／修得できる能力



■ 心理データサイエンスコース

心理学の方法や考え方で人の心や行動を数値化し、データサイエンスを通じて人や社会の隠されたものを見出し、課題を解決します。データを通じて色々な人と協力し、新しい社会づくりに挑戦する力を身に付けます。

■ 臨床心理コース

心の支援を必要としている個人やコミュニティ（家族や学校、職場や地域社会）を、臨床心理学的方法を用いて多角的に理解し、支援する力、他者との深い対話を通して解決に必要な新たな価値を創り出す力を身に付けます。

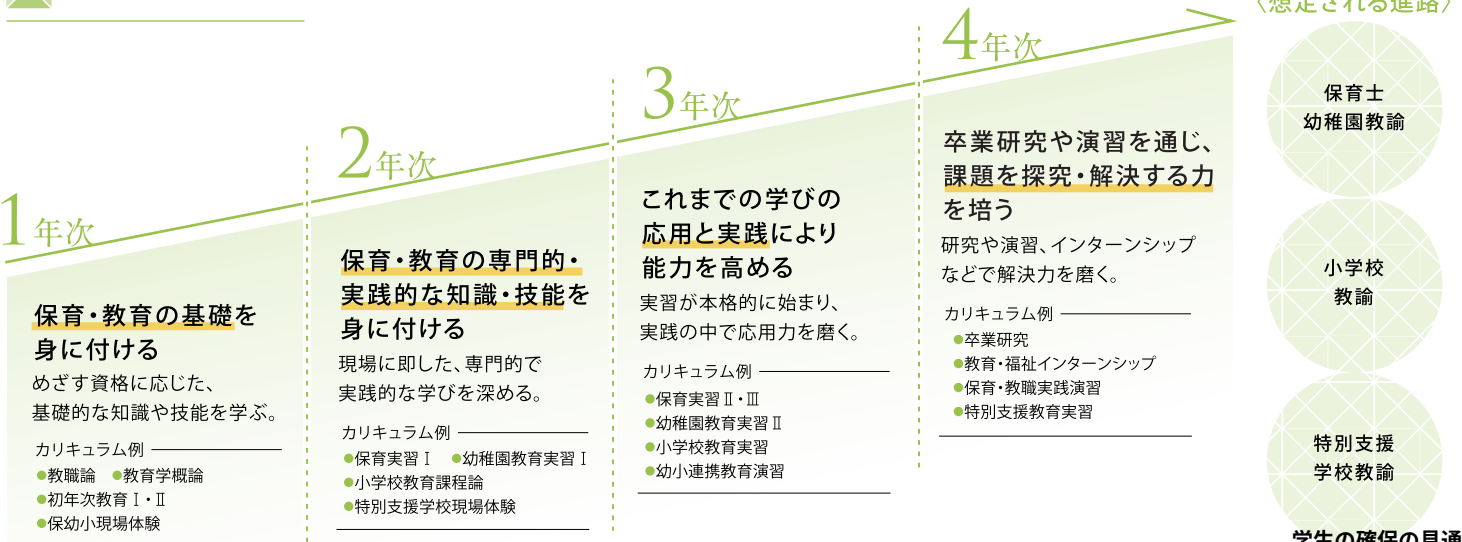
■ 社会・産業心理コース

心理学の視点から、社会・組織・集団の中で他者により良くコミュニケーションし、関係性を築くための理論と方法を学びます。社会生活上の様々な課題に気づき、乗り越えていくために心理学を賢く応用する力を身に付けます。

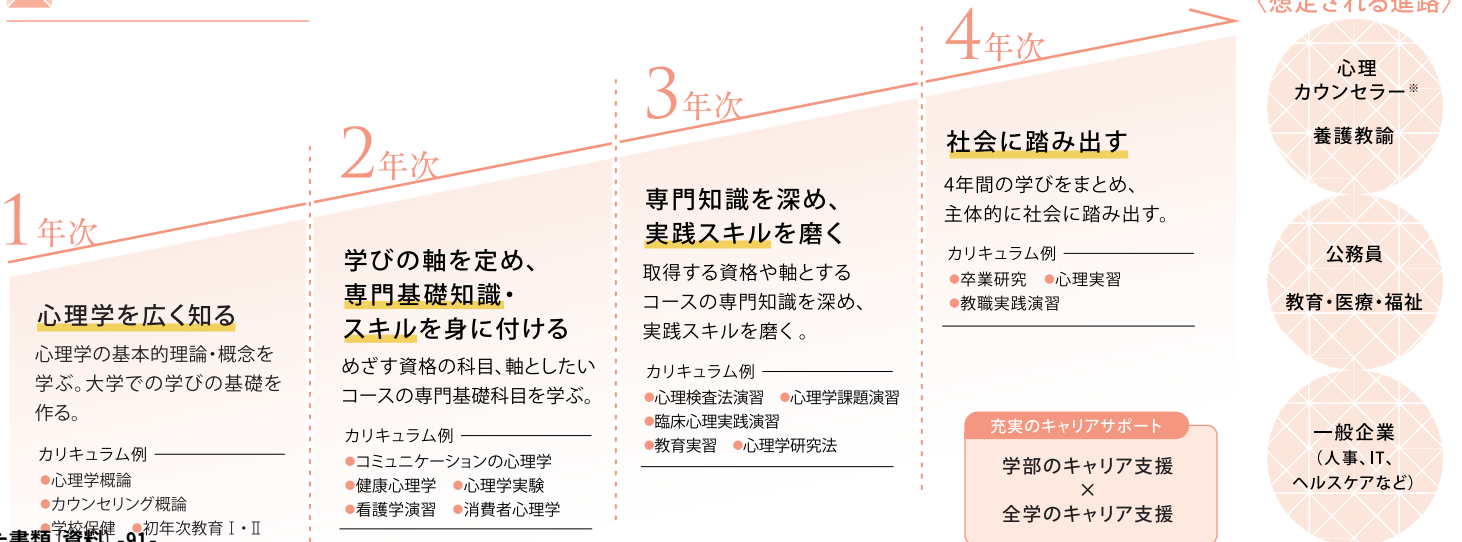
■ 教育・健康心理コース

心と体の関わりや健康について科学的理解を深め、信頼性のある評価と指導力、情報を読み解き活用する力、コミュニケーションを図り問題を解決する力を身に付け、人の健康を総合的な視点から支援できる実践的な人材や養護教諭を育成します。

4年間の学び



4年間の学び



学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）-91-

※公認心理師・臨床心理士の受験資格取得は大学院進学が必要

2023年新入生アンケート結果集計表

05.他大学も含め、入学した学科の志望順位を教えてください。

	初等教育学科		教育心理学科	
回答数	94		72	
第一志望	28	30%	37	51%
第二志望	37	39%	17	24%
第三志望	10	11%	6	8%
それ以下	5	5%	0	0%
無回答	14	15%	12	17%

【資料24】 調査対象高等学校と調査対象校からの在籍者数一覧

	都道府県	調査対象とした高等学校	令和5年度 本学の 在籍者数(人)
1	岡山県	岡山県立岡山朝日高等学校	30
2	岡山県	岡山県立岡山芳泉高等学校	23
3	岡山県	岡山県立岡山東商業高等学校	37
4	岡山県	岡山県立岡山南高等学校	61
5	岡山県	岡山県立倉敷青陵高等学校	24
6	岡山県	岡山県立倉敷天城高等学校	40
7	岡山県	岡山県立倉敷南高等学校	56
8	岡山県	岡山県立倉敷中央高等学校	15
9	岡山県	岡山県立倉敷商業高等学校	35
10	岡山県	岡山県立津山高等学校	18
11	岡山県	岡山県立玉島高等学校	58
12	岡山県	岡山県立笠岡高等学校	26
13	岡山県	岡山県立西大寺高等学校	100
14	岡山県	岡山県立井原高等学校	11
15	岡山県	岡山県立高梁高等学校	16
16	岡山県	岡山県立新見高等学校	8
17	岡山県	岡山県立瀬戸高等学校	66
18	岡山県	岡山県立瀬戸南高等学校	4
19	岡山県	岡山県立和気閑谷高等学校	12
20	岡山県	岡山県立矢掛高等学校	7
21	岡山県	岡山県立勝山高等学校	7
22	岡山県	岡山県立林野高等学校	10
23	岡山県	岡山県立岡山一宮高等学校	51
24	岡山県	岡山県立玉野光南高等学校	40
25	岡山県	岡山県立総社南高等学校	80
26	岡山県	岡山市立岡山後楽館高等学校	13
27	岡山県	岡山県立備前緑陽高等学校	11
28	岡山県	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	6
29	岡山県	岡山県立岡山御津高等学校	5
30	岡山県	岡山県立岡山大安寺中等教育学校	11
31	岡山県	山陽学園高等学校	6
32	岡山県	就実高等学校	345
33	岡山県	明誠学院高等学校	43
34	岡山県	創志学園高等学校	10
35	岡山県	関西高等学校	7
36	岡山県	倉敷高等学校	11

37	岡山県	岡山理科大学附属高等学校	15
38	岡山県	倉敷翠松高等学校	3
39	岡山県	岡山県美作高等学校	16
40	岡山県	岡山学芸館高等学校	22
41	岡山県	金光学園高等学校	18
42	岡山県	岡山高等学校	14
43	広島県	広島県立尾道東高等学校	12
44	広島県	広島県立福山葦陽高等学校	10
45	広島県	広島県立府中高等学校	15
46	広島県	広島県立大門高等学校	35
47	広島県	福山市立福山高等学校	10
48	広島県	広島県立神辺旭高等学校	12
49	広島県	福山暁の星女子高等学校	2
50	鳥取県	鳥取県立鳥取東高等学校	6
51	鳥取県	鳥取県立米子西高等学校	10
52	鳥取県	鳥取県立境高等学校	2
53	島根県	島根県立三刀屋高等学校	1
54	島根県	島根県立出雲高等学校	4
55	島根県	島根県立浜田高等学校	5
56	島根県	松江市立皆美が丘女子高等学校	0
57	香川県	香川県立高松東高等学校	6
58	香川県	香川県立高松商業高等学校	7
59	香川県	香川県立坂出高等学校	22
60	香川県	香川県立丸亀城西高等学校	16
61	香川県	香川県立善通寺第一高等学校	26
62	香川県	香川県立琴平高等学校	4
63	香川県	香川県立高瀬高等学校	6
64	香川県	香川県立高松西高等学校	17
65	香川県	香川県立高松北高等学校	12
66	香川県	香川県立香川中央高等学校	14
67	香川県	香川県立観音寺総合高等学校	5
68	香川県	大手前高松高等学校	8
69	香川県	香川県藤井高等学校	3
70	香川県	尽誠学園高等学校	5
71	香川県	香川誠陵高等学校	6
72	愛媛県	愛媛県立新居浜東高等学校	5
73	高知県	高知県立安芸高等学校	3
74	高知県	高知県立高知丸の内高等学校	5
75	高知県	土佐女子高等学校	3

【資料25】過去4年間の求人件数

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	平均
(a) 求人件数	1,058	863	893	1,034	962
人文科学部卒業生数	259	239	272	197	
教育学部教育心理学科卒業生数	61	65	71	66	
経営学部卒業生数	75	97	103	79	
(b) 卒業生数合計	395	401	446	342	
1人当たり ((a) / (b))	2.68	2.15	2.00	3.02	2.46

※求人件数は、薬学及び教職幼保の専門求人を除いた数。

※教育学部初等教育学科は、教職幼保の専門職に就くケースがほとんどのため、一人当たりの求人件数算定から除外している。

【資料26】令和5（2023）年度就職ガイダンス出席数（延べ数）

講座名	日程	対象	参加者数
就職ガイダンス (就職活動基礎講座)	5/10(水)	大・短	285
★公務員セミナー	5/17(水)	大・短	42
★SPI講座セミナー	5/17(水)	大・短	46
就職ガイダンス (インターンシップ講座)	5/24(水)	大・短	250
★インターンシップフェア セミナー①	5/31(水)	大・短	93
★インターンシップフェア セミナー②	6/7(水)	大・短	96
★インターンシップフェア セミナー③	6/14(水)	大・短	91
就職ガイダンス (筆記試験・時事問題対策講座)	6/21(水)	大・短	243
★UIターンセミナー	6/28(水)	大・短	68
就職ガイダンス (自己分析解説講座)	7/5(水)	大	171
就職ガイダンス (自己分析解説講座)	7/6(木)	短	15
★身だしなみセミナー	7/12(水)	大・短	56
★自己分析ワークショップ (インターンシップ編)	7/19(水)	大・短	51
就職ガイダンス (夏休みの過ごし方)	7/26(水)	短	16
★就活バスツアー 岡山県北コース	9/12(火)	大・短	20
★就活バスツアー 岡山県南コース	9/15(金)	大・短	19
★自己PR&ガクチカ作成セミナー	9/20(水)	大	12
就職ガイダンス (自己PR作成講座①)	9/20(水)	短	15
就職ガイダンス (就職登録会)	9/27(水)	大・短	272
就職ガイダンス (履歴書・ES対策講座)	10/4(水)	大・短	229
★業界研究セミナー①	10/11(水)	大・短	35
★業界研究セミナー②	10/18(水)	大・短	54
★業界研究セミナー③	10/25(水)	大・短	30

講座名	日程	対象	参加者数
就職ガイダンス (就職活動体験報告会&就活カフェ)	11/1(水)	大・短	93
★自己分析セミナー (就職活動直前編)	11/8(水)	大	19
就職ガイダンス 履歴書・ES対策(2)	11/8(水)	短	25
★学内OB・OG訪問セミナー	11/22(水)	大・短	23
★面接の種類と対策セミナー (基礎編)	11/29(水)	大	30
自己PR作成講座(2)	11/29(水)	短	11
就職ガイダンス (マナー講座)	12/6(水)	大・短	144
★面接の種類と対策セミナー (実践編)	12/13(水)	大・短	23
就職ガイダンス (就活総まとめ講座)	12/20(水)	大・短	156
★就活直前セミナー	1/30(火)	大・短	35
就職ガイダンス (学内業界研究会)	2/8(木)AM	大・短	112
就職ガイダンス (学内業界研究会)	2/8(木)PM	大・短	93
就職ガイダンス (学内業界研究会)	2/9(金)AM	大・短	80
就職ガイダンス (学内業界研究会)	2/9(金)PM	大・短	92

延べ参加者 合計	3145

【資料27】 令和4（2022）年度教職就職ガイダンス出席数(延べ数)

教職就職ガイダンス(小・中・高・特支・養護対象)

ガイダンス名	参加人数
第1・2回就職ガイダンス（R-CAPの結果解説）7/6	87
第3回就職ガイダンス（就職登録）11/16	83
第4回就職ガイダンス（教員採用試験対策説明）12/14	87
延べ参加者合計	257
☆職員による学生全員面談（場合によってはzoom）	87

教職就職ガイダンス(幼保対象)

ガイダンス名	参加人数
第1回就職ガイダンス（R-CAPの説明及び受検）6/1	26
第2回就職ガイダンス（就職登録）10/5	22
第3回就職ガイダンス（自己分析）10/12	27
第4回就職ガイダンス（履歴書の書き方①）10/19	26
第5回就職ガイダンス（作文の書き方）10/26	25
第6回就職ガイダンス（就職活動およびボランティアについて）11/2	25
第7回就職ガイダンス（講演）11/9	24
第8回就職ガイダンス（マナー・面接）11/30	25
第9回就職ガイダンス（履歴書の書き方②）12/14	28
第10回就職ガイダンス（体験談報告会）	20
第11回就職ガイダンス4/13	25
延べ参加者合計	273
☆職員による学生全員面談	26

就活カフェ①②

16

【資料28】過去4年間の就職率

【教育心理学科】

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	平均
卒業者数(a)	61	65	71	66	
進学者数(b)	2	3	5	4	
進学を除く卒業者数(c)	59	62	66	62	
就職希望者数(d)	57	61	62	58	
就職者数(e)	56	60	62	58	
就職希望者の就職率(e/d)	98.2%	98.4%	100.0%	100.0%	99.2%
実就職率(e/c)	94.9%	96.8%	93.9%	93.5%	94.8%

【初等教育学科】

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	平均
卒業者数(a)	86	85	89	74	
進学者数(b)	2	2	0	0	
進学を除く卒業者数(c)	84	83	89	74	
就職希望者数(d)	84	82	87	73	
就職者数(e)	84	82	86	73	
就職希望者の就職率(e/d)	100%	100%	98.9%	100%	99.7%
実就職率(e/c)	100%	98.8%	96.6%	98.6%	98.5%

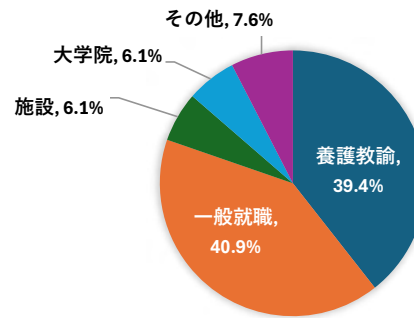
【資料29】 令和4年度(2022)の進路別内訳

令和4年度(2022)の進路別内訳

【教育心理学科】

養護教諭	39.4%
一般就職	40.9%
施設	6.1%
大学院	6.1%
その他	7.6%

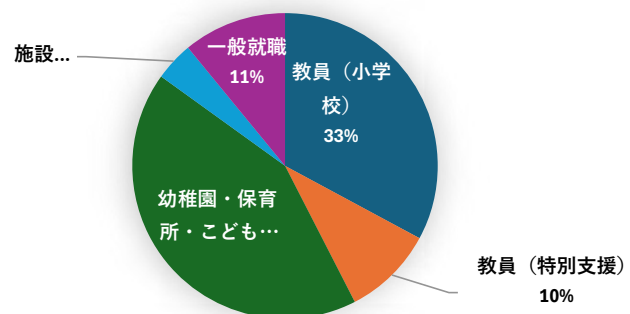
【教育心理学科】 進路別内訳



【初等教育学科】

教員（小学校）	32.9%
教員（特別支援）	9.6%
幼稚園・保育所・こども園施設	42.5%
一般就職	11.0%

【初等教育学科】 進路別内訳



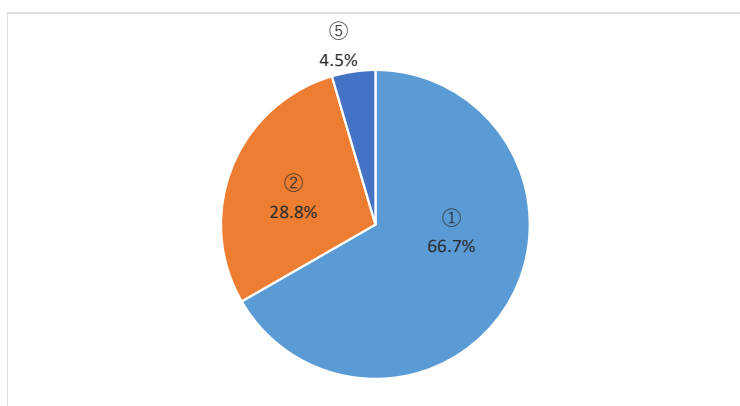
【資料30】就職先企業へのアンケート調査結果

就職先企業へのアンケート調査結果

調査概要

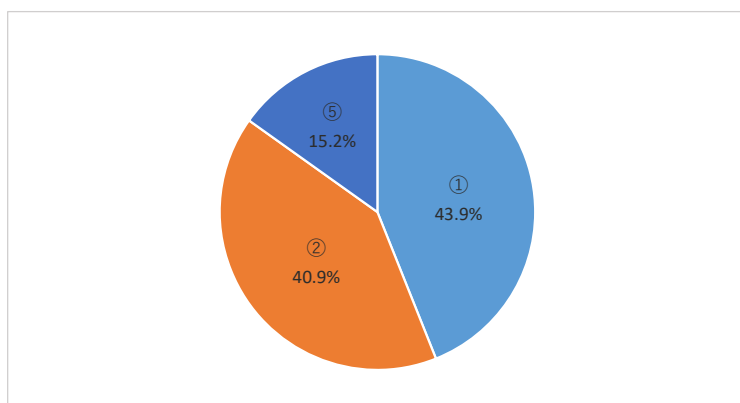
調査目的	卒業生の主な就職先に「求める人材像」等の調査を行い、その内容を本学のキャリア支援や教育内容の向上に反映させることを目的とする。
調査対象	本学一般（専門職でない）学生を定期的に採用し、過去5年間で3人以上採用した企業 140社
調査回答数	66社（回答率47.1％）
調査時期	2023年8月～9月
調査方法	学内イベント管理システムを活用したアンケート方式

【採用について】Q1. 本学の卒業生は、全体として貴社等の人材ニーズや期待に役立っていると思われますか



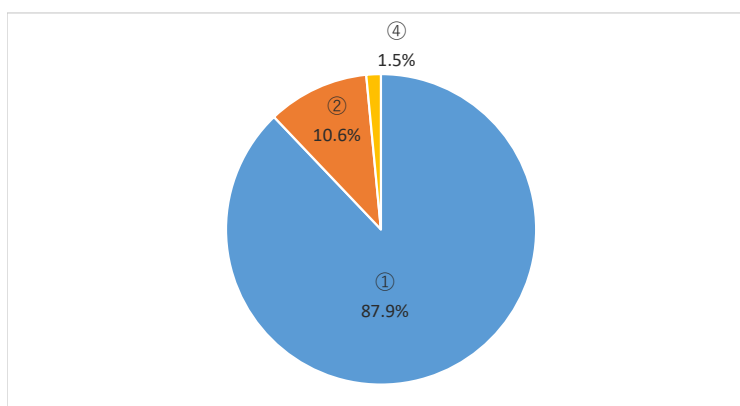
	回答数	%
①十分役立っている	44	66.7%
②大抵役立っている	19	28.8%
③あまり役立っていない	0	0.0%
④全く役立っていない	0	0.0%
⑤個人間のばらつきがあり何ともいえない	3	4.5%
計	66	100.0%

Q2. 本学の卒業生の能力水準において、どう感じておられますか



	回答数	%
①全体として高いと感じる	29	43.9%
②どちらかといえば高いと感じる	27	40.9%
③どちらかといえば低いと感じる	0	0.0%
④低いと感じる	0	0.0%
⑤個人間のばらつきがあり何ともいえない	10	15.2%
計	66	100.0%

Q6. 今後、本学卒業生の採用はどのようにお考えでしょうか



	回答数	%
①今後も積極的に求人・採用していきたい	58	87.9%
②他の大学と同じレベルで求人・採用を考えていく	7	10.6%
③求人・採用をしていく予定はない	0	0.0%
④採用は個人本位であり、何とも言えない	1	1.5%
計	66	100.0%

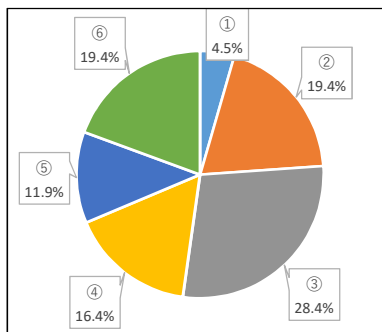
【資料31】教職就職先アンケート調査結果

2021年度 就実大学 就職先アンケート結果

調査目的	卒業生の主な就職先に「求める人材像」等の調査を行い、その内容を本学のキャリア支援や教育内容の向上に反映させることを目的とする。
調査対象	過去2年間で本学学生を正規1名採用した学校・幼稚園・保育所・こども園・施設（90）
調査回答数	67校園等（回答率74.4％）
調査時期	2021年8月
調査方法	郵送

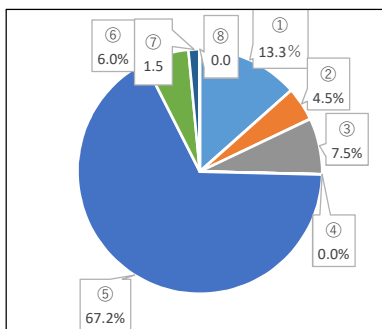
問1 教職員数

		回答数	%
9人以下	①	3	4.5%
10～19人	②	13	19.4%
20～29人	③	19	28.4%
30～39人	④	11	16.4%
～49人	⑤	8	11.9%
50人以上	⑥	13	19.4%
計		67	100.0%



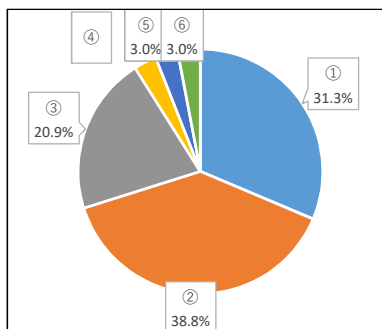
問2 校種別

		回答数	%
保育所	①	9	13.3%
幼稚園	②	3	4.5%
こども園	③	5	7.5%
施設	④	0	0.0%
小学校	⑤	45	67.2%
中学校	⑥	4	6.0%
特別支援学校	⑦	1	1.5%
その他	⑧	0	0.0%
計		67	100.0%



問3 2021年3月に卒業した大学生を何人採用しましたか。

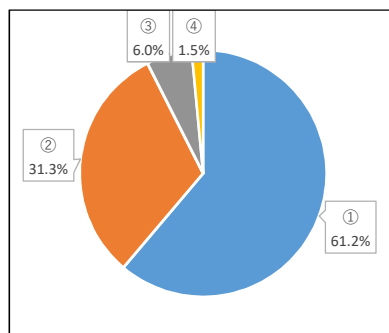
		回答数	%
0人	①	21	31.3%
1人	②	26	38.8%
2人	③	14	20.9%
3人	④	2	3.0%
4人	⑤	2	3.0%
5人以上	⑥	2	3.0%
計		67	100.0%



問4 2020年度及び2021年度に採用した就実大学の学生の能力について評価してください。

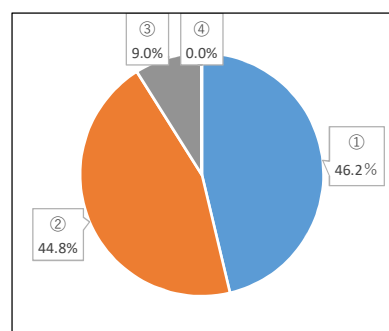
1. 幼児・児童・生徒のよさを多角的な視点から見つけるなど幼児・児童・生徒理解に努めている

		回答数	%
そう思う	①	41	61.2%
やや思う	②	21	31.3%
あまり思わない	③	4	6.0%
そう思わない	④	1	1.5%
計		67	100.0%



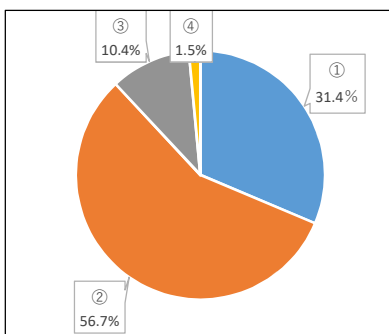
2. 多様な経験を積む中で、絶えず自分の取組を振り返り、次の課題に生かすことができる

		回答数	%
そう思う	①	31	46.2%
やや思う	②	30	44.8%
あまり思わない	③	6	9.0%
そう思わない	④	0	0.0%
計		67	100.0%



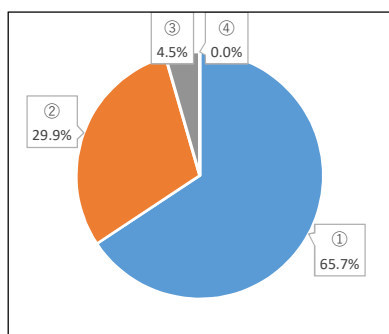
3. 教員・保育士として必要とされる専門的知識と技能を修得している

		回答数	%
そう思う	①	21	31.4%
やや思う	②	38	56.7%
あまり思わない	③	7	10.4%
そう思わない	④	1	1.5%
計		67	100.0%



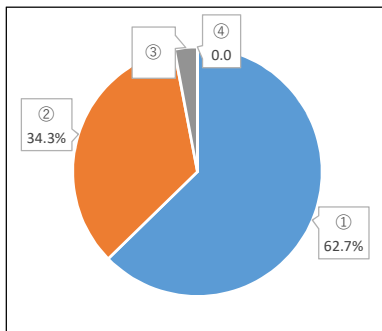
4. 教員・保育士としての責任とやりがいを自覚し、自ら学び続けようとしている

		回答数	%
そう思う	①	44	65.7%
やや思う	②	20	29.9%
あまり思わない	③	3	4.5%
そう思わない	④	0	0.0%
計		67	100.1%



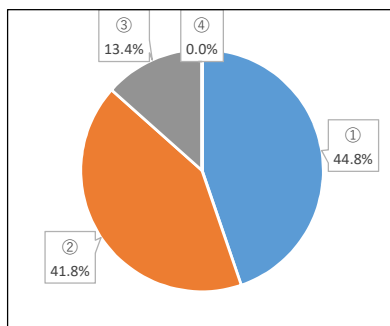
5. 協働や奉仕の精神をもって、チームの一員として適切な行動をすることができる

		回答数	%
そう思う	①	42	62.7%
やや思う	②	23	34.3%
あまり思わない	③	2	3.0%
そう思わない	④	0	0.0%
計		67	100.0%



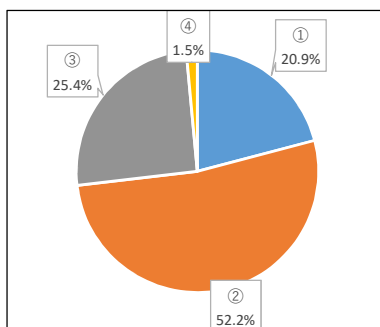
6. 修得した知識や技術を、学校園（所）・施設の状況に応じて活用し、新たに生まれた課題の解決に向けて意欲的に取り組んでいる

		回答数	%
そう思う	①	30	44.8%
やや思う	②	28	41.8%
あまり思わない	③	9	13.4%
そう思わない	④	0	0.0%
計		67	100.0%



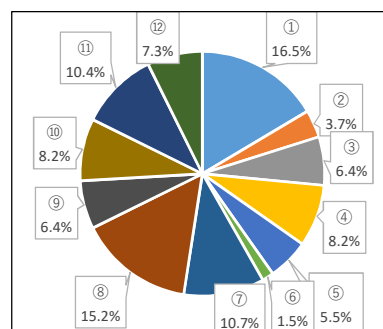
7. それぞれの地域の実態を理解し、地域の課題解決に向けて意欲的に取り組んでいる

		回答数	%
そう思う	①	14	20.9%
やや思う	②	35	52.2%
あまり思わない	③	17	25.4%
そう思わない	④	1	1.5%
計		67	100.0%



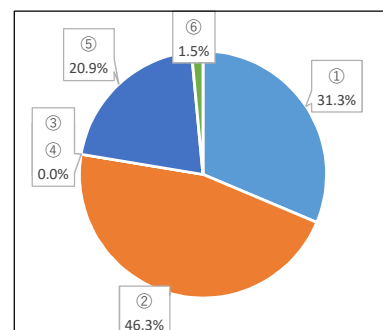
問5. 就職するにあたり、身に付けておいてほしい能力は何ですか。(複数回答可)

		回答数	%
物事に進んで取り組む力	①	54	16.5%
他者に働きかけ巻き込む力	②	12	3.7%
目的を設定し確実に実行する力	③	21	6.4%
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	④	27	8.2%
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	⑤	18	5.5%
新しい価値を生み出す力	⑥	5	1.5%
自分の意見を分かりやすく伝える力	⑦	35	10.7%
相手の意見を丁寧に聞く力	⑧	50	15.2%
意見の違いや立場の違いを理解する力	⑨	21	6.4%
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	⑩	27	8.2%
社会のルールや人との約束を守る力	⑪	34	10.4%
ストレスの発生源に対応する力	⑫	24	7.3%
計		328	100.0%



問6. 本学の就職支援についてどのようにお考えですか。

		回答数	%
全体として熱心だと感じる	①	21	31.3%
どちらかといえば熱心だと感じる	②	31	46.3%
どちらかといえばあまり熱心だとは感じない	③	0	0.0%
熱心であると感じない	④	0	0.0%
何ともいえない, 分からない	⑤	14	20.9%
未記入	⑥	1	1.5%
計		67	100.0%



(保育所)

- ・人間性や家庭環境でそれぞれ育ちが違うので、育成が難しいと思います。心の健康を大切にして、意欲的に働けるよう、こちらも気にかけたいです。

(幼稚園)

- ・保育者は若い子どもが社会で出会うはじめての”先生”なので、夢を持ち、その実現に向けて日々努力を重ねることができる人材をこれからも育成してほしいと思います。

(小学校)

- ・本人の特性が大きいと思いますが、社会人としての基礎的な知識が欠如していました。しかし、素直で学ぶ意欲は高いので、経験とともに成長しています。時代や子どもの変化に対応できるかどうかがこのからの教員には求められます。今後も夢と希望を持って教員を目指す指導をお願いします。意欲と柔軟性があれば現場は全力で応援します。
- ・学校には若い職員が増え、新卒の方も即戦力として期待しています。これからもいい人材を育ててくださるようお願いします。本校に採用された卒業生の方は、よく頑張ってくれています。
- ・小学校は低倍率で採用されやすい状況ではありますが、その分、多様化する諸問題へ対応する必要があることから、以前よりもより教職に対する意欲や熱意がないと現場での戦力になりにくいと思います。
- ・ねばり強く前向きに取り組む学生の育成に期待します。明るくコミュニケーションがとれる学生は、どこの職場においても一緒に働きたいと思われる人材ですので、よろしくお願いします。

(中学校)

- ・与えられた役割だけでなく、自分で考え動くことができるよう、自分で仕事を見つけて動くことができるような人材が必要とされますので、学生にお話いただけたらと思います。

1. (書類等の題名)

【資料 32】教師不足の状況

2. (出典)

文部科学省 「教師不足」に関する実態調査 令和4年1月

3. (引用範囲)

https://www.mext.go.jp/content/20220128-mxt_kyoikujinzai01-000020293-1.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 33】公立学校教員採用試験受験者数などの推移

2. (出典)

文部科学省 令和4年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

3. (引用範囲)

https://www.mext.go.jp/content/20231225-mxt_kyoikujinzai02-000024926_2.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 34】各県市別公立学校受験者数などの前年度比較

2. (出典)

文部科学省 令和4年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

3. (引用範囲)

https://www.mext.go.jp/content/20231225-mxt_kyoikujinzai02-000024926_2.pdf

1. (書類等の題名)

【資料 35】保育士の有効求人倍率

2. (出典)

こども家庭庁

3. (引用範囲)

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/317fa7d2/20230401_policies_hoiku_05.pdf

**【資料36】入学定員に関するニーズ調査結果報告書
(就職先対象)(教育学部)**

**就実大学
「教育学部 教育学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【就職先対象調査】**

**令和6年3月
株式会社 進研アド**

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2025年4月開設予定の就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)の設置構想に関して、企業・団体、教育委員会、校長・園長からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査		
		調査①	調査②	調査③
調査対象		企業・団体の 採用担当者	教育委員会	校長・園長
調査エリア		兵庫県、鳥取県、 島根県、岡山県、 広島県、山口県、 徳島県、香川県、 愛媛県、高知県	岡山県	岡山県、香川県
調査方法		郵送調査		
調査 対象数	依頼数	1,171企業・団体	22団体	821園・小学校
	回収数 (回収率)	499企業・団体 (42.6%)	10団体 (45.5%)	416園・小学校 (50.7%)
調査時期		2023年11月1日(水)～2023年12月8日(金)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

3. 調査項目

企業・団体対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本社所在地
- ・ 業種
- ・ 正規社員の従業員数
- ・ 正規社員の平均採用人数
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 採用したい学問分野
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の社会的必要性
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する採用意向
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

教育委員会対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本部所在地
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の教育現場における必要性
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する採用意向
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する年間の採用想定人数

校長・園長対象調査

- ・ 学校設置区分(国公私)
- ・ 学校設置区分(園・小学校)
- ・ 所在地(県)
- ・ 所在地(市町村)
- ・ 回答者の職名
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」の学びの内容に対する教育現場における必要性
- ・ 就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

採用意向調査 調査結果 (企業・団体)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業・団体全体(499企業・団体)

回答企業・団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、499企業・団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は33.7%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が54.3%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業・団体の本社(本部)所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が64.5%と最も多く、次いで「広島県」が15.6%、「香川県」が7.8%と続く。
- 回答企業・団体の業種としては「卸売・小売業」が22.4%で最も多い。次いで「幼稚園・保育園・こども園」が21.6%、「製造業」が14.0%と続く。
- 回答企業・団体の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が38.1%と最も多く、次いで「50名未満」が26.3%、「50名～100名未満」が20.6%と続く。半数超は、100名以上の比較的規模が大きい企業・団体である。

回答企業・団体の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業・団体の平均的な正規社員の採用人数は「1名～5名未満」が42.1%と最も多く、次いで「5名～10名未満」が20.8%、「10名～20名未満」が17.4%と続く。毎年正規社員を採用している企業・団体がほとんどである。
- 回答企業・団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が63.7%と最も多く、次いで「増やす」が27.3%である。回答企業・団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業・団体の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が41.5%で最も高い。

「教育学部 教育学科」の学びと関連する学問分野で最も高いのは「幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)」で24.0%である。次いで「教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)」が22.6%と続く。

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	あり、採用の決定権が かわつていない	ない、採用の決定権は かわつていない	提供か採用 見をわらず、 する収集・情 する場に報 ある	無 回 答
全体	499	33.7 168	54.3 271	9.6 48	2.4 12

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	東京 都	愛 知 県	大 阪 府	兵 庫 県	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	広 島 県	山 口 県	香 川 県	愛 媛 県	高 知 県	無 回 答
全体	499	2.6 13	0.2 1	0.8 4	2.2 11	1.6 8	2.0 10	64.5 322	15.6 78	0.8 4	7.8 39	1.4 7	0.4 2	0.0 0

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	学教育 習支関連業・ 支援業・	こども園・ 幼稚園・保育 園・	小 学 校	中 学 校・高 校	医 療・福 祉	建 設 業	製 造 業	卸 売・小 売 業	情 報 通 信 業
全体	499	1.2 6	21.6 108	0.2 1	0.2 1	10.6 53	3.2 16	14.0 70	22.4 112	3.2 16

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標 本 数	観飲 光食業・ 宿泊業・	不金 動融業・ 産業・保 険業・	旅運 客輸業・ 輸運業・ 鉄道業・	熱電 供給・ガ ス・水道 業	事複 業合サ ービス	サ ー ビ ス 業	公 務	そ の 他	無 回 答
全体	499	2.6 13	4.4 22	3.4 17	1.0 5	1.2 6	6.4 32	0.4 2	3.8 19	0.0 0

回答企業・団体(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 0 名 名 未 満	未 1 5 満 , 0 0 0 0 名 名 未 満	5 1 , , 0 0 0 0 名 名 未 満	5 , 0 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)								
全体	499	26.3 131	20.6 103	38.1 190	6.6 33	6.2 31	1.8 9	0.4 2

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 名 名 未 満	1 5 0 名 名 未 満	2 1 0 0 名 名 未 満	3 2 0 0 名 名 未 満	5 3 0 0 名 名 未 満	1 5 0 0 名 名 未 満	1 0 名 以 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)										
全体	499	1.0 5	42.1 210	20.8 104	17.4 87	8.0 40	4.4 22	3.2 16	3.0 15	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (企業・団体)						
全体	499	27.3 136	63.7 318	3.2 16	5.8 29	0.0 0

採用したい学問分野

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	心 理 学	教育学関係（教育学、 教科教育学など）	幼稚園課程 （幼稚園教員養成課程）	小学校課程 （小学校教員養成課程）	中学校課程・ 高等学校課程	特別教科課程（書道・ 美術・工芸など）	特別支援教育課程 （盲学校、聾学校、 障害児教育など）	養護教諭養成課程	教育学その他（保育学、 子ども教育学、 乳幼児教育学など）
上段：％ 下段：件数 （企業・団体）										
全体	499	21.0 105	15.6 78	24.0 120	7.6 38	5.6 28	3.4 17	14.6 73	5.8 29	22.6 113

	標 本 数	文 学・ 史 学	哲 学（ 心 理 学 を 除 く）	社 会 科 学（ 法 学、 商 学・ 経 済 学、 社 会 学 な ど）	保 健（ 医 学、 歯 学、 薬 学、 看 護 学 な ど）	理 学・ 工 学（ 数 学、 化 学、 物 理 工 学 な ど）	農 学（ 農 学、 水 産 学 な ど）	農 学・ 林 学、 水 産 学 な ど	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段：％ 下段：件数 （企業・団体）											
全体	499	6.4 32	2.2 11	15.4 77	10.6 53	13.8 69	7.2 36	7.2 36	41.5 207	0.2	

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

- ・「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「B.「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」(86.4%)。「A. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」は73.5%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. 〈教育学部 教育学科〉自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色B. 〈教育学部 教育学科〉「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

		標 本 数	魅 と も 感 じ る	魅 あ る 程 度 感 じ る	魅 あ ま り 感 じ な い	魅 ま た く 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業・団体)								
教育学部 教育学科	特色A	499	28.7	44.9	20.6	5.4	73.5	0.4
			143	224	103	27	367	2
	特色B	499	47.7	38.7	11.4	1.6	86.4	0.6
			238	193	57	8	431	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「教育学部 教育学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「教育学部 教育学科」の社会的必要性

- ・「教育学部 教育学科」について「必要だと思う」と回答した企業・団体は96.4% (481企業・団体)であり、多くの企業・団体がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体は85.4% (426企業・団体)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**744名**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇業種別

- ・業種を「幼稚園・保育園・こども園、小学校」に絞った場合の採用意向は、97.2% (109企業・団体中、**106企業・団体**)。採用想定人数の合計は**209名**で、予定している入学定員数を上回っている。
- ・業種を「一般企業」に絞った場合の採用意向は、82.3% (389企業・団体中、**320企業・団体**)。採用想定人数の合計は**535名**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

就実大学「教育学部 教育学科」の 社会的必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「教育学部 教育学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	499	96.4 481	3.2 16	0.4 2

■就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (企業・団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	499	85.4 426	13.6 68	1.0 5



「採用したいと思う」と答えた426企業・団体のみ抽出

■就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	⇒	(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 を 示 し た 企 業 ・ 団 体 数 ・ 計 算
全 体	426	%	58.7%	22.8%	8.5%	0.7%	4.2%	2.1%			
		企業・団体数	250	97	36	3	18	9	413		
		名	250	194	108	12	90	90	744		

※%の母数は、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体
(426企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

企業・団体
対象

就実大学「教育学部 教育学科」の 採用想定人数＜属性別＞

■就実大学「教育学部 教育学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数 ＜属性別＞

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上		(※) 毎 年 の 採 用 想 定 人 数 ・ 計 計
幼稚園・ 保育園・ こども園、 小学校	106	%	42.5%	35.8%	9.4%	1.9%	5.7%	1.9%	⇒	103 209
		企業・団体数	45	38	10	2	6	2		
		名	45	76	30	8	30	20		
一般企業	320	%	64.1%	18.4%	8.1%	0.3%	3.8%	2.2%	⇒	310 535
		企業・団体数	205	59	26	1	12	7		
		名	205	118	78	4	60	70		

※%の母数は、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」かつ
業種が「幼稚園・保育園・こども園、小学校」と回答した企業・団体(106企業・団体)
「一般企業」と回答した企業・団体(320企業・団体)

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (教育委員会)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答団体全体(10団体)

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

回答団体(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、10団体から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は20.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が30.0%であり、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答団体の本部所在地は、就実大学の所在地である「岡山県」が100.0%である。

本年度の採用予定数

- 回答団体の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が40.0%と最も多く、次いで「増やす」が20.0%である。回答団体の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。

回答団体(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	かあり、 かわつ選 考に裁 権が	かな採 かい用の わがの決 つて選裁 考権に	提意か採 供見かわ すをわ時 る収らに 立集ず、 場・直 に情接 ある報 や	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)					
全体	10	20.0 2	30.0 3	50.0 5	0.0 0

■本部所在地

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	岡 山 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)			
全体	10	100.0 10	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 やす	昨 年 度 並 み	減 らす	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)						
全体	10	20.0 2	40.0 4	10.0 1	20.0 2	10.0 1

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

- ・「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、「Ⅰ. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」「Ⅱ. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」はいずれも100.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅰ. 〈教育学部 教育学科〉自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色Ⅱ. 〈教育学部 教育学科〉「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

		標 本 数	魅 と も 力 を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ ない	魅 ま つ た く を 感 じ ない	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(団体)								
教育学部 教育学科	特色Ⅰ	10	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			6	4	0	0	10	0
	特色Ⅱ	10	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	0.0
			8	2	0	0	10	0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した団体の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の教育現場 における必要性

- 「教育学部 教育学科」が養成する人材について「必要だと思う」と回答した団体は100.0% (10団体)であり、多くの団体がこれからの教育現場にとって必要な人材と捉えていることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する 採用意向/年間の採用想定人数

- 「教育学部 教育学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体は80.0% (8団体)である。
- 「教育学部 教育学科」が養成する人材を「採用したいと思う」と回答した団体へ、「教育学部 教育学科」が養成する人材の採用を年間何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は27名である。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の 教育現場における必要性/採用意向/採用想定人数

■就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の教育現場における必要性

Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	10	100.0 10	0.0 0	0.0 0

■就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材に対する採用意向

Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(団体)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	10	80.0 8	0.0 0	20.0 2



「採用したいと思う」と答えた8団体のみ抽出

■就実大学「教育学部 教育学科」が養成する人材の年間の採用想定人数

Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名 5名未満	5名 10名未満	10名 30名未満	30名 50名未満	50名 100名未満	100名 150名未満	150名 200名未満	200名 以上	計 (※)
全体	8	% 25.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	年間の採用 想定人数を およびた 採用想定 人数・計 算
		団体数 2	3	1	0	0	0	0	0	6
		名 2	15	10	0	0	0	0	0	27

※%の母数は、「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した団体
(8団体)

※ 年間の採用想定人数・計
「1名～5名未満」=1名、「5名～10名未満」=5名、「10名～30名未満」=10名、「30名～50名未満」=30名、「50名～100名未満」=50名、
「100名～150名未満」=100名、「150名～200名未満」=150名、「200名以上」=200名 を代入し合計値を算出

採用意向調査 調査結果 (校長・園長)

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答園・小学校全体(416園・小学校)

回答園・小学校(回答者)の属性

回答園・小学校(回答者)の属性

※本調査は、就実大学「教育学部 教育学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。就実大学の卒業生就職先として想定される園・小学校の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、416園・小学校から回答を得た。

- 回答者の学校設置区分(国公私)は、「国立」が1.2%、「公立」が98.6%である。
- 回答者の学校設置区分(園・小学校)は、「幼稚園」が25.2%、「保育園」が8.2%、「子ども園」が4.8%、「小学校」が61.5%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(県)は、就実大学の所在地である「岡山県」が83.7%、「香川県」が16.3%である。
- 回答園・小学校の学校所在地(市町村)は、「岡山市」が26.7%で最も多く、次いで「倉敷市」が14.9%、「高松市」が5.8%と続く。
- 回答者の職名は「校長(園長)」が72.4%で最も多く、次いで「教頭」が20.0%と続く。

回答園・小学校(回答者)の属性

■学校設置区分(国公私)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
全体	416	1.2 5	98.6 410	0.0 0	0.2 1

■学校設置区分(園・小学校)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	幼 稚 園	保 育 園	子 ど も 園	小 学 校	無 回 答
全体	416	25.2 105	8.2 34	4.8 20	61.5 256	0.2 1

■所在地(県)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標 本 数	岡 山 県	香 川 県	無 回 答
全体	416	83.7 348	16.3 68	0.0 0

回答園・小学校(回答者)の属性

■所在地(市町村)

	標 本 数	岡 山 市	倉 敷 市	総 社 市	赤 磐 市	津 山 市	真 庭 市	高 梁 市	新 見 市	玉 野 市	井 原 市	美 作 市	笠 岡 市	瀬 戸 内 市	浅 口 市	吉 備 中 央 町
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	26.7 111	14.9 62	4.8 20	4.1 17	4.1 17	3.6 15	3.4 14	2.9 12	2.4 10	2.2 9	1.9 8	1.7 7	1.7 7	1.7 7	1.4 6

	標 本 数	備 前 市	和 気 町	鏡 野 町	矢 掛 町	美 咲 町	英 田 郡 西 栗 倉 村	久 米 南 町	勝 央 町	小 倉 島 町	小 田 郡 矢 掛 町	浅 口 郡 里 庄 町	都 窪 郡 早 島 町	奈 義 町	高 松 市	丸 亀 市
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.2 5	1.0 4	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	5.8 24	1.4 6

	標 本 数	三 豊 市	観 音 寺 市	坂 出 市	さ ぬ き 市	ま ん の う 町	善 通 寺 市	多 度 津 町	東 か が わ 市	小 豆 島 町	綾 川 町	宇 多 津 町	三 木 町	直 島 町	木 田 郡 三 木 町	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)																
全体	416	1.7 7	1.2 5	1.2 5	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.7 3	0.5 2	0.5 2	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1	0.2 1

■回答者の職名

	標 本 数	校 長 (園 長)	副 校 長 (副 園 長)	教 頭	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数 (園・小学校)						
全体	416	72.4 301	1.9 8	20.0 83	4.8 20	1.0 4

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

- ・「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度(※)をみると、2つの特色のうちより高いのは「Ⅱ.「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。」(97.8%)。「Ⅰ. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。」は96.2%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■就実大学「教育学部 教育学科」の特色に対する魅力度

Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
学びの内容について、魅力的に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色Ⅰ.〈教育学部 教育学科〉自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。

特色Ⅱ.〈教育学部 教育学科〉「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。

		標 本 数	魅 力 的 に 感 じ る	魅 力 的 に は 感 じ な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数(園・小学校)					
教育学部 教育学科	特色Ⅰ	416	96.2	3.6	0.2
		400		15	1
教育学部 教育学科	特色Ⅱ	416	97.8	1.7	0.5
		407		7	2

就実大学「教育学部 教育学科」の学びの教育現場における必要性/勤務意向

就実大学「教育学部 教育学科」の学びの教育現場における必要性

- 「教育学部 教育学科」の学びについて「必要だと思う」と回答した園・小学校は99.0% (412園・小学校)であり、多くの園・小学校が教育現場にとって必要な学びと捉えていることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- 「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は94.7% (394園・小学校)であり、予定している入学定員数110名を上回る勤務意向がみられた。

■就実大学「教育学部 教育学科」の学びの教育現場における必要性

Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	416	99.0 412	0.7 3	0.2 1

■就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数 (園・小学校)	標本数	勤務してほしい と思う	勤務してほしい とは思わない	無回答
全体	416	94.7 394	1.2 5	4.1 17

採用意向調査 調査結果まとめ



就実大学「教育学部 教育学科」の 採用意向/採用想定人数/勤務意向

【企業・団体(幼稚園・保育園・こども園、小学校)、教育委員会】 就実大学「教育学部 教育学科」卒業生の採用意向/ 毎年の採用想定人数

- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会は合わせて95.8%(114企業・団体)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- ・「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は合わせて236名で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

【校長・園長】 就実大学「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対する勤務意向

- ・「教育学部 教育学科」で学んだ人材に対し「勤務してほしいと思う」と回答した園・小学校は94.7%(394園・小学校)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の勤務意向園・小学校がみられた。

これらのことから、採用する幼稚園・保育園・こども園、小学校、教育委員会の視点でも、現場で一緒に働くことになる校長・園長の視点でも、安定した人材需要があることがうかがえる。

就実大学「教育学部 教育学科」の 採用意向／採用想定人数

【企業・団体(一般企業)】

就実大学「教育学部 教育学科」卒業生の採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業は82.3%
(320企業・団体)であり、予定している入学定員数110名を上回る数の採用意向企業・団体がみられた。
- 「教育学部 教育学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した一般企業へ、「教育学部 教育学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は535名で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。

これらのことから、一般企業の視点からみても、安定した人材需要があることがうかがえる。

巻末資料 調査票



就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では2025年(令和7年)4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開
設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大
学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定
することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
(いずれも仮称、新学部構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 教育関連業・学習支援業	7. 製造業	13. 電気・ガス・熱供給・水道業
2. 幼稚園・保育園・こども園	8. 卸売・小売業	14. 複合サービス事業
3. 小学校	9. 情報通信業	15. サービス業
4. 中学校・高校	10. 飲食業・宿泊業・観光業	16. 公務
5. 医療・福祉	11. 金融業・保険業・不動産業	17. その他
6. 建設業	12. 運輸業・鉄道業・旅客運輸業	

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 50名未満	3. 100名～500名未満	5. 1,000名～5,000名未満
2. 50名～100名未満	4. 500名～1,000名未満	6. 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 0名	4. 10名～20名未満	7. 50名～100名未満
2. 1名～5名未満	5. 20名～30名未満	8. 100名以上
3. 5名～10名未満	6. 30名～50名未満	

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす	2. 昨年度並み	3. 減らす	4. 未定

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 心理学	7. 特別支援教育課程(盲学校、聾学校、障害児教育など)	13. 保健(医学、歯学、薬学、看護学など)
2. 教育学関係(教育学、教科教育学など)	8. 養護教諭養成課程	14. 理学・工学(数学、化学、物理工学など)
3. 幼稚園課程(幼稚園教員養成課程)	9. 教育学その他(保育学、子ども教育学、乳幼児教育学など)	15. 農学(農学、林学、水産学など)
4. 小学校課程(小学校教員養成課程)	10. 文学・史学	16. その他
5. 中学校課程・高等学校課程	11. 哲学(心理学を除く)	17. 学んだ学問分野にはこだわらない
6. 特別教科課程(書道・美術・工芸など)	12. 社会科学(法学、商学・経済学、社会学など)	

裏面へ続く→

就実大学では、2025年(令和7年)4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

- Q8. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	○○である。	→	1	2	3	4
教育学部	A. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	→	1	2	3	4
教育学科	B. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学部	C. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	→	1	2	3	4
心理学科	D. 学部と全学双方からの充実したキャリア支援を行います。公認心理師や臨床心理士を目指す、養護教諭免許を取得する、一般企業で人事・IT・ヘルスケアに携わるなど希望にあわせた幅広い進路が可能です。	→	1	2	3	4

- Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)を
卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
教育学部 教育学科	→	1	2
心理学部 心理学科	→	1	2

- Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
教育学部 教育学科	→	1	2	3	4	5	6
心理学部 心理学科	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

調査票(教育委員会)

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは、貴団体の採用に関わる皆様からご意見をお伺いし、より充実した学部・学科にするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することはありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. あなたが勤務する教育委員会の所在地について、都道府県名をお教えてください。

本部所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. あなたが勤務する教育委員会の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。
(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす
2. 昨年度並み
3. 減らす
4. 未定

就実大学では、2025(令和7)年4月に、新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

- Q4. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)には、
以下のような特色があります。
あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を感じ	ある程度 魅力を感じ	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
例.	○○である。	⇒ 1	2	3	4
教育学部 教育学科	I. 自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2	3	4
教育学部 教育学科	II. 「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部 心理学科	III. 心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2	3	4
心理学部 心理学科	IV. 心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2	3	4

- Q5. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材は、
これからの教育現場にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q6. あなたが勤務する教育委員会(ご回答者)は、
就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)が養成する人材を、
採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2

- Q7. Q6で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)
が養成する人材を、年間で何名程度採用可能でしょうか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		1名～ 5名未満	5名～ 10名未満	10名～ 30名未満	30名～ 50名未満	50名～ 100名未満	100名～ 150名未満	150名～ 200名未満	200名 以上
①	教育学部 教育学科	⇒ 1	2	3	4	5	6	7	8
		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上		
②	心理学部 心理学科	⇒ 1	2	3	4	5	6		

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」
に関するアンケート

就実大学では、2025(令和7)年4月より、「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)を開設することを構想しています。
このアンケートは幼稚園・保育園・小学校の園長・学校長等管理職の先生方から、就実大学の構想に対するご意見をお伺いし、より充実した大学にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、何とぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

はじめに、貴校(貴園)ならびにあなたご自身についてお伺いいたします。

F. 以下の項目について、お答えください。

学校設置区分	国立 ・ 公立 ・ 私立 (←1つに○)
	幼稚園 ・ 保育園 ・ 子ども園 ・ 小学校 (←1つに○)
学校所在地	[] 県 [] 市 ・ 町 ・ 村
ご回答者の 職名 (1つに○)	1. 校長(園長) 2. 副校長(副園長) 3. 教頭 4. その他(具体的に:)

就実大学では、2025(令和7)年4月に、
新しく「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称)
を開設することを構想しています。

※ 次ページは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

【取得できる資格】

教育学部 教育学科

- ・小学校教諭一種免許状
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・保育士資格
- ・特別支援学校教諭一種免許状

心理学部 心理学科

- ・養護教諭一種免許状

裏面へ続く →

- Q1. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)は以下のような学びを行ないます。
 学びの内容について、魅力的に感じますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.魅力的に 感じる	2.魅力的には 感じない
例. ○○である。			⇒ ①	2
教育学部	I.	自分の将来像にあわせて、「乳幼児教育コース」、「小学校教育コース」、「特別支援教育コース」の中から、コースを選択し、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、特別支援学校教諭の免許取得が可能です。	⇒ 1	2
	II.	「就実こども園」「就実小学校」との連携により、1年次から実践・体験型授業を行い、保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。またその課程で「コミュニケーション力」や「リーダーシップ」も身に付けます。	⇒ 1	2
心理学部	III.	心理学を広く学んだ後に、将来像にあわせて「臨床心理」「教育・健康心理」「社会・産業心理」「心理データサイエンス」の中からコースを選択します。いずれも心理学を通じて、「協働力」「データ分析力」「論理的思考力」等を身に付けます。	⇒ 1	2
	IV.	心理学の知識を用いて、子どもの心と体を総合的な視点からケアできる養護教諭を育成します。	⇒ 1	2

- Q2. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)の学びは、これからの教育現場に必要なだと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2

- Q3. 就実大学「教育学部 教育学科」「心理学部 心理学科」(いずれも仮称、新学部構想中)で学んだ学生について、貴校(貴園)で勤務してほしいと思いますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※「②心理学部 心理学科」について、貴校・貴園では養護教諭が勤務する機会がない場合は、「3.勤務する機会がない」をお選びください。

			1.勤務してほしいと 思う	2.勤務してほしい とは思わない	3.勤務する機会がない
①	教育学部 教育学科	⇒	1	2	*
②	心理学部 心理学科	⇒	1	2	3

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

◆ 学費等納付金（2025年度予定） ◆

	教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
入学金	270,000円	270,000円
授業料	950,000円	950,000円
初年度納付金	1,220,000円	1,220,000円
次年度納付金	950,000円	950,000円

※このほかに諸会費等を徴収。

◆ 取得可能な資格・免許／想定される進路 ◆

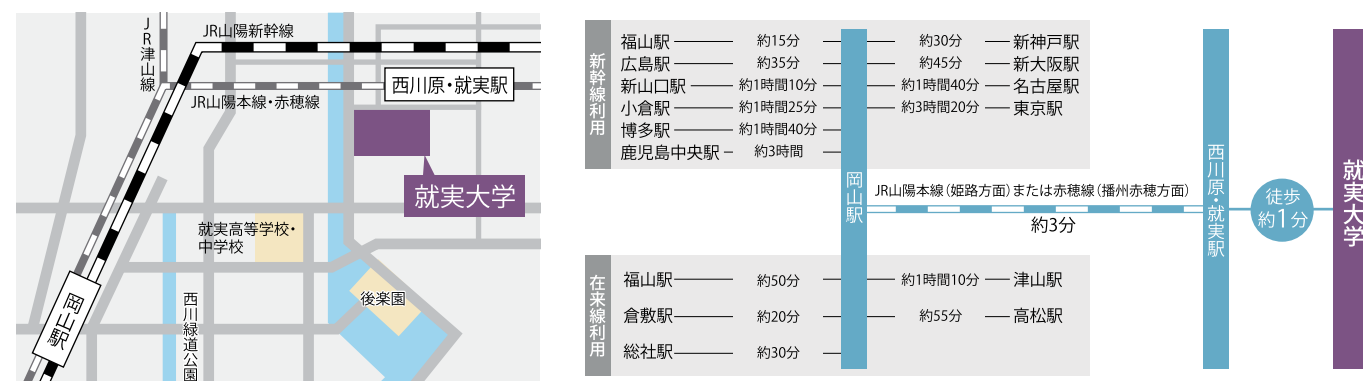
教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
■ 取得可能な資格・免許 - 保育士資格 - 幼稚園教諭一種免許状 - 小学校教諭一種免許状 - 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病） - 中学校教諭二種免許状（国・英・社）※ - 認定心理士申請資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 - 学校図書館司書教諭申請資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 ■ 想定される進路 - 保育所 - 認定こども園 - 幼稚園 - 児童福祉施設 - 小学校 - 特別支援学校 - 義務教育学校 - 小中一貫型小中学校 など	■ 取得可能な資格・免許 - 公認心理師受験要件学科科目 - 養護教諭一種免許状 - 認定心理士申請資格 - 認定心理士（心理調査）申請資格 - 准学校心理士 - 日本医師会認定医療秘書受験資格 - 児童指導員任用資格 - 社会教育主事任用資格 および社会教育士 - 社会福祉主事任用資格 - 博物館学芸員資格 - 図書館司書資格 ■ 想定される進路 - 公認心理師・臨床心理士（大学院進学） - 養護教諭（小・中学校・高等学校） - 地方・国家公務員（一般職・心理専門職） - 教育・医療・福祉（医療秘書、児童指導員など） - 情報通信業（IT） - サービス業（ヘルスケアなど） - 卸売業・小売業（総合商社） - 金融業（銀行など） - 製造業（メーカー） など

※ 小学校教諭一種免許状取得を前提とする

◆ 類似する大学・学部・学科 ◆

教育学部 教育学科	心理学部 心理学科
- ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 児童学科 - 広島修道大学 人文学部 教育学科 - 広島文教大学 教育学部 教育学科 初等教育学専攻 - 岡山理科大学 教育学部 初等教育学科 - くらしき作陽大学 子ども教育学部 子ども教育学科 - 環太平洋大学 次世代教育学部 子ども発達学科	- 広島修道大学 健康科学部 心理学科 - 安田女子大学 心理学部 現代心理学科 - 広島文教大学 人間科学部 心理学科 - 山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科 - 比治山大学 現代文化学部 社会臨床心理学科 - 徳島文理大学 人間生活学部 心理学科

ACCESS JR西川原・就実駅から 徒歩1分



就実大学

- 人文科学部 表現文化学科／実践英語学科／総合歴史学科
- 教育学部 初等教育学科／教育心理学科
- 経営学部 経営学科 ■ 薬学部 薬学科

2025年4月 教育学部が進化！心理学部が誕生！

先生になろう！

心の世界を
探究しよう！

2024年まで

教育学部

初等教育学科 入学定員 75名

教育心理学科 入学定員 62名

New

2025年から

教育学部 教育学科

入学定員 110名

心理学部 心理学科

入学定員 100名

新学部構想中

※記載の内容はすべて仮称・構想中であり、変更される場合があります。



就実大学

2025年4月、2つの新学部が誕生します！

教育学部 教育学科

子どもたちが豊かな人生を切り拓けるよう支援できる、
保育・教育者としての優れた「実践的指導力」と「成長力」を磨きます。

■アドミッション・ポリシー

子どもへの愛情に溢れ、保育・教育者となり、一人ひとりの子どもの幸せのために力を尽くしたいと強く願う人を求めています。

■入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭になって活躍したい人
- ・人が好きで、相手意識をもち、物事を柔軟に捉えようとする気持ちをもっている人
- ・いろいろなことにチャレンジし、仲間と共に粘り強く取り組める人
- ・入学後の修学に必要な基礎学力を有している人

心理学部 心理学科

心理学を広く学んだ後に、自分の将来像に合わせてコースを選択。
さらに、コースを越えた学び、演習・実習によって専門性と実践力を高めます。

■アドミッション・ポリシー

心理学に強い関心があり、人と関わることが好きで、心身の健康を支えケアすることや人と協働して社会の課題を解決することに喜びを感じる人を求めています。

■入学者に求める知識・技能・能力・態度

- ・心理学に関心を持ち、社会人、心理師（士）、養護教諭として、現代社会の問題に取り組みたいと思う人
- ・自分を活かしながら様々な人と協働し、探究心を持って自分を高めていきたい人
- ・伝えたいことを相手の立場に立ってわかりやすく表現しようと努力している人
- ・理系・文系を問わず、入学後の修学に必要な基礎学力のある人

心理学で社会に羽ばたこう！

各コースの特色／修得できる能力



■乳幼児教育コース

保育所や認定こども園、幼稚園などで、乳幼児期に必要な豊かな体験を創造できる保育者を育成します。障害のある子どもにも対応できるよう、特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得することも可能です。

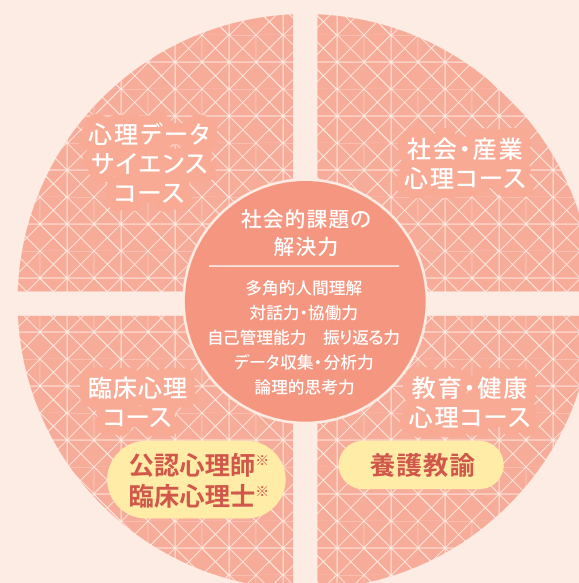
■小学校教育コース

児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導や支援ができる小学校の教員を育成します。幼稚園教諭や特別支援学校教諭の一種免許状を合わせて取得することも可能です。さらに、国語・英語・社会の中学校教諭二種免許状の取得にも挑戦できます（小学校教諭一種免許状の取得が必須）。

■特別支援教育コース

さまざまな障害に必要な支援と教育的ニーズを理解し、多様性を尊重しながら子どもの自立と将来の社会参加に向けた取り組みを支援できる、特別支援学校の教員を育成します。

各コースの特色／修得できる能力



■心理データサイエンスコース

心理学の方法や考え方で人の心や行動を数値化し、データサイエンスを通じて人や社会の隠されたものを見出し、課題を解決します。データを通じて色々な人と協力し、新しい社会づくりに挑戦する力を身に付けます。

■臨床心理コース

心の支援を必要としている個人やコミュニティ（家族や学校、職場や地域社会）を、臨床心理学的方法を用いて多角的に理解し、支援する力、他者との深い対話を通して解決に必要な新たな価値を創り出す力を身に付けます。

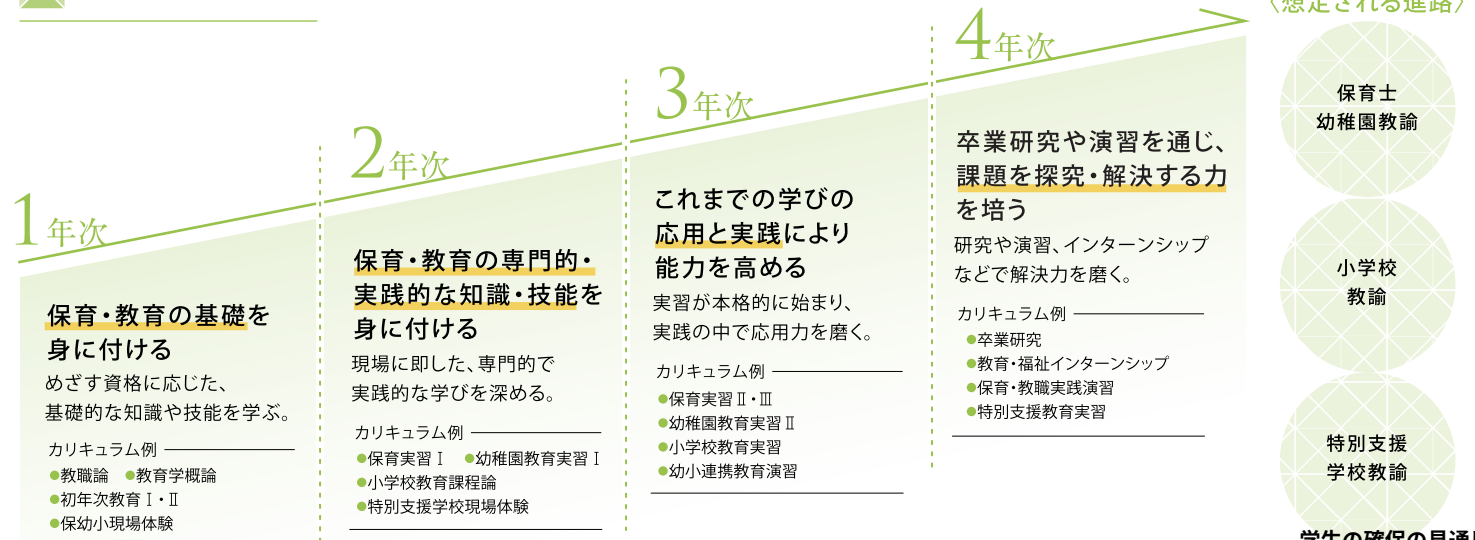
■社会・産業心理コース

心理学の視点から、社会・組織・集団の中で他者により良くコミュニケーションし、関係性を築くための理論と方法を学びます。社会生活上の様々な課題に気づき、乗り越えていくために心理学を賢く応用する力を身に付けます。

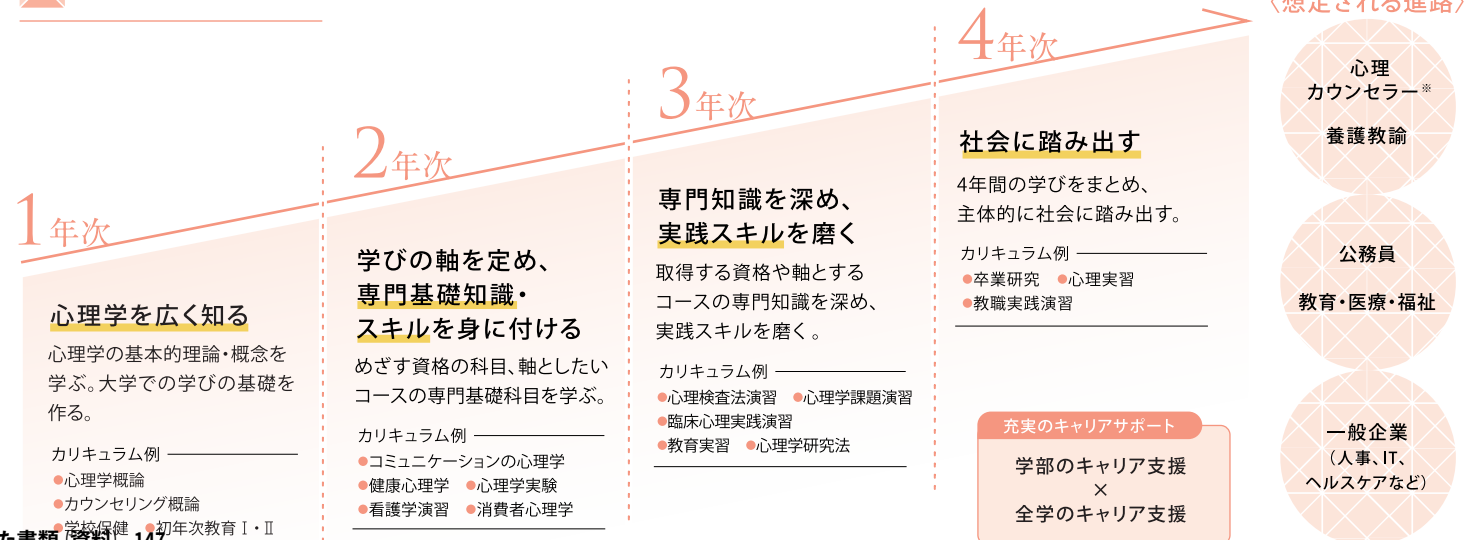
■教育・健康心理コース

心と体の関わりや健康について科学的理解を深め、信頼性のある評価と指導力、情報を読み解き活用する力、コミュニケーションを図り問題を解決する力を身に付け、人の健康を総合的な視点から支援できる実践的な人材や養護教諭を育成します。

4年間の学び



4年間の学び



※公認心理師・臨床心理士の受験資格取得は大学院進学が必要

1. (書類等の題名)

【資料 37】競合校との比較(教育学部)

2. (出典)

旺文社「螢雪時代特別編集 2024 年度用 大学の真の実力 情報公開 BOOK」

各大学の情報公開ページ

中国・四国地区私立大学実態調査

旺文社 螢雪時代 9 月臨時増刊 全国大学受験年鑑 [推薦&総合型選抜ガイド]

旺文社 螢雪時代 11 月臨時増刊 全国大学受験年鑑 [一般選抜ガイド]

3. (引用範囲)

競合他大学の学納金、ST 比、取得可能資格、就職率 (2023 年 3 月卒)、入試日程 (令和 5 年度入試)、教育内容、アクセス

4. (その他の説明)

上記のデータを加工し、表にまとめた。

【資料38】求人状況(幼稚園・保育園等)

教育学部初等教育学科【幼稚園・保育園等】

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	平均
(a)求人件数	951	806	750	704	
初等教育学科 卒業生数	86	85	89	74	
1人当たり ((a)/ (b))	11.05814	9.482353	8.426966	9.513514	9.62024

収容定員を増加する組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	岡山県	3,942人	44.6%
2	広島県	801人	9.1%
3	兵庫県	700人	7.9%
4	香川県	627人	7.1%
5	愛媛県	314人	3.6%
	全 体	8,845人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○収容定員を増加する組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県）	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	岡山県	92.89%	91.93%	87.57%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○収容定員を増加する組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	人文科学系（大学）	99.30%	98.93%	96.28%
2	教育学（大学）	94.40%	93.32%	91.37%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	11人	9人	9人	9人	10人	10人
	延べ人数	36人	15人	33人	36人	40人	32人
	志願者数	36人	15人	33人	36人	40人	32人
	受験者数	36人	14人	33人	36人	39人	32人
	合格者数	10人	8人	14人	20人	23人	15人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	1人	4人	2人	9人	3人
	実人数	36人	15人	33人	36人	40人	32人
	志願者数	36人	14人	33人	36人	39人	32人
	受験者数	10人	8人	14人	20人	23人	15人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	10人	7人	10人	18人	14人	12人
	延べ人数	24人	26人	26人	26人	27人	26人
	志願者数	74人	59人	73人	69人	69人	69人
	受験者数	74人	59人	73人	69人	68人	69人
	合格者数	35人	40人	41人	51人	53人	44
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	3人	9人	8人	15人	11人	9.2
	実人数	74人	59人	73人	69人	69人	68.8
	志願者数	74人	59人	73人	69人	68人	68.6
	受験者数	35人	40人	41人	51人	53人	44
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	募集人数	32人	31人	33人	36人	42人	34.8
	延べ人数	28人	33人	33人	33人	34人	32.2
	志願者数	211人	213人	195人	164人	118人	180.2
	受験者数	208人	213人	194人	163人	115人	178.6
	合格者数	65人	102人	122人	132人	101人	104.4
	うち追加合格者数	0人	0人	15人	0人	0人	3
	辞退者数	44人	72人	97人	100人	63人	75.2
	実人数	153人	149人	144人	123人	98人	133.4
	志願者数	151人	149人	144人	122人	96人	132.4
	受験者数	54人	81人	99人	103人	88人	85
	合格者数	0人	0人	15人	0人	0人	3
共通テスト利用入試	募集人数	33人	51人	74人	71人	50人	55.8
	延べ人数	21人	30人	25人	32人	38人	29.2
	志願者数	12人	12人	12人	12人	9人	11.4
	受験者数	127人	147人	73人	76人	61人	96.8
	合格者数	127人	147人	73人	76人	61人	96.8
	うち追加合格者数	39人	57人	38人	46人	42人	44.4
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	30人	50人	35人	41人	40人	39.2
	志願者数	127人	147人	73人	76人	61人	96.8
	受験者数	127人	147人	73人	76人	61人	96.8
	合格者数	39人	57人	38人	46人	42人	44.4
その他の特別選抜	募集人数	9人	7人	3人	5人	2人	5.2
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	2人	2人	3人	2人	1人	2
	受験者数	2人	2人	3人	2人	1人	2
	合格者数	2人	0人	1人	1人	1人	1
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	実人数	2人	2人	3人	2人	1人	2
	志願者数	2人	2人	3人	2人	1人	2
	受験者数	2人	0人	1人	1人	1人	1
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	0人	0人	0人	0人	1人	0.8
	延べ人数	75人	80人	80人	80人	80人	79人
	志願者数	450人	436人	377人	347人	289人	380人
	受験者数	447人	435人	376人	346人	284人	378人
	合格者数	151人	207人	216人	250人	220人	209人
	うち追加合格者数	0人	0人	15人	0人	0人	3人
	辞退者数	77人	132人	144人	158人	124人	127人
	実人数	392人	372人	326人	306人	269人	333人
	志願者数	390人	371人	326人	305人	265人	331人
	受験者数	140人	186人	193人	221人	207人	189人
	合格者数	0人	0人	15人	0人	0人	3人
入学定員充足率	募集人数	66人	111人	121人	129人	111人	108人
	延べ人数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	志願者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	受験者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	合格者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	うち追加合格者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	辞退者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	実人数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	志願者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	受験者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人
	合格者数	74人	75人	72人	92人	96人	82人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	75人	80人	80人	80人	80人	79
入 学 定 員 充 足 率	0.99	0.94	0.90	1.15	1.20	1.03
歩 留 率	0.49	0.36	0.33	0.37	0.44	0.40

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	11人	8人	8人	8人	9人	9人
	延べ人数	33人	32人	26人	20人	29人	28人
	志願者数	32人	32人	26人	20人	29人	28人
	受験者数	10人	10人	10人	11人	19人	12人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	4人	1人	3人	6人	5人	4人
	辞退者数	33人	32人	26人	20人	29人	28人
	志願者数	32人	32人	26人	20人	29人	28人
	受験者数	10人	10人	10人	11人	19人	12人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	4人	1人	3人	6人	5人	4人
	辞退者数	6人	9人	7人	5人	14人	8人
学校推薦型選抜	募集人数	24人	25人	25人	25人	26人	25人
	延べ人数	97人	85人	83人	73人	57人	79人
	志願者数	97人	84人	83人	73人	56人	79人
	受験者数	41人	46人	48人	60人	52人	49.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	8人	12人	10人	16人	17人	12.6
	辞退者数	97人	85人	83人	73人	57人	79
	志願者数	97人	84人	83人	73人	56人	78.6
	受験者数	41人	46人	48人	60人	52人	49.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	8人	12人	10人	16人	17人	12.6
	辞退者数	33人	34人	38人	44人	35人	36.8
一般選抜	募集人数	28人	30人	30人	30人	31人	29.8
	延べ人数	175人	192人	129人	130人	98人	144.8
	志願者数	175人	191人	129人	130人	97人	144.4
	受験者数	72人	78人	103人	113人	90人	91.2
	合格者数	0人	0人	12人	0人	0人	2.4
	うち追加合格者数	46人	54人	79人	83人	59人	64.2
	辞退者数	122人	130人	96人	97人	76人	104.2
	志願者数	122人	130人	96人	97人	76人	104.2
	受験者数	62人	69人	85人	88人	74人	75.6
	合格者数	0人	0人	12人	0人	0人	2.4
	うち追加合格者数	36人	45人	61人	58人	43人	48.6
	辞退者数	26人	24人	24人	30人	31人	27
共通テスト利用入試	募集人数	12人	12人	12人	12人	9人	11.4
	延べ人数	85人	108人	56人	39人	49人	67.4
	志願者数	85人	108人	56人	39人	49人	67.4
	受験者数	54人	42人	36人	32人	40人	40.8
	合格者数	0人	0人	2人	0人	2人	0.8
	うち追加合格者数	47人	37人	32人	25人	38人	35.8
	辞退者数	85人	108人	56人	39人	49人	67.4
	志願者数	85人	108人	56人	39人	49人	67.4
	受験者数	54人	42人	36人	32人	40人	40.8
	合格者数	0人	0人	2人	0人	2人	0.8
	うち追加合格者数	47人	37人	32人	25人	38人	35.8
	辞退者数	7人	5人	4人	7人	2人	5
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
	志願者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
	受験者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
	志願者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
	受験者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
合計	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	390人	417人	295人	264人	233人	320人
	志願者数	389人	415人	295人	263人	231人	319人
	受験者数	177人	176人	198人	217人	201人	194人
	合格者数	0人	0人	14人	0人	2人	3人
	うち追加合格者数	105人	104人	124人	130人	119人	116人
	辞退者数	337人	355人	262人	231人	211人	279人
	志願者数	336人	354人	262人	230人	210人	278人
	受験者数	167人	167人	180人	192人	185人	178人
	合格者数	0人	0人	14人	0人	2人	3人
	うち追加合格者数	95人	95人	106人	105人	103人	101人
	辞退者数	72人	72人	74人	87人	82人	77人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	75人	75人	75人	75人	75人	75
入 学 定 員 充 足 率	0.96	0.96	0.99	1.16	1.09	1.03
歩 留 率	0.41	0.41	0.37	0.40	0.41	0.40

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	11人	9人	9人	9人	10人	10人
	延べ人数	33人	27人	25人	43人	36人	33人
	志願者数	32人	27人	25人	43人	36人	33人
	受験者数	12人	11人	12人	20人	17人	14人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	2人	0人	3人	4人	2人
	辞退者数	33人	27人	25人	43人	36人	33人
	志願者数	32人	27人	25人	43人	36人	33人
	受験者数	12人	11人	12人	20人	17人	14人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	2人	0人	3人	4人	2人
学校推薦型選抜	募集人数	10人	9人	12人	17人	13人	12人
	延べ人数	24人	26人	26人	26人	27人	26人
	志願者数	67人	70人	75人	67人	81人	72人
	受験者数	67人	70人	74人	67人	81人	72人
	合格者数	38人	37人	45人	49人	48人	43.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	5人	8人	14人	14人	8人	9.8
	志願者数	67人	70人	75人	67人	81人	72
	受験者数	67人	70人	74人	67人	81人	71.8
	合格者数	38人	37人	45人	49人	48人	43.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
一般選抜	募集人数	5人	8人	14人	14人	8人	9.8
	延べ人数	33人	29人	31人	35人	40人	33.6
	志願者数	28人	33人	33人	33人	34人	32.2
	受験者数	188人	199人	216人	195人	159人	191.4
	合格者数	188人	196人	215人	193人	158人	190
	うち追加合格者数	76人	88人	123人	145人	122人	110.8
	合格者数	0人	0人	19人	0人	0人	3.8
	うち追加合格者数	44人	55人	85人	98人	92人	74.8
	志願者数	134人	143人	158人	146人	122人	140.6
	受験者数	134人	140人	157人	144人	121人	139.2
	合格者数	60人	73人	108人	116人	101人	91.6
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	33人	31人	32人	31人	40人	33.4
	志願者数	100人	126人	94人	74人	78人	94.4
	受験者数	100人	126人	94人	74人	78人	94.4
	合格者数	39人	40人	35人	33人	44人	38.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	33人	31人	32人	31人	40人	33.4
	志願者数	100人	126人	94人	74人	78人	94.4
	受験者数	100人	126人	94人	74人	78人	94.4
	合格者数	39人	40人	35人	33人	44人	38.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
その他の特別選抜	募集人数	33人	31人	32人	31人	40人	33.4
	延べ人数	6人	9人	3人	2人	4人	4.8
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	2人	1人	1人	0.8
	合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	延べ人数	75人	80人	80人	80人	80人	79人
	志願者数	388人	422人	412人	380人	355人	391人
	受験者数	387人	419人	410人	378人	354人	390人
	合格者数	165人	176人	216人	247人	231人	207人
	うち追加合格者数	0人	0人	19人	0人	0人	4人
	合格者数	84人	96人	131人	146人	144人	120人
	志願者数	334人	366人	354人	331人	318人	341人
	受験者数	333人	363人	352人	329人	317人	339人
	合格者数	149人	161人	201人	218人	210人	188人
	うち追加合格者数	0人	0人	19人	0人	0人	4人
入学定員充足率	募集人数	68人	81人	116人	117人	123人	101人
	延べ人数	81人	80人	85人	101人	87人	87人
	志願者数	334人	366人	354人	331人	318人	341人
	受験者数	333人	363人	352人	329人	317人	339人
	合格者数	149人	161人	201人	218人	210人	188人
	うち追加合格者数	0人	0人	19人	0人	0人	4人
	合格者数	84人	96人	131人	146人	144人	120人
	志願者数	334人	366人	354人	331人	318人	341人
	受験者数	333人	363人	352人	329人	317人	339人
	合格者数	149人	161人	201人	218人	210人	188人
	うち追加合格者数	0人	0人	19人	0人	0人	4人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	75人	80人	80人	80人	80人	79
入 学 定 員 充 足 率	1.08	1.00	1.06	1.26	1.09	1.10
歩 留 率	0.49	0.45	0.39	0.41	0.38	0.42

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：就実大学教育学部初等教育学科

別紙２－４

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	10人	10人	10人	10人	13人	11人
	延べ人数	84人	80人	84人	64人	75人	77人
	志願者数	84人	80人	84人	64人	75人	77人
	受験者数	84人	80人	84人	64人	75人	77人
	合格者数	11人	11人	14人	19人	30人	17人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	4人	1人	5人	6人	3人
	実人数	84人	80人	84人	64人	75人	77人
	志願者数	84人	80人	84人	64人	75人	77人
	受験者数	84人	80人	84人	64人	75人	77人
	合格者数	11人	11人	14人	19人	30人	17人
学校推薦型選抜	募集人数	24人	24人	24人	24人	29人	25人
	延べ人数	151人	175人	145人	132人	116人	144人
	志願者数	151人	175人	145人	132人	116人	144人
	受験者数	151人	175人	145人	132人	116人	144人
	合格者数	45人	47人	52人	59人	65人	53.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	16人	25人	17人	25人	31人	22.8
	実人数	151人	175人	145人	132人	116人	143.8
	志願者数	151人	175人	145人	132人	116人	143.8
	受験者数	151人	175人	145人	132人	116人	143.8
	合格者数	45人	47人	52人	59人	65人	53.6
一般選抜	募集人数	31人	31人	31人	31人	25人	29.8
	延べ人数	362人	363人	301人	282人	206人	302.8
	志願者数	362人	363人	301人	282人	206人	302.8
	受験者数	357人	359人	300人	278人	206人	300
	合格者数	109人	139人	146人	164人	152人	142
	うち追加合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6
	辞退者数	86人	94人	118人	134人	116人	109.6
	実人数	250人	265人	208人	197人	158人	215.6
	志願者数	250人	265人	208人	197人	158人	215.6
	受験者数	247人	261人	207人	194人	158人	213.4
	合格者数	88人	120人	119人	132人	129人	117.6
共通テスト利用入試	募集人数	10人	10人	10人	10人	8人	9.6
	延べ人数	140人	136人	90人	96人	55人	103.4
	志願者数	140人	136人	90人	96人	55人	103.4
	受験者数	140人	136人	90人	96人	55人	103.4
	合格者数	55人	59人	30人	34人	29人	41.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	45人	50人	29人	33人	29人	37.2
	実人数	140人	136人	90人	96人	55人	103.4
	志願者数	140人	136人	90人	96人	55人	103.4
	受験者数	140人	136人	90人	96人	55人	103.4
	合格者数	55人	59人	30人	34人	29人	41.4
その他の特別選抜	募集人数	10人	10人	10人	10人	8人	9.6
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数	0人	1人	1人	0人	0人	0.4
	受験者数	0人	1人	1人	0人	0人	0.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	0人	1人	1人	0人	0人	0.4
	志願者数	0人	1人	1人	0人	0人	0.4
	受験者数	0人	1人	1人	0人	0人	0.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	志願者数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	受験者数	732人	749人	618人	570人	450人	624人
	合格者数	220人	256人	242人	276人	276人	254人
	うち追加合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
	辞退者数	148人	173人	165人	197人	182人	173人
	実人数	625人	657人	528人	489人	404人	541人
	志願者数	622人	651人	525人	486人	402人	537人
	受験者数	199人	237人	215人	244人	253人	230人
	合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
入学定員充足率	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	志願者数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	受験者数	732人	749人	618人	570人	450人	624人
	合格者数	220人	256人	242人	276人	276人	254人
	うち追加合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
	辞退者数	148人	173人	165人	197人	182人	173人
	実人数	625人	657人	528人	489人	404人	541人
	志願者数	622人	651人	525人	486人	402人	537人
	受験者数	199人	237人	215人	244人	253人	230人
	合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
入学定員充足率	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	志願者数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	受験者数	732人	749人	618人	570人	450人	624人
	合格者数	220人	256人	242人	276人	276人	254人
	うち追加合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
	辞退者数	148人	173人	165人	197人	182人	173人
	実人数	625人	657人	528人	489人	404人	541人
	志願者数	622人	651人	525人	486人	402人	537人
	受験者数	199人	237人	215人	244人	253人	230人
	合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
入学定員充足率	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	志願者数	737人	755人	621人	574人	452人	628人
	受験者数	732人	749人	618人	570人	450人	624人
	合格者数	220人	256人	242人	276人	276人	254人
	うち追加合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人
	辞退者数	148人	173人	165人	197人	182人	173人
	実人数	625人	657人	528人	489人	404人	541人
	志願者数	622人	651人	525人	486人	402人	537人
	受験者数	199人	237人	215人	244人	253人	230人
	合格者数	0人	0人	18人	12人	0人	6人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	75人	75人	75人	75人	75人	75
入 学 定 員 充 足 率	0.96	1.11	1.03	1.05	1.25	1.08
歩 留 率	0.33	0.32	0.32	0.29	0.34	0.32

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：就実大学教育学部教育心理学科

別紙２－５

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	8人	8人	8人	8人	11人	9人
	延べ人数	56人	30人	47人	64人	45人	48人
	志願者数	56人	30人	47人	64人	45人	48人
	受験者数	8人	8人	10人	18人	16人	12人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	1人	3人	1人	5人	2人
	辞退者数	56人	30人	47人	64人	45人	48人
	志願者数	56人	30人	47人	64人	45人	48人
	受験者数	8人	8人	10人	18人	16人	12人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	1人	3人	1人	5人	2人
学校推薦型選抜	入学者数	6人	7人	7人	17人	11人	10人
	募集人数	21人	21人	21人	21人	23人	21人
	延べ人数	96人	77人	89人	107人	87人	91人
	志願者数	95人	77人	89人	107人	86人	91人
	受験者数	37人	50人	51人	69人	58人	53
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	7人	17人	15人	20人	16人	15
	辞退者数	96人	77人	89人	107人	87人	91.2
	志願者数	95人	77人	89人	107人	86人	90.8
	受験者数	37人	50人	51人	69人	58人	53
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	7人	17人	15人	20人	16人	15
一般選抜	入学者数	30人	33人	36人	49人	42人	38
	募集人数	24人	26人	26人	26人	22人	24.8
	延べ人数	186人	185人	166人	160人	119人	163.2
	志願者数	183人	183人	166人	160人	118人	162
	受験者数	90人	93人	73人	71人	81人	81.6
	合格者数	0人	0人	6人	0人	0人	1.2
	うち追加合格者数	64人	60人	59人	58人	62人	60.6
	辞退者数	125人	126人	115人	105人	86人	111.4
	志願者数	122人	125人	115人	105人	86人	110.6
	受験者数	71人	72人	57人	57人	64人	64.2
	合格者数	0人	0人	6人	0人	0人	1.2
	うち追加合格者数	45人	39人	43人	44人	45人	43.2
共通テスト利用入試	入学者数	26人	33人	14人	13人	19人	21
	募集人数	7人	7人	7人	7人	6人	6.8
	延べ人数	86人	86人	68人	66人	38人	68.8
	志願者数	86人	86人	68人	66人	38人	68.8
	受験者数	37人	34人	26人	26人	17人	28
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	33人	31人	22人	25人	16人	25.4
	辞退者数	86人	86人	68人	66人	38人	68.8
	志願者数	86人	86人	68人	66人	38人	68.8
	受験者数	37人	34人	26人	26人	17人	28
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	33人	31人	22人	25人	16人	25.4
その他の特別選抜	入学者数	4人	3人	4人	1人	1人	2.6
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	1人	0人	3人	3人	1人	1.6
	志願者数	1人	0人	3人	2人	1人	1.4
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	1人	0人	3人	3人	1人	1.6
	志願者数	1人	0人	3人	2人	1人	1.4
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	募集人数	60人	62人	62人	62人	62人	62人
	延べ人数	425人	378人	373人	400人	290人	373人
	志願者数	421人	376人	373人	399人	288人	371人
	受験者数	172人	185人	160人	184人	172人	175人
	合格者数	0人	0人	6人	0人	0人	1人
	うち追加合格者数	106人	109人	99人	104人	99人	103人
	辞退者数	364人	319人	322人	345人	257人	321人
	志願者数	360人	318人	322人	344人	256人	320人
	受験者数	153人	164人	144人	170人	155人	157人
	合格者数	0人	0人	6人	0人	0人	1人
	うち追加合格者数	87人	88人	83人	90人	82人	86人
	辞退者数	66人	76人	61人	80人	73人	71人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	60人	62人	62人	62人	62人	61.6
入 学 定 員 充 足 率	1.10	1.23	0.98	1.29	1.18	1.16
歩 留 率	0.38	0.41	0.38	0.43	0.42	0.41

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	12人	12人	12人	13人	35人	17人
	延べ人数	98人	58人	100人	71人	111人	88人
	志願者数	97人	57人	100人	71人	111人	87人
	受験者数	12人	19人	22人	24人	49人	25人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	4人	5人	6人	6人	16人	7人
	辞退者数	98人	58人	100人	71人	111人	88人
	志願者数	97人	57人	100人	71人	111人	87人
	受験者数	12人	19人	22人	24人	49人	25人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	4人	5人	6人	6人	16人	7人
	辞退者数	8人	14人	16人	18人	33人	18人
学校推薦型選抜	募集人数	27人	37人	37人	37人	49人	37人
	延べ人数	202人	193人	199人	187人	255人	207人
	志願者数	202人	191人	198人	187人	252人	206人
	受験者数	57人	87人	90人	122人	153人	101.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	10人	28人	30人	44人	67人	35.8
	辞退者数	202人	193人	199人	187人	255人	207.2
	志願者数	202人	191人	198人	187人	252人	206
	受験者数	57人	87人	90人	122人	153人	101.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	10人	28人	30人	44人	67人	35.8
	辞退者数	47人	59人	60人	78人	86人	66
一般選抜	募集人数	33人	43人	43人	44人	67人	46
	延べ人数	367人	350人	292人	223人	257人	297.8
	志願者数	363人	349人	291人	223人	253人	295.8
	受験者数	86人	84人	91人	66人	155人	96.4
	合格者数	0人	0人	6人	0人	35人	8.2
	うち追加合格者数	63人	58人	71人	55人	114人	72.2
	辞退者数	253人	245人	203人	162人	201人	212.8
	志願者数	251人	244人	202人	162人	199人	211.6
	受験者数	74人	77人	77人	55人	139人	84.4
	合格者数	0人	0人	6人	0人	35人	8.2
	うち追加合格者数	51人	51人	57人	44人	98人	60.2
	辞退者数	23人	26人	20人	11人	41人	24.2
共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	6人	9人	7.8
	延べ人数	115人	84人	51人	53人	47人	70
	志願者数	115人	84人	51人	53人	47人	70
	受験者数	18人	16人	13人	8人	25人	16
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	17人	15人	13人	5人	18人	13.6
	辞退者数	115人	84人	51人	53人	47人	70
	志願者数	115人	84人	51人	53人	47人	70
	受験者数	18人	16人	13人	8人	25人	16
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	17人	15人	13人	5人	18人	13.6
	辞退者数	1人	1人	0人	3人	7人	2.4
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	1人	2人	7人	1人	1人	2.4
	志願者数	1人	2人	6人	1人	1人	2.2
	受験者数	0人	1人	3人	1人	0人	1
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	辞退者数	1人	2人	7人	1人	1人	2.4
	志願者数	1人	2人	6人	1人	1人	2.2
	受験者数	0人	1人	3人	1人	0人	1
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	辞退者数	0人	1人	2人	1人	0人	0.8
合計	募集人数	80人	100人	100人	100人	160人	108人
	延べ人数	783人	687人	649人	535人	671人	665人
	志願者数	778人	683人	646人	535人	664人	661人
	受験者数	173人	207人	219人	221人	382人	240人
	合格者数	0人	0人	6人	0人	35人	8人
	うち追加合格者数	94人	106人	121人	110人	215人	129人
	辞退者数	669人	582人	560人	474人	615人	580人
	志願者数	666人	578人	557人	474人	610人	577人
	受験者数	161人	200人	205人	210人	366人	228人
	合格者数	0人	0人	6人	0人	35人	8人
	うち追加合格者数	82人	99人	107人	99人	199人	117人
	辞退者数	79人	101人	98人	111人	167人	111人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	80人	100人	100人	100人	160人	108
入 学 定 員 充 足 率	0.99	1.01	0.98	1.11	1.04	1.03
歩 留 率	0.46	0.49	0.45	0.50	0.44	0.47

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	15人	10人	10人	10人	13人	12人
	延べ人数	9人	12人	10人	17人	12人	12人
	志願者数						
	受験者数	9人	11人	10人	17人	12人	12人
	合格者数	8人	9人	9人	16人	11人	11人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	2人	3人	3人	4人	4人	3人
	実人数						
	志願者数	9人	12人	10人	17人	12人	12人
	受験者数	9人	11人	10人	17人	12人	12人
	合格者数	8人	9人	9人	16人	11人	11人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	2人	3人	3人	4人	4人	3人
	入学者数	6人	6人	6人	12人	7人	7人
学校推薦型選抜	募集人数	30人	25人	25人	25人	27人	26人
	延べ人数	63人	59人	69人	43人	63人	59人
	志願者数						
	受験者数	61人	59人	69人	43人	63人	59人
	合格者数	52人	52人	58人	42人	57人	52.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	19人	25人	26人	15人	18人	20.6
	実人数						
	志願者数	63人	59人	69人	43人	63人	59.4
	受験者数	61人	59人	69人	43人	63人	59
	合格者数	52人	52人	58人	42人	57人	52.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	19人	25人	26人	15人	18人	20.6
	入学者数	33人	27人	32人	27人	39人	31.6
一般選抜	募集人数	60人	51人	51人	51人	47人	52
	延べ人数	268人	264人	272人	326人	270人	280
	志願者数						
	受験者数	265人	262人	269人	320人	268人	276.8
	合格者数	234人	233人	231人	298人	252人	249.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	8人	2.4
	辞退者数	184人	187人	189人	240人	223人	204.6
	実人数						
	志願者数	184人	186人	187人	230人	188人	195
	受験者数	184人	184人	186人	225人	187人	193.2
	合格者数	165人	170人	166人	212人	184人	179.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	8人	2.4
	辞退者数	115人	124人	124人	154人	155人	134.4
	入学者数	50人	46人	42人	58人	29人	45
共通テスト利用入試	募集人数	15人	14人	14人	14人	13人	14
	延べ人数	54人	48人	49人	55人	42人	49.6
	志願者数						
	受験者数	54人	48人	49人	55人	42人	49.6
	合格者数	29人	34人	34人	29人	37人	32.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	辞退者数	24人	30人	32人	26人	32人	28.8
	実人数						
	志願者数	54人	48人	49人	55人	42人	49.6
	受験者数	54人	48人	49人	55人	42人	49.6
	合格者数	29人	34人	34人	29人	37人	32.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	辞退者数	24人	30人	32人	26人	32人	28.8
	入学者数	5人	4人	2人	3人	5人	3.8
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	志願者数						
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数						
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	120人	100人	100人	100人	100人	104人
	延べ人数	394人	383人	400人	441人	387人	401人
	志願者数						
	受験者数	389人	380人	397人	435人	385人	397人
	合格者数	323人	328人	332人	385人	357人	345人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	9人	3人
	辞退者数	229人	245人	250人	285人	277人	257人
	実人数						
	志願者数	310人	305人	315人	345人	305人	316人
	受験者数	308人	302人	314人	340人	304人	314人
	合格者数	254人	265人	267人	299人	289人	275人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	9人	3人
	辞退者数	160人	182人	185人	199人	209人	187人
	入学者数	94人	83人	82人	100人	80人	88人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	120人	100人	100人	100人	100人	104
入 学 定 員 充 足 率	0.78	0.83	0.82	1.00	0.80	0.85
歩 留 率	0.29	0.25	0.25	0.26	0.22	0.25

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	43人	43人	47人	47人	47人	45人
	延べ人数	47人	52人	48人	42人	46人	47人
	志願者数	47人	52人	48人	42人	46人	47人
	受験者数	46人	52人	48人	42人	46人	47人
	合格者数	44人	51人	47人	42人	46人	46人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	2人	3人	3人	7人	6人	4人
	実人数	47人	52人	48人	42人	46人	47人
	志願者数	47人	52人	48人	42人	46人	47人
	受験者数	46人	52人	48人	42人	46人	47人
	合格者数	44人	51人	47人	42人	46人	46人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	2人	3人	3人	7人	6人	4人
学校推薦型選抜	入学者数	42人	48人	44人	35人	40人	42人
	募集人数	38人	38人	37人	37人	37人	37人
	延べ人数	55人	48人	39人	34人	24人	40人
	志願者数	55人	48人	39人	34人	24人	40人
	受験者数	52人	47人	38人	34人	24人	39
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	18人	12人	8人	6人	5人	9.8
	辞退者数	55人	48人	39人	34人	24人	40
	志願者数	55人	48人	39人	34人	24人	40
	受験者数	52人	47人	38人	34人	24人	39
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	18人	12人	8人	6人	5人	9.8
	辞退者数	34人	35人	30人	28人	19人	29.2
一般選抜	入学者数	34人	35人	30人	28人	19人	29.2
	募集人数	13人	13人	10人	10人	10人	11.2
	延べ人数	42人	19人	15人	23人	6人	21
	志願者数	41人	19人	15人	23人	6人	20.8
	受験者数	38人	16人	14人	19人	6人	18.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	22人	13人	11人	15人	3人	12.8
	辞退者数	35人	16人	15人	23人	6人	19
	志願者数	34人	16人	15人	23人	6人	18.8
	受験者数	34人	14人	14人	19人	6人	17.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	18人	11人	11人	15人	3人	11.6
	辞退者数	16人	3人	3人	4人	3人	5.8
共通テスト利用入試	入学者数	6人	6人	6人	6人	6人	6
	募集人数	19人	9人	15人	13人	7人	12.6
	延べ人数	19人	9人	15人	13人	7人	12.6
	志願者数	17人	9人	14人	13人	7人	12
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	12人	5人	12人	11人	4人	8.8
	うち追加合格者数	19人	9人	15人	13人	7人	12.6
	辞退者数	19人	9人	15人	13人	7人	12.6
	志願者数	17人	9人	14人	13人	7人	12
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	12人	5人	12人	11人	4人	8.8
	うち追加合格者数	5人	4人	2人	2人	3人	3.2
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
その他の特別選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	募集人数	4人	2人	1人	2人	0人	1.8
	延べ人数	3人	2人	1人	2人	0人	1.6
	志願者数	2人	2人	1人	2人	0人	1.4
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	4人	2人	1人	2人	0人	1.8
	志願者数	3人	2人	1人	2人	0人	1.6
	受験者数	2人	2人	1人	2人	0人	1.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	2人	2人	1人	2人	0人	1.4
合計	入学者数	2人	2人	1人	2人	0人	1.4
	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	167人	130人	118人	114人	83人	122人
	志願者数	164人	130人	118人	114人	83人	122人
	受験者数	153人	125人	114人	110人	83人	117人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	54人	33人	34人	39人	18人	36人
	辞退者数	160人	127人	118人	114人	83人	120人
	志願者数	157人	127人	118人	114人	83人	120人
	受験者数	149人	123人	114人	110人	83人	116人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	50人	31人	34人	39人	18人	34人
	辞退者数	99人	92人	80人	71人	65人	81人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入 学 定 員 充 足 率	0.99	0.92	0.80	0.71	0.65	0.81
歩 留 率	0.65	0.74	0.70	0.65	0.78	0.70

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：就実短期大学生活実践科学科

別紙２－９

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	36人	36人	37人	37人	37人	37人
	延べ人数	55人	46人	51人	49人	32人	47人
	志願者数	55人	46人	51人	49人	32人	47人
	受験者数	53人	46人	49人	49人	31人	46人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	2人	0人	2人	0人	1人
	辞退者数	55人	46人	51人	49人	32人	47人
	志願者数	55人	46人	51人	49人	32人	47人
	受験者数	53人	46人	49人	49人	31人	46人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	2人	0人	2人	0人	1人
学校推薦型選抜	入学者数	53人	44人	49人	47人	31人	45人
	募集人数	28人	28人	27人	27人	27人	27人
	延べ人数	35人	34人	32人	22人	26人	30人
	志願者数	35人	34人	32人	22人	26人	30人
	受験者数	33人	33人	32人	22人	26人	29.2
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	3人	2人	6人	3人	3人	3.4
	辞退者数	35人	34人	32人	22人	26人	29.8
	志願者数	35人	34人	32人	22人	26人	29.8
	受験者数	33人	33人	32人	22人	26人	29.2
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	3人	2人	6人	3人	3人	3.4
一般選抜	入学者数	30人	31人	26人	19人	23人	25.8
	募集人数	10人	10人	10人	10人	10人	10
	延べ人数	24人	39人	15人	9人	10人	19.4
	志願者数	24人	38人	14人	9人	10人	19
	受験者数	10人	28人	12人	9人	10人	13.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	8人	21人	6人	6人	4人	9
	辞退者数	17人	30人	15人	9人	10人	16.2
	志願者数	17人	30人	14人	9人	10人	16
	受験者数	8人	23人	12人	9人	10人	12.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	6人	16人	6人	6人	4人	7.6
共通テスト利用入試	入学者数	2人	7人	6人	3人	6人	4.8
	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
	延べ人数	13人	20人	7人	7人	4人	10.2
	志願者数	13人	20人	7人	7人	4人	10.2
	受験者数	7人	16人	6人	7人	4人	8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	4人	11人	5人	5人	3人	5.6
	辞退者数	13人	20人	7人	7人	4人	10.2
	志願者数	13人	20人	7人	7人	4人	10.2
	受験者数	7人	16人	6人	7人	4人	8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	4人	11人	5人	5人	3人	5.6
その他の特別選抜	入学者数	3人	5人	1人	2人	1人	2.4
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	1人	0人	2人	0人	0人	0.6
	志願者数	1人	0人	2人	0人	0人	0.6
	受験者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	1人	0人	2人	0人	0人	0.6
	志願者数	1人	0人	2人	0人	0人	0.6
	受験者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	入学者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	128人	139人	107人	87人	72人	107人
	志願者数	128人	138人	106人	87人	72人	106人
	受験者数	104人	123人	100人	87人	71人	97人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	15人	36人	17人	16人	10人	19人
	辞退者数	121人	130人	107人	87人	72人	103人
	志願者数	121人	130人	106人	87人	72人	103人
	受験者数	102人	118人	100人	87人	71人	96人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	13人	31人	17人	16人	10人	17人
	辞退者数	89人	87人	83人	71人	61人	78人

２．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	1.11	1.09	1.04	0.89	0.76	0.98
歩 留 率	0.86	0.71	0.83	0.82	0.86	0.81

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3-1

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 教育心理学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	237人	291人	①取組概要 オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者等を対象に入試概要の説明や、学科説明・施設見学・体験授業、学科別のQ & Aコーナー、入試・就職・資格・奨学金など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催 (3/6. 6/20. 7/17. 7/18. 8/21. 8/22) R5年度入試対象(R4開催)：計6回開催 (3/12. 6/19. 7/16. 7/17. 8/20. 8/21) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 2年間の平均受験率は57.2%であり、全入学者数のうちオープンキャンパス参加者は、R4年度において85.0%、R6年度において71.2%、2年間の平均で78.4%を占めている。新設組織においても同程度の割合を見込まれるので、オープンキャンパス参加者数を増加させるよう努める。
うち受験対象者数(b)	158人	147人	
うち受験者数(c)	83人	91人	
うち入学者数(d)	68人	52人	
(受験率 c/b)	52.5%	61.9%	
(入学率 d/b)	43.0%	35.4%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 教育心理学科 ガイダンス・進学相談会

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	49人	66人	①取組概要 岡山県を中心に開催される会場ガイダンス・進学相談会、高校内ガイダンス・進学相談会等に参加し直接高校生や保護者等に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ガイダンス・進学相談会参加者の2年間の平均受験率は50.6%、入学率は37.5%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。
うち受験対象者数(b)	27人	35人	
うち受験者数(c)	15人	16人	
うち入学者数(d)	11人	12人	
(受験率 c/b)	55.6%	45.7%	
(入学率 d/b)	40.7%	34.3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称： 教育心理学科 資料請求

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	188人	181人	①取組概要 大学案内を作成、学科紹介パンフレット、募集要項を作成し、大学ホームページから資料請求者に対し送付する。また、大学案内等は、高校訪問、オープンキャンパス、ガイダンス・進学相談会等において幅広く配布している。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 資料請求者の2年間の平均受験率は50.8%、入学率は26.1%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。
うち受験対象者数(b)	120人	111人	
うち受験者数(c)	56人	61人	
うち入学者数(d)	27人	33人	
(受験率 c/b)	46.7%	55.0%	
(入学率 d/b)	22.5%	29.7%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)			
(入学率 d/b)			

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)			
(入学率 d/b)			

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3-2

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 初等教育学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	323人	360人	①取組概要 オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者等を対象に入試概要の説明や、学科説明・施設見学・体験授業、学科別のQ & Aコーナー、入試・就職・資格・奨学金など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。 R4年度入試対象 (R3開催) : 計6回開催 (3/6. 6/20. 7/17. 7/18. 8/21. 8/22) R5年度入試対象 (R4開催) : 計6回開催 (3/12. 6/19. 7/16. 7/17. 8/20. 8/21) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 2年間の平均受験率は60.9%であり、全入学者数のうちオープンキャンパス参加者は、R4年度において64.5%、R6年度において73.4%、2年間の平均で69.3%を占めている。新設組織においても同程度の割合を見込まれるので、オープンキャンパス参加者数を増加させるよう努める。
うち受験対象者数 (b)	223人	199人	
うち受験者数 (c)	135人	122人	
うち入学者数 (d)	51人	69人	
(受験率 c/b)	60.5%	61.3%	
(入学率 d/b)	22.9%	34.7%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 初等教育学科 ガイダンス・進学相談会

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	60人	87人	①取組概要 岡山県を中心に開催される会場ガイダンス・進学相談会、高校内ガイダンス・進学相談会等に参加し直接高校生や保護者等に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ガイダンス・進学相談会参加者の2年間の平均受験率は36.7%、入学率は19.0%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。
うち受験対象者数 (b)	41人	60人	
うち受験者数 (c)	11人	28人	
うち入学者数 (d)	4人	17人	
(受験率 c/b)	26.8%	46.7%	
(入学率 d/b)	9.8%	28.3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称： 初等教育学科 資料請求

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	697人	584人	①取組概要 大学案内を作成、学科紹介パンフレット、募集要項を作成し、大学ホームページから資料請求者に対し送付する。また、大学案内等は、高校訪問、オープンキャンパス、ガイダンス・進学相談会等において幅広く配布している。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 資料請求者の2年間の平均受験率は41.9%、入学率は13.8%と高い割合となっていることが見て取れる。新設組織においても同程度の受験率と入学率が見込まれる。
うち受験対象者数 (b)	278人	158人	
うち受験者数 (c)	94人	79人	
うち入学者数 (d)	26人	29人	
(受験率 c/b)	33.8%	50.0%	
(入学率 d/b)	9.4%	18.4%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)			
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)			
(入学率 d/b)			

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)			
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)			
(入学率 d/b)			

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	クワハラ カズミ 桑原 和美 ＜令和2年4月＞		博士 (文学)		就実大学・就実短期大学 学長 (令和2.4～令和8.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。